



就学前教育カリキュラム

改訂版

平成 28 年 3 月
東京都教育委員会

は　じ　め　に

東京都教育庁

指導部長　伊　東　哲

東京都教育委員会では、就学前教育と小学校教育との接続を踏まえ、乳幼児期の子供に生きる力の基礎を培うことをねらいとして、平成２２年３月に「就学前教育カリキュラム」を作成いたしました。この「就学前教育カリキュラム」では、発達や学びの連続性を考慮しながら、０歳児から５歳児の発達に応じて確実に経験させたい内容を明らかにするとともに、具体的な指導方法を例示いたしました。現在も、多くの就学前教育施設、小学校等において、教育課程や指導計画、日々の保育・教育活動の立案や実施、評価等のための指導資料として御活用いただいているところです。

平成２４年８月には、幼児期の学校教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進していくことを目指して、「子ども・子育て支援法」、「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部を改正する法律」、「子ども・子育て支援法及び就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」が成立しました。これらを受け、国は、平成２５年に子ども・子育て会議を設置し、子育てに関する新たな制度についての具体的な検討を進め、平成２７年４月に「子ども・子育て支援新制度」が施行されました。

また、この間の平成２６年４月には、「子ども・子育て支援新制度」の一環として創設された幼保連携型認定こども園の教育及び保育の内容を定めた幼保連携型認定こども園教育・保育要領が告示されました。この教育・保育要領には、「園児の一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮」、「特別支援教育に関すること」、「子育ての支援に関すること」など、これまでの幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されていない新たな内容が記されました。そこで、東京都教育委員会では、これらの内容が幼保連携型認定こども園のみならず、全ての就学前教育施設において重要であることから、従前の「就学前教育カリキュラム」に内容を加えた「就学前教育カリキュラム改訂版」を作成いたしました。

各就学前教育施設、小学校等におかれましては、本「就学前教育カリキュラム改訂版」を保育、教育活動の更なる充実のために御活用いただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、作成に当たり、御協力いただきました皆様に、改めて深く感謝申し上げます。

目 次

◇ はじめに

◇ 目次

第1章 総説

- 1 生きる力の基礎を培う就学前教育の充実 6
 - (1) 乳幼児期の教育の重要性 6
 - (2) 子供の発達や学びの連続性を踏まえた保育・教育の充実 6
- 2 就学前教育カリキュラムの基本的な考え方 8
 - (1) 生きる力の基礎を身に付けた子供像 8
 - (2) 乳幼児期の子供の発達に応じて確実に経験させたい内容の視点 10
 - (3) 乳幼児期の子供の発達過程の区分についての考え方 12
 - (4) 0歳児から5歳児の発達に応じて確実に経験させたい内容 13
- 3 就学前教育カリキュラムを活用した保育・教育課程の編成 18
- 4 就学前教育プログラムと就学前教育カリキュラムの位置付け 19

第2章 保育・教育課程

- 1 保育・教育課程の見方 23
- 2 0歳児から5歳児の保育・教育課程 24
 - 0歳児 24
 - 1歳児 28
 - 2歳児 38
 - 3歳児 48
 - 4歳児 60
 - 5歳児 72
 - <参考> 0歳児から2歳児の発達過程 86

第3章 小学校入門期における指導の接続

- 1 小学校入門期の各教科等における指導の接続 98
 - (1) 各教科等における指導の接続のポイント 98
 - (2) 小学校入門期の各教科等の指導例 99
- 2 小学校入門期の日常生活における指導の接続 106

総
説

0
歳
児

1
歳
児

2
歳
児

3
歳
児

4
歳
児

5
歳
児

参
考

小学校入門期に
おける指導の接続

第4章 幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえた就学前教育の充実

1	一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	116
(1)	全体的な計画の作成	116
(2)	一日の生活の連続性及びリズムの多様性に配慮した教育及び保育の工夫	116
(3)	構成	117
(4)	教育活動後の年間指導計画例（期ごと）	119
	3歳児Ⅰ期（4月～5月上旬）	120
	3歳児Ⅱ期（5月中旬～9月上旬）	122
	3歳児Ⅲ期（9月中旬～10月）	124
	3歳児Ⅳ期（11月～12月）	126
	3歳児Ⅴ期（1月～3月）	128
	4歳児Ⅰ期（4月～5月）	130
	4歳児Ⅱ期（6月～9月上旬）	132
	4歳児Ⅲ期（9月中旬～10月）	134
	4歳児Ⅳ期（11月～12月）	136
	4歳児Ⅴ期（1月～3月）	138
	5歳児Ⅰ期（4月～5月）	140
	5歳児Ⅱ期（6月～9月上旬）	142
	5歳児Ⅲ期（9月中旬～10月）	144
	5歳児Ⅳ期（11月～12月）	146
	5歳児Ⅴ期（1月～3月）	148
(5)	教育活動後の指導計画例（日ごと）	150
	4月～5月	152
	6月～12月 ※7月～8月を除く	154
	1月～3月	156
	長期休業期間中（7月～8月）	158
	運動会前の時期	162
2	就学前教育施設における特別支援教育の推進	164
(1)	実態を捉えるための視点（0・1・2歳児 —参考—）	165
(2)	「幼稚園教育の機能」を生かした指導の工夫（3・4・5歳児 —参考—）	170
3	保護者に対する子育ての支援	178
(1)	幼保連携型認定こども園の園児の保護者に対する子育ての支援例	180
(2)	地域における子育て家庭の保護者等に対する支援例	188

第 1 章

総 説

1 生きる力の基礎を培う就学前教育の充実

(1) 乳幼児期の教育の重要性

人の一生において、乳幼児期は、心情、意欲、態度、基本的な生活習慣など、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。乳幼児期の子供は、生活や遊びにおける直接的・具体的な体験を通して情緒的・知的な発達や社会性を涵養し、人間として、社会の一員としてよりよく生きるための基礎を獲得していきます。

そのため、乳幼児期の教育は、改正された教育基本法において、その重要性が規定されるとともに、保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領において、義務教育及びその後の教育(生活や学び)の基礎を培うものとして、次のように示されています。

【保育所保育指針】(平成20年3月告示)

○第2章 子どもの発達

1 乳幼児期の発達の特性

(六) 乳幼児期は、生涯にわたる生きる力の基礎が培われる時期であり、特に身体感覚を伴う多様な経験が積み重なることにより、豊かな感性とともに好奇心、探究心や思考力が養われる。また、それらがその後の生活や学びの基礎となる。

【幼稚園教育要領】(平成20年3月告示)

○第1章 総則

第2 教育課程の編成

幼稚園は、家庭との連携を図りながら、この章の第1に示す幼稚園教育の基本に基づいて展開される幼稚園生活を通して、生きる力の基礎を育成するよう学校教育法第23条に規定する幼稚園教育の目標の達成に努めなければならない。幼稚園は、このことにより、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとする。

【幼保連携型認定こども園教育・保育要領】(平成26年4月告示)

○第1章 総則

第1 幼保連携型認定こども園における教育及び保育の基本及び目標

2 教育及び保育の目標

幼保連携型認定こども園は、家庭との連携を図りながら、この章の第1の1に示す幼保連携型認定こども園における教育及び保育の基本に基づいて一体的に展開される幼保連携型認定こども園における生活を通して、生きる力の基礎を育成するよう認定こども園法第9条に規定する幼保連携型認定こども園の教育及び保育の目標の達成に努めなければならない。幼保連携型認定こども園は、このことにより、義務教育及びその後の教育の基礎を培うとともに、子どもの最善の利益を考慮しつつ、その生活を保障し、保護者と共に園児を心身ともに健やかに育成するものとする。

(2) 子供の発達や学びの連続性を踏まえた保育・教育の充実

現在、東京都には、保育所、幼稚園、認定こども園(以下、保育所や幼稚園等という。)といった乳幼児のための保育・教育施設があり、都内に住む3歳児から5歳児の約94%(平成21年5月現在)が在籍しています。幼稚園では、幼稚園教育要領に基づいた教育が行われ、保育所では、保育所保育指針に基づき養護と教育を一体とした保育が行われています。この保育所保育指針のうち、3歳以上の幼児の教育内容については、幼稚園教育要領との整合性を保ちながら定められています。また、認定こども園では、保育所保育指針、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた保育・教育が行われています。

この保育所保育指針、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて、保育所や幼稚園等で行われている就学前の乳幼児期の保育・教育(以下、就学前教育という。)は、子供の発達の特性に照らして、自発的な活動としての遊びを中心にした生活を重ねられるように環境を構成し、一人一人に応じた総合的な教育を行っています。一方、小学校では、時間割を設定し、学習指導要領に基づき教科書等の教材を用いて各教科等の学習をしています。

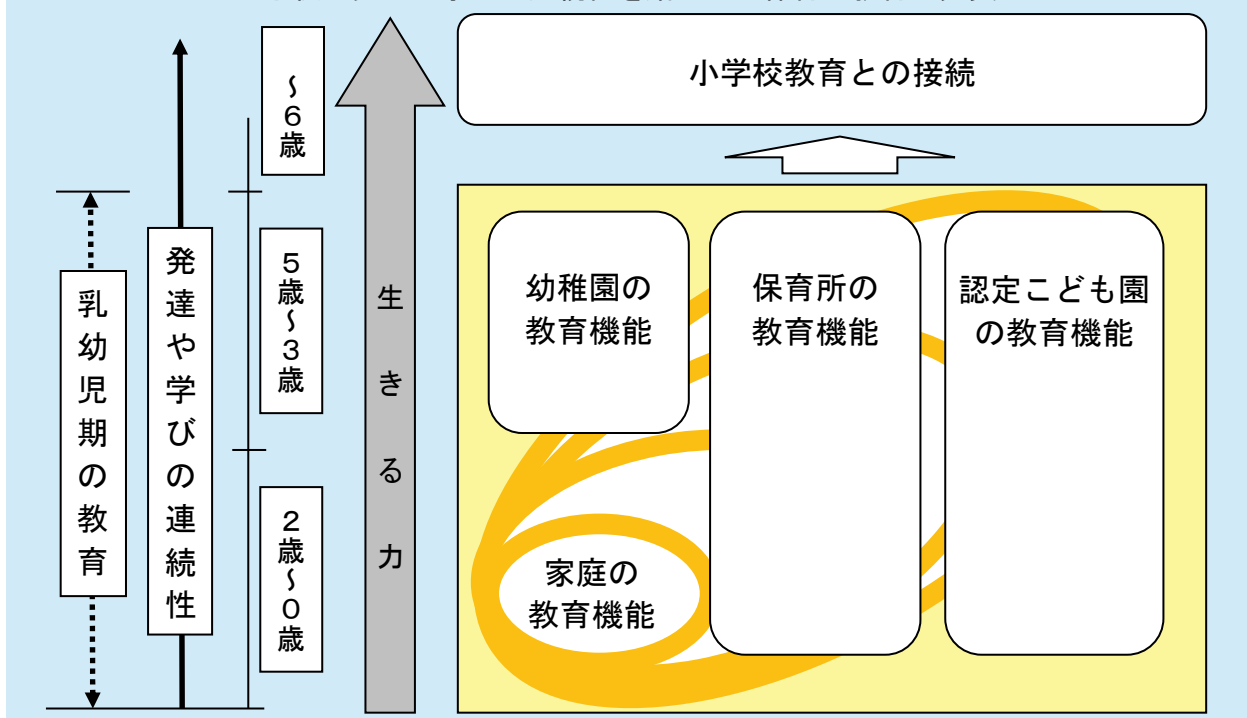
このように保育所や幼稚園等と小学校とでは、子供の生活や教育の内容・方法などが異なっており、これらに対応できない子供の姿も見受けられます。こうしたことが、

いわゆる「小1問題」と言われる小学校第1学年における児童の不適応状況の要因の一つになっているとも考えられます。

しかし、本来、子供の発達や学びは連続しているものであり、就学前教育と小学校教育との円滑な接続が図られれば、こうした問題を解決することの一つの手だてになると考えます。

そのため、生涯にわたって必要とされる生きる力を育成することを、就学前教育と小学校教育を接続する「軸」に据え、子供の発達や学びの連続性を踏まえた保育・教育の充実を図っていく必要があります。

【イメージ図】 生きる力の育成を「軸」に据えた
子供の発達や学びの連続性を踏まえた保育・教育の充実



なお、保育課程及び教育課程の編成、幼保連携型認定こども園における全体的な計画の作成については、保育所保育指針、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領において、次のように明記されています。

【保育所保育指針】

○第4章 保育の計画及び評価

1 保育の計画

ウ 保育課程は、子どもの生活の連続性や発達の連続性に留意し、各保育所が創意工夫して保育できるよう、編成されなければならない。

【幼稚園教育要領】

○第1章 総則

第2 教育課程の編成

1 幼稚園生活の全体を通して第2章に示すねらいが総合的に達成されるよう、教育課程に係る教育期間や幼児の生活経験や発達の過程などを考慮して具体的なねらいと内容を組織しなければならないこと。この場合においては、特に、自我が芽生え、他者の存在を意識し、自己を抑制しようとする気持ちが生まれる幼児期の発達の特性を踏まえ、入園から修了に至るまでの長期的な視野をもって充実した生活が展開できるように配慮しなければならないこと。

【幼保連携型認定こども園教育・保育要領】

○第1章 総則

第2 教育課程の編成

1 幼保連携型認定こども園における生活の全体を通して第2章の第1に示すねらいが総合的に達成されるよう、教育課程に係る教育期間や園児の生活経験や発達の過程などを考慮して具体的なねらいと内容を組織しなければならない。この場合においては、特に、自我が芽生え、他者の存在を意識し、自己を抑制しようとする気持ちが生まれるなどの乳幼児期の発達の特性を踏まえ、入園から修了に至るまでの長期的な視野を持って充実した生活が展開できるように配慮しなければならないこと。

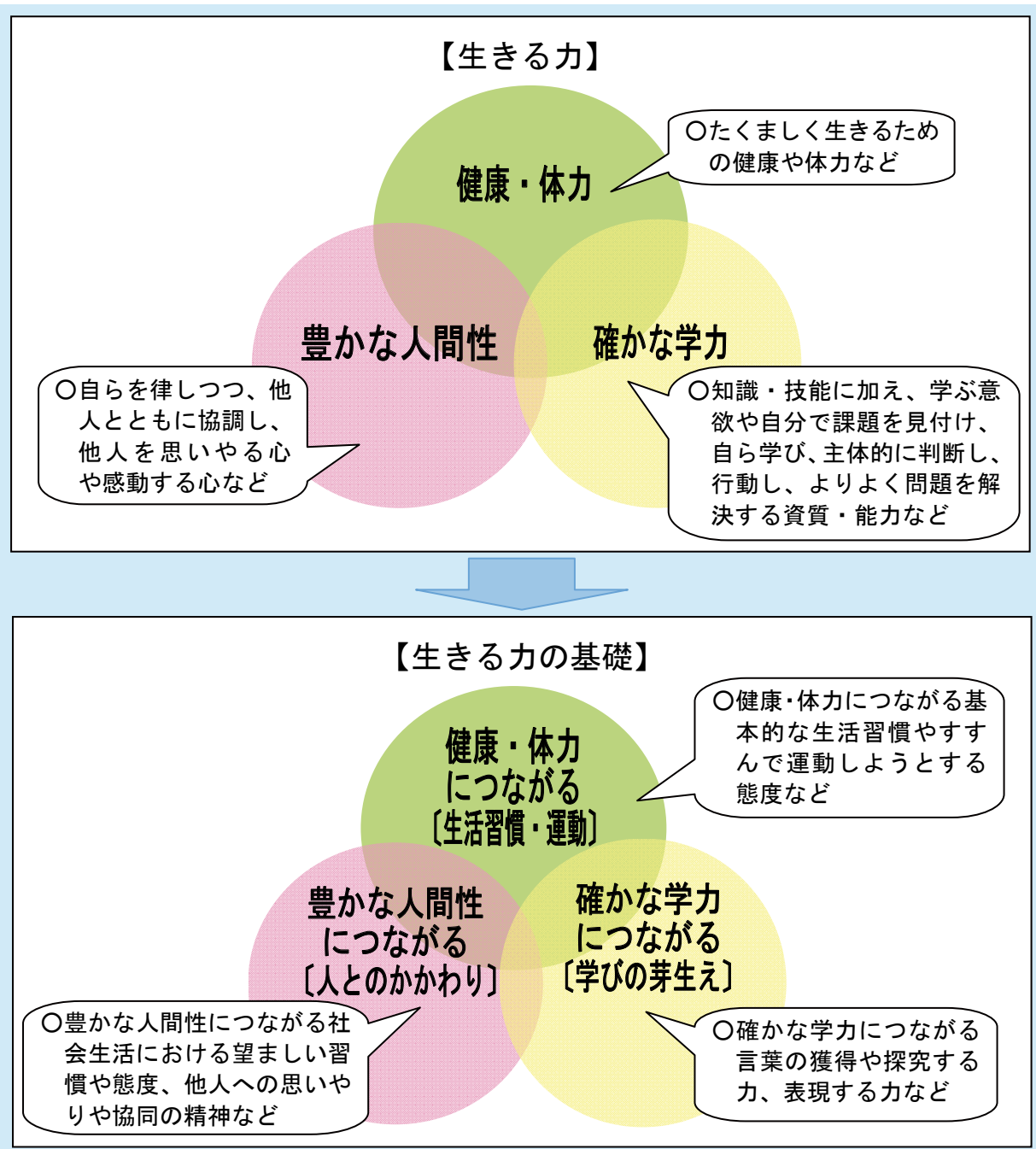
2 就学前教育カリキュラムの基本的な考え方

(1) 生きる力の基礎を身に付けた子供像

就学前の乳幼児期は、義務教育及びその後の教育の基礎を培う時期です。そのため、乳幼児期の教育は、知識や技能に加え、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力などの「確かな学力」、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの「豊かな人間性」、たくましく生きるための「健康・体力」から成る生きる力の基礎を培う役割を担っています。

そのため、本カリキュラムは、小学校教育との接続を踏まえ、乳幼児期の子供に生きる力の基礎を培うために、発達や学びの連続性を考慮しながら0歳児から5歳児の発達に応じて確実に経験させたい内容を明らかにするとともに、具体的な指導例を示したもので、各保育所や幼稚園等が編成する保育課程や教育課程、幼保連携型認定こども園が作成する全体的な計画に相当するものです。

本カリキュラムの開発に当たっては、子供に培いたい生きる力の基礎について、次の図のように捉えました。



また、生きる力の基礎として扱えた、確かな学力につながる〔学びの芽生え〕、豊かな人間性につながる〔人とのかかわり〕、健康・体力につながる〔生活習慣・運動〕といった資質・能力を身に付けた子供像について、次のように設定しました

確かな学力につながる〔学びの芽生え〕を身に付けた子供像

- 興味や関心をもったことに主体的にかかわったり、そのことを遊びに取り入れたりする。
- 自分の考えを相手に分かるように伝えたり、友達や先生の話に関心をもってすすんで聞いたりする。
- 目的に向かって繰り返し考えたり、試したりしながら最後までやり遂げる。
- 経験したことを取り入れたり、身近な物や用具などの性質や仕組みを生かしたりして遊びや課題に取り組む。
- 生活や遊びを通して感じたことや考えたことなどを、様々な表現方法で自由に表現することを楽しむ。

豊かな人間性につながる〔人とのかかわり〕を身に付けた子供像

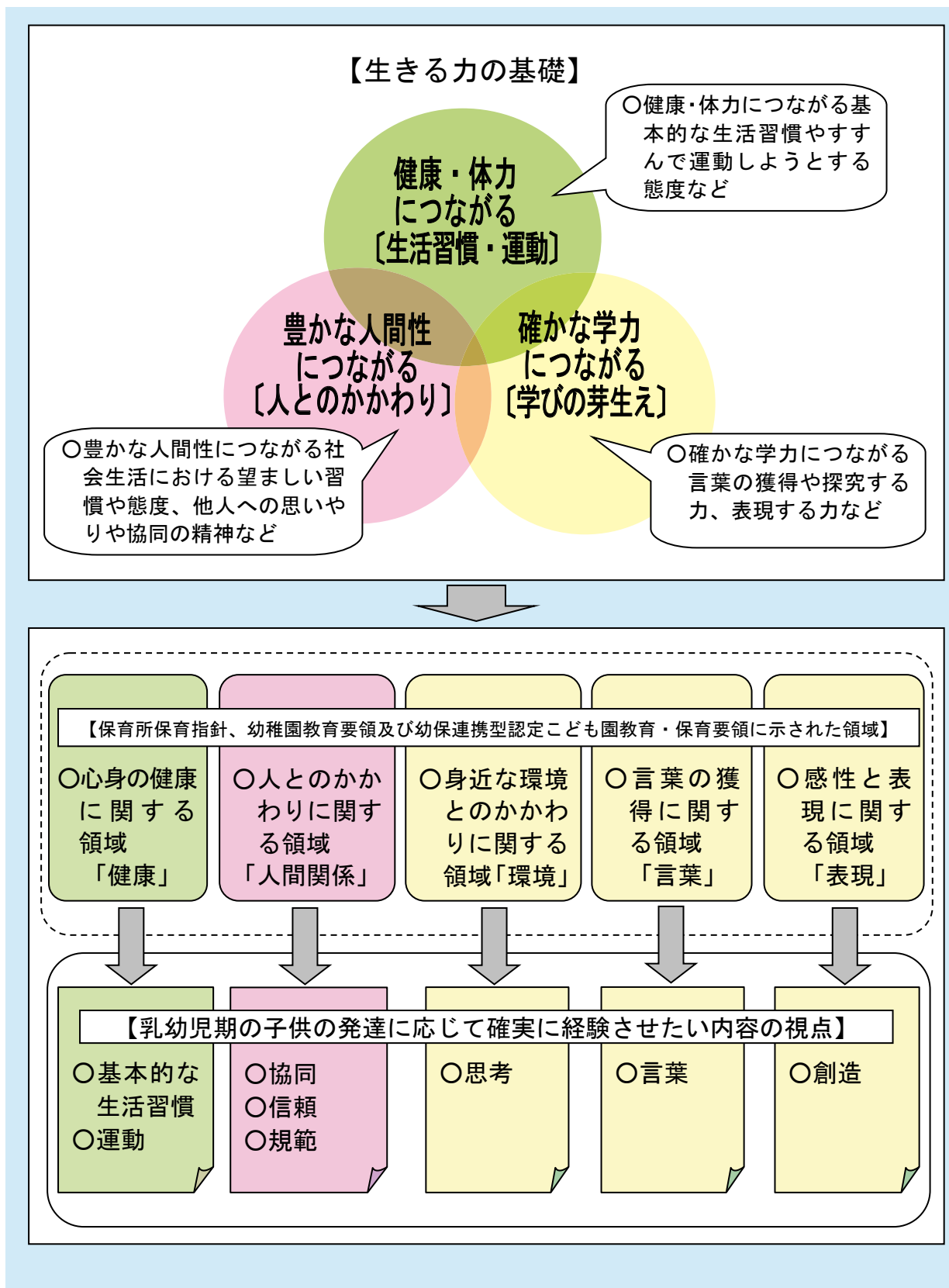
- 様々な人への信頼感をもち、自分の思いや考えを伸び伸びと表現する。
- 友達の思いや考えを受け止め、相手の気持ちを大切に考えながら行動する。
- 友達と互いのよさを感じながら協力したり、一緒に解決策を考えたりしながら遊びを進める。
- 相手も自分も気持ちよく過ごすために、してよいことと悪いことの区別などを考えたり、自分の気持ちを調整したりして行動する。
- 動植物など命のあるものを大切にする。

健康・体力につながる〔生活習慣・運動〕を身に付けた子供像

- 衣服の着脱、食事、排せつ、片付けなど生活に必要な活動の必要性に気付き、自分のことは自分でする。
- 体を動かす心地よさを味わい、自分からすすんで遊ぼうとする。
- いろいろな遊びの場面に応じて、体の様々な部位を十分に動かす。
- 友達や保育者と一緒に食べることを楽しむ。
- 集団での生活の流れなどを予測して、自分たちの活動に見通しをもって取り組む。

(2) 乳幼児期の子供の発達に応じて確実に経験させたい内容の視点

本カリキュラムでは、保育所保育指針、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」の五つの領域について、小学校教育との接続を踏まえながら生きる力の基礎を培う観点から、乳幼児期の子供の発達に応じて確実に経験させたい内容の視点を次のように設定しました。



そして、乳幼児期の子供の発達に応じて確実に経験させたい内容の視点の趣旨を次のように捉えました。

乳幼児期の子供の発達に応じて確実に経験させたい内容の視点の趣旨

生きる力の基礎	確かな学力につながる 「学びの芽生え」	思考	- 身近な自然と触れ合い、様々な事象に興味や関心をもつこと - 周囲の環境に好奇心や探究心をもってかかわり、遊びや生活に取り入れようとする - 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する興味や関心をもつこと
		言葉	- 経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現すること - 相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を身に付けること - 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付くこと
		創造	- いろいろなものの美しさなどに出合い、様々に表現することなどを通して豊かな感性をもつこと - 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむこと - いろいろな素材や表現の手段の特性を知り、表現する楽しさを味わうこと
	豊かな人間性につながる 「人とのかかわり」	協同	- 自ら行動しようとする - 他の幼児と共に活動する楽しさを味わうこと - 共通の目的が実現する喜びを感じる
		信頼	- 自分の感情や意思を表現すること - 相手の思いや考えを感じたり受け入れたりすること - 人に対する信頼感や思いやりの気持ちをもつこと - 自信をもって行動できるようにすること
	健康・体力につながる 「生活習慣・運動」	規範	- 生活に必要な約束やルールを身に付けること - よいことや悪いことに気付き、考えながら行動すること - 自分の気持ちを調整すること - 相手を尊重する気持ちをもって行動すること
		基本的な生活習慣	- 自分でできることは自分でしようとする - 見通しをもって行動しようとする - 安全や健康に気を付けて行動しようとする
		運動	- 体を十分に動かし、すすんで運動しようとする - 体を動かす楽しさや気持ちよさを感じる - 競い合う楽しさやみんなで遊ぶ充実感を味わう

(3) 乳幼児期の子供の発達過程の区分についての考え方

本カリキュラムにおける乳幼児期の子供の発達過程の区分については、保育所保育指針を参考に、次のように設定しました。

発達過程の区分	発達の特徴
おおむね 6 か月未満 	○首がすわり、手足の動きが活発になり、その後、寝返り、腹ばいなど全身の動きが活発になる。 ○視覚、聴覚などの感覚の発達はめざましく、泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、喃語などで自分の欲求を表現し、これに応答的にかかわる特定の大人との間に情緒的な絆が形成される。
おおむね 6 か月から 1 歳 3 か月未満 	○座る、はう、立つ、伝い歩きといった運動機能が発達すること及び腕や指先を意図的に動かせるようになることにより、周囲の人や物に興味を示し、探索活動が活発になる。 ○特定の大人との応答的なかわりにより、情緒的な絆が深まり、あやしてもらおうと喜ぶなどやり取りが盛んになる一方で、人見知りをするようになる。 ○身近な大人との関係の中で、自分の意思や欲求を身振りなどで伝えようとし、大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉が分かるようになる。 ○食事は、離乳食から幼児食へ徐々に移行する。
おおむね 1 歳 3 か月から 2 歳未満 	○歩き始め、手を使い、言葉を話すようになることにより、身近な人や身の回りの物に自発的に働き掛けていく。 ○歩く、押す、つまむ、めくるなど様々な運動機能の発達や新しい行動の獲得により、環境に働き掛ける意欲を一層高める。その中で、物をやり取りしたり、取り合ったりする姿が見られるとともに、玩具などを実物に見立てるなどの象徴機能が発達し、人や物とのかかわりが強まる。 ○大人の言うことが分かるようになり、自分の意思を親しい大人に伝えたいという欲求が高まる。 ○指差し、身振り、片言などを盛んに使うようになり、二語文を話し始める。
おおむね 2 歳 	○歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動機能や、指先の機能が発達する。それに伴い、食事、衣類の着脱など身の回りのことを自分でしようとする。 ○排せつの自立のための身体的機能が整ってくる。 ○発声が明瞭になり、語彙も著しく増加し、自分の意思や欲求を言葉で表出できるようになる。行動範囲が広がり探索活動が盛んになる中、自我の育ちの表れとして、強く自己主張する姿が見られる。 ○盛んに模倣し、物事の間の共通性を見いだすことができるようになるとともに、象徴機能の発達により、大人と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しむようになる。
3 歳児 	○基本的な生活(食事、排せつ、衣服の着脱など)がほぼ自分でできるようになる。 ○基本的な運動機能が発達し、話し言葉が豊かになり会話を楽しむようになる。 ○自分の思いを主張しながらも友達と同じ場所で遊んだり簡単な集団での遊びを楽しんだりするようになる。 ○自分を中心に考える時期である。
4 歳児 	○運動のバランス、コントロールが取れるようになり、協応動作(ボール投げなど)も上手になり、異なる 2 種以上の行動を同時に行えるようになる。 ○周囲の環境に強い関心を持ち、身近な自然物、事物・事象と触れ合う中で友達と発見し合ったり、工夫し合ったりして遊びを豊かにしていく。 ○言葉による表現が進み、友達に自分のイメージを伝えて、一緒に遊びを楽しむようになる。
5 歳児 	○全身運動が滑らかで巧みになる。 ○細かい指先の動きが滑らかになり道具の扱い、操作ができるようになる。 ○自分なりに判断したり批判したりする力が生まれ、自分と違う思いや考えを認めたり、社会生活に必要な力を身に付けて行動できるようになる。 ○生活や遊びに見通しをもち、友達と相談しながら活動を発展させていくようになる。 ○今までの知識や経験を生かして創意工夫を重ね、友達と遊びを発展させていくようになる。

(4) 0歳児から5歳児の発達に応じて確実に経験させたい内容

発達の主な特徴			おおむね6か月未満 たっぴり飲んで、ぐっすり眠れるように	おおむね6か月から1歳3か月未満 身の回りへの興味の芽生えを大切に	1歳3か月から2歳未満 自分からかかわろうとする姿を大切に	おおむね2歳 じぶんでできた！を大切に
生きる力の基礎と 子供の発達に応じて 確実に経験させたい 内容の視点			○首がすわり、手足の動きが活発になり、その後、寝返り、腹ばいなど全身の動きが活発になる。 ○視覚、聴覚などの感覚の発達はめざましく、泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、喃語などで自分の欲求を表現し、これに応答的にかかわる特定の大人との間に情緒的な絆が形成される。	○座る、はう、立つ、伝い歩きといった運動機能が発達すること、及び腕や指先を意図的に動かせるようになることにより、周囲の人や物に興味を示し、探索活動が活発になる。 ○特定の大人との応答的なかわりにより、情緒的な絆が深まり、あやしてもらおうと喜ぶなどやり取りが盛んになる一方で、人見知りをするようになる。 ○身近な大人との関係の中で、自分の意思や欲求を身振りなどで伝えようとし、大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉が分かるようになる。 ○食事は、離乳食から幼児食へ徐々に移行する。	○歩き始め、手を使い、言葉を話すようになることにより、身近な人や身の回りの物に自発的に働き掛けていく。 ○歩く、押す、つまむ、めくるなど様々な運動機能の発達や新しい行動の獲得により、環境に働き掛ける意欲を一層高める。その中で、物をやり取りしたり、取り合ったりする姿が見られるとともに、玩具等を実物に見立てるなどの象徴機能が発達し、人や物とのかわりが強まる。 ○大人の言うことが分かるようになり、自分の意思を親しい大人に伝えたいという欲求が高まる。 ○指差し、身振り、片言などを盛んに使うようになり、二語文を話し始める。	○歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動機能や、指先の機能が発達する。それに伴い、食事、衣類の着脱など身の回りのことを自分でしようとする。 ○排せつの自立のための身体的機能が整ってくる。 ○発声が明瞭になり、語彙も著しく増加し、自分の意思や欲求を言葉で表出できるようになる。行動範囲が広がり探索活動が盛んになる中、自我の育ちの表れとして、強く自己主張する姿が見られる。 ○盛んに模倣し、物事間の共通性を見いだすことができるようになるとともに、象徴機能の発達により、大人と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しむようになる。
生きる力の基礎	【学びの芽生え】 確かな学力につながる	思考 興味・関心 好奇心 探究心 など	○音を聞く、物を見る、握る、つかむ、しゃぶるなどの動きを十分にする。 ○機嫌のよいときには盛んに喃語で話す。	○戸外に出ることや散歩に行くことを喜び、周囲の物事や動物などに興味を示す。 ○興味のある所へ自分で移動し、触る、なめる、見る、登る、降りる、押す、引っ張るなどして遊ぶ。 ○保育者に見守られながら、遊具や身の回りのもので一人遊びを十分にする。 ○保育者のすることに興味をもって、動作をまねたり、いろいろな音声や音節を繰り返したりする。 ○保育者に優しく語り掛けられることにより、喜んで声を出したり、応えようとしたりする。 ○保育者と一緒に、水、砂、土、紙、小麦粉粘土など様々な素材に触れる。 ○保育者が歌ったり手遊びをしたりしてくれるのを喜ぶ。	○戸外の自然に触れながら、植物や小動物などに関心をもつ。 ○室内、戸外で探索活動を十分に楽しむ。 ○保育者の話し掛けや絵本を読んでもらうことなどにより言葉を理解したり、簡単な単語を使ったりする。 ○ちぎる、破く、クレヨンでなぐり描きをするなどの手や指先を使った遊びを十分に楽しむ。 ○砂遊びや水遊びなどを楽しみ、様々なものの感触を楽しむ。 ○保育者と一緒に歌を歌ったり、リズム遊びを楽しんだりする。	○戸外で花や石など、自分の気に入ったものを手に取って遊ぶことを喜ぶ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉でのやり取りを楽しむ。 ○保育者に話し掛けられることを喜び、自分も同じ言葉を使ってみようとする。 ○保育者の話し掛けや絵本を通じて、リズムのある言葉や繰り返しの言葉に興味をもち、自分で言うことを楽しむ。 ○のりやはさみなどに興味をもち、保育者と一緒に使いながら、遊びを楽しむ。
		言葉 話す・聞く 伝え合う 言葉に対する感覚 など				
		創造 感性 イメージ 素材や表現方法との出会い など				
生きる力の基礎	【人とのかわり】 豊かな人間性につながる	協同 共感 調整 自己理解 他者理解 など	○あやされることを喜び、声を出したり笑ったりする。 ○声や泣き声で自分の欲求を表し、なだめられたり、受け入れてもらったりすることで安心する。 ○落ち着いた雰囲気の中で、抱く、あやす、語り掛けるなどをしてもらうことで、安定した気持ちと喜びを味わう。	○保育者と視線を合わせ、表情や喃語などを通してやり取りを喜ぶ。 ○心地良いときは笑ったり、ほほえんだりし、不快なときは泣いて欲求を表す。 ○保育者の語り掛けや働き掛けに、声を出したり、応えようとしたりする。	○生活や遊びの中で保育者を仲立ちとして、簡単な単語や物のやり取りをする。 ○保育者と触れ合ったり、話をしたりすることを通じて気持ちを通わせる。 ○表情や身振りなどで自分の気持ちを表したり、簡単な言葉を使ったりする。	○一人遊びを楽しみながら、保育者が仲立ちとなり、友達にも関心をもって遊ぶ。 ○自分がしてほしいことを身振りや言葉で伝える。 ○自分で表した気持ちや欲求を受け止めてもらうことを喜ぶ。
		信頼 自己表出 受容 自信 思いやり など				
		規範 善悪に気付く きまり ルール など				
生きる力の基礎	【生活習慣・運動】 健康・体力につながる	基本的な生活習慣 生活リズム 安全 健康 自立 など	○安心して寝入ったり目覚めたりする。 ○乳汁以外のものを飲んだりスプーンに慣れたりする。 ○オムツがぬれていた、汚れたりしたときに取り替えてもらい、気持ちよさを感じる。 ○活発に手足を動かしたり、腹ばいで身体の前には手をついて上体をそらしたり、寝返りをしようとしたりする。	○ほぼ決まった時間に眠り、機嫌よく目覚める。 ○一人一人の状態に応じた離乳食を食べることで、いろいろな食品の味や形態に慣れる。 ○食べることに期待をもち、お腹がすいたら催促をする。 ○寝返り、お座り、はいはい、高ばい、伝い歩きなど、体を動かす。	○一定時間午睡をする。 ○いろいろな食べ物に興味をもって口に入れてみる。 ○スプーンやフォークを使って、保育者に手伝ってもらったり、自分で食べようとしたりする。 ○おしっこが出ると言葉やしぐさで教えたり、嫌がらずにおまるや便器に座ったりする。 ○歩く、走る、上る、下りる、ぶら下がるなど全身を使った遊びを十分に楽しむ。	○楽しい雰囲気の中で、様々な食べ物を食べてみようとする。 ○食べ物の種類により、スプーン、フォークなどを使って食べる。 ○保育者に見守られ、トイレでの排せつに慣れる。 ○パンツやズボン、前開きやかぶりものの服の着脱の仕方を知り、一人でしてみようとする。 ○自分の所持品（タオル、コップなど）を保育者と一緒に支度する。 ○保育者の表情や言葉掛けで、危ないことに気付く。 ○保育者と一緒に身近な遊具や用具にかかわって遊んだり、戸外で十分に体を動かすことを楽しんだりする。
		運動 体を動かす楽しさ 体力 など				

発達の特徴			3 歳児	4 歳児	5 歳児
生きる力の基礎と子供の発達に応じて確実に経験させたい内容の視点			自分なりの表し方やかかわり方が十分に楽しめるように	先生や友達と一緒に生活する楽しさを大切に	友達と力を合わせて生活を進めていけるように
			○基本的な生活(食事、排せつ、衣服の着脱など)がほぼ自分でできるようになる。 ○基本的な運動機能が発達し、話し言葉が豊かになり会話を楽しむようになる。 ○自分の思いを主張しながらも友達と同じ場所で遊んだり簡単な集団での遊びを楽しんだりするようになる。 ○自分を中心に考える時期である。	○運動のバランス、コントロールが取れるようになり、協応動作(ボール投げなど)も上手になり、異なる2種以上の行動を同時に行えるようになる。 ○周囲の環境に強い関心もち、身近な自然物、事物・事象と触れ合う中で友達と発見し合ったり、工夫し合ったりして遊びを豊かにしていく。 ○言葉による表現が進み、友達に自分のイメージを伝えて、一緒に遊びを楽しむようになる。	○全身運動が滑らかで巧みになる。 ○細かい指先の動きが滑らかになり道具の扱い、操作ができるようになる。 ○自分なりに判断したり批判したりする力が生まれ、自分と違う思いや考えを認めたり、社会生活に必要な力を身に付けて行動できるようになる。 ○生活や遊びに見通しをもち、友達と相談し活動を発展させていくようになる。 ○今までの知識や経験を生かして創意工夫を重ね、友達と遊びを発展させていくようになる。
生きる力の基礎	【学びの芽生え】 確かな学力につながる	思考	○身近な草花や小動物、自然現象に興味をもってかかわる。 ○身近な事物に関心をもち、触れる、集める、並べるなどして遊ぶ。 ○身近なものに触れ、見立てたり偶然できたもので遊んだりすることで、物の感触や形、使い方などに興味をもつ。 ○園内の身近な表示に関心をもつ。 ○生活や遊びの中で数や量などの違いに気付き、興味をもつ。	○自然の美しさに触れて感動したり、自然物を使って遊ぶことを楽しんだりする。 ○身の回りの物の色、形などに興味をもち、集める、分ける、組み合わせるなどしながら遊ぶ。 ○重い、軽い、固い、柔らかい、伸びる、縮むなどの物の性質に気付き、遊びに取り入れる。 ○身近な道具の使い方がほぼ分かり、様々な場面で積極的に使おうとする。 ○気に入った絵本や図鑑などに興味をもち、繰り返し見て楽しむ。 ○具体的な物を通して、数や量などに関心をもち、簡単な数の範囲で数えたり比べたりすることを楽しむ。	○身近に起こる様々な事象に関心をもち、疑問に思ったことなどを試したり調べたりする。 ○物の性質や仕組みについて考えたり気付いたりし、遊びに生かす。 ○目的や課題を自分のこととして受け止め、これまでの経験を生かすなどして工夫して取り組む。 ○ゲームや遊びの中で数を数えたり、文字に触れたりすることなどを通して数や文字に興味をもち、必要感をもって遊びに使う。
		言葉	○親しみをもって保育者の話を聞いたり、困ったことやしてほしいことを言葉で伝えたりする。 ○「入れて」「貸して」など身近な生活の中で必要な言葉に気付き、自分も使ってみる。 ○挨拶などをする楽しさを感じる。 ○絵本や紙芝居を繰り返し見たり聞いたりすることを楽しむ。	○保育者や友達の話について親しみをもって聞く。 ○遊びや生活に必要な言葉の意味が分かり、すすんで使う。 ○保育者や友達に親しみをもって挨拶をしたり、保育者や友達と会話を楽しんだりする。 ○絵本、歌などの中で言葉の面白さに気付き、繰り返し声に出して楽しむ。 ○絵本や紙芝居などの内容やストーリーに興味をもち、イメージを広げて楽しむ。	○友達の言うことを受け入れたり、自分の思いを伝えたりしながら話すことを楽しむ。 ○遊びや生活の中で必要なことを、相手に分かるように話し方や言葉を考えて伝えようとする。 ○聞いて心地よい言葉やうれしい言葉があることに気付き、自分も使おうとする。 ○すすんで挨拶をしたり、みんなの前で話をしたりする。 ○様々な体験を通してイメージを豊かにし、言葉で表現する。 ○絵本や物語などに親しみ、想像する楽しさを味わったり自ら表現したりして、言葉の面白さや美しさを味わう。
		創造	○身近な素材や用具を使って好きなように描いたり作ったりして楽しむ。 ○動物や乗り物など、身近なものの動きを模倣して、体で表現することを楽しむ。 ○保育者と一緒に歌ったり簡単な手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりなどして遊ぶ。	○様々な素材にかかわり、作った物を使って遊んだり、保育者や友達と一緒に身の回りを飾ったりして楽しむ。 ○自分なりに工夫して表現することを楽しむ。 ○音楽に親しみ、友達と一緒に聴く、歌う、体を動かす、簡単なリズム楽器を鳴らすなどして楽しむ。 ○絵本等の中の人や身近な動物などになりきって遊んだり、音楽やリズムに合わせて動いたりすることを楽しむ。	○様々な素材や用具を利用して、自分なりに描いたり作ったりすることを楽しむ。 ○音楽に親しみ、友達と一緒に聴く、歌う、踊る、楽器を鳴らすなど、音色の美しさやリズムの楽しさを味わう。 ○友達と一緒に工夫して描いたり作ったりすることを楽しみ、それを遊びに使ったり飾ったりする。 ○物語のストーリーに沿って友達と遊びを進めたり、友達とイメージを出し合って遊びを進めたりすることを楽しむ。
	【人とかかわり】 豊かな人間性につながる	協同	○保育者や友達と一緒に活動することを喜ぶ。 ○同じ場所にいる友達とかかわり、触れ合って遊ぶことを楽しむ。 ○保育者や友達と、使う物を一緒に運んだり片付けをしたりする。 ○安心感をもって伸び伸びと自分を表して行動する。	○仲の良い友達の中で、思いや考えを出し合いながら遊ぶ楽しさを味わう。 ○うまくいかないことや葛藤場面を通じて、相手にも思いや考えがあることに気付く。 ○自分から友達に何かをしてあげたり、してもらったりすることを喜ぶ。 ○クラスの友達と声や動きなどがそろう心地よさを感じる。	○友達との考えの違いやうまくいかない経験を通じて、友達と工夫したり折り合いを付けたりしながら、問題や課題を乗り越えようとする。 ○友達と一緒に活動する中で、共通の目的を見だし、協力して物事をやり遂げる充実感を味わう。 ○共通の目的をもって遊ぶ中で友達の思いや考えを受け入れ、一緒に遊びを進めることを楽しむ。 ○友達と活動する中で、互いのよさを認め合う。 ○一人ではできないことが友達と一緒にだとできる喜びや満足感を味わう。
		信頼	○したことや感じたことなどを、保育者に受け止められ、安心感をもつ。 ○自分の思ったことや感じたことを言葉や行動など、自分なりに表現しようとする。 ○身近な様々な人と触れ合うことを喜ぶ。 ○自分なりにやってみて、できた喜びを十分に味わう。	○保育者や友達の言っていることや考えていることを受け止めて行動しようとする。 ○異年齢の子供に親しみをもったり、すすんで遊んだりする。 ○園内の大人や地域の方などに親しみをもち、一緒に活動する楽しさを感じる。 ○自分なりにやり遂げた満足感や、身近な人に認められることを通して、自信をもつ。	○自分の思ったことを相手に分かるように伝えたり、相手の話していることを相手の立場に立って受け入れたりする。 ○身近な友達とかかわりを深めるとともに、異年齢の子供など、様々な友達とかかわり、思いやりや親しみをもつ。 ○高齢者をはじめ地域の方など、自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。 ○繰り返し挑戦して達成したり、様々な人に認められたりすることを通じて、自信をもつ。
		規範	○生活や遊びの中での簡単なきまりがあることを知り、それを守ろうとする。 ○友達の反応や保育者の働き掛けから、やって良いことと悪いことが分かる。 ○遊具や用具の貸し借りや、交代する、順番を待つなどをするすることで、楽しく遊べるのが分かる。 ○みんなで使う物があることが分かり、一緒に使おうとする。	○友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする。 ○簡単なルールを守って遊ぶ楽しさを味わう。 ○やって良いことと悪いことが分かり、状況を感じて自分なりに行動しようとする。 ○共同のものを大切にして、みんなで使う。	○友達と一緒に遊びを発展させる中で、自分たちで遊び方やきまりをつくり出し、守って遊ぶ。 ○やって良いことと悪いことが分かることが分かり、考えながら行動する。 ○共同の遊具や用具を大切にし、譲り合って使う。 ○生活に必要なことを友達と一緒に進め、自分の役割を果たすことに喜びを感じる。
	【生活習慣・運動】 健康・体力につながる	基本的な生活習慣	○楽しい雰囲気の中で、食べ物をすすんで食べようとする。 ○身の回りの清潔や衣服の着脱、食事、排せつなど生活に必要な活動が自分でできることを喜ぶ。 ○保育者の援助を受けながら、危ない場所や遊び方を知り、気を付けようとする。	○食べることを楽しみ、食べ慣れない物や嫌いな物でも少しずつ食べようとする。 ○遊びや生活に必要な準備や片付けなど、やり方が分かりすすんで行う。 ○自分の健康に関心をもち、うがい、手洗いや衣服の調整などをすすんで行う。 ○園生活のきまりや危険なことが分かり、約束を守って行動する。	○健康と食べ物の関係に関心をもち、何でも残さずに食べようとする。 ○身の回りの物の始末や片付けの必要性が分かり、見通しをもってすすんで行う。 ○うがいや手洗いなど病気の予防に必要な活動を理解し、すすんで行う。 ○危険な物や場所、遊び方が分かり、状況を判断して、安全に気を付けて遊ぶ。
		運動	○保育者と一緒に戸外で体を動かすことを喜ぶ。 ○身近な遊具や用具などを使った運動や遊びを楽しむ。 ○自分なりに体を動かす心地よさを味わう。	○いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。 ○遊具、用具などを使い、様々な動きを組み合わせる積極的に遊ぶ。 ○簡単なルールの下で、体を動かす遊びを楽しむ。	○戸外で、友達と一緒にすすんで様々な運動や遊びをする。 ○様々な運動用具をすすんで使い、工夫して遊ぶ。 ○自分の目的に向かって繰り返し挑戦したり、チーム対抗の遊びを楽しんだりする。

生きる力の基礎と 子供の発達に応じて 確実に経験させたい 内容の視点		小学校入門期 安心して生活し、自信をもって自己表現ができるように	
		○学校には、きまりや時間割などがあることに慣れ、適応しようとする。 ○同年齢の仲間のほか、多くの出会いがある中で、相手に親しみをもってかわろうとする。 ○先生に質問したり、先生の言うことを聞いて行動したりしながら、自分自身のことを知ってもらおうとする。 ○各教科等の学習に興味・関心をもって取り組もうとする。	
生きる力の基礎	「学びの芽生え」 確かな学力につながる	思考	○目の前にある物事について見通しをもつとともに、試行錯誤しながら筋道立てて考える。 ○学校探検やアサガオの栽培などの体験を通して、自分と身近な人々や自然とのかわりに関心をもつ。 ○５０音のひらがなを習得し、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。 ○具体物や絵、図などを用いた活動などを通じて、数についての感覚を豊かにする。
		言葉	○興味・関心をもった身近なことについて意欲的に話したり聞いたりする。 ○相手に応じて、事柄の順序に気を付けながら話したり、大事なことを落とさないように興味をもって聞いたりする。 ○姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意してはっきりとした発音で話す。 ○内容の大体をつかみ、創造を広げながら読む。 ○物語や昔話、神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞き、話の面白さや語り口調、言い回しなどを楽しむ。
		創造	○身近な材料や扱いやすい用具を用いて、感じたことや想像したことを思いのままに表現することを楽しむ。 ○わらべ歌や身体を動かしながら歌う喜びを味わい、音楽の楽しさに触れる。 ○身近な楽器に関心をもち、音色のよさや面白さを感じて演奏する。 ○遊びに使う物を作ったり、遊び方を工夫したりしながら、楽しく過ごす。
	「人とかかわり」 豊かな人間性につながる	協同	○楽しく学校生活を送るために、周りの友達と仲良く助け合い、課題を解決しようとする。 ○働くことのよさを感じて、みんなのために働くなどして学級生活を楽しくする。 ○気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。 ○互いの意見をよく聞いたり、気遣ったりして、仲良く助け合って話し合いを進める。
		信頼	○幼い子供や高齢者など、身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。 ○自分でできるようになったことや生活での自分の役割が増えたことなどを喜び、自分の成長を支えてくれている人々に気付き、感謝の気持ちをもつ。 ○父母や祖父母を敬愛し、すすんで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。 ○先生を敬愛し、家族や友達、地域の様々な人と慣れ親しむ。
		規範	○よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことをすすんで行う。 ○してはならないことはしないで、素直に伸び伸びと生活する。 ○約束やきまりを守り、みんなで使う物や場所、施設を大切に使う。
	「生活習慣・運動」 健康・体力につながる	基本的な生活習慣	○早寝、早起き、朝ごはんの習慣を身に付けようとする。 ○笑顔で挨拶、元気に返事、きれいに後始末をしようとする。 ○健康安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで規則正しい生活をしようとする。 ○自分がやらなければならない勉強や仕事はしっかりとやろうとする。
		運動	○誰とでも仲良く、健康・安全に留意して意欲的に運動をする。 ○簡単なきまりや活動を工夫して、楽しみながら各種の運動をする。 ○体づくり運動、器械・器具を使っの運動遊び、走・跳の運動遊び、水遊び、ゲーム、表現リズム遊びなどを通じて、基本的な動きを身に付ける。

3 就学前教育カリキュラムを活用した保育・教育課程の編成

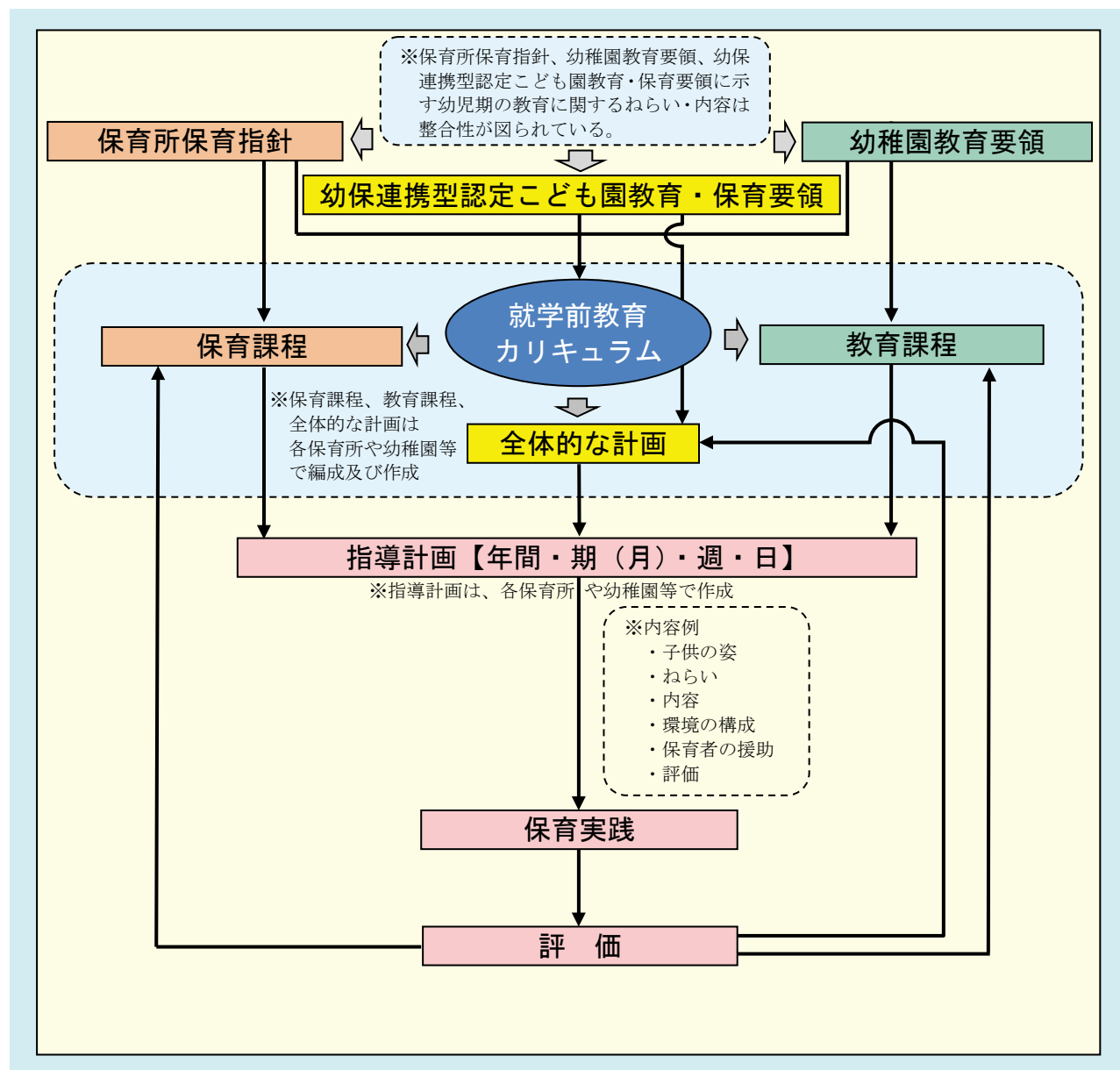
保育所保育指針、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領は、保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園等の保育・教育の基本とその内容を示したものです。

これを基に、各保育所や幼稚園等が保育課程や教育課程を編成（幼保連携型認定こども園においては全体的な計画を作成）し、それに基づいて具体的な指導計画を作成して実践し、その評価を行い、更に次の計画に反映させて改善を図ります。

本カリキュラムは、小学校教育との接続を踏まえ、乳幼児期の子供に生きる力の基礎を培うために、発達や学びの連続性を考慮しながら0歳児から5歳児の発達に応じて確実に経験させたい内容を明らかにするとともに、具体的な指導例を示したもので、各保育所や幼稚園等が編成する保育課程や教育課程等に相当するものです。

各保育所や幼稚園等においては、小学校教育との接続を踏まえ、「生きる力の基礎の育成」や「発達や学びの連続性」などの視点から保育課程や教育課程等を編成する際に、本カリキュラムを積極的に活用することが期待されます。

また、家庭教育においては、幼稚園に入園するまでの期間や就学するまでの期間において、本カリキュラムで示した乳幼児期の子供の発達に応じて確実に経験させたい内容を参考にして子育てを行うことも考えられます。



4 就学前教育プログラムと就学前教育カリキュラムの位置付け

東京都教育委員会は、平成22年度に、就学前教育プログラムを開発しました。本プログラムは、就学前教育と小学校教育との接続期に焦点を当て、保育所や幼稚園等に在籍する子供の小学校生活への適応を図ることを目指し、就学前教育と小学校教育との円滑な接続のための保育所や幼稚園等と小学校との具体的な連携の方策を示したものです。

「就学前教育プログラム」における連携の方策の視点

○視点1…幼児と児童の交流

→児童への憧れや小学校生活への期待感を高めるための幼児と児童の交流

○視点2…保育士・教員の連携

→相互理解と指導の接続を図るための保育所の保育士、幼稚園の教員と小学校の教員との連携

○視点3…保護者への理解啓発

→家庭教育を支援するための小学校の生活や学習についての保護者への理解啓発

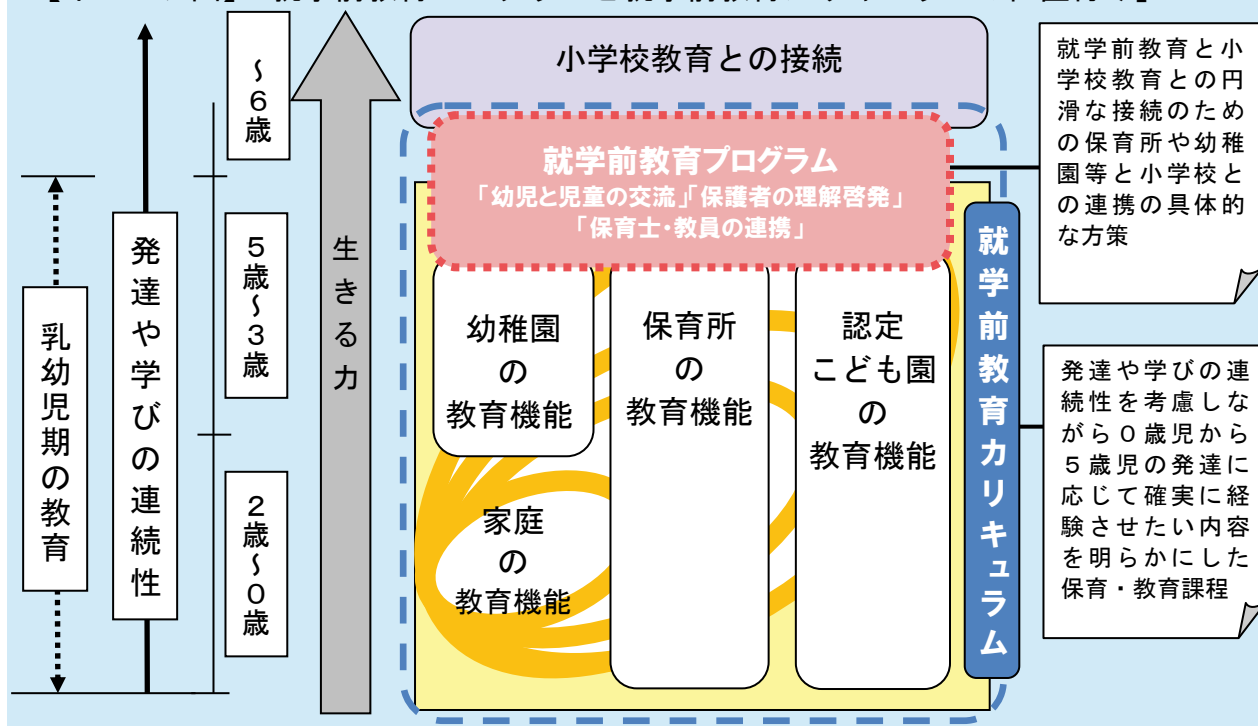
※「就学前教育プログラム」閲覧ホームページアドレス

<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/buka/shidou/manabiouen/pr100422sy/pr100422sy.htm>

それに対して、就学前教育カリキュラムは、小学校教育との接続を踏まえ、乳幼児期の子供に生きる力の基礎を培うために、発達や学びの連続性を考慮しながら0歳児から5歳児の発達に応じて確実に経験させたい内容を明らかにするとともに、具体的な指導例を示したもので、各保育所や幼稚園等が編成する保育課程や教育課程（幼保連携型認定こども園においては全体的な計画）に相当するものです。

各保育所や幼稚園等においては、保育課程や教育課程を編成（幼保連携型認定こども園においては全体的な計画を作成）する際に、就学前教育プログラムを活用して、小学校教育との円滑な接続のための連携の取組として、「幼児と児童の交流」、「保護者への理解啓発」、「保育士・教員の連携」について具体化していくことが望まれます。

【イメージ図】「就学前教育プログラムと就学前教育カリキュラムの位置付け」



第 2 章

保育・教育課程

1 保育・教育課程の見方

第2章の保育・教育課程では、小学校教育との接続を踏まえ、乳幼児期の子供に生きる力の基礎を培うために、発達や学びの連続性を考慮しながら0歳児から5歳児の発達に応じて確実に経験させたい内容を明らかにするとともに、具体的な指導方法を例示しました。

本保育・教育課程のフォーマットの見方については、次の吹き出しのとおりです。

5歳児 1期 (4月～5月)

ねらい

- ・新しい環境に自分からかわり、いろいろな遊びに取り組む。…略…

学びの芽生え	思考	・動植物や自然現象に関心や親しみをもち、考える、試す、自然を…
	言葉	・保育者や友達に対して、自分の思いや考えを自分なりの言葉…
	創造	・体で感じたリズムや自分たちで考えた動きを伸び伸びと…
人とのかわり	協同	・年長になったことを喜び合い、友達と一緒に遊ぶ楽しさ…
	信頼	・自分の気持ちを伝えたり、相手の話を聞いたりする。…
	規範	・新しい生活の中でのきまりの必要性を感じ、保育者や友達と一緒に…
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・衣服の着脱など、自分で気付いて調整する。…
	運動	・すすんで戸外に出て、友達と体を動かして遊ぶ心地よさや…

・各時期の子供の発達を踏まえた成長の実現に向けたねらいを示しています。

・生きる力の基礎を育成する観点から、各時期に子供に確実に経験させたい内容を示しています。

・各時期の具体的な指導例を示しています。うち、◇印の付いている指導例は、実際の指導の詳細を示しています。

<指導例>

◇ 年長さんになったよ 進級の喜びを味わう。

<援助のポイント>

<家庭との連携>

・保育者の援助や家庭との連携のポイントを示しています。

・生きる力の基礎を育成する観点から、子供に確実に経験させたい内容の視点に基づき、生活や遊びの中で子供が経験している内容を示しています。

5歳児 4月 進級の喜びを味わう

「年長さんになったよ」

環境の構成

- ◆ 生活の場を自分たちで整えているような機会の設定や物の準備をする。
- ◆ 幼稚園内のルール（遊具や用具の扱い方など）の確認、積み木や製作コーナーの置き場所を決めること、自分たちでできると考えたこと（飼育動物の世話、昼食時の挨拶、昼食後の保育室の掃除など）に取り組む時間を設ける。
- ◆ 必要な用具などを見えやすい所に置いておく。
- ◆ 年下の子供の気持ちを考えたり自分たちの経験を振り返ったりして、自分ができることを考え、実際に接する機会を設ける。（朝の支度や遊びの片付けの手伝い、園内巡りなど）

子供の姿

「もう、年長だもん」

保育者が「うさぎの世話をしようかな」とつぶやくと近くにいた子供が「手伝ってあげようか」「私もやりたい」と言う。保育者が「できるかな」と保育者が問いかけると「（前年度の）年長さんに頼まれたからね。もう年長だもん」と張り切って取り組む。「私もやらせて」とその様子を見て取り組む子供が増えていく。また、「こうやるんだよね」と友達同士で確認したり教え合ったりする様子が見られる。

「年少さん大丈夫かな」

登園後不安で泣き続けている子供の様子を見ながら「年少さん大丈夫かな」とつぶやくと近くにいた年少児がそばに寄り寄り、「大丈夫だよ」「幼稚園、楽しいからね」と顔をなでたり、「これで遊んでいいよ」と砂場の道具を持ってきて、その子供の前に置いてみる。相手の気持ちを考えたり自分なりに言葉を掛けたり行動したりする姿が見られる。

「生活のルールをつくらなく」

年長児になって使えるようになった大型積み木、大きくて一人で運ぶと危ないことに気付く。「二人なら運べるね」「これなら大丈夫」と二人で運ぶ。クラスでも取り上げて話したところ「二人で運ぶこと」が約束になる。遊びの中や片付けの際には「一緒に運ぼう」と友達に声を掛けて運んだり片付けたりする。

経験している内容

- ★ 飼育動物の動きや状態などに気付いたり親しみを感じたりする。
- ★ 文字や数字、記号などに関心をもつ。
- ▲ 遊具を安全に扱おうとする。

援助のポイント

- ◆ やってみたい気持ちが実現していくように環境を構成したり、約束を確認したりする
- ◆ 年長になった喜びから自分たちでやってみたいという気持ちが大きくなっているのを、自分たちの生活を円滑に自信をもって進めていけるようにする。問題になったことはクラス内で取り上げ、必要感をもって話し合ったり共通理解したりしていく。自分たちで生活を進めていけるように当番活動として取り入れ、当番表を掲示したり、生活環境を整えていけるように表示したりする。
- ◆ 年下の子供のためにできることを見つけ、行動に移していくきっかけをつくる
- ◆ 年下の子供が困っている様子などについて、気付いたことを知らせ合う場面を設ける。自分たちがこれまで年長児からしてもらったことを振り返り、自分たちができることを具体的に考えていく。また、かわったことで相手が泣きやむなど安心した姿を認めて、自信につながるようにしていく。
- ◆ 文字や数字、記号などへの関心を高める
- ◆ 物の片付け場所や当番表などの表示に文字や数字、記号などを用いることで、生活の中で身近に感じ、関心をもったり遊びに取り入れ入れたりするきっかけにいく。

2 0歳児から5歳児の保育・教育課程

0歳児（57日頃～3か月頃）

ねらい	・好きな大人からあやされたり、声を掛けられたりすることを喜ぶ。 ・保育者に欲求を受け止めてもらい、親しみと安心感をもつ。 ・一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。	
学びの芽生え	思考 言葉 創造	・鼻から出ている音声が喉からも出るようになり、母音に喉子音が結び付いた発声も聞かれるようになる。 ・光（明るい光、優しい光など）に反応する。
人とのかわり	協同 信頼 規範	・不快感が芽生え、空腹になったりおむつが汚れたりすると、目覚めて泣く。 ・抱かれて、泣きやんだり安心した表情になったりする。 ・音や話し声のする方に顔を向けようとする。 ・あやしたり話し掛けられたりするとよく笑うようになる。
生活習慣・運動	基本的な 生活習慣 運動	・1日の中で眠りと覚醒が何度も繰り返され、昼夜の区別がはっきりしない。 ・よく眠っているように見えても、脳波の半分は眠っていない状態なので、眼球が動いていたり、顔や手指がピクピク動いたりする。 ・舌の前後の運動で、ミルクをよく飲むようになる。 ・手の指を硬く結んでいる状態から、徐々に握りがゆるくなり、手のひらに置かれたものを握るようになる。 ・首がすわり始める頃は、仰向け姿勢で正面を向くようになり、自分で少し首を動かして左右を見回すようになる。 ・うつ伏せの姿勢にすると、頭を少し持ち上げる。 ・引き起こしに頭が少しずつついてくるようになる。 ・仰向け姿勢で手と手、足と足を触れ合わすなど、正中線に向けて内側方向に対称的な動きをするようになる。 ・手と手、手と口の協応ができ始める。 ・周囲の動くものを目で追う。

<援助のポイント>

- ・保育者の愛情豊かな受容によって、情緒が安定していく。担当の保育者を決めて、愛着関係を育むとともに、一人一人の生活リズムに合わせて生理的要求を満たし、気持ちよく過ごせるようにする。
- ・温度変化に弱く、体温の失調（発熱、低体温）や新陳代謝の異常を起こしやすいので、細やかな室温、換気、湿度調節をする。音や光などを考慮し、静かな環境で安定して過ごせるようにする。
- ・病気に対する防衛機能が未発達なので衛生面に留意し、体調の小さな変化に気付くようにする。
- ・一人一人の授乳時間や間隔を把握し、おおむね3時間ごとを目安に授乳する。
- ・自分で寝返りをするようになるまでは、仰向けで寝かせ、睡眠中の窒息、突然死などの事故予防をしっかりと行う。
- ・2か月頃から腹ばい姿勢にして過ごす時期が始まる。腹ばいや寝返りの始まる時期は、特に危険なため、目を離さないようにし、下は硬い状態にする。

<家庭との連携>

- ・連絡帳のやり取りやお迎えの時間に温かく対応し、保護者との信頼関係をつくっていく。
- ・家庭での様子を聞いたり、保育中の睡眠、授乳、排せつ、機嫌、行動の様子などを伝えたりして、情報を共有していく。
- ・ミルクの量や授乳にかかる時間は個人差が大きいため、個々に合わせて哺乳びんの乳首のサイズなどを、保護者と確認していく。

0歳児（3か月頃～6か月頃）		
ねらい		・あやされたり、声を掛けられたりすると喜び、自分でも声を出す。 ・飲む、寝る、遊ぶの安定したリズムで機嫌よく過ごす。
学びの芽生え	思考 言葉 創造	・唇を閉じて音を出せるようになり、音節の繰り返しが始まる。
人との かかわり	協同 信頼 規範	・身近な人の顔が分かり、あやされると声を出してはしゃぐ。 ・初期の人見知りが始まる。 ・自分から相手にほほえみかけるようになる。 ・周囲の親しい大人が分かるようになり、泣いても保育者があやすと安心して笑顔になる。
生活 習慣・ 運動	基本的な 生活習慣 運動	・胃の入口がしっかりして、授乳後の溢乳が減ってくる。 ・舌の前後の運動に加えて顎の動きを連動させて、母乳やミルクを飲む。 ・よだれが出始める。 ・果汁やスープなどの準備食を開始する。 （目安は、授乳リズムが3時間半～4時間、体重が7kg前後になり、支え座りをするようになる頃） ・味覚が芽生え、味の違いが分かり始める。 ・眠っているときと目覚めているときがはっきりと分かれ、昼夜の区別が付き始めてリズムが定まってくる。 ・体温調節は安定し始めるが、まだ、周りの温度の影響を受けやすい。 ・腹ばいにすると肘で上半身を支えることから、徐々に上体を持ち上げるようになる。 ・目と手の協応が始まり、見たものに手を伸ばすようになる。 ・体の正中線上で両手を絡ませる。 ・親指が外側に出て、物をしっかりと握れるようになる。 ・足で空間を蹴るようにして腰をひねり、寝返ろうとする。 ・引き起こしに頭が遅れないで上がり、両足も対称的に腹部に引き寄せるようになる。

<援助のポイント>

- ・必要に応じてクッションなどを用意して、腹ばいや一人座りを援助していく。
- ・着替えや沐浴、おむつ交換などで身体の健康を保ち、「快」の感覚を育てる。
- ・なめる、かむ、しゃぶるなどで感覚器官が発達する時期なので、玩具などで十分に満足できるようにするとともに、使う物は個別にし、使ったらその都度、清潔にしておく。
- ・個人差に応じて睡眠がとれるように環境を整える。
- ・優しい言葉、声、まなざし、笑顔での働き掛けなどを通して、子供の情緒の安定や人との心地よいかかわり、周囲への関心を育んでいく。

<家庭との連携>

- ・昼は起きて明るい所で生活し、たっぷり遊んでよく飲み、夜は暗くして眠るなど、生活のリズムをつくっていく大切さを、個人差に応じて伝えていく。
- ・成長の変化が目覚ましい時期である。保護者と成長を喜びながら、家庭で気を付けること（子供の手の届くところに危険な物は置かない、子供は大人が予想する以上に動くことを考慮する、起きているときには応答的にかかわる、準備食の内容やタイミングなど）を知らせ、保護者が安心して子供の動きたい欲求に応えたり、離乳食への移行を行ったりできるようにする。

0歳児（6か月頃～9か月頃）

ねらい	・保育者の語り掛けを喜び、自分でも声を出すことを楽しむ。 ・保育者と十分にかかわり欲求を受け止めてもらい、親しみをもち安定して過ごす。 ・腹ばいや寝返り、座位など、体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・いろいろな食品の味や形態、スプーンに慣れる。
学びの芽生え	思考 ・物を落とすなど、気に入ったことを繰り返して遊ぶ。 ・名前を呼ばれると振り向く。 ・引出しの中の物を引っ張り出して遊ぶ。 ・言われていることをだんだんと理解できるようになってくる。 言葉 ・「アバババ」など言葉を繰り返すことで音をつなげて話す。 ・大人の口元を見てまねる。 創造 ・戸外に出ることを喜ぶ。 ・機嫌がよいと一人遊びをする。 ・曲に合わせて体を動かす。 ・周囲の物を触ってみたり口に持っていったりする。
人とのかかわり	協同 ・人のまねが上手になってくる。 ・同じことを何回も繰り返すことを喜ぶ。 信頼 ・知っている人を見ると抱いてもらいたがる。 ・いやいや、バイバイなどの動作をする。 規範 ・要求があると声を上げる。 ・人見知りをしたり後追いをしたりする。 ・つくり笑いや愛想笑いをする。 ・名前を呼ばれると応じる様子がある。 ・人の動きを目で追う様子がある。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣 ・大人が手を添えるとコップを持って飲む。 ・椅子に座って食べる。 ・前歯で食いちぎって食べたり、舌を使ってつぶして食べたりする。 ・午前と午後、大体同じ時間に寝起きをするようになる。 ・背中を反らして手足を上げる。（グライダーポーズ） 運動 ・うつ伏せの状態でも爪先で床を蹴り、反対の手で体をねじってお腹を中心に左右に回転する。（ピボットターン） ・寝返り、はいはい、お座り、つかまり立ちなど活発に動くようになる。 ・支えて立たせると足を踏ん張る。 ・指先で物をつまんだり、手を打ち合わせたりする。

＜援助のポイント＞

- ・安全で活動しやすい環境の中で、はう、つかまり立ちをする、座るなどを十分にできるようにする。
- ・食事に対する意欲が徐々に見られるようになってくるので、手に持てる物は持たせるようにする。また、保育者が先回りをせず、食べたい物への指差しなど子供からの要求を待ち、子供の意思や意欲が高まるようにしていく。
- ・触ったものを口に運ぶ時期なので、安全と衛生に留意しながら、十分な探索活動ができる環境を整える。
- ・遊びや生活を通して、具体的に身の回りの物の名前、動作などを語り掛けていく。
- ・人見知りや後追いをする時期である。子供が不安を表したときは、抱きしめるなど温かく受け止めて子供が安心感をもてるようにする。

＜家庭との連携＞

- ・ピボットターンの際、爪先で蹴るという行動をたくさんすることが、その後のはいはいや歩行に向けて重要になる。また、衛生、安全面に気を付け、子供が十分に動く楽しさを味わうことの大切さを伝える。
- ・離乳食を進めるに当たり、家庭でもアレルギー反応などがないか確認してもらい、連携を取り合う。
- ・母子免疫が消滅する時期であり、発熱など病気感染が頻繁になるため、病気の予防法や知識などの保健指導を行っていく。

0歳児（9か月頃～12か月頃）

ねらい	・身近な人やものに対する興味や関心をもち、探索活動を楽しむ。 ・保育者と十分にかかわって、欲求を受け止めてもらい、親しみをもちながら安定して過ごす。 ・はいはいをする、はいはいから座位になるなど、体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。	
学びの芽生え	思考 言葉 創造	・「いないいないばあ」をして、見えなくなった大人が出てくるのを期待する。 ・自分でやってみたい気持ちが芽生える。 ・「パパ」「ママ」などの発語が見られる。 ・要求したり援助を求めたりするときに、周りの関心を引こうとして発語する。 ・容器に物を入れる、かぶせる、載せる、合わせるなどをするようになる。 ・自他を区別できるようになってくる。 ・物を布などで隠すと中身を確認しようとする。 ・高さ、深さ、奥行き、裏側などを探ろうとする。 ・クレヨンを持って左右の往復運動をし、なぐり描きが出始める。
人とのかわり	協同 信頼 規範	・相手のしていることに興味を示し、自分もしようとする。 ・相手から「ちょうだい」と求められると物を渡そうとする。 ・物を打ち合わせたり積んだりする。 ・他の子供が持っている物に手を出したり、相手に物を渡したりする。 ・いやいやをしたりバイバイをしたりする。 ・褒めてもらおうと喜んだり、叱られたことが分かったりするようになる。 ・大人の言葉のほとんどを理解し、要求された行動をしようとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣 運動	・手づかみで食べようとする。 ・コップを両手で持って飲む。 ・大人がスプーンを持つ手に、手を添えてくる。 ・起きている時間が長くなり、時間帯が少しずつ1回寝に近づく。 ・つかまり立ちをしたり、伝い歩きをしたりする。 ・手押し車や箱などを押しながら歩く。 ・意図的に物を投げたり置いたりする。 ・両手で物を持ち、手渡す。 ・はいはいや高ばいで階段の上り下りをする。 ・はいはいからお座りが自由にできるようになってくる。 ・臥位、座位、つかまり立ち、伝い歩きの間で自由に姿勢を切り換えることができ始める。

<援助のポイント>

- ・手、指、足腰を使って探索活動を十分にできるようにする。
- ・自分の意思をもち始め自分でやりたがる時期なので、子供の主張をある程度かなえてから、大人の意図する方向に気持ちを向けていくようにする。
- ・保育者が子供の発見を言葉にしたり、物を媒介としたやり取りを行ったりする中で、子供のできた喜びと一緒に感じ、表情や言葉で伝える。
- ・散歩に出掛け、自然や生き物に触れて楽しむ機会を多くもち、子供の関心を広げていく。

<家庭との連携>

- ・つかまり立ちや伝い歩きをするようになってくるので、しりもちや転倒などに気を付け、危険のないように注意する。
- ・そしゃく能力が獲得できるよう、「かみかみゴックン」と言いながら大人が口を動かして見せるなど、具体的な方法を知らせる。
- ・はいはいが十分ではない子供には歩かせることを急がず、はいはいの経験を重ねる大切さを発達の見通しと合わせて伝える。
- ・動いても腹部が出にくい、ひっかかりにくい、伸縮性があるなど、この時期の体の動きに応じた動きやすい服装を知らせる。

1 歳児 I 期（4 月～5 月）		
ねらい		・新しい環境に慣れる。 ・保育者と一緒に好きな遊びを見付ける。 ・安心して食べたり、眠ったりする。
学びの芽生え	思考	・園内や園舎の散策を保育者と一緒に楽しむ中で、春の自然に触れる。 ・身近な環境の中で探索活動を十分に楽しむ。
	言葉	・一人遊びを十分に楽しむ。 ・自分の名前や友達の名前が分かるようになる。 ・片言が盛んになる。 ・要求をしぐさや簡単な言葉で表現しようとする。
	創造	・保育者と一緒に絵本を見たり、絵を見ながら保育者の言葉のまねをしたりする。 ・保育者と一緒に歌を歌ったり、簡単な手遊びをしたりして楽しむ。
人とのかわり	協同	・保育者に慣れて安心して過ごす。 ・お気に入りの物(持っているとお安定する物)がある。
	信頼	・自分の物が分かるようになる。 ・保育者や同じ部屋で生活している友達に親しみの気持ちを感じる。 ・保育者に甘えたり、わがまを言ったりするなど、安心して思いを出す。
	規範	・「バイバイ」「ありがとう」などの挨拶をしぐさや言葉で行う。 ・保育者のまねをして、一緒に片付けをしようとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・スプーンを使って、保育者に手伝ってもらったり、自分で食べようとしたりする。 ・おむつが汚れたら取り替えてもらい、きれいになった心地よさを感じる。 ・着替えるときに手や足を動かし、簡単な衣服を脱ごうとする。 ・昼寝が1日1回となる。
	運動	・自由に歩くことを楽しむ。 ・ゆるやかな斜面や段差を上る、下りるなどの足腰を使った運動を取り入れた遊びを楽しむ。 ・たたく、つまむ、転がすなどの指先を使った遊びを楽しむ。 ・リズムに合わせて身体を揺すったり、手足を動かしたりする。

<指導例>

◇ 好きな遊び・好きな場所

保育室の中で安心して過ごす。

触れ合い遊びを楽しもう

「一本橋こちょこちょ」「だいこんいっぽん」など歌に合わせて保育者と一対一で触れ合いながら遊ぶ。

<援助のポイント>

- ・家庭との連絡を密にし、個々の状態を把握した上で新しい環境の中で安心して過ごせるように、丁寧に対応していく。特に、食事や睡眠などが重要であることを踏まえ、生活の安定を図っていく。
- ・なるべく少人数で過ごし、担当の保育者との関係を深め、安定して遊べるようにする。食事の席、布団の場所などの生活環境はいつも一定にし、安心できるようにする。

<家庭との連携>

- ・家庭での様子（食事、睡眠、排せつ、好きな遊び）を聞き、家庭と同じように接しながら少しずつ安心して過ごせるようにする。
- ・園での様子を伝え、子供や保護者との信頼関係を深めていく。
- ・連絡帳を用いて、家での様子を伝えてもらったり、園での様子を伝えたりしていく。（通年）

環境の構成

- ◆ その子のペースで好きな玩具や遊びが見付けられるように、担当の保育者がゆったりとかかわり、気持ちや行動を受け止める。
- ◆ 玩具は遊びたくなるような置き方を工夫する。また、置き場所は子供が使いたいときに自分で取り出しやすいように高さや置き方を工夫するとともに、写真や絵による表示などを用いて分かりやすくする。
- ◆ 安心して十分に一人遊びを楽しめるように、保育室のコーナーづくりなどの工夫や玩具の種類、数に配慮し、一人一人の遊びの場を保障する。

《玩具》・重ねコップ ・型落とし(パズルボックス) ・キャップ落とし ・チェーリング落とし
・目で動きを楽しめる玩具 ・人形 ・ぬいぐるみ ・絵カード ・絵本 など

子供の姿

A児は初めて保護者から離れたため、登園後しばらく泣いている。担当の保育者が抱っこしながら「ほら、Aちゃん、ワンワンだよ」と犬のぬいぐるみを見せると、泣きながらも玩具に目を向け、触ってみる。抱かれながら、保育室の中の様々な玩具を見たり触れたりして、徐々に泣きやむ。

担当の保育者のそばで、気に入ったぬいぐるみを抱き、座る。保育者が違う玩具を持ってくると、触ったり振ったりする。自分で近くにある車の玩具を取りに行くが、持つとすぐに保育者の元に戻り、「いいのを持ってきたね。かっこいいね」と言われ、にっこりする。持ってきた車を床に置いて、走らせる。「Aちゃん、ブブー」と保育者も一緒に遊ぶと笑顔が増え、動く範囲が広がっていく。

徐々に、朝は担当の保育者と一緒に棚から玩具を出してきたり、好きな場所に持ち込んだりして遊ぶようになる。

保育者や部屋に慣れてくると探索活動が盛んになり、いろいろな玩具をいじってみたり、棚からもってきてみたりするようになる。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★身近な環境の中で、関心をもった物を見たり、触れたりする。

★▲手で玩具をつかんで動かしたり、目で動きを追ったりしながら、じっくりと玩具と向き合い、一人遊びを楽しむ。



●担当の保育者にかかわってもらふことを喜び、安心して過ごす。

★●担当の保育者と一緒に遊ぶ中で、気持ちや要求をしぐさや表情、言葉などで伝えようとする。

●好きな玩具を持つことで気持ちが安定したり、玩具を介して保育者とのかかわりを楽しんだりする。

援助のポイント

- ◆ 安心して過ごせるようにする

様々な玩具を遊びやすく準備することで、子供が好きな物や場所を見付けて安心して過ごせるようにする。また、保護者から家庭で好きな玩具や遊び、安心する声の掛け方や接し方などを聞いておき、その子に合った方法やペースで安定できるようにする。また、必要に応じて家庭からその子が気に入っている毛布、タオル、玩具などを持参してもらう。

- ◆ 担当の保育者に愛着を感じられるようにする

子供が関心をもった物や行動を十分に受け止め、保育者も一緒に遊びながら、スキンシップや語り掛けを多くし、担当の保育者に愛着を感じられるようにする。

1 歳児 II 期（6 月～8 月）

ねらい		・部屋や保育者に慣れ、一人遊びを十分に楽しむ。 ・身近な物への興味や関心をもち、探索活動を十分に楽しむ。 ・保育者と一緒に夏の遊びを楽しむ。
学びの芽生え	思考	・室内や戸外で探索活動を十分に楽しむ。 ・探索活動を通して触れたり試したり驚いたりするなど、いろいろな体験をする。 ・砂遊びや水遊びなどを楽しみ、いろいろな感触を楽しむ。
	言葉	・簡単な型はめやパズルをする。 ・喃語や片言で保育者とのやり取りを楽しむ。 ・絵本を保育者と一緒に見ながら、簡単な言葉を繰り返して楽しむ。 ・簡単な二語文を話すことを喜ぶ。
	創造	・保育者の語り掛けや指示が分かり、行動しようとする。 ・クレヨンでぐるぐる描きを楽しむ。 ・歌や音楽に合わせて手遊びや体操をする。
人とかかわり	協同	・保育者やいつも一緒に生活している友達と安心して過ごす。 ・お気に入りの物やお気に入りの場所がある。 ・“自分で”という気持ちが芽生え、やってみようとする。
	信頼	・“自分の(物)”という気持ちを持ち、伝えようとする。 ・してほしいことを動作で伝えようとする。 ・保育者に「待っててね」と言われると、少しの間、待てるようになる。
	規範	・「おはよう」「いただきます」などの簡単な挨拶をする。 ・保育者の言葉掛けや表情で、危ないことなどに気付く。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・園生活のリズムに慣れ、落ち着いて過ごす。 ・スプーンを使って自分で食べようとする。 ・おむつが汚れていないときは便器に座ってみる。 ・ズボン、パンツを脱ごうとしたり、帽子をかぶろうとしたりする。
	運動	・靴を脱ごうとする。 ・保育者を追いかけたり、一緒に逃げたりして走ることを楽しむ。 ・斜面、階段の上り下り、トンネルくぐりなど足腰を使った遊びを楽しむ。 ・ちぎる、破く、なぐり描きなどの手や指先を使った遊びを楽しむ。

<指導例>

◇ 砂場で遊ぶ

いろいろな感触を楽しんで遊ぶ。

園庭や散歩先で小さなものを見付けよう

園庭や園周辺の小道などで、虫や草花、猫などの「小さな生き物見付け」を楽しむ。同じ場所に繰り返し行くことで、散歩の楽しさが感じられるようにする。

<援助のポイント>

- ・気温や湿度が上がる時期なので、個々の健康状態を十分に把握し、水分補給や衣服の調節をして気持ちよく過ごせるようにする。
- ・自分でやろうとする気持ちを十分に受け止め、見守ったり、励ましたりしていく。
- ・子供の発見や驚きを保育者も一緒に受け止め、共感していく。

<家庭との連携>

- ・天候や気温の変化により、体調の変化を起こしやすいので、家庭や園での様子を丁寧に伝え合う。また、感染症や食中毒などの予防について配布物等で伝え、健康について十分配慮し合う。
- ・汗をかいいたり、水遊びをしたりする機会が増えて、着替えをすることが多くなるので、着替えを多く用意してもらうようにする。

環境の構成

- ◆ 砂場には、さらさらとした状態の砂と水で湿らせてある状態の砂を用意し、両方の感触を楽しむようにしておく。
- ◆ 1 歳児が扱いやすい小さめのサイズのシャベルやカップ、型抜きなどの砂遊びの玩具をそろえておく。
- ◆ 玩具の量は多めにし、使いたいときに使えるようにそろえておく。
- ◆ 砂遊びをした後、シャワーをして着替えができるように準備しておく。

子供の姿

子供たちは園庭に出ることを楽しみにしている。B 児はしゃがみ込んで、ダンゴムシを見付けるとそばにいる保育者に指で示しながら知らせたり、「あった」と指でつまんでみようとしたりする。

砂場には、抵抗なく入っていける子供もいるが、なかなか入ろうとしない子供もいる。

保育者がカップに入れた砂で型抜きをする。C 児は近くに来て、うれしそうに手のひらで触ると崩れてしまう。保育者が「わあ、崩れちゃった」と言うとき、C 児は「もう一回」と保育者に型抜きをするように要求する。何度も型抜きを作ってもらい、触ると崩れることや、そのときの保育者の反応を見ながらにこにこ笑い、繰り返し楽しむ。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかわり ▲生活習慣・運動

★ざらざらとした感触やさらさらとした感触、冷たい感触などを味わう。

●★保育者と一緒に繰り返しのやり取りを楽しむ。

●他の子供と同じ場で同じ遊びを楽しむ。



▲★砂を指先でつまんだり、手で触ったり握ったりする。

★形のあるものを触って崩したり、再び形になったりすることを楽しむ中で、驚いたり、繰り返したりすることの面白さを感じる。

援助のポイント

- ◆ 保育者がモデルになって、砂遊びを楽しむ
シャベルなどで砂をすくって見せる、型抜きをするなど、保育者が楽しんで遊ぶ姿を見せることを通して、子供の興味を引き出していく。砂場に入ることに抵抗のある子供には、その子に合わせたペースで少しずつ砂に慣れていけるよう、園庭のテーブルに砂で作ったごちそうを載せてままごと遊びに誘うなど、子供に合った遊び方を工夫する。
- ◆ 体の諸感覚を使って遊べるようにする
触ったり握ったりすることで形が変化するよういろいろな感触のもので遊び、手や指の力の加減を体験できるようにする。また、砂場でしゃがむ経験が脚力につながるなど、遊びを通した体づくりを保育者が意識し、好機を逃さずに経験が積み重ねられるようにする。
- ◆ 興味や関心に応じて様々な探索活動ができるようにする
興味や関心が広がり、戸外における探索活動を楽しむようになってきている。子供たちは保育者が意図した活動以外にも興味や関心に応じて行動するため、戸外で遊ぶときは職員間の連携を密にし、一人一人の動きや思いに応じた援助とともに安全面にも十分に配慮する。

1歳児 Ⅲ期（9月～10月）		
ねらい		・身近な自然に触れ、興味をもつ。 ・保育者と楽しくかかわる中で、言葉を覚える。 ・全身を使った遊びや一人遊びを楽しむ。
学びの芽生え	思考	・身近な植物や小動物を見たり、触れたりして興味をもつ。 ・園庭や散歩先で探索活動を楽しむ中で、触れる、やってみる、驚くなど、いろいろな体験をする。
	言葉	・小麦粉粘土や砂を使った遊びなどを楽しみ、いろいろな感触を楽しむ。 ・自分の要求や思いを簡単な言葉で伝えようとする。 ・保育者と一緒に絵本や紙芝居を見る。
	創造	・クレヨンでなぐり描きやぐるぐる描きなどをすることを楽しむ。 ・手遊びや歌、体操などを保育者と一緒に楽しむ。
人とのかかわり	協同	・保育者と簡単な言葉や動作のやりとりをする。 ・思いや要求を指差しや身振りで伝えようとする。 ・園内のお兄さんやお姉さんに親しみを感じ、かかわってもらうことを喜ぶ。 ・保育者の声掛けで危ないことや、やってはいけないことに気づき、やめようとする。
	信頼	
	規範	
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・器に手を添え、自分で食べようとする。 ・様々な食品を食べてみようとする。 ・排せつをしぐさや言葉で知らせ、便器に座ってみる。 ・援助されながら、パンツやズボンなどを自分で着脱しようとする。
	運動	・援助されながら、手洗いをする。 ・靴を自分で脱いだり、履こうとしたりする。 ・保育者と一緒に歩く、走る、よじ登る、くぐる、跳ぶ、ぶら下がるなど全身を使った遊びをする。 ・つまむ、めくる、ちぎる、引っ張る、押すなど指先を使った遊びをする。

＜指導例＞

◇ たんけんごっこ

全身を使って体を動かすことを楽しむ。

一緒に絵本を楽しもう

食べ物や乗り物、動物などの絵本を選び、絵本を媒介にして語り掛け、一緒に楽しむ。

＜援助のポイント＞

- ・全身運動が活発になるので活動の状態に配慮し、じっくりと遊べるよう安全な環境を整えていく。
- ・子供が扱いやすい様々な素材に触れる機会をつくり、素材を使う楽しさを十分に感じられるようにする。
- ・子供の思いや要求など、伝えようとしている気持ちをくみ取り、言葉に置き換えていく。
- ・自分でやりたいという気持ちを受け止めながら、一人一人に合った援助をしていく。

＜家庭との連携＞

- ・行事や保育参観を通して子供の姿を見てもらい、共に成長を喜び合う。また、簡単な身の回りのことを自分でしたがるようになるので、発達の特徴や保育者の接し方を伝え、家庭でも時間や気持ちに余裕をもって接してもらうようにする。
- ・季節の変わり目で体調を崩しやすくなるので、園や家庭での子供の様子を伝え合い、家庭での食事や睡眠に十分気を付けてもらうようにする。

環境の構成

- ◆ 遊びながら経験させたい動きを引き出せる遊具を、数か所に設定する。
例えば、木製滑り台（高さ 60 cm 程度）、マットを丸めたもの、乗用玩具、ろくぼく、鉄棒など。それぞれの遊具に保育者が付くとともに、必要に応じてマットを敷くなど安全面に配慮する。
- ◆ ごっこ遊びや追いかけてっこなどを取り入れる。
「さあ、しゅっぱつ」と言って歩きながら「お山を発見、登ってみようか」と誘い掛けるなど、子供たちが運動遊びに自然に興味をもつように、ごっこ遊びを取り入れる。

子供の姿

D 児はマットの「お山」に触れるが、なかなか動き出さずにいた。保育者が「D ちゃん、お山だよ。ガオーって登れるかな」と D 児の好きな怪獣をイメージして声を掛けると、D 児は「ガオー」と言って山に向かう。保育者の援助により、最後まで山を登る。「できたね」と言うと、「できた」とにっこりと笑い「もう 1 回」と言って繰り返す。

滑り台では、うつ伏せで滑る、座った状態で滑るなど子供によって、様々に楽しんでいく。友達の楽しそうな様子に子供たちが集まってきて、先に滑ろうとして混雑する。保育者は「ピッピー、おすべり電車は順番です」と言いながら並ばせる。E 児は、「E ちゃん電車、出発」という合図を受けて、うつ伏せで滑る。その後、鉄棒にぶら下がったり、ろくぼくをよじ登ったりして遊ぶ。

F 児はしばらく様々な遊具を見て回る。保育者が「F ちゃん、まって」と追いかけると喜んで逃げる。

少し広い場所に行き、保育者が「ここは踊りの国です」と子供たちが気に入っている音楽をかけて踊ると、F 児も音楽に合わせて体を揺らす。近くにいた子供も入ってきて、一緒に体を動かしたり、保育者の動きをまねたりする。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★●興味のある場所を見つけて、自分からやってみようとする。

★▲音楽に合わせて体を動かすことを楽しむ。



●保育者の声掛けで、順番に並ぶ。

●「できたね」など、保育者に褒められて喜ぶ。

▲全身を使って遊ぶことを楽しむ。

援助のポイント

- ◆ 数か所に分かれて遊べるようにする
それぞれの関心や発達の過程に応じて楽しめるよう、遊具を数か所に分けて設定する。遊び始めの導入は複数の子供を対象にするが、その後は一人一人の関心に応じた遊びになる。待ち時間が少なくなつたりと楽しめるよう、状況に応じて他の遊具に誘うなど、全体のバランスに配慮する。
- ◆ 危険のないように注意する
各遊具に保育者が付いて、子供たちの動きを注意して把握する。自分でやりたがる時期でもあり、保育者が手伝うのを嫌がったり、予想しない行動を取ることもあるので、マットを敷くなど環境を整えて危険のないようにしたり、保育者の立つ位置を考えて、目を離さないようにしたりする。
- ◆ 一人一人の感じる楽しさを共に味わう
子供の好きなものやイメージを生かしながら援助し、体を動かす楽しさを味わえるようにする。また、できたことを一緒に喜び、満足感や意欲を引き出していく。

1 歳児 IV 期（11 月～12 月）

ねらい		・要求を言葉で伝えたり、言葉を使うことを楽しんだりする。 ・保育者と一緒に模倣遊びを楽しむ。 ・全身を使って遊んだり、簡単なリズム遊びをしたりする。
学びの芽生え	思考	・身近な自然や小動物に触れ、親しむ。 ・積木やパズルなど身近な玩具に興味をもって遊ぶ。 ・保育者や友達と簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ・保育者と簡単な挨拶をしてみる。 ・好きな絵本や紙芝居を読んでもらうことを喜ぶ。 ・いろいろな素材に触れて遊ぶ。 ・歌や手遊び、簡単なリズム遊びを楽しむ。
	言葉	
	創造	
人とのかかわり	協同	・保育者と簡単なやり取りをしようとする。 ・保育者と一緒に見立て遊びや再現遊びをする。 ・身近な大人や子供に関心をもつ。 ・大人や友達のやっていることをまねて遊ぶ。 ・「待っててね」「あとでね」などの言葉掛けが分かり、行動する。 ・タオルなど自分と友達の持ち物を区別する。
	信頼	
	規範	
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・スプーンを正しい持ち方で持ってみたり、自分で食べようとしたりする。 ・排せつをしぐさや言葉で知らせたり、便器で排せつしたりする。 ・パンツやズボン、靴などを自分で着脱しようとする。 ・自分で手洗いをしようとする。 ・保育者と一緒に片付けをしようとする。 ・指先を使った遊びを繰り返し行う。 ・ボールを蹴ったり投げたりして、保育者と一緒に体を動かして遊ぶ。
	運動	

＜指導例＞

◇ おままごとをしよう

保育者とやり取りすることを楽しむ。

手遊びや歌を歌おう！

保育者が楽しく歌ったり手遊びをしたりして楽しさを知らせながら、子供と一緒に遊ぶ。

- ・手遊び「あたま、かた、ひざ、ぼん」 など
- ・身近な動物や食べ物が出てくる歌 など

＜援助のポイント＞

- ・物の取り合いなどで子供同士のトラブルも多くなるが、一人一人の思いを受け止めたり、同じ物を複数用意したりしながら、友達とのかかわりを育んでいく。
- ・子供との会話を楽しんだり、遊びの楽しさを周囲の子供とも一緒に感じたりしていく。
- ・落ち着いて遊べるようになってきているので、じっくりと遊んでいる様子にかかわり満足感や喜びを感じられるようにする。

＜家庭との連携＞

- ・個人差が大きくなる時期なので、一人一人の発達に合わせた対応をすることが大切であることを知らせていく。
- ・感染症が流行する時期なので手洗いをしっかりと行い、健康状態を把握できるよう連絡を取り合う。
- ・友達への関心が芽生え、かかわって遊ぶようになってくる。物の取り合いやけんかなど、時にはぶつかり合うことも成長の表れであることを知らせていく。

環境の構成

- ◆ 仕切りや部屋の角を利用してままごとコーナーを設置する。身に付ける物を用意したり、玩具を整理したりして遊びやすい環境をつくる。また、子供の関心や扱いやすさを考慮して、イメージを広げて遊べるように、手作り玩具を用意する。
〔仕切り、テーブル、椅子、ままごと道具、フェルト製食べ物、人形、エプロン、三角巾、布団、スカート、布製バック など〕
- ◆ 玩具を子供が出し入れしやすいよう、棚には道具の写真を貼ったり、箱やかごを用意したりする。

子供の姿

G 児は、ままごとコーナーでスカートをはき、エプロンを付けて、料理をする。H 児は人形を布団に寝かしつけている。保育者が、「G ちゃんのご飯が食べたいなあ」と言うと、G 児は作った料理をお皿に入れ、「どうぞ」と保育者に渡す。保育者が食べるまねをして「ありがとう。ああ、おいしい。G ちゃんお母さんのご飯はおいしいね。H ちゃんも食べますか。どうぞ」と、H 児に料理を渡す。H 児は食べるまねをしておいしい、というしぐさをする。保育者が「H ちゃん、おいしいね」と言うと、H 児は「おいしいね」と言う。3 人で一緒に「ごちそうさま」と言うと、顔を見合せて笑う。

そこへ I 児が入ってきて、H 児の使っている人形を取ろうとする。H 児は「だめ」と言う。保育者は「I ちゃん、H ちゃんが使っているんだって。こっちにもかわいい赤ちゃんがいますよ」と別の人形と布団を渡す。I 児は H 児の隣で、同じように布団に寝かせ、トントンとたたきながら「ねんね」「ねんね」と言っていてにこにこ笑う。

保育者が「さあ、夜だから、赤ちゃんはベッドに寝かせましょうね」と言い、一緒に片付けていく。

経験している内容

★ 学びの芽生え ● 人とのかかわり ▲ 生活習慣・運動

★ 料理作りをしたり、人形を寝かせたりするなど、じっくりと遊ぶ。



★ ● 保育者や友達と簡単な言葉や物のやり取りを楽しむ。

★ ● 大人や友達のやっていることをまねて遊ぶ。

● ▲ 遊んだ玩具を保育者と一緒に片付ける。

援助のポイント

◆ 保育者がモデルとなって遊び、言葉や物のやりとりを楽しめるようにする

子供の好きな生活場面を保育者がモデルとなって再現しながら、それぞれの興味に沿ってじっくりと遊び、満足できるようにする。少人数の中でゆったりと一人一人に応じることで、保育者と気持ちを通わせながら言葉を使う楽しさや、やり取りをする嬉しさを経験できるようにする。

◆ 保育者が言葉を添え、子供同士のやりとりを促していく

「貸して」「どうぞ」「いいよ」「おいしいね」など保育者が言葉や動作を添えながらやり取りを促し、友達と同じ場所で遊んだり簡単なやり取りをしたりする楽しさを味わえるようにする。

◆ ままごとコーナーを充実させる

玩具の取り合いが原因でトラブルが起こりやすいので、玩具は数組用意する。人形は布団に寝かせるなど楽しい雰囲気の中で、子供たちが遊びたくなるような環境をつくる。発達に合わせて玩具の内容を確認したり、手作り玩具などでイメージを広げられるようにしたりする。

1歳児 V期（1月～3月）

ねらい	・身の回りの様々なことに興味や関心を示し、探索活動を十分に楽しむ。 ・保育者と一緒に、興味のあることや生活経験を取り入れた簡単なごっこ遊びを楽しむ。 ・保育者の手助けを受けながら、簡単な身の回りのことをしようとする。	
学びの芽生え	思考	・保育者とのかかわりを通して言われたことの意味が分かり、その通りに行動してみる。 ・大人をまねたり、自分の好きな役になったりすることを楽しむ。
	言葉	・身近な小動物や植物を見たり触れたりして、周囲の様々なことに興味をもつ。 ・したいこと、してほしいことを、しぐさや簡単な言葉で伝えようとする。 ・身の回りのことに興味や関心が広がり、「これなあに」などと聞いたり、答えてもらったりすることを喜ぶ。
	創造	・絵本や紙芝居を読んでもらい、繰り返しのある言葉に興味をもつ。 ・保育者と一緒に簡単な手遊びをしたり、知っている歌を口ずさんだりする。 ・音楽に合わせて体を動かし、自分なりの動きを楽しむ。 ・歌や音楽に合わせて、音の出る手作り玩具などを鳴らして遊ぶ。
人とのかかわり	協同	・好きな友達ができ、そばに近寄ったり一緒にいたりする。 ・保育者や友達と簡単なごっこ遊びをする中で、友達の存在を感じる。
	信頼	・興味をもったことを、何でも自分でやってみようとする。 ・友達や保育者の名前を呼び、親しみをもってかかわろうとする。 ・保育者に促されて、生活の中の簡単なきまりや危険なことなどに気付く。
	規範	・自分の物と人の物の違いに気付くようになり、自分の物の置き場所が分かる。 ・保育者の援助を受けながら、少しずつ納得して物の貸し借りをする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・スプーンを正しい持ち方で持とうとし、最後まで自分で食べようとする。 ・保育者や友達と同じ場で、楽しく食べる。 ・手助けを受けながら簡単な衣服を自分で着脱しようとする。
	運動	・排せつをしぐさや言葉で知らせたり、便器で排せつしたりする。 ・体操、追いかっこ、蹴る、投げるなど、全身を使った遊びを楽しむ。 ・ボタンはめ、ひも通し、クレヨンを扱うなど指先を使った遊びを楽しむ。 ・散歩や固定遊具での遊びなど、戸外で体を動かして遊ぶ。

<指導例>

◇ 今日のごはんは何か

食べることを楽しみにしながら食事をする。

自分でできるもん

パンツやズボンを自分ではなく、手洗いをするなど、保育者に声を掛けられて自分でやろうとする。

<援助のポイント>

- ・基本的な生活習慣の形成には個人差を考慮し、落ち着いた雰囲気の中で繰り返し経験させていく。また、自分でしようとする気持ちを大切にしながらさりげなく援助し、自分でできた満足感を味わえるようにする。
- ・子供の伝えたい気持ちを感じ取って言葉にしたり、状況を見て言葉を掛けたりしながらやり取りをし、会話の楽しさを伝えていく。

<家庭との連携>

- ・連絡ノートや登降園時に園での子供の活動の様子を知らせ、子供が様々な姿を見せながら成長していくことの喜びを伝え、共感していく。
- ・身の回りのことを自分でしようとする姿が見られたら、その姿を伝え、家庭でも子供の成長として受け止め、見守ってもらえるようにする。また、服や靴などは自分で着脱しやすいような物を準備してもらえるように、具体的な見本などを示して伝えていく。
- ・生活や遊びの中での言葉のやり取りをクラスだよりなどで紹介し、家庭でも簡単な会話を楽しんでもらうようにする。

環境の構成

- ◆ 食事の席や手洗いから食事までの子供の行動の流れを一定にし、安心して行動できるようにする。
- ◆ 一人一人に合わせた姿勢で食事ができるように、椅子の下に台や箱を置いて高さを調節したり、背もたれを固めのクッションなどで調節したりする。
- ◆ スプーンや茶碗など、正しい食器の持ち方を無理なく身に付けていく機会を、日常的につくる。

子供の姿

保育者に援助されながら、石けんで手洗いをし、各自のタオルで手を拭いた後、自分の席に着いてエプロンを付けてもらう。「今日のごはんは何だろうね」など、楽しみに待てるように声を掛ける。

保育者と一緒に食事の挨拶をし、スプーンやフォークを持ち自分で食べ始める。好きな物だけ食べてしまう子供、すぐに飲み込んでしまう子供、苦手な食べ物を飲み込めない子供、食の細かい子供など、食事の仕方は様々である。「もぐもぐゴックン」「おいしいねえ」などの言葉で、保育者や子供同士でうなずき合ったりして食べる。食事の後半は、子供によって保育者に食べさせてもらい、「いっぱい食べたね」と褒められてうれしそうにする。「ごちそうさま」の挨拶の後で、エプロンを取ってもらい、保育者と一緒に各自のおしぼりで口の周りや手を拭く。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

●▲保育者に言葉を掛けてもらいながら楽しく食事をする。

▲手を洗ったり、タオルで口の周りや手を拭いたりする。



▲スプーンやフォークの持ち方を覚え、食器に手を添えて自分で食べようとする。

▲「もぐもぐゴックン」の声掛けで、よくかんで食べる。

援助のポイント

◆ 食事に向かう気持ちを大事にする

「お腹がすいたね」「今日のご飯は何かな」など食事を楽しみにできるような言葉を掛ける。食事に関心を示さない子供には、タイミングを見計らって誘いかけるようにし、気持ちの切り替えをうまくできるようにしていく。また、調理室で食事を作っている様子を窓越しに見ることで、食事に関心をもてるようにする。

◆ 一人一人の状況に応じて援助する

保育者がテーブルに付き、それぞれの子供の状況に合わせて、食器の持ち方や、そしゃくの仕方を介助する。「もぐもぐゴックン」「おいしいね」などと声を掛けながら、楽しい雰囲気での食事が進められるようにするとともに、食事のマナーを知らせていく。家庭での状況や体調などに合わせて食事の量を調整し、「食べられた」という満足感がもてるようにする。また、様々な食品を食べてみようという気持ちを大切にする。

スプーンの正しい持ち方への移行の方法を家庭にも伝え、共通にして行っていく。



◆ 一人一人の生活リズムに配慮する

一人一人の生活リズムや朝食などの様子を把握し、午前中の遊びを充実させてお腹が空いた状態で食事できるようにする。

また、食物アレルギーのある子供は、アレルギー食品に触れないように配慮する。

2歳児 I期（4月～5月）

ねらい		・新しい生活や環境に慣れ、安心して過ごす。 ・保育者に見守られながら、自分のしたい遊びを楽しむ。 ・保育者の手助けを受けながら、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。
学びの芽生え	思考	・身近な小動物や草花に興味をもって、見たり触れたり集めたりなどする。 ・積木を並べたり、積んだりすることを楽しむ。 ・水、砂、泥など様々な素材に触れる。 ・「同じ」「大きいね」「黄色だね」など遊びの中で色や形、大きさなどに気付く。
	言葉	・生活の中で簡単な挨拶や返事をしたり、生活に必要な簡単な言葉を使ったりする。 ・保育者や友達の名前を覚えて呼んでみる。 ・生活に必要な簡単な言葉が分かるようになる。 ・保育者に好きな絵本を読んでもらったり、知っている歌や手遊びを一緒にしたりする。
	創造	・音楽に合わせて体を動かして遊ぶ。 ・積木やお手玉などを乗り物や食べ物に見立てて遊んだり、人形やままごと道具を使ったごっこ遊びをしたりする。
人とかかわり	協同	・新しい生活の場や人に慣れ、好きな玩具や遊具で遊ぶ。 ・友達のしている遊びをまねて、同じことをしようとする。
	信頼	・一人遊びを楽しみながら、保育者の仲立ちで、近くにいる友達に関心をもつ。 ・保育者のそばで安心して過ごす。 ・保育者と一緒に好きな遊びを楽しむ。 ・「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をし、食事の区切りを感じる。
	規範	・自分のロッカーや靴箱、自分の物の置き場所が分かる。 ・「待ってね」と言われ、少しの間、待とうとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・保育者の手助けを受けながら、排せつ、着脱、昼寝などをしようとする。 ・自分の物と人の物との違いが分かる。 ・スプーンを使って一人で食べようとする。 ・同じテーブルの友達と一緒に食べることを喜ぶ。
	運動	・走ったり、三輪車や滑り台などを使ったりして戸外で体を動かして遊ぶ。 ・全身を使った遊びを楽しむ。（体操、巧技台での遊びなど） ・近場への散歩を通して階段、でこぼこ道、坂道などを歩くことを楽しむ。 ・粘土、のり、クレヨン、ボタン、パズル、手遊びなど、指先を使った遊びを楽しむ。

<指導例>

◇ 新聞紙で遊ぼう

一人一人が安心感や開放感を味わい、楽しんで遊ぶ。

ここで遊びたいな

絵本、連結電車、ミニカー、ブロック、粘土、お絵描きなどから自分の好きな遊びを選び、一人で又は保育者とかかわりながらゆったりと遊ぶ。

<援助のポイント>

- ・一人一人の気持ちを大切に受け止めながら丁寧に対応し、信頼関係を築いていく。
- ・食事、排せつ、睡眠など安心して生活できるように保育者がゆとりをもち、ゆったりとした生活リズムと雰囲気づくりを心掛ける。
- ・「きれいになったね」「靴が履けたね」など子供のしたことやしようとしていることを言葉に表して伝え、うれしさや満足感を味わえるようにする。そこから、自らやってみようとする意欲につなげていく。

<家庭との連携>

- ・新しい環境での子供の様子を細やかに知らせ、安心してもらうとともに、保護者との信頼関係を築いていく。
- ・保育室など生活環境が変わるため、子供は心身ともに疲れやすくなり、甘えが見られることもある。子供の様子を互いに伝え合うなど、連携を密に取るようにする。

環境の構成

- ◆ 思い切り新聞紙を破いたり、破いた新聞紙で様々に遊んだりできるように、広い空間を準備する。
- ◆ 指先を十分に動かして遊ぶことができるよう、柔らかく扱いやすい新聞紙の素材の特性を生かす。

子供の姿

保育者が新聞紙を持ち、破いたり、ちぎったりしたものを上に投げしてみるなど楽しく遊んで見せた後、一人一人に新聞紙（大きめの紙、1 枚から始める）を渡す。

思い思いに手に取って、触ったり破いたりして歓声を上げる子供が多い。まだ保育所での生活に不安をみせている子供も、周りの保育者や友達の歓声を聞いたり新聞紙を自由に触る様子を見たりすることで刺激を受け、同じように触れて遊び始める。

保育者も加わり丸めた新聞紙を投げってみると、子供たちも歓声を上げながら喜んで新聞紙を投げる。床に落ちた新聞紙の中で泳いだり、ガサガサと歩いて楽しんだりする。

後半は個々にビニール袋を持って新聞紙を拾い集め、それを保育者がボール状にする。投げる、手で突くなど全身を使った遊びをそれぞれが楽しむ。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

▲ちぎる、引っ張る、破くなど、手や指先を十分に使って遊ぶ。

★●開放感を味わいながら自分の好きな遊び方で自由に遊ぶ。

★●保育者や友達の行動や言動をまねて、同じようにやってみようとする。



★▲新聞紙の上に寝転がったり、新聞紙の中を歩いたり楽しい遊び方を見付け、全身を使って楽しむ。

▲新聞紙のボールを使って投げる、拾う、追いかける、突くなど、全身を動かした遊びを楽しむ。

援助のポイント

◆ 子供の発想、気付き、発見、楽しさに共感する

一人一人の楽しみ方で十分に遊べるように、時間を保障する。自由に遊ぶ中で生まれた、泳ぐまねや新聞紙の音を楽しんで歩くなどのそれぞれの遊び方や、ちぎった新聞紙の形や大きさに気付いた子供の喜びなどを大切に受け止める。満足感を味わうことにより、更に楽しい気持ちで遊びに参加できるようにする。

◆ けがの防止など、安全面に留意する

場所を広くとることで全身を使った様々な動きがしやすく、開放感を味わうことができる。一方、夢中になり興奮してくると動きが激しくなり、ぶつかり合うことや丸めた新聞紙が当たることなども予想されるので、危険につながる行動は保育者から個々の子供や全体に知らせ、注意喚起する。

◆ 個々の参加する姿を把握し、受け止める

楽しく遊びに参加している子供に対しては、保育者も加わりながら楽しい、うれしいという気持ちを共感できるようにする。周囲の動きに圧倒されて遊び出せない子供に対しては、他の子供の遊んでいる様子を見ていることも参加の一つであると捉え、保育者が個別にかかわりながら、周りの子供の楽しそうな様子を伝え、一緒に新聞紙に触れてみるなど、楽しい雰囲気の中で無理なく過ごせるようにする。

2歳児 II期（6月～8月）		
ねらい		・砂、水（プール、水遊び）、泥などの感触を全身で味わいながら、思い切り遊ぶ。 ・友達に関心をもち、同じ場で過ごしたりまねしたりすることを喜ぶ。 ・保育者の手助けを受けながら、簡単な身の回りのことを自分でやってみようとする。
学びの芽生え	思考	・身近な小動物や植物に興味をもち、保育者と一緒に気付きや発見を喜ぶ。 ・水、砂、土、泥などに触れて感触を味わい、伸び伸びと遊ぶ。
	言葉	・嬉しかったことや困ったこと、印象に残ったことなどを話そうとする。 ・身の回りのことに興味をもち、「これなあに」「どうして」と盛んに質問をする。
	創造	・絵本や紙芝居の中の簡単な言葉を繰り返し言うことを喜ぶ。 ・粘土や小麦粉粘土を使い、ちぎる、伸ばす、丸めるなど、自由に楽しむ。 ・クレヨンや絵の具で自由に描いたり遊んだりすることを楽しむ。 ・身近な物を見立てたり、好きなものになって遊んだりすることを楽しむ。
人とのかわり	協同	・友達のしていることに興味をもち、同じ場で遊んだりまねたりすることを喜ぶ。 ・保育者を仲立ちとして友達とかかわって遊ぶ。
	信頼	・自分のしたいことや、してほしいことを言葉やしぐさで伝える。 ・保育者や友達とのかかわりの中で、自分の気持ちを安心して表す。 ・保育者に対し、「～したよ」「～だから」など出来事を思い出して話すことを喜ぶ。
	規範	・「自分で」と自己主張をし、何でも自分でしようとする。 ・遊んだ後に、保育者と一緒に遊具を片付けようとする。 ・自分の物、人の物の区別がつく。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・保育者の誘いで、トイレで排せつしようとする。 ・保育者のそばで、安心して眠る。 ・スプーンやフォークを使って食べたり、友達と一緒に食事をするを楽しんだりする。
	運動	・できないところは保育者に援助されながら、自分で衣服や靴の着脱をしようとする。 ・歩く、走る、登る、降りるなどの行動や、段差のある場所での遊びを通して、十分に身体を動かして遊ぶ。 ・リズムに合わせて身体を動かすことを楽しむ。

<指導例>

◇ 洗濯ごっこ

水の感触を味わい、生活経験を取り入れたごっこ遊びを楽しむ。

ペッタン、ペッタン、楽しいな

空き容器やスポンジ、野菜などに絵の具を付けて、スタンプング（型押し）をする。型が写ることや、形の面白さ、色のきれいさを感じ、繰り返し楽しむ。

<援助のポイント>

- ・一人一人の不安、欲求、甘えなどを丁寧に受け止めて信頼関係を築き、安心して過ごせるようにする。
- ・一人一人がじっくりと遊べるような環境を準備し、その子なりの遊び方を一緒に楽しみ、認めていく。
- ・自分でやろうとする気持ちを受け止めながら、必要に応じて適切な手助けをしていく。
- ・基本的な生活習慣については、個々の実態に合わせてきめ細やかな援助をし、自分でできた喜びや満足感をもち、気持ちよく過ごせるようにする。

<家庭との連携>

- ・子供が何でも自分でやりたがり、盛んに自己主張をするため、保護者が子育てに戸惑いや不安を感じる時期でもある。保護者会などで保護者同士が率直な思いを出して話せるようにしたり、この年齢の発達の道筋を伝えたりして、保護者の気持ちに寄り添い、一緒に子供の育ちを見守っていく。
- ・子供が自分でできる喜びを感じられるように、着脱しやすい服や脱ぎ履きしやすい靴を準備してもらうように伝える。
- ・感染症（とびひ、結膜炎、溶連菌感染症など）について、家庭に知らせ、健康状態について連絡を密にする。

環境の構成

- ◆ ぬれることを気にせず十分楽しんで遊べるように、水着に着替えて遊ぶ。
- ◆ 子供たちが扱いやすい大きさの薄手のものを用意する。洗剤は使用せず、水のみで遊ぶ。
(自分のTシャツやままと用エプロン、ハンカチ、人形の洋服など)
- ◆ 一人一人がじっくりと楽しみ満足できるように、洗面器やバケツは各自に用意する。
- ◆ 一人一人が十分に楽しめるスペースを確保する。洗う場所、すぐに干せる場所、余裕をもって干せる空間、干しやすい高さに調節したひもなど、子供の動線を考慮した環境を整える。

子供の姿

一人一人に洗面器やバケツを渡す。水を張っておいたらいやビニールプールから、ひしゃくなどで自分の容器に水を入れる。

好きな場所で洗いたい物を「ゴシゴシ」と洗う。保育者が「ゴシゴシ洗うの上手だね」「気持ちがいいね」と言うと、「うん、冷たい」「気持ちいい」「ぼく、お父さん」などと応じながら、洗う。

洗い終わると、絞る、干す、洗濯ばさみで止めるという流れを自分のペースで進めていく。「先生、見てて」と保育者に見せ「自分で干せたね」と言われ、にっこりする。干し終わると「できた」と満足そうな表情が見られる。

「もう一回」と好きな物を繰り返し洗ったり、洗面器の中で洗濯物を手でぐるぐると回したりする。

保育者が「もう乾いたかな」と取り込むと、「やりたい」「入れて」と子供たちが集まる。保育者と一緒に取り込み、喜んでたたむ。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★水やぬれた布の感触、冷たさ、気持ちよさを感じる。

★大人のつもりになって遊ぶことを楽しむ。

▲洗う、洗濯ばさみで留めるなどの動きを楽しみながら、指先を使って活動する。



★●自分のしたいことやしてほしいことを話し、保育者と言葉でのやり取りを楽しむ。

●友達の様子を見てまねをしたり、同じ動きをしたりするなど、友達に関心をもって遊ぶ。

●▲保育者と一緒に乾いた洗濯物を取り込み、たたんで楽しむ。

援助のポイント

◆ 一人一人が自分の遊びを十分に楽しめるようにする

水の感触、洗い方、干し方など一人一人のペースに合わせて感じていることを大事にする。「ゴシゴシ」「冷たいね」など、子供が感じていることや感触を簡単な言葉にして表し、言葉を使ったり、やり取りを楽しんだりすることを促していく。

◆ 自分から遊ぶ姿を大切に受け止める

自分の思ったように遊ぶ楽しさが、遊びや生活での意欲につながる。家庭で経験したことやなりきって遊んでいる様子から、自分から遊ぶ子供の姿を受け止め、保育者も一緒に遊びや会話を楽しむ。洗う、絞る、広げるなどは、きちんとできなくてもその気分を十分に楽しめるようにする。

◆ 「洗う」から「たたむ」までを一連の楽しい遊びにする

「たたむ」という経験も遊びの一つとして取り入れる。保育者が一緒にやりながら「やってみよう」「楽しい」という気持ちを引き出し、「最後までできた」「たくさん遊んだ」という満足感を味わえるようにしていく。

2歳児 Ⅲ期（9月～10月）

ねらい		- 身近な大人の言葉や行動をまねたり、面白いと感じたことを繰り返して遊んだりする。 - 保育者や友達とのかかわりの中で、自分の思いや要求を伝えようとする。 - 戸外で身体を十分に動かして遊んだり散歩に行ったりする中で、伸び伸びと遊ぶことを楽しむ。
学びの芽生え	思考	- 身近な用具の名前や使い方に興味をもち、保育者と一緒に使ってみる。 - 木の葉や木の実を喜んで集め、それを使って遊ぶことを楽しむ。 - 様々な容器や袋、布、ひも、箱などを使い、一人でじっくりと繰り返し遊ぶ。 - 楽しかった経験を自分なりの言葉で伝えようとする。
	言葉	- 気の合う友達とのおしゃべりを楽しむ。 - 好きな絵本や紙芝居を何度も見たり読んでもらったりする中で、興味をもった言葉や動作をまねて遊ぶことを楽しむ。
	創造	- 保育者と一緒に好きな歌を歌ったり、音楽に合わせて身体を動かしたりして遊ぶ。 - 保育者と一緒に紙をのりで貼ったり、はさみで切ることを楽しんだりする。
人とのかかわり	協同	- 保育者が仲立ちとなり、少人数の友達と一緒に遊ぶ。 - 経験したことの中で同じようなイメージをもって、見立てて遊ぶことやごっこ遊びを保育者と一緒に楽しむ。
	信頼	- 友達との玩具の取り合いや気持ちのぶつかり合いなどの中で、保育者を仲立ちとして、相手の思いを知る。 - 簡単な手伝いを喜んでする。
	規範	- 保育者の援助で、「順番」や「交代」などのルールがあることを知る。 - 保育者の言葉掛けで危険なことに気付く。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	- 尿意、便意を知らせ、自分からトイレに行こうとする。 - こぼしたり汚したりしないで食べられることを喜ぶ。 - 保育者に見守られながら、自分で衣服や靴の着脱をしようとする。 - 自分の物の簡単な支度や始末をする。 - 手洗いや「ブクブクうがい」を保育者と一緒にする。
	運動	- 様々な遊具や用具に触れながら、戸外で十分に身体を動かすことを楽しむ。 - かけっこや追いかけっこを楽しむ。 - 遊びを楽しむ中で、走る、両足ジャンプをする、一本橋を渡るなど、様々な身体を動かす。 - 低めの固定遊具、低めに調整した巧技台などですすんで身体を動かして遊ぶ。

<指導例>

◇ かけっこをしよう

自分なりに思い切り走る楽しさを感じる。

どんぐりを使って遊ぼう

拾ってきたどんぐりを食材に見立ててままごと遊びに使う、ペットボトルに入れて作った手作りマラカスで遊ぶなど、自然物とかかわって遊ぶ。

<援助のポイント>

- 自分の気持ちや要求を自分なりに相手に伝えようとすることを大切にする。その際、具体的に言葉を知らせたり伝えたいことを仲介したりするなど、伝えようとする気持ちを支え、伝わったうれしさを感じられるようにする。
- 個々の発達の様子を把握し、それぞれの子供が楽しめる運動遊びを工夫していく。

<家庭との連携>

- 自我の芽生えや自分でやろうとする気持ちを受け止めて経験させることで、子供が変容してきていることを具体的に伝えて成長を確認し、保護者を支えていく。
- 運動会や遠足など、行事が多くなることを伝え、子供が動きやすい靴や着替えを用意してもらうようにする。

環境の構成

- ◆ 伸び伸びと走れるよう、園庭やホールの広い場所を確保し、1回に走る人数は4～5人にする。
- ◆ スタートラインを引くとともに、立つ位置が分かりやすいように間隔を空けて○印を付ける。
- ◆ 待つ場所は、スタートラインの後方で横一列に並ぶ。保育者から一人一人の顔がよく見えることで、目線を合わせて声を掛けやすくする。
- ◆ 子供が安心して走り切れるように、ゴールには保育者が立つ。

子供の姿

保育者が「名前を呼びます」と言うと、子供たちは名前が呼ばれるのを期待しながら待っている。名前を呼ばれた子供は、「はい」と返事をする、ニコッと笑う、手を挙げるなどそれぞれに反応し、保育者と一緒にスタートのときに立つ位置に行く。「ヨーイ」の合図で子供たちは走り出すポーズをし、「ドン」の合図で走り出す。ゴールにいる保育者が「楽しいね」「かっこいいね」などと声を掛け、抱きとめてもらうことを喜ぶ。保育者と一緒に友達を応援したり、子供同士で顔を見合わせて笑いながら走ったりする姿も見られる。

走ることを何度も楽しむ中で、かけっこでは名前を呼ばれると自分の順番になることが分かったり、「ヨーイ」の後「ドン」の合図まで体を静止したりできるようになっていく。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★順番を待つ、名前を呼ばれて立つ、スタートの合図で走るなど、保育者の簡単な指示を聞いて行動する。

★スタートとゴールの目印、「ヨーイ」と「ドン」の合図により、動きの区切りを感じる。



●保育者に名前を呼ばれたり、抱きとめられたりすることを喜ぶ。

●保育者と一緒に応援したり、拍手をしたりするなど、友達に関心をもつ。

▲思い切り走ることの楽しさを感じる。

●友達と一緒に走ることを喜ぶ。

援助のポイント

◆ 楽しく走ることを大切にしながら、体の発達を促す

競争ではなく、その子供なりにたくさん走る楽しさを感じることを大切にする。子供が楽しさを感じて繰り返し走ることで、全身の協応動作や合図に合わせて体をコントロールするなど、この時期の発達に必要な経験を積み重ねられるようにする。

◆ 保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げていく

保育者とかかわるうれしさや安心感を基に、何度も走ったり、友達と一緒に活動する楽しさを感じられるようにする。名前を呼ぶ、抱きとめる、一緒に喜ぶなど、保育者とのつながりやスキンシップを十分に味わえるようにする。

2歳児 IV期（11月～12月）

ねらい		・保育者や友達と言葉のやり取りを楽しんだり、自分の思いを自分なりの言葉で表そうとしたりする。 ・保育者や友達と一緒に、見立てたり、なりきったりして遊ぶことを楽しむ。 ・保育者に見守られながら、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。
学びの芽生え	思考	・音、色、匂い、量などに気付き、興味をもつ。 ・保育者や友達に自分のしたことや思ったことを自分なりに伝えることを喜ぶ。
	言葉	・繰り返しのあるやり取りや面白い言い回しのある絵本や紙芝居を見ることを喜び、自分で言ったり好きな場面を再現したりして遊ぶ。
	創造	・保育者や友達と簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ・音楽に合わせて身体を動かすことや自分なりの表現遊びを楽しむ。 ・簡単な楽器（カスタネット、鈴、タンバリンなど）に触れ、鳴らして遊ぶ。
人とのかかわり	協同	・保育者や友達と言葉のやり取りを楽しみながら、ごっこ遊びをする。 ・自分の要求を自分なりに相手に伝えようとする。
	信頼	・鬼ごっこやかくれんぼなどで友達と同じ役になって遊ぶことを喜ぶ。 ・保育者に褒めてもらうことを喜び、頑張ろうとする。 ・自他や善悪の区別が少しずつ分かるようになる。
	規範	・「入れて」「貸して」など、遊びや生活に必要なことが分かり、やってみる。 ・保育者の援助を受けながら、遊びの中で順番や交代をする。 ・保育者と一緒に簡単なルールのあるゲームや遊びを楽しむ。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・苦手なものも少しずつ食べてみようとする。 ・フォークやスプーンを正しく持とうとし、食器に手を添えてこぼさずに食べようとする。 ・手や口など体が汚れたことに気付き、自分できれいにしようとする。 ・保育者と一緒に食前や排せつ後の手洗いをする。 ・保育者の援助を受けながら、「ブクブクうがい」や「ガラガラうがい」を場面に応じて行う。
	運動	・尿意、便意を感じて、自分からトイレに行こうとする。 ・トイレットペーパーの使い方など排せつ後の始末の仕方を知る。 ・保育者と一緒に脱いだ衣服をたたんだり、片付けたりしようとする。 ・登る、押す、引っ張るなど、全身を使う運動遊びをする。 ・ボールを蹴る、投げる、転がす、受けるなどして遊ぶ。

＜指導例＞

◇ がらがらどんごっこは楽しいな

保育者とのかかわりや言葉のやり取りの楽しさを味わう。

先生、赤ちゃんになって

保育者を赤ちゃん役（世話をする対象）にし、寝かしつけたり病院に連れて行ったりしながら、おうちの人の役になりきって遊ぶ。

＜援助のポイント＞

- ・部屋の換気や湿度設定をこまめに行う、手洗い、うがいを促すなど、風邪の予防に努める。
- ・前開きやかぶりの服の着脱やたたむことなど、子供と一緒に身の回りのことを行いながら、できたことを保育者も共に喜び、認めていく。
- ・友達とのかかわり方を伝えながら、一緒に遊ぶ楽しさが味わえるように仲介役になっていく。

＜家庭との連携＞

- ・保護者の育児の悩みや子育ての参考になる情報を、クラスだよりなどを介して紙面上で交流し合い、安心して楽しく子育てができる環境づくりをしていく。
- ・子供がやりやすい衣服の裏表の返し方や、園での声の掛け方を具体的に知らせ、家庭でも行えるようにする。また、自分でできたという喜びが感じられるように、家庭でも見守ったり、認めたりしてもらうように伝えていく。

環境の構成

- ◆ ホールに巧技台で一本橋を設定する。子供が橋のイメージをもって動き、やり取りの面白さを感じられるようにするため、高さは10cm程度にする。
- ◆ 子供が話のイメージを想起できるように、「橋の下にトロルがいるかも知れないね」などと声を掛けながら一本橋を作る。

子供の姿

一本橋の横に保育者が立ち、渡ってくる子供に「トロルに食べられないように渡ってね」と声を掛けると、落ちないようにそっと歩いていく。バランスを崩して足を踏み外す子供もいるが「トロルにつかまる」と言って、急いで一本橋に戻り、もう一度渡る。渡り切ると「つかまらなかった」と喜んで保育者に伝える。

保育者と声を合わせ、「コッチンコッチン、カチカチトン」と言いながら橋を渡る子供がいる。渡っている他の子供も面白がり、同じように言う。

保育者がトロル役になり「誰だ。俺の橋を渡るのは」と言うと、「小さいヤギのガラガラドンだ」「草を食べに行くところだ」と絵本の中の言葉で、口々に答える。怖がったような顔、強そうな顔、笑顔など、好きな役になりきり、様々な表情やしぐさが見られる。

「今度はトロルがやりたい」と保育者と一緒の役になりたいが子供が出てくる。何人もの子供がトロル役になって橋の横に集まる。保育者の口調をまねて「誰だ。俺の橋を渡るのは」と言ったり、「大きいヤギのガラガラドンだ」と答えたりする。徐々に子供からの言葉が多くなり、友達と一緒に言うてみることを喜ぶ子供もいる。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★絵本の中の言葉を言うことを喜ぶ。

★やりたい役でなりきった動きを楽しむ。

★お話のイメージの中で遊ぶことを喜ぶ。



●保育者や友達とのやり取りを面白いと感じる。

▲慎重に、横に歩いたり、足を交互に出して歩いたりする。

▲落ちないように体のバランスをとって歩く。

援助のポイント

- ◆ **言葉の面白さや繰り返しのやり取りが楽しい絵本に親しむ**
簡単なストーリーの中に楽しい言い回しや繰り返しのやり取りの面白さが入った絵本を用意し、日頃から親しんで興味をもてるようにする。
- ◆ **保育者も一緒に活動しながら、子供たちがやってみたいと思う気持ちを大切に**
一人一人がやりたい役になり、なりきって自由に動いたり言ったりする姿を大切にする。絵本の中の言葉を一人で言う、友達と声をそろえて言うなど、様々な楽しみ方を十分に受け止める。保育者も役になりきって言ったり動いたりすることでモデルとなり、やり取りを促していく。
- ◆ **遊びのイメージを大切にしながら、行動の調整をする**
夢中になると、橋の高さや周囲の様子などに気付かずに、危険なことも予想される。危険な行動を止めたり、順番に並ぶように促したりするときは、保育者は自分の役の言い回しを生かして伝えるなど、遊びのイメージを大切に援助を工夫する。

2歳児 V期（1月～3月）

ねらい		・興味のあることや経験したことなどを、保育者と一緒に自分なりに好きなように表現する。 ・保育者や気の合う友達とかかわることを喜び、ごっこ遊びを楽しむ。 ・保育者に見守られながら、簡単な身の回りのことを自分でし、進級を楽しみにする。
学びの芽生え	思考	・年上の子供がやっていることに興味を示し、まねてやろうとする。 ・雪、氷、霜柱など冬の自然に接し、見たり触れたりして遊ぶ。 ・少しずつ身の回りの形、大小、長短、数などに気付く。
	言葉	・思ったことや感じたことを自分なりの言葉で伝えたり、保育者や友達とおしゃべりを楽しんだりする。 ・生活に必要な簡単な言葉が分かり、使おうとする。 ・繰り返しの言葉や楽しいやり取りの出てるお話の面白さを感じ、喜んで聞く。
	創造	・指先を使い、合わせ折りや好きな折り方をして楽しむ。 ・保育者と一緒に、のり、はさみ、絵の具、粘土などの材料や用具を使い、作って遊ぶことを楽しむ。
人とかかわり	協同	・気の合う友達2～3人で、ごっこ遊びを楽しむ。 ・クラスの友達と一緒に、話を聞いたり手遊びや体操をしたりすることを楽しむ。 ・保育者や友達と、鬼ごっこや簡単なルールのあるゲームで遊ぶことを楽しむ。
	信頼	・友達に話し掛けたり、自分の知っていることを伝えたりしてかかわることを喜ぶ。 ・保育者や友達に自分のしてほしいことを言葉で伝える。 ・できるようになったことや大きくなったことを認められ、進級することに期待をもつ。
	規範	・みんなの物に気付き、自分なりに、順番に使ったり分け合ったりするなど、貸し借りをしながら使おうとする。 ・生活の中できまりがあることを知り、簡単なきまりを守ろうとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・食前、排せつ後の手洗いを自分でしようとする。 ・様々な食べ物をすすんで食べようとする。 ・フォークやスプーンを使い、こぼさないように食べようとする。 ・外から帰ったときや食後は、うがいをする。 ・尿意、便意を感じて自分からトイレに行き、排せつの後始末を自分でしようとする。 ・手を拭く、鼻汁をかむなど身の回りのことを自分からしようとする。
	運動	・自分で衣服を着脱し、たたむなど始末をしようとする。 ・冬の自然に触れながら戸外で遊ぶ。 ・散歩に出掛けることを喜び、身体を十分に動かして遊ぶ。

<指導例>

◇ 大きいクラスで遊んでみよう

大きくなった喜びを感じ、進級への期待をもつ。

鬼ごっこは楽しいな

簡単なルールの中で、保育者や友達と一緒に、追ったり追われたりすることや走ることを楽しむ。

<援助のポイント>

- ・気の合う友達が出てくるが一緒に遊ぶことばかりを優先せず、一人一人が思いや自分のやり方を十分に出しながら、一緒に遊ぶ楽しさを感じられる場面を大切にする。
- ・ルールのある遊びでは、ルールは分かっているが受け入れられない子供もいる。その気持ちを受け止め、一緒に遊んで楽しかったという思いがもてることを大事にする。
- ・身体を動かすことや遊具を使うことを好むようになり、力やスピードも付いてくる。安全には十分に気を付けながら様々な経験ができるようにする。
- ・身の回りのことを自分でできるようになった喜びに共感し、進級への期待につなげる。

<家庭との連携>

- ・日常の具体的な姿から一人一人の子供の成長を伝え、喜び合うことで、子供も保護者も進級への期待や安心感をもてるようにする。また、集団としての子供たちの成長や、子供同士のかかわり方など、3歳児での成長につながっていくことを伝える。
- ・進級に伴い、園と家庭の連絡方法や持ち物などが変わる場合にはあらかじめ説明をし、保護者も安心して移行できるようにする。

環境の構成

- ◆ 2歳児、3歳児それぞれに大事にしたい経験、訪ねる時間、準備しておく玩具など、保育者間で連携を密に図っておく。
- ◆ 一人一人の様子に応じた対応をきめ細やかにできるように、少人数で遊びに行く。

子供の姿

初めて見る玩具に興味をもち、「これで遊んでいい」と指で玩具を差しながら保育者に聞く。「〇〇組のお友達に聞いてみようか」と答え、玩具を持って一緒に3歳児のところへ行く。子供の状況に応じて、一緒に3歳児に声を掛けたり、保育者が代弁して気持ちを伝えたりする。自分から「貸して」と言う子供もいる。

3歳児の保育室の前で「お兄さん、お姉さんと一緒に遊んでもらいたいね」「楽しそうだね」と話していると、3歳児が「おいで」「一緒に遊ぼう」と招き入れてくれる。2歳児はうれしそうに入室する。

中には、新しい環境に戸惑って不安そうな表情の子供もいる。保育者と手をつなぐ、保育者の膝に乗って過ごすなど、そばにすることで少しずつ落ち着いてくる。安心すると自分から周囲を見回し、興味をもった絵本を保育者に読んでもらうなどして過ごす。

3歳児の遊びや会話に関心をもち、遊んでいる様子をじっと見ている。「やりたい」と年上の子と同じ遊びをしたがり保育者に伝えてくる。保育者と一緒に3歳児から遊び方を教えてもらったり、同じクラスの友達と玩具で遊んだりして、笑顔が多く見られるようになる。

保育者が「お兄さんやお姉さんと一緒に遊んで楽しかったね」と言うとうん「また来たい」という子供が多くいる。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★違う部屋の環境に興味をもつ。

★初めて見る玩具を「どうやって遊ぶのかな」と考えたり様々に使ったりしてみる。

★3歳児の遊びに興味をもち、じっと見たり、遊んでみたいと思ったりする。



●不安なことがあっても、保育者と一緒にいることで安心して遊ぶ。

●3歳児の部屋に入ったり玩具で遊んだりしたことで、進級することを楽しみにする。

★●保育者に言葉や行動でやりたいことを伝える。

援助のポイント

◆ 2歳児、3歳児それぞれの進級する喜びにつなげる

それぞれに必要な経験ができるよう、準備しておく物や保育者のかかわり方を共通にしておく。一人一人の状況に応じながら、保育者が仲介し、無理なくかかわったり玩具に触ったりできるようにする。一緒に過ごせたことや楽しさを大いに認め、それぞれの進級の喜びにつなげる。

◆ 保育室の雰囲気慣れることを大切にする

部屋の雰囲気に戸惑い、入室を嫌がる子供には、その気持ちに添い、「今度、遊びに来ようか」「遊びたくなったらいつでも一緒に来てみようね」など、子供に合ったペースで無理なく経験できるようにしていく。2歳児にとって「3歳児になること」は幼児クラスになる大きな節目である。その喜びと不安を受け止め、生活に意欲的になるように機会をつくっていく。

3歳児 I期（4月～5月）

ねらい		・保育者とのかかわりを基盤にして新しい環境に慣れ、気に入った場や遊具で遊ぶとする。 ・保育者の愛情を感じ取り、安心して生活する。 ・身の回りのことや自分でできそうなことを、保育者と一緒に行いながら園での生活の仕方を知る。
		進級児 新入児
学びの芽生え	思考	・新しい保育室での遊びや遊具に興味をもち、自分の気に入った場や遊具で繰り返し遊ぶ。 ・飼育動物や栽培している植物など、身近な自然に触れて楽しむ。
	言葉	・挨拶や「入れて」「貸して」などの遊びに必要な簡単な言葉が分かり、使ってみる。 ・楽しかったことを保育者に言葉で伝えようとしたり、困ったことや分からないことを、表情や動きに表したりする。
	創造	・みんなと一緒に歌ったり、手遊びやリズム遊びをしたりすることを楽しむ。 ・身の回りにある物や遊具にかかわり、見立てたり、つもりになったりして遊ぶ。
人とのかかわり	協同	・2歳児からの気の合う友達と一緒に遊ぶ。 ・誕生会や子供の日の集いなどの集会に参加して、楽しむ。
	信頼	・保育者との触れ合いを通して、安心して生活や遊びを楽しむ。
	規範	・みんなで過ごすために必要な知っている約束を守ろうとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・3歳児の1日の生活の流れを知る。 ・所持品の始末や身支度の仕方、トイレの使い方を知り、自分で行おうとする。
	運動	・2歳児のときに経験した追いかけっこや固定遊具で、体を動かして遊ぶことを楽しむ。

<指導例>

◇ 好きな遊具で遊ぼう

集団の中で安心して過ごせるようにする。

生活の仕方を知って、やってみよう

トイレの使い方やロッカーの使い方、荷物の置き方などを絵に描いて表示したり、手作りの紙芝居を作ってみせたりして、保育者と一緒に繰り返し行う。

<援助のポイント>

- ・進級児は徐々に新しい環境に慣れて2歳児までの生活を引き継いでいけるように、新入児は自分の居場所を見つけて安定できるように、経験や生活の流れの違いを考慮して接していく。
- ・保育者は、温かい態度で一人一人に接しながら、子供が生活に慣れていけるように、手を添えたり繰り返し知らせたりして、個人差に配慮した援助を行うようにする。
- ・生活の流れを具体的に知らせ、安心して過ごせるようにする。
- ・進級児の不安や甘えを受け止め、一人一人が安心して過ごせるようにする。並行して、進級児が新入児に持ち物の場所を教える機会をつくるなど、できることを生かしながら遊びや生活の中で力を出すことで、進級した喜びにつなげていく。

<家庭との連携>

- ・進級、入園による喜びや不安を受け止め、園の様子を伝えるとともに家庭での様子を聞き、幼児も保護者も安心して園生活を楽しむことができるようにする。
- ・幼児が自分で身の回りのことができるように、扱いやすい所持品の用意を具体的に依頼する。

環境の構成

- ◆ 家庭で使い慣れている遊具、扱いやすい遊具を十分に用意し、すぐに遊びたくなるように遊びの途中の状況をつくっておく。(電車と線路、車、ブロック、ウレタン積木、ままごと道具など)
- ◆ 新入児も進級児も新しい環境に慣れて親しみがもてるよう、家庭的な雰囲気を感ぜられるようにする。

子供の姿

進級児：今まで遊んでいた遊びを繰り返したり、新しい遊具や興味のある場にかかわったりして遊んでいる。

電車を車庫に留めていることをイメージして、きれいに並べることを楽しんだり、登園すると必ずお気に入りのスカートををはき、安心してままごとや踊りなどを楽しんだりするなど、一人一人が自分なりのやりたいことをもって遊んでいる。

また、自分がしていることを保育者に見てもらいたくて、「先生、見て」と保育者を呼んだり、保育者がそばにいてくれることを喜んだりする。

新入児：ブロックや車など、家庭でいつも遊んでいた遊具に安心感をもち、それを手に取ることで過ごしている。また、今まで遊んだことのない遊具に興味をもち、次々と触れて過ごしている子供もいる。

中には新しい環境に不安を感じ、自分からは動き出せないが周囲で友達が遊んでいる様子を見て楽しんでいる子供もいる。保育者が横にいればままごとなどをして遊ぶが、保育者がその場を離れると保育者についてきて、遊びをやめてしまう姿もある。

少しずつ園生活に慣れ、自分のマークや部屋、先生の顔を覚え、安心して過ごせるようになってきている。

保育者に慣れ、困ったことや嫌なことを泣いて表す、うれしいことを表情や動きで表すなど、保育者に自分の気持ちを伝えようとしている。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲健康・体力

★自分から興味のあるものに取り組む。

★自分なりのやり方で遊ぶ。

●友達がしていることを見る。



▲所持品の始末やトイレの使い方など生活の仕方を知る。

▲物を動かしたり、室内外で動いたりする。

●保育者と一緒に遊ぶことを喜ぶ。

援助のポイント

- ◆ **新しい環境に慣れ、自分から物にかかわって遊ぶ楽しさや安心感がもてるようにする**
家庭で親しんでいる遊具や好きな遊具で、誰もが自分のやり方で遊べる場と時間を確保する。「楽しかった」「また遊びたい」と思えるように、保育者も一緒に遊びながら気持ちを支える。
- ◆ **幼児が楽しんでいることを言葉にしたり保育者も同じように動いたりする**
不安な子供の気持ちに寄り添い、子供のありのままの姿を受け止める。保育者が温かく見守っていることや受け止めていることを感じ取れるように、子供と同じ動きをしたり楽しんでいることを言葉にして認めたりする。
- ◆ **進級児、新入児の喜びや戸惑いを受け止める**
常にゆったりと温かい雰囲気をつくり、スキンシップを多くしたり、一人一人の言葉や動きを受け止めたりして、保育者との信頼関係を基盤に安心して過ごせるようにする。

3歳児 II期（6月～9月上旬）

ねらい		・身の回りの環境や様々な活動に興味や関心をもち、かかわって遊ぼうとする。 ・同じ場にいる友達と一緒にいたい友達に親しみを感じ、かかわることを楽しむ。 ・身の回りのことや自分でできることを行おうとする。
学びの芽生え	思考	・自分のしたい遊びや、気に入った遊具や場を見付けて繰り返し遊ぶ。 ・飼育動物や園庭の虫や草花など、身近な自然に触れて楽しむ。
	言葉	・保育者や友達と挨拶を交わしたり、思ったことを話したりする。 ・「入れて」「貸して」などの遊びに必要な言葉を使ったり、友達の言葉を聞いたりする。 ・楽しかったことを保育者に言葉で伝えようとしたり、困ったことや分からないことを、表情や動きに表したりする。 ・保育者と一緒に絵本や紙芝居を楽しむ。
	創造	・身の回りにあるいろいろな素材にかかわり、感触を味わう、見立てる、作るなどして遊ぶ。 ・ままごとやごっこ遊びを喜び、つもりになって楽しむ。 ・歌ったり、手遊びやリズム遊び、簡単な表現遊びをしたりすることを喜ぶ。
人とのかかわり	協同	・友達の動きをまねたり、同じように遊んだりすることを喜ぶ。 ・クラスの友達と一緒に動いたり、誕生会や季節行事などの集会に参加したりして、楽しむ。
	信頼	・生活や遊びの中で、自分の思いを動きや言葉で、保育者や友達に伝えようとする。 ・友達とかかわって遊ぶ中で、保育者の仲介の下、相手に自分とは違う思いがあることを感じる。 ・砂や水などで遊び、開放感を味わう。
	規範	・生活や友達とかかわりの中で、よいことと悪いことに気付く。 ・みんなで過ごすために必要な約束や、簡単な遊びのルールが分かる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・1日の生活の仕方や流れが分かり、安心して生活する。 ・所持品の始末や身支度の仕方、トイレの使い方が分かり、自分でやろうとする。 ・汚れたりぬれたりしたら気持ちが悪く感じ、自分で着替えようとする。 ・食事の準備や片付けの仕方が分かり、できることを自分でやってみる。
	運動	・戸外に出て遊ぶことを喜び、保育者と一緒に追いかけっこをしたり、気に入った遊具で遊んだりして、体を動かすことを楽しむ。 ・みんなと一緒に体を動かす楽しさや、戸外で遊ぶ心地よさを感じる。

<指導例>

◇ 泥んこの感触を楽しもう

素材の感触や新しい遊び方に興味をもってやってみる。

プールごっこ

折りたたみプールの中に新聞紙を裂いて入れ、プールの水に見立てる。準備体操をしてプールに入ったり、水かけっこをしたりしてプールに入っているつもりで、開放感を味わいながら遊ぶ。

<援助のポイント>

- ・友達への関心が出てくる時期なので、友達と一緒に動く楽しさが感じられるような活動を取り入れていく。
- ・砂や泥、水などとかかわり、開放感を味わって遊ぶことで、自分の思いを十分に出せるようにしていく。
- ・9月は、長期休業明けで生活のリズムが年度初めの頃に戻ることが予想される。保育者とかかわりの中で個人差に配慮した援助を行い、園生活のリズムが取り戻せるようにする。

<家庭との連携>

- ・保護者が保育に参加する機会をつくり、体験を通して子供の姿を知ったり、保護者同士のかかわりを深めたりして、園の保育・教育に関心がもてるようにする。
- ・排便後の始末（トイレトペーパーの使い方や拭き方など）について具体的に知らせ、家庭と一緒に進めていく。

環境の構成

- ◆ 砂や水を使って伸び伸びと遊べるように身支度を整える。靴置き場や足洗い、着替えの場は、子供が分かりやすいように設定しておく。
- ◆ 砂を扱いやすいように掘り起こしておく。また、子供が水を汲みやすい大きさのたらいに水を張り、適宜補充する。
- ◆ 一人一人がゆったりと遊べるようにバケツやじょうろ、シャベルなど遊具の種類や数を十分に準備しておく。

子供の姿

喜んで砂場に行き、自分から水を運んだり砂と混ぜたりして、「どんどん混ぜ混ぜ」と混ぜる様子や泥んこの感触など、感じたことを伸び伸びと表現する。冷たさやベタベタの感触を喜ぶ子供や、水たまりに入り声を上げながら喜ぶ子供もいる。

「ペタペタだ」「こっちはベチャベチャ」など言葉で感じたことを表しながら遊んだり、「チョコレートみたい」「クリームみたい」と自分なりに見立てて、ままごとのごちそうにして、カップに入れたりする。「先生、クリームだよ」「本当。ああ、おいしい」と保育者とのかわりを喜ぶ。

J児は汚れることやベタベタ、ベチャベチャなどの感触が好きではなく、砂場には入らない。保育者が「わあ、ペタペタ楽しい」と言っているのをにこにこして見ている。乾いた砂を「サラサラー」と言ってJ児の手のひらに少し載せると、「やだあ」と笑って払う。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかわり ▲健康・体力

★サラサラ、ベチャベチャ、ドロドロ、冷たいなど様々な感触を味わう。

★自分なりに見立てて遊ぶ。

★●手足を使って砂や水の感触を味わったり、思わず声を出したりして、開放感を味わう。



●同じ場にいる保育者や友達と同じように遊ぶことを楽しむ。

●自分の感じたことや見立てたことを保育者に話し、応じてもらうことを喜ぶ。

▲しゃがんで遊ぶことや何度も水を汲んで運ぶなど、足腰をたくさん使う。

援助のポイント

- ◆ 一人一人の感じ方を受け止めるとともに、感触の楽しさをつぶやいていく

砂や水、泥などに触れて感じることは、楽しさ、気持ち悪さなど一人一人異なる。保育者はまず子供の感じたことを受け止め、子供と同じ言葉で返していく。また、水や泥んこで遊ぶ楽しさや感触の面白さを簡単な言葉で表しながら楽しそうに遊ぶ姿を見せる。不快感や抵抗感の強い子供には、徐々に慣れるように機会をつくっていく。

- ◆ 身支度の仕方や後始末の仕方を知らせ、自分でやろうとすることを促す

服の袖や裾の始末の仕方や着替えなどのやり方、遊んだ後の遊具の片付け方や足の洗い方などを援助しながら繰り返し知らせていく。汚れてもきれいになると心地よいことや自分でできるうれしさを受け止め、励ましていく。

3・4・5歳児 夏季保育（7月下旬～8月）		
ねらい		・自分のやりたいことを見付けたり、夏の自然にかかわったりして、十分に遊びを楽しむ。 ・いろいろな友達とのかかわりの中で、自分の思いを表して遊ぶ。 ・夏の生活の仕方が分かり、安定して過ごす。
配 慮 点	学 び の 芽 生 え	・色水や石けん遊び、シャボン玉など、夏ならではの遊びを繰り返し楽しめるようにする。 ・保育者もモデルとなって一緒に遊びながら、色や泡の変化の面白さや、水を使って遊ぶ楽しさを感じさせていく。また、子供が色や泡の変化に気付いたり、色が出る草花を発見したりすることに共感し、興味や関心をもって考えたり試したりしながら、繰り返し楽しめるようにする。 ・夏に実のなる植物を自分たちで世話をすることで、生長や収穫を楽しみにできるようにする。 ・カブトムシやザリガニなど手に持って触れることのできる生き物を飼育することを通して、生き物への親しみや、興味や関心をもてるようにする。 ・カブトムシやスズムシなど夏から初秋にかけて成虫になる昆虫を飼育して親しみ、変化に気付いたり図鑑などで調べたりしながら、興味や関心、探究心をもてるようにしていく。 ・年上の子供がしている遊びを見てまねたり、年下の子供に遊びを教えたりしながら、遊びの経験を広げていけるように、互いの姿が見えるような場の工夫をする。 ・家庭や地域での経験を、遊びに取り入れて楽しめるようにする。
	人 と の か か わ り	・登園状況により、友達関係が変わったり、様々な保育者とかわることが増えたりするため、子供一人一人の気持ちを受け止め、自分の思いを出しながら安定して過ごせるようにする。 ・夏の時期にも、みんなで一緒に遊ぶ楽しさを感じることができるよう活動を取り入れていく。 ・一緒に生活する中で、様々な友達との自然な交流を見守るとともに、時には保育者が一緒にかわりながら、遊びのルールや考え方の調整をし、異年齢で遊ぶ楽しさを感じられるようにしていく。 ・異年齢の子供同士がかわることを、今までとは違う相手へのかかわり方を学んだり、年上の子供への憧れを育んだりする機会と捉えて援助する。
	生 活 習 慣 ・ 運 動	・毎朝の視診を丁寧に行い、健康面に留意する。 ・暑さのために体調を崩したり食欲が落ちたりするので、1日の生活の流れに余裕をもって設定し、一人一人が安定できるようにゆっくりと過ごせる環境を整えていく。 ・午睡の時間を十分にとるなど、体を休めることができるような時間と場を工夫する。 ・室内外の温度差から体調を崩すことがあるので、室内の温度調整に配慮する。 ・こまめに水分補給をするように声を掛ける。 ・プール遊びや水遊びを取り入れ、戸外で体を動かす楽しさや、水の中で動く楽しさが感じられるようにする。 ・光化学スモッグなどで戸外に出られない日もあるため、室内でも巧技台を使ってアスレチックをするなど、体を動かす楽しさを感じられるようにする。 ・栽培物を収穫したり食べたりすることを通して、食べ物に興味や関心を持ち、友達と一緒に食べる喜びを感じることができるようになる。
＜異年齢児と一緒に生活する上での配慮点＞ ・3歳児の状況に応じて、遊びの場を区切ったり、4・5歳児と別の保育室を生活の拠点にしたりするなど、一人一人の遊びや生活のペースを大切にしてお過ごせるように配慮する。 ・同じ遊びや活動の中でも、3歳児、4歳児、5歳児それぞれに応じた必要な経験ができるように援助する。保育者がどの子供にも適切に対応できるように、連絡を密に行う。		



＜活動例＞

〈プール遊び・水遊び〉 ビニールプール、組み立て式や作り付けの大きなプール、小学校又は地域施設のプールでの水遊び、水鉄砲、ペットボトルシャワー、浮き輪、ビート板、色水、石けん遊び、シャボン玉、フィンガーペインティングなど

〈自然とのかかわり〉 カブトムシ、スズムシ、ザリガニなどの飼育、夏野菜の栽培や収穫、セミの抜け殻探し、園で飼育しているウサギやモルモットなどの世話、夕立、入道雲、木陰の涼しさなど、夏ならではの自然現象の体験など

〈夏季保育中の行事〉 縁日ごっこ、夕涼み会など

〈その他〉 地域の施設利用（図書館、児童館など）



＜家庭との連携＞

- ・食欲が落ちたり暑さからの疲れが出たりしやすいので、十分に休息を取り、食事や睡眠のリズムを整えてもらう。
- ・プールチェック表への記入を保護者に依頼し、子供の健康状態を把握して、安全にプール遊びができるようにする。
- ・夏にかかりやすい伝染病の症状や熱中症の予防や対応など、夏の健康な生活に必要な情報を伝える。
- ・夏季保育ならではの経験（夏の遊び、自然とのかかわり、友達関係の広がりなど）や、そこで見られる子供のよさを具体的な姿を通して伝えていく。

3歳児 Ⅲ期（9月中旬～10月）

ねらい		・保育者や友達のしていることに興味をもち、自分から遊ぼうとする。 ・友達と一緒に遊ぶ中で約束やきまりがあることを知る。 ・伸び伸びと体を動かして遊ぶことを楽しむ。
学びの芽生え	思考	・自分のしたい遊びを繰り返す。 ・砂や水を使って遊び、感触を楽しむ。 ・自然物（木の葉や木の実など）に興味や関心をもつ。
	言葉	・経験したこと、感じたこと、思ったことなどを保育者に話そうとする。 ・生活の中で必要な言葉が分かり、使ってみる。 ・リズムのある言葉を喜んだり、一緒に言ったりする。 ・絵本や紙芝居を楽しみにする。
	創造	・身近な素材を使って描いたり作ったりして、表現する楽しさを感じる。 ・自分で作った物を使って遊ぶ。
人とのかわり	協同	・同じ場にいる友達や保育者にかかわって遊ぶ楽しさや、一緒にいる心地よさを感じる。 ・友達や異年齢児の遊びに関心をもち、仲間に入ったり一緒に動いたりして楽しむ。 ・園のいろいろな行事に参加して楽しさを感じる。
	信頼	・自分のしたいことをしながら、安心して遊ぶ。 ・一緒にいたい友達ができ、自分からかかわっていく。 ・自分の思いを自分なりの方法で相手に伝えようしたり、相手の思いを感じたりする。
	規範	・簡単なルールが分かり、みんなで一緒に遊ぶことを楽しむ。 ・自分の物、他の人の物、みんなの物の違いが分かる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・手洗い、うがい、衣服の着脱、排せつなどの手順が分かり、自分でしようとする。 ・保育者と一緒に自分の遊んだ遊具や用具、場を片付けようとする。
	運動	・いろいろな遊具を使う、走る、跳ぶなど体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・保育者や友達と曲に合わせて体を動かしたり、動きをまねしたりする。

<指導例>

◇ いろいろ色鬼、どんな色

保育者を中心に友達と一緒に動く楽しさを味わう。

僕も私も〇〇マン

お面を付けたりに手に道具（ステッキなど）を持ったりしながら、好きな曲に合わせて、なりきって動いたり踊ったりして、表現を楽しむ。

<援助のポイント>

- ・身の回りのことを自分からしようとする姿を見守り、認めたり褒めたりすることで自信をもたせていく。
- ・運動遊びやリズム遊びを通して、保育者も子供と一緒に体を動かしながら、その楽しさを伝えていく。また、友達や保育者と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるように、活動内容を一人一人の子供の状態を見ながら工夫していく。

<家庭との連携>

- ・運動会などの取組や参加の仕方は個人差があることを伝え、その子なりの成長を感じてもらえるようにする。また、他学年の子供の様子も見てもらい、成長への期待や見通しをもって、3歳児の成長の様子を理解してもらうようにする。

環境の構成

- ◆ 言われた色のフープに入るという遊び方が分かるように、遊びながらゆっくり丁寧に伝えていく。また鬼の言った色を聞いて自分で見付けて動けるように、一人一人のペースを大事にする。
- ◆ 体を動かす楽しさを感じられるように、思い切り走れる空間を確保する。
- ◆ 誰もが入って安心できるようにフープの数を多めに出したり、子供が自分で選べる色を配慮して出したりする。慣れてきたらフープの数を減らすなど変化させていく。

子供の姿

子供と保育者で「いろいろ色鬼、どんな色」と声を合わせて言う。保育者が「黄色」と言うと、歓声を上げて子供たちが走り出す。黄色いフープに入る子供、一生懸命にフープを探す子供など、その子なりに動きながら繰り返し走る。慣れてくると近くにいる友達と手をつなぎ、早く同じフープに入るのを楽しむ様子も見られる。

「いろいろ色鬼…」という言葉喜び、子供たちだけで友達と合わせて言おうとするようになる。「次はきっと赤だよ」と次の色を予想する姿もある。

また、わざとフープには入らずに、保育者の動きに自分の動きを合わせて、保育者に捕まえられることを楽しむ。保育者と一緒に走ることで、遊びに参加できるようになる子供もいる。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲健康・体力

★指示された色を自分で探し、繰り返し動くことを楽しむ。

★●友達と一緒に言うことの楽しさを感じたり、保育者と簡単な言葉のやり取りを楽しんだりする。

●友達と一緒に動いたり、動きをまねしたりすることを楽しむ。



▲思い切り体を動かす楽しさを感じる。

★▲鬼の動きを見ながら自分の動きを調節する。

●保育者と一緒に遊ぶことで、安心して自分らしさを出して楽しむ。

援助のポイント

- ◆ **保育者とのつながりを基に、友達の中で動く楽しさを味わう**
一人一人のペースで色を探したり、体を動かす楽しさを十分に味わったりできるように、しばらくは保育者が鬼になって合図や追いかけるタイミングを調整する。
子供たちが十分に楽しめるようになったところで、フープの数を減らしたり置き方を変えたりして、より楽しさを味わえるようにする。
- ◆ **体を動かす楽しさを感じられるようにする**
安全に走れる十分なスペースを確保し、その子供の動きに合わせて動いたり、楽しさを言葉に出して伝えたりしながら、保育者も共に楽しむ。
- ◆ **リズムのある言葉を一緒に言う楽しさを共に味わう**
リズムのある言葉を使うことで、ゲームの展開が分かりやすくなる。また「いろいろ色鬼、どんな色」と保育者も共に楽しみながら声を合わせ、ゲームの雰囲気をもっと楽しいものにしていく。

3歳児 IV期（11月～12月）

ねらい		・自分の好きな遊びをしたり、面白そうなことをしている友達とかかわったりしながら、遊ぶ楽しさを感じる。 ・みんなと一緒に活動する中で、保育者や周りの友達の動きを見ながら、自分なりに動く楽しさを感じる。 ・園生活に必要なことを感じ取りながら、自分でしようとする。
学びの芽生え	思考	・自分の好きな遊びを繰り返し楽しむ。 ・身近なものの色、形、多い、少ないなどの違いに気付く。 ・好きなものになりきったり見立てたりして遊ぶ中で、感じたり考えたりしながら自分のイメージを表現して、楽しむ。 ・落ち葉や木の実、球根など自然物への関心を持ち、気付いたり見立てて遊んだりする。
	言葉	・遊びやおしゃべりの中でやり取りを楽しみながら、生活に必要な言葉を増やしていく。 ・好きな絵本や紙芝居ができ、何度も読んでもらったり、見たりして楽しむ。
	創造	・カスタネットや鈴、手作り楽器などで遊び、自由に鳴らしたり音色を楽しんだりする。 ・自分なりのイメージをもって、描くことや作ることを楽しむ。 ・絵本や紙芝居を見て、好きな言葉を言ったりなりきって表現したりする。
人とかかわり	協同	・保育者や友達と同じ遊びや生活を楽しんでする。 ・友達と同じことがしたい、という気持ちが高まり、一緒に遊ぼうとする。
	信頼	・自分の気持ちや困っていること、してほしいことなどを、保育者に自分なりの言葉や方法で伝えようとする。 ・行事を通して異年齢の子供と触れ合い、楽しさを感じたり、年長児に対する憧れを感じたりする。
	規範	・保育者や友達と簡単なルールのある遊びを楽しむ。 ・遊びの中で遊具の安全な使い方や動きに気付く。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・手洗いやうがいの大切さを知り、自分でしようとする。 ・箸の持ち方を知り、箸を使って食事をしようとする。
	運動	・走る、踊る、鬼ごっこをするなどみんなと一緒に体を動かすことを楽しむ。 ・音楽に合わせたリズム遊びやボールを蹴る、ブランコに乗るなど、遊具を使った運動遊びを楽しむ。

<指導例>

◇ 見て見て、葉っぱでお面を作ったよ

秋の季節を感じたり、自然物にかかわって遊んだりすることを楽しむ。

サーキット遊びを楽しもう！

例) スタート→ごろごろ転がる→平均台渡り→トランポリン跳び→はって棒渡り→タンバリンをねらってジャンプ→室内鉄棒→はしご登り、室内滑り台滑り（巧技台）→はじめに戻る

保育者の動きを見ながら遊び方を知り、様々な動きを個々に応じて楽しめるようにする。遊びながら安全な遊び方や、順番なども経験できるようにする。

<援助のポイント>

- ・自分のイメージや見立て、言葉や動き、造形遊びなどで伸び伸びと表現する喜びを大切にする。
- ・一緒にいたい友達とかかわれるようにコーナーや遊びの場の配置に留意し、自分なりに思いを言葉や行動に表している姿を認め、安心して遊べるようにする。また、クラスの友達と一緒に活動する楽しさを味わえるようにする。

<家庭との連携>

- ・園で楽しんでいる秋の自然にかかわる遊びや、散歩コースの紅葉や木の実を拾える場所などをクラスだよりや写真の掲示などで知らせ、家庭でも自然に親しむとともに、親子のかかわりを大切にします。

環境の構成

- ◆ 季節の変化が感じられるように、保育者は会話の中で木の葉の色の変化などに気付かせたり、戸外に誘ったりする。
- ◆ 子供が自由に自然物を見たり触れたりすることができるように、室内にドングリやマツボックリ、落ち葉などを飾ったり、子供が持ってきたものを置く場所をつくったりする。

子供の姿

大きな落ち葉を拾った子供が、傘に見立てて遊び始める。それを見ていた周囲の子供も大きな葉を探し「あっ、雨が降ってきたよ」と、友達や保育者を誘い、大きな落ち葉の傘をさして歩き、「雨の日ごっこ」を楽しんでいる。

その後、同じ葉を魔法のステッキに見立て、「オオカミになあれ」と友達や保育者に魔法をかける。かけられた子供が「ガオー」と言いながら繰り返し遊ぶ。

保育者が大きな落ち葉に穴を開けて顔に付け「おばけ」と言うと、子供たちは喜んで逃げる。そこからおばけごっこが始まる。途中でおばけになりたくなった子供は、落ち葉を拾っておばけ役に変身している。

繰り返し追いかけて楽しむ。

落ち葉をかき分けながら「ドングリはどこかな」と長い時間ドングリを探している。ドングリを見付けると、「このドングリ、帽子かぶってるんだよ」「こっちは大きいよ」「比べっこしよう」など、友達と拾ったドングリの形や大きさを見せ合ったり、数えたりする。

集めたドングリは、空き容器に入れてマラカスを作り、「いい音がする」と言いながら鳴らす。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲健康・体力

★木の葉の色の変化や、落ち葉、風の冷たさに気付く。

★大きさや量、形を比べたり、数を数えたりする。

★様々に見立てたり、イメージしたりして遊ぶ。



▲夢中になって見付けたり集めたりし、しゃがむ、両手に抱える、つまむなど様々な体の動きをする。

●保育者や友達に自分が見付けた物を見せたり、たくさん集めたことを伝えたりする。

★●友達や保育者と一緒に自然物の感触や音がすることを楽しむ。

援助のポイント

◆ 子供が様々な方法で自然にかかわることや、そこでの気付きを大切に受け止める

保育者がすすんで自然物を遊びに取り入れたり楽しく遊んだりすることによって、子供の動きや気付きを引き出していく。落ち葉を踏んでカシャカシャと音がすることや、上から落ち葉をひらひらとまくなど、体の様々な感覚を使い十分に自然物にかかわって遊ぶことの面白さや、感じたことを自由に表現する楽しさを感じられるようにする。

◆ 秋の自然に触れる機会を多くもつ

保育室内に秋の自然を感じられるような物を置く、子供を戸外に誘って十分に遊ぶ、自然物を遊びに取り入れる、落ち葉が多い日は園庭をそのままにしておくなど、秋の自然に触れる機会を多くもつ。

3歳児 V期（1月～3月）

ねらい		・自分の思いを出しながら好きな遊びを十分に楽しむ。 ・保育者やクラスの友達と一緒にリズム遊びや表現遊びを楽しむ。 ・園生活に必要なことが分かり、できることを自分からしようとする。
学びの芽生え	思考	・風の冷たさや息の白さなど、冬の自然の変化を見たり、触れたりして体で感じる。 ・花の開花や日差しなどから春の訪れを感じる。
	言葉	・生活に必要な言葉が分かり、自分なりに使おうとする。 ・思ったことを友達に言ったり、相手から聞かれたことに応じて答えたりする。 ・保育者や友達と、簡単ななぞなぞや反対言葉などを楽しむ。
	創造	・身近にある素材や材料（広告紙、小さく切った紙、小箱、カップなど）を、自分なりに選び、作ることを楽しむ。 ・リズムに合わせて身近な楽器を鳴らすことを楽しむ。 ・絵本やお話のイメージを楽しみ、なりたいたいものになったり動いたりするなど、自分なりの表現を楽しむ。
人とのかわり	協同	・保育者や友達のしている遊びに興味をもち、自分もかかわりながら遊ぶ。 ・一緒に遊びたい友達と同じ場で遊ぶ中で、自分なりの動きを出す。
	信頼	・自分の思っていることやしたいことなどを言葉や動きで表しながら遊ぶ。 ・保育者に励まされながら様々なことに取り組み、できたことを喜び、大きくなったことを感じる。
	規範	・生活や安全に必要な簡単なきまりが分かる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・身の回りの物の整理や遊びの片付けなど自分のことは自分で行うようにする。 ・身の回りで必要なことを自分からしたり、できるようになったことを喜んだりする。 ・やけどに気を付ける、戸外に出るときは上着を着るなど、冬の生活に必要なことを知り、自分からやってみようとする。
	運動	・寒くても戸外に出て、保育者やみんなと一緒に簡単なルールに沿って体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・散歩を通して、坂道や歩きにくい所もしっかりと最後まで歩く。 ・戸外で遊んだり固定遊具や巧技台を使って遊んだりすることを通して、いろいろな体の動きを楽しむ。

<指導例>

◇ 片付けの後は、どんな楽しいことがあるのかな

自分なりに生活の見通しをもつ。

つながってみよう、繰り返しやってみよう

「大きなかぶ」や「手ぶくろ」といった、繰り返しのあるストーリーの中で自分なりのイメージを膨らませ、役になりきってつながってみたり、繰り返しのあるセリフを言ってみたりして、友達と一緒に楽しむ。

<援助のポイント>

- ・友達との遊びを楽しんでいることを十分に受け止め、共感する。
- ・子供が自分から気付いてやってみようとする姿やできるようになったことを認めて、進級する気持ちへつなげていく。

<家庭との連携>

- ・子供の1年間の成長を具体的に保護者と伝え合い、喜びを共感しながら進級する気持ちへつなげる。
- ・個人差が大きく進級に向けての不安な気持ちをもつこともあるが、今できることを十分に認め、成長を見守ってもらうようにする。

環境の構成

- ◆ 片付けや身支度の順番を、分かりやすく絵や写真で表示しておく。
- ◆ 「すてきなおしらせ」（片付け後の予定）を絵で表示し、片付け後に楽しいことがあることを示しておく。
- ◆ 棚やかごに目印を付けたり、整理しやすく仕切ったりして、子供が片付けやすいようにする。

子供の姿

「片付けたら楽しいことをしようね」と保育者が声を掛け、片付け始める。片付けようとして同じ遊具を友達と取り合ったり、慌てるあまり友達とぶつかってしまったりすることもある。一方で、なかなか片付けに気持ちが向かない子供もいる。「これ、何だろうねえ」と、保育者は遊具の片付け場所や片付けの順番の示してあるカードに気付かせる。「あ、ここにしまうんだよ」「知ってるよ」「次は積木を片付けるんだよ」などと言いながら、それぞれが気付いた物を片付ける。「自分でどんどんできるんだね」と認めながら、保育者も一緒に片付けていく。「片付けが終わったら、今日は何があるのかな」と保育者がつぶやくと、表示に気付いた子供が「劇ごっこだ」「やった」と言って、最後まで片付ける。「片付けたら、手洗いうがい」と水道に向かう。

「汚れたから着替えるね」と自分から着替えを始める子供がいる。「一人でできたよ」と保育者に伝えている友達の様子を見て、K児は最後まで自分一人で着がえようとする。「Kちゃんも、一人で最後までできたね」と保育者に言われ、K児は「だってもうすぐお兄さん組だもん」とにっこり笑う。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲健康・体力

★表示に描いてある絵から、次の行動を感じ取る。

★片付ける場所の表示を確認し、物と場を対応させて片付ける。

▲着替えや手洗い、うがいなどを自分で行おうとする。



●▲保育者や友達と一緒に片付けようとする。

●最後まで自分でできたことに満足感をもつ。

★●次の活動を楽しみにし、今やる必要のあることを自分から行う。

援助のポイント

◆ 3 歳児なりの見通しをもつ機会にする

片付ける場所や順番を絵や写真で示すなど、分かりやすく表示し、関心をもった子供が自分なりに見通しをもって取り組む機会にする。また、次の活動を示すことで楽しみにして行動する経験につなげる。

◆ 生活習慣を確かめ、進級する喜びにつなげる

表示を活用して、生活習慣が身に付いているかどうかを子供とともに確かめる。保育者は子供が自分で最後までやってみようとする姿を十分に受け止め、その子供の状況に応じて手助けをしたり、見守ったりして、できた喜びを味わえるようにする。すすんで行動する姿や最後まで行おうとする姿を成長として認め、一緒に喜び、進級することへの期待につなげていく。

4 歳児 I 期（4 月～5 月）

ねらい		・新しい環境に慣れ、保育者とかかわりを基盤に、自分の思いを表しながら遊んだり生活したりする。 ・気の合う友達や保育者と自分のやりたい遊びを楽しむ。 ・新しい環境での生活の仕方が分かり、身の回りのことを自分なりにやってみようとする。	
		進級児	新入児
学びの芽生え	思考	・保育者や周囲の子供の動きに興味をもちやってみようとする。 ・自分から新しい環境にかかわり、気に入った遊びを見つけて楽しむ。 ・花びら、葉、虫など身近な自然を遊びの中に取り入れて遊ぶ。	・自分が安定できる場や遊具で遊ぶことを楽しむ。 ・気に入った遊びを見つけて楽しむ。 ・花びら、葉、虫など身近な自然を遊びの中に取り入れて遊ぶ。
	言葉	・自分の思いや感じたことを言葉で表し、伝えようとする。 ・保育者や仲のよい友達と挨拶をする。 ・保育者が読んでくれた絵本に興味をもつ。	・遊びに必要な言葉があることに気付き、使ってみる。 ・自分の思ったことを言葉で表す。 ・保育者が読んでくれた絵本に興味をもつ。
	創造	・感じたままに表したり、何かのつもりになって遊んだりする。	・友達の動きをまねたり、自分と同じような動きに関心をもったりする。
人とかかわり	協同	・気の合う友達と同じ遊びを楽しむ。 ・クラスの人々と一緒に遊んだり過ごしたりすることを楽しいと感じる。	・クラスの人々といふことを楽しいと感じ、安心して過ごす。
	信頼	・保育者や友達に親しみをもって遊んだり生活したりする。 ・困ったときなどに自分から保育者に伝える。	・保育者に親しみをもち、安心してかかわれる存在であることを感じる。 ・思ったことや感じたことを表情、態度、言葉などで自分なりに表現する。
	規範	・友達と楽しく遊ぶためにはルールがあることを知る。	・園生活に必要なきまりがあることや、「ありがとう」「ごめんね」など友達とかかわりに必要な言葉があることを知る。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・新しいクラスでの生活の仕方を知る。 ・危険な物や場所を知り、安全に気を付ける。 ・できることは自分なりにやってみる。	・園での過ごし方を知る。 ・危険な物や場所を知る。 ・できることは自分なりにやってみる。 ・園での食事の仕方を知り、楽しく食べる。
	運動	・3歳時に経験した遊びで体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・友達や保育者の動きを見て、同じように体を動かそうとする。	・友達や保育者の動きをまねたり、自分なりの動きを楽しんだりする。 ・戸外に出て歩いたり走ったりしながら体を動かして遊ぶことを楽しいと感じる。

指導例

- ◇ 面白そうだな、やってみたいな
それぞれがやりたいことを見つけて安心して遊ぶ。

ダンゴムシ見つけた

容易に見付けたり捕まえたりできるダンゴムシは、虫に初めて出会う子供でも親しみやすい。時には世話をすることなどを通して、命の大切さに気付くきっかけにする。

<援助のポイント>

- ・進級児はできるだけ自分で行動できるような分かりやすい環境を構成し、進級した喜びが味わえるようにする。新入児は、みんなで一緒に生活することを楽しめるようにする。
- ・それぞれの子供のペースを大切に、新しい環境に慣れていくようにする。
- ・新しい保育者や友達に親しみを感じられるような言葉を掛け、安心して過ごせるようにする。
- ・友達と同じ場で過ごしたりかかわりをもったりできるように、遊びの場を設定したり遊具の数を十分に用意したりする。

<家庭との連携>

- ・進級や入園による喜びや不安に対して、共感したり励ましたりしながら、一緒に子供を支えていけるようにする。
- ・4歳児は友達とかかわりが増えるので、トラブルや友達関係などの不安なことは、担任をはじめ園の職員にいつでも相談できることを伝え、1年間の成長を共に見守っていけるような関係づくりに努める。
- ・園での様子を伝えたり家庭での様子を聞いたりしながら、保護者との信頼関係を築いたり深めたりしていく。

環境の構成

- ◆ 保育室での過ごし方に慣れてきたので、戸外で安定して遊ぶことのできる機会をつくる。戸外でもそれぞれが自分のやりたい遊びを見付け、落ち着いて遊べるようにする。
- ◆ 春の自然を生かし、花びらや葉を使って遊べる場所をつくる。自由に使ってよい草花が分かるように表示をする。近くにカップや机を出し、遊ぶ場が安定するように設定する。
- ◆ 紙テープ、チョウの形に切った紙、セロハンテープ、輪ゴムなどを用意し、簡単に作れて、作ったものを持って遊べるようにする。材料などは一人一人が十分に遊べる数や量を準備する。
- ◆ 子供が自分で持ち出したり片付けたりしやすくなるように、遊具や用具の置き場所に写真や絵で分かりやすい表示を付ける。

子供の姿

進級児：3歳児の時にも使っていたビールケースや砂場の道具を使って、遊び始める。砂場でごちそうを作り、自由に使える葉を取ってきて飾る。同じ場にいる新入児に「この葉っぱや花びらは使っているんだよ」と教える姿も見られる。保育者に「先生、見て」と自分の作ったものを見せ、「おいしそう」「葉っぱで飾ってきれいだね」などと受け入れてもらいながらかわることを喜ぶ。

3歳児の頃からの気の合う友達と紙で作った棒を持って一緒に動いたり、スカートをはき、シートを敷いてピクニックごっこをしたりするなど、同じような物を持ったり身に付けたりして遊ぶ。

紙テープの先にチョウの形の紙を自分で貼り、風にそよがせたり、持って走ったりして「見て、チョウチョが飛んでいる」と喜ぶ。

新入児：「おうちがいい」と泣いたり緊張感を見せたりする子供もいる。保育者と手をつないだり抱かれたりしながら戸外に出る。春の暖かさや心地よさに表情が和む。保育者が「あっ、アリさんがいる」と言うと、関心をもって見る。徐々に地面に下り、動くアリを見ているうちに気持ちも安定する。数人の子供が同じ場でアリを見たり、捕まえようとしたりする。

テラスにいるウサギに、キャベツを食べさせることを楽しんでいる。保育者に「キャベツちょうだい」と要求し、ウサギが食べると「わあ、食べた」と近くにいる子供と一緒に喜ぶ。

落ちていた花びらを拾って、保育者に見せる。「きれいね。たくさん集まりそうね」とカップを渡すと、園庭のあちこちで花びらを集め、保育者に見せに来る。カップがほしくて、「これ、わたしの」と取ろうとするなど友達に一方的にかかわる場面もある。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★自分の気に入った場所や遊びを見付け、楽しむ。

★遊びに必要な言葉を知り、使う。

★暖かさや心地よさ、花びらや虫など、身近な春の自然に親しむ。



●気の合う友達を見付け、同じ遊びを楽しむ。

●同じ場にいる友達に関心をもったり、かかわったりする。

▲遊びながら遊具や物の置き場や使い方などを知り、新しい環境に慣れる。

●保育者とかかわり、安心感や親しみをもつ。

援助のポイント

◆ 一人一人が安定できるような保育者の存在を意識する

担任との信頼関係を基盤に、進級児も新入児も安定して自分らしく動けるように、保育者はスキンシップやにこやかな表情を心掛け、一人一人を受け入れる言葉を掛けるようにする。

◆ 進級児と新入児の経験に応じた援助をする

集団生活や園での遊びに慣れている進級児と、集団生活を初めて経験する新入児が共に生活するので、それぞれに合った遊びを楽しめるようにする。進級児は気の合う友達と一緒に動いたりかかわったりするきっかけとなるように広告紙の棒、スカート、園庭の遊具などを準備する。新入児は、個々が安心できる遊具や場を見付けて遊ぶことができるよう、落ち着いた場を保育者が用意したり、遊び相手となったりしていく。

また、遊びの場面を捉えて、友達とのかかわりに必要な「入れて」「貸して」「いいよ」などの言葉を保育者が一緒に使いながら、友達とのかかわり方を知らせる。

4 歳児 II 期（6 月～9 月上旬）

ねらい		・様々な素材に触れ、取り入れて遊ぼうとする。 ・気の合う友達と互いの思いを出して遊ぶことを楽しむ。 ・クラスの活動で自分なりに動いたり同じ動きをしたりすることを楽しむ。
学びの芽生え	思考	・身近な虫や小動物などに触れたり、園庭の草花や栽培している植物に興味をもって、生長を楽しみにしたり収穫することを喜んだりする。 ・砂や泥、水などの自然物に触れて感触を楽しみながら遊ぶ。
	言葉	・＜新＞保育者の仲立ちによって、思ったことや困ったことを言葉で相手に伝えようとする。 ・自分の思いや困ったことを保育者や友達に伝えようとする。 ・絵本の読み聞かせを楽しんで聞く。 ・歌や絵本、リズムのある言葉に関心をもち、一緒に口ずさむことを楽しむ。
	創造	・＜新＞身近な素材を使って作ることや、作ったものを使って遊ぶことの楽しさを感じる。 ・身近な素材を使い遊びに必要なものやイメージしたものを作る楽しさを感じる。 ・新しい素材や材料に興味をもってかかわり、必要なものを使ったり作ったりして遊ぶ。
人のかかわり	協同	・みんなで取り組む遊びや活動に喜んで参加し、友達に親しみをもつ。 ・友達と同じものを身に付けたり、一緒に動いたりする楽しさを感じる。
	信頼	・＜新＞思い通りにならないことがあるときに保育者に思いを受け止めてもらい、我慢したり気持ちを切り替えたりする。 ・受け入れてくれる友達に自分の思いや感じたことを伝えようとする。 ・友達の言葉や動きに気付き、自分なりに応じていく。
	規範	・安全に過ごすための約束やきまりを知り、守ろうとする。 ・集団行動の約束や保育者の指示を聞き、動こうとする。 ・ルールを守ると楽しく遊べるということが分かる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・＜新＞園生活の流れが分かり、自分から動く。 ・天候に合った生活の仕方を知り、自分で行おうとする。 ・＜新＞園外に出たときの行動の仕方を知る。 ・夏野菜の収穫を通して、みんなで一緒に食べる楽しさや食べられたうれしさを感じる。
	運動	・保育者や友達と一緒に、音楽に合わせて踊ったり体を動かしたりして遊ぶことを楽しむ。 ・プール遊びを通して、水の中での動きを楽しみ、開放感を味わう。

※＜新＞は、新入児に特に配慮する内容を表す

＜指導例＞

◇ フルーツバスケットは楽しいな

みんなで唱和したり一緒に動いたりする楽しさを感じる。

作るのって楽しいね

細い色紙をはさみで切ってカップに入れる（ジュース）、丸い台紙にのりで貼る（ピザ）など、子供にとって身近なイメージを取り入れた製作活動を通して、のりやはさみの使い方を知らせる。

＜援助のポイント＞

- ・友達とのつながりができてくるので、思いを表したり伝えたりすることを楽しめるように、いろいろな友達の姿を伝えたり、思いが伝わり合うように言葉を補ったりしていく。
- ・いろいろな素材や用具に触れられる機会を設け、扱い方を知ったり遊びに取り入れたりしていく楽しさを味わえるようにする。
- ・プール遊びの約束、着替えや水着の始末の仕方などを分かりやすいように工夫して伝え、プール遊びに期待をもち、楽しく取り組めるようにする。

＜家庭との連携＞

- ・遊びや友達同士のかかわり方など、様々な様子が見られる時期である。言葉の使い方や思いの表し方などの実態や、相手へのかかわり方に気付いていけるように保育者が援助していることをクラスだよりなどで知らせ、家庭への理解を図るとともに、一緒に成長を見守っていけるように連携を図る。
- ・大人が先に指示をしたりせず、子供が自分で行おうとしている気持ちを尊重し、温かく見守っていくことが自信や意欲につながっていくことを知らせる。

環境の構成

◆ 2～3種類の果物に分ける

順番を待つ時間が長くないよう、果物の種類は2～3種類にする。果物の絵の描いてあるペンダントを首から掛けると自分でも見えて分かりやすい。慣れてきたら果物の色の帽子でもよい。

◆ 円形に椅子を並べる

クラス全員で唱和したり、合図に合わせて動いたりする楽しさを味わえるように、子供が座る椅子を中央向きで円形に並べる。移動するときに衝突しないように、隣との間隔にゆとりをもつ。

◆ 基本のルール

果物の絵の描いてあるペンダントを首に掛けて座る。手拍子と共に「フルーツバスケット」と全員で唱和した後にコールされた果物のペンダントを掛けている子供が立ち、空いている席へ移動する。

子供の姿

最初は保育者が果物をコールする。子供たちは自分が呼ばれるのを楽しみにするが、中には呼ばれていなくても移動して「しちゃん違うよ」と友達に言われる子供や、コールに気付かない子供もいる。好きな友達の隣に座ろうとして「ここがいい」と席の取り合いになる子供もいる。

次第に「フルーツバスケット」と唱和する声がそろって、遊びにリズムが出てくる。慣れてきた頃に、全員が席を移動する「みんな」のコールを取り入れると全員で一緒に動くことを喜び、声を上げながら移動する。

何回か経験してルールに慣れた後、椅子を一つ減らし、座れなかった子供が次のコールをするというルールに変える。中央でコールするときに戸惑う子供もいるが、保育者に助けられながら言うことができ笑顔になる。次第にコールをしたくて、座ろうとしなかったり友達に席を譲ろうとしたりする子供が増えてくる。他の子供からは「早く」と声上がる。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★●ゲームのルールが分かり、ルールに沿って遊ぶ。

★●他の人の合図に合わせて動いたり、自分が合図を出したりする面白さを感じる。

●クラスみんなで一緒に動いたり唱和したりする楽しいと感じる。



★みんなでリズムのある言葉を唱和することを楽しむ。

●一緒に活動をする中で、クラスの友達に親しみをもつ。

援助のポイント

◆ 唱和する楽しさが感じられるような言葉や合図の工夫をする

コールに注目しやすく、唱和する楽しさが感じられるように静と動のメリハリのある流れをつくる。例えば、みんなで手拍子をするとともに「お引越し」と唱和した後に次の果物の名前をコールすると、コールするタイミングがとりやすく、聞く側も集中しやすい。

◆ みんなで遊ぶ楽しさを通して、クラスの友達への親しみをもてるようにする

集合時にはいつも好きな友達の隣に座りたい子供もいるが、ゲームの中でいろいろな友達の隣になったり、みんなで一緒に動いたりする楽しさを体験することで、クラスの友達への親しみをもてるようにする。

◆ 幼児の動きに応じたルールを取り入れて、テンポよく遊びを進める

ゲームの理解の様子や子供の動きに応じて、ルールを変えていく。遊びが長く中断すると楽しさが続きにくいので、ゲームがリズムよく進むようなルールを取り入れる。座ろうとしない、動こうとしないなどの姿には、コールしたい気持ちや座れない不安を受け止め、うまくいったときに好機を逃さずに認めたり保育者が一緒に行動したりしながら、楽しさを感じて自分から動けるようにする。

4 歳児 Ⅲ期（9月中旬～10月）

ねらい		- 身近な出来事にかかわり、驚き、気付き、発見などを通して、様々なことに興味や関心を広げる。 - 友達とのかかわりを楽しみながら自分の動きや思いを出して遊ぶ。 - 戸外で思い切り体を動かして遊ぶことを楽しむ。
学びの芽生え	思考	- 身近な自然の変化に気付いたり、草花を遊びに取り入れたりして楽しむ。 - 繰り返し遊ぶ中で自分なりのやり方を試したり工夫したりする。 - 身の回りの物に触れたり使ったりして遊ぶ中で、物の性質（重い、軽い、硬い、柔らかい、伸びる、縮むなど）に気付く。 - 運動会などの行事を通して、様々な国などの旗があることを知り、関心をもつ。
	言葉	- 遊びや友達とのかかわりの中で、自分の思いを動きや言葉で表していく。 - 保育者や友達に親しみをもって挨拶をしたり、会話を楽しんだりしながらつながりを感じる。 - 気に入った絵本を保育者に読んでもらったり、自分で見たりする。
	創造	- 友達と一緒に伸び伸びと体を動かして踊ったり、自分なりの表現を楽しんだりする。 - 遊びや行事の中で、身に付ける物や使う物を作り、それを使って遊ぶ。
人とかかわり	協同	- 遊びの中で思いや考えを出し合いながら、友達とのかかわりを楽しむ。 - クラスの人と一緒にルールのある遊びをして、遊ぶ楽しさを味わう。 - 友達との遊びの中で、思うようにならないことを経験し、相手にも思いや考えがあることに気付く。
	信頼	- 年長児と一緒に行事に参加して、親しみや憧れを感じる。 - みんなの中で、伸び伸びと自分を出して遊ぶ。（かけっこ、リズム、運動会に向けての活動など） - 行事を通して様々な人（職員、他の保護者、地域の方など）とかかわり、親しみをもつ。
	規範	- 集団遊びやゲームを通して、ルールを守って遊ぶ楽しさを味わう。 - 約束やルールを守ることによってみんなが気持ちよく過ごせることを感じる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	- 自分の身の回りの物の始末や、使った物の片付けを自分でしようとする。 - 生活に必要なことが分かり、自分からやってみようとする。 - 安全に過ごすための約束やきまりが分かり、守ろうとする。
	運動	- いろいろな動きを試しながら、十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ。 - 用具や遊具の使い方に慣れ、組み合わせて場をつくって遊ぶ。

＜指導例＞

◇ 年長さん、教えて

年長児と一緒に運動遊びを楽しみ、憧れや親しみをもつ。

ぼくはこっちがいいのに…

友達との遊びの中で自分の思いを出す、相手が違う思いだと受け入れてもらえないこともある。保育者が仲介となり、双方が思いを言葉で表し相手の思いを聞くことで解決に向かえるように援助する。

＜援助のポイント＞

- 子供同士で思いがぶつかる時は、保育者が双方の思いをくみ取りながら相手の思いに気付けるように仲介していく。その後の手立てを一緒に考え、心を落ち着けたり気持ちを切り替えたりして遊べるようにする。
- 遊びの中で、いろいろな動きを試せるような用具を使ったり、子供が興味をもっているイメージを取り入れたりして、自然に体を動かして遊ぶ気持ちが高まっていくようにする。

＜家庭との連携＞

- 日頃の遊びを積み重ねることが行事の内容やそこでの子供の姿に生きることを、懇談会やクラスだよりなどで伝える。また、例えば運動会に向けては、勝ち負けやできばえのみにこだわらず、楽しんでいることや自分なりに頑張っている姿を大事にするなど、行事で大切にしたいことを伝え、共通理解を図る。
- 運動会や保育参観など保護者の参加、協力の機会が増えるので、共に子育てをする喜びや保護者同士のつながりを感じられるような内容、方法を工夫する。

環境の構成

- ◆ 運動会の余韻を楽しめるように、運動会で5歳児が使っていた物（リズムダンスの音楽テープ、衣装、リレーのバトンなど）を準備する。貸し借りのやり取りが生まれるように、できるだけ5歳児のクラスに置く。必要な物は、見えやすい場所に置いておく。
- ◆ いくつかの遊びが展開したときには、安全に遊べるように場の調整をする。

子供の姿

運動会の後、戸外へ出て「ヨーイ、ドン」とかけっこや追いかかけっこなど友達と走り回ることを楽しんでいる。保育者が「年長さんがしていたリレーをしようか」と提案すると子供たちは「やりたい」と張り切って答える。保育者が「年長さんからバトンを借りてこようか」と促すと、「バトン貸してください」と年長組に借りに行く。5歳児担任との「リレーのやり方は分かるかな」というやり取りを見ていた5歳児が「教えてあげようか」と、遊びに加わる。4歳児担任は「教えてくれるの。ありがとう」と応じる。5歳児は「最初はチームを決めるんだよ」「赤チームになりたい人」と4歳児をリードしながら進める。人数調整などは保育者も助言し、5歳児が出してきた三角コーンの位置を保育者が調節して折り返しリレーが始まる。4歳児も同じチームの友達を「頑張れ」と応援しながら、繰り返し走ることを楽しむ。

数名で音楽を鳴らしながら踊りを楽しんでいると、運動会で5歳児が踊ったリズムの曲を見付け、「これ、年長さんの体操だ」と自分たちで音楽をかけて踊り始める。

途中、振り付けが分からなくなる部分があり、保育者が「あれ、どうだったかな。年長さんに聞いてみようか」と提案する。4歳児が「年長さん、体操教えて」と5歳児の保育室へ頼みに行くと、何人かの5歳児が「いいよ」と快く教えに来て、一緒に踊りが始まる。4歳児も5歳児の振り付けをまねながら嬉しそうに繰り返し踊る。途中、5歳児が「そうだ、これも使う」と自分たちの使っていた衣装を持って来て4歳児に着せる。4歳児は衣装を着たことで一層張り切って踊り、保育者は「かっこいいね。年長さんみたいだね」と言いながら見守る。

翌日は、自分たちで衣装を借りに行き、踊りを楽しんでいたのも、集合時にクラスみんなで踊る機会をもつ。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★遊びの中で、自分の思いを動きや言葉で表す。

★▲友達と一緒に年長児のまねをして動いたり踊ったりすることを楽しむ。

●▲友達と戸外で体を動かして遊ぶことを楽しむ。



●年長児への憧れや親しみをもつ。

●▲年長児にルールを教えてもらいながら運動遊びを楽しむ。

▲いろいろな運動遊びに関心をもち、すすんで取り組む。

援助のポイント

- ◆ **4 歳児、5 歳児の子供にとって有効なかかわりになるように、保育者間の連携を図る**
それぞれの子供に経験させたいこと、予想される子供の動き、保育者の援助の仕方、5歳児が対応できる時間などを園内で共通に確認しておく。
- ◆ **4 歳児のモデルとして年長児にかかわる**
教えてくれた5歳児にお礼を言ったり、5歳児の動きや教え方を認めたりすることで、4歳児の5歳児への憧れや親しみの気持ちを高めるようにする。また、5歳児だけでは遊びの進行がうまくいかない場面では、4歳児の順番が回ってこないことで意欲を失わないように、保育者がかかわり方や遊びの進行を調整する。
- ◆ **遊びの中で楽しんでいたことをクラスの活動に取り入れる**
遊びの中だけでは経験していない子供もいる。クラスの活動に取り入れてみんなでリレーをしたり、5歳児に教えてもらったリズムダンスを部分的に踊ったりする機会をつくることで、楽しさや5歳児への憧れを共有できるようにする。

4 歳児 IV 期（11 月～12 月）

ねらい		・自分たちで遊びの場をつくったり、見たことや感じたことを様々な方法で表現したりして遊ぶことを楽しむ。 ・遊びや生活の中で、クラスの友達とみんなで活動する楽しさを味わう。 ・季節の変化に伴い、生活の仕方が変わることを知る。
学びの芽生え	思考	・季節による自然の変化に気付き、木の実や落ち葉など自然物を使って遊ぶことを楽しむ。 ・身近な用具の扱い方が分かり、目的に合わせていろいろな使い方があることを知る。 ・いろいろな材料や素材に触れる中で、数量、物の色、形などに興味をもつ。
	言葉	・保育者や友達との会話を楽しむ。 ・絵本やお話などを喜んで見たり聞いたりして、イメージを広げる。 ・絵本や歌の中にある面白い言葉に気付き、喜んだり繰り返したりする。
	創造	・みんなで歌ったり、簡単なリズム楽器を鳴らしたりすることを楽しむ。 ・お話の中の人や動物などになりきって遊ぶ。 ・自分のイメージに合わせて材料を選ぶ、組み合わせる、見立てるなどして使う。 ・思ったことを自由に描いたり作ったりすることを楽しみ、見たり飾ったりする。
人とのかわり	協同	・友達と一緒に遊びの場をつくり、イメージを出し合いながら遊ぶ。 ・友達の動きに関心を持ち、その動きに合わせてたり応じたりして動く楽しさを感じる。 ・簡単なストーリーや遊びの流れの中で、相手と自分の動きがかかわり合いながら遊びが進んでいく面白さを感じる。
	信頼	・友達との遊びの中で自分の思ったことを言葉や動きに表し、それを相手に受け止めてもらえた喜びを感じる。 ・保育者の言うことを受け止めて、行動しようとする。
	規範	・友達と生活する中できまりの大切さを感じ、自分なりに守ろうとする。 ・共同の遊具や用具を大切に、貸し借りをして使ったり一緒に片付けたりする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・手洗い、うがいの大切さが分かり、自分からすすんで行う。 ・自分の身の回りの物の始末や片付けなどの仕方が分かり、すすんで取り組む。 ・必要に応じて、衣服の調節を自分で行う。
	運動	・友達と一緒に、鬼遊びやしっぽ取りなど簡単なルールのある遊びを楽しむ中で、思い切り体を動かす。 ・いろいろな遊具や用具を使って、様々な動きを組み合わせる遊び。

＜指導例＞

◇ いいものができた

様々な素材を使いながら、作る楽しさを味わう。

◇ てぶくろごっこをしよう

好きな遊びの中で簡単な表現遊びを楽しんだり、クラスみんなで誕生会やお楽しみ会で発表する楽しさを感じたりする。

いい音がしたね

クラスみんなで知っている歌に合わせて楽器遊びをする。自分なりに自由に鳴らしてみたり、簡単な分伴奏で友達と音を合わせたりする。

＜援助のポイント＞

- ・友達と一緒に遊びたい気持ちが強くなってくるので、友達とのかかわりの中で、相手の気持ちに気付くように、個々の思いを保育者が受け止めながら、言葉で相手に伝えていく。
- ・遊びの中で「こうしたい」という子供の思いを受け止め、イメージや目的に合うような素材や材料を一緒に見付けたり提示したりするなど保育者が積極的に支え、自分たちで遊ぶ楽しさを十分に味わえるようにする。子供が思い付いたことを自分で実現できたと思えるような援助の工夫をする。

＜家庭との連携＞

- ・個人面談を設定し、日常生活での子供の取組や友達とのかかわりの中で変容した姿を伝える。成長したことで見えてくる個々のよさや課題を保護者と共有し、一緒に子育てに取り組み、成長を喜び合う関係を築いていく。

環境の構成

- ◆ 動物園に遠足に行ったことをきっかけに、製作コーナーの空き箱を充実させ、作る楽しさを経験する機会を設定する。作ったものは見合えるように、置き場所を工夫する。
- ◆ 扱いやすい大きさの空き箱、空き容器など土台になる素材、土台に付けて更に作る楽しさを引き出す素材を十分に用意し、取りやすく分類しておく。
(空き箱、空き容器、ペーパーの芯、キャップ、毛糸、色紙など)
- ◆ セロハンテープ、ボンド、絵の具(空き容器にも着色しやすいもの)など接着や彩色できる用具を、間隔をゆったりととって置き、使いやすくする。

子供の姿

「何に見えるかな」

保育者が黙って空き箱を組み合わせて遊んでいる。「何を作ってるの」「キリンみたい」という子供の言葉を受け、セロハンテープで接着し、動かしてみる。「わあ、作りたい」「何にしようかな」と、思い思いに空き箱を持ってきて組み合わせる。作りたいものをイメージしてからそれに合う素材を取りに行く子供や、まず好きな箱を持って来て、扱いながら作るものが決まっていって子供もいる。

「長い耳にしたいな」

箱を組み合わせただけの動物で遊ぶうちに「長い耳にしたいな」「しっぽもあったらいい」と、作り足したいものに気付く。保育者が「こんなのはどうかな」と紙や毛糸などを付けてみる。「フワフワしていて、それがいい」「違うのがいい」など、素材置き場に行き、自分のイメージに合ったものを持って来る。ボンドや絵の具の扱いは、作りながら個別に確認したり、手助けをしたりする。

「作ってみようか」

自分たちの遊びに使いたい物を作る子供もいる。素材を自由に扱う姿を認めていく。遊びの合間に保育者が「仲良しだから、仲良し動物園を作ってみようか」と声を掛ける。「強いのにしよう」「カバにする」などと、自分が強いと思う動物を作り始める。カバを作っている子供は「本当に口が開くようにしたい」と言い、保育者の援助を受けて、空き箱を切って口が開くようにし、喜ぶ。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★ 空き箱を組み合わせて見立てたり、必要なものを選んだりする。

★ 様々な素材を扱いながら、感触や色、形に気付いたり、取り入れたりする。

★ 自分なりに工夫する楽しさを感じる。



● 保育者や友達がしていることや言っていることに興味をもち、遊びに取り入れてみる。

● 作った物を友達と一緒に動かして遊ぶ。

★ 素材に合った接着方法や用具などの扱い方を知り、使ってみる。

援助のポイント

- ◆ **素材を扱いながら思い付き、思い付いたことを自分なりに形にする楽しさを味わえるようにする**
様々な素材を取りやすく分類しておき「素材を自由に扱って作りながらイメージがわき、さらに考えたことを付け足していく」という作る楽しさを十分に味わえるようにする。その子なりのイメージを受け止めて保育者も積極的にアイディアを出し、思い付いたことが形になるように援助する。土台がしっかりしていることで繰り返し遊んだり工夫を加えたりすることができる。「ぐらぐらしないとかっこいいね」など、子供自身が気付けるように声を掛けながら手助けをし、しっかりとした物を作る経験につなげる。
- ◆ **経験の幅を広げていけるようにする**
動物園に遠足に行って楽しかった経験があること、動物は空き箱で見立てやすく作りやすいことを生かし、全員が経験できるように設定している。一斉で行うのではなく、保育者を中心として楽しんで作る雰囲気の中で、その子供の遊びや興味、関心に合わせて進めていく。今までに作ったことのないものを作れた、よいものができたという満足感を味わえるようにする。
また、一人一人の素材への向き合い方、用具の使い方を確認し、個別に援助しながら自分でできることを増やしていく。

好きな遊びの中で簡単な表現遊びを楽しんだり、クラスみんなで誕生会やお楽しみ会で発表する楽しさを感じたりする

環境の構成

- ◆ 繰り返しの楽しさや身近な動物が出てくるお話など、子供が表現したくなるような絵本に日常的に親しみ、身近な場所に絵本を置いておく。
- ◆ 動物のお面、しっぽ、マント、ペープサートなどを子供たちが自分で扱えるように準備する。パネルやフックを使ってお面、耳、しっぽ、マントを掛けるなど、子供たちが見て分かりやすく扱いやすい置き方を工夫する。

子供の姿

- ・ 2～3人の友達と一緒に、自分の好きな動物のお面やしっぽを身に付けて遊ぶ。積木で動物の家を作り、ままごとの食べ物を運んで、動物のおうちごっこをする。「～にゃん」「～わん」と語尾を動物の鳴き声にして会話をし、動物になりきって楽しむ。



経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

- ★●友達と一緒に、イメージを出し合いながら遊びの場をつくったり、必要な物を用意したりして遊ぶ。
- ★▲積木の特性や安全な扱い方が分かり、必要な物を選んで使う。
- ★●遊びの中で自分なりのイメージを出し、なりきって遊んだり、友達の言葉に受け答えをしたりする。

◆ クラスみんなで表現遊びをする機会をつくる

- ・ 動物の表現遊びをする。
ピアノの音に合わせて動物になってそれらしく動いたり、お話に合わせて簡単なお話ごっこをしたりする。
(例)「てぶくろ」「おおかみと七匹のこやぎ」など、掛け合いや繰り返しのある内容のもの

- ・ クラスみんなで表現遊びをした翌日、数人の子供が「てぶくろ」のお話に出てくる動物のお面やしっぽを選んで身に付ける。「私はねずみになるね」「じゃあ、私はうさぎね」と、自分がやりたい役になり、「てぶくろ」のお話ごっこをする。友達がやっているのを見て「入れて」と仲間に加わる子供や、「いのししがいないね。誰かいのししやりたい人はいませんか」と、友達を誘う姿が見られる。
クラスみんなで表現遊びを行った経験があるので、仲間に加わりやすく、5～6人の友達が集まって「てぶくろごっこ」を楽しむ。

- ★●クラスの友達と一緒に、ストーリーに合わせて動くことや、言葉の繰り返しの面白さを感じる。
- ★●クラス全体で楽しんだことを思い出し、5～6人の友達と一緒に遊びの中で再現して楽しむ。
- ★●友達と一緒に、お話のストーリーに合わせて遊びの場をつくったり、必要な物を用意したりして遊ぶ。
- 友達のしていることに関心をもったり、いつも遊んでいる友達以外ともかかわりをもったりする。

◆ 誕生会を活用し、表現遊びを発表する機会をつくる

- ・誕生会で「てぶくろ」の劇遊びを発表する。
遊びの中で特に楽しんでいたお話を、誕生会の出し物で発表する。
- ・異年齢の友達や保育者に見てもらうことで、発表する楽しさや見てもらううれしさを感じたり、見ている人に分かるように話す工夫を考えたりする経験にする。



- ・好きな遊びの中で、巧技台や積木で舞台や座席を作り、発表会ごっこをする。

「てぶくろのチケットです。見に来てください」

「先生、見に来ますか」と友達や保育者をお客さんに誘ったり、他学年の友達を呼んだりして、「てぶくろ」の劇遊びを見せる。

- ★●クラスの友達の中でなりきって表現遊びを楽しんだり、見てもらううれしさや、みんなでできた喜びを感じたりする。

- ★●クラス全体で楽しんだ経験を生かし、友達と一緒に役になりきって表現することを楽しむ。

援助のポイント

◆ 自分なりに表現する楽しさが感じられるようにする

好きな遊びの中で表現遊びを楽しむことで、自分なりになりきって動く楽しさを感じさせていく。また、クラスみんなで動くときには、一人一人が表現している姿を認めていくことで、自信をもって伸び伸びと表現できるようにする。

◆ 仲のよい友達の中で、互いの思いや考えを言葉や動きで表せるようにする

Ⅲ～Ⅳ期にかけて、友達とのトラブルを様々な経験しながら、相手の思いに気付き、気持ちや考えを受け止め合える友達関係ができてくる。このことを生かし、数人の仲のよい友達との遊びの中で、互いに思いや考えを言葉や動きで出し合い、受け止め合えるように、一人一人の考えのよさを認める言葉を掛けたり、必要に応じて思いを仲介したりしていく。

◆ クラスみんなで表現遊びをする中で、友達と動きや気持ちを合わせる楽しさや心地よさが感じられるようにする

好きな遊びとクラス全体の活動をつなげていくことで、表現遊びの楽しさを十分に味わわせていく。動きや気持ちが合ったときには、「気持ちがいいね」「すてきだね」と保育者が言葉や行動に表して共感することで、心地よさが実感できるようにする。

クラス全体での経験が更に好きな遊びの広がりや深まりにつながる。その過程を生かして行事などへと結び付けていくことも考えられる。活動の連続性や幼児の経験のつながりを保育者が意識して援助することが大切である。

◆ 取組の経過とそこで経験していることを家庭に伝える

一人一人の持ち味や頑張っていること、好きな遊びとクラス全体での活動のつながりやその意味など、保育の中で経験していることを、継続した活動の具体的な場面を通して伝えていく。そのことで、活動の過程を大事に受け止め、クラスの子供の成長を喜び合う雰囲気をつくっていく。

4 歳児 V 期（1 月～3 月）		
ねらい		・クラスの友達といろいろな活動をする中で、クラスのつながりを感じて遊びや生活を進める。 ・基本的な生活習慣を身に付け、生活や遊びのきまりを守り、進級することへの期待や自信をもつ。
学びの芽生え	思考	・冬の自然事象や冬から春への自然の変化に関心をもち、感動したり疑問をもったりする。 ・今までにしたことを思い出したり、遊びに取り入れたりする。 ・絵の表示、記号、文字などに興味や関心をもつ。
	言葉	・保育者や友達の話を聞いて内容が分かったり、自分の思いを相手に言葉で伝えたりする。 ・日常生活に必要な言葉が分かり、すすんで使ったり、自分から挨拶をしたりする。 ・絵本や紙芝居などの話の展開を楽しむ。
	創造	・友達と気持ちを合わせて歌ったり、合奏したりすることを楽しむ。 ・遊びに必要なものを工夫して描いたり作ったりし、それを使って友達と遊ぶ。 ・絵本やお話などのストーリーに沿って、自分のイメージを動きや言葉などで表現して遊ぶ。
人とのかかわり	協同	・友達と一緒に遊びや仕事を楽しみながら、やり遂げようとする。 （1 日入園での新入園児とのかかわり、お別れ会の計画、当番活動など） ・クラスの人々と一緒に活動する中で、満足感を感じたりクラスとしてのつながりを感じたりする。
	信頼	・友達の前で自分の思ったことを表現し、受け止めてもらえるうれしさを感じる。 ・行事やクラスの活動の中で力を発揮したことを認められ、満足感や自信をもつ。 ・年長児と交流したり、当番の引き継ぎなどを行ったりして、年長児の生活に期待をもつ。
	規範	・よいことと悪いことに自分で気づき、自分なりに考えて行動する。 ・簡単なルールをつくったり、ルールを守ったりして、友達と一緒に遊びを楽しむ。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・自分でできることは、自分でする。 ・自分の健康に関心をもち、様々な食べ物をすすんで食べようとする。 ・気持ちよく食事をするために、挨拶や姿勢などのマナーに気を付ける。 ・行事を通して、伝統的な日本の食文化を知る。
	運動	・寒さに負けず、戸外で全身を思い切り動かして友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ・自分なりのめあてをもって縄跳びやフープなどに取り組み、積極的に体を動かして遊ぶ。

<指導例>

◇ 年長組のお別れ会をしよう

保育者やクラスの友達と一緒に活動を進める中で、自分の考えを出したり、友達と力を合わせたりする。

助け鬼をして遊ぼう

チームの友達に助けを求めたり、勇気を出してチームの友達を助けに行ったりして、助け合ううれしさを感じながらルールに沿って遊ぶ。

<援助のポイント>

- ・自分でできたという自信がもてるように、個々に考えたり試したりしている姿を見守り、それぞれの状態に応じて相談に乗ったり、方向性を示したりする。
- ・年長児の生活の仕方を聞いたり、当番活動の引き継ぎを行ったりする機会を設け、年長児になることへの期待をもたせていく。

<家庭との連携>

- ・1 年間の子供の成長を振り返り、保護者と共に喜び合う。
- ・子供たちの進級に向けての活動の様子（お別れ会、新入園児とのかかわり、修了式への取組など）を伝え、保護者も一緒に進級に期待をもてるようにする。

保育者やクラスの友達と一緒に活動を進める中で、自分の考えを出したり、友達と力を合わせたりする

環境の構成

- ◆ 年長組の修了を祝って「お別れ会」をすることを保育者が提案し、どのようなことをしたいか、クラスみんなで考える機会をつくる。
- ◆ プレゼントは、子供自身で扱える素材や、経験を広げることができる内容の物を取り入れる。
〔紙粘土の鉛筆立て、牛乳パックの周りに染め紙を貼った鉛筆立て、スチレン版画を生かした手紙ばさみ など〕
- ◆ 日頃から親しんでいる、異年齢グループを生かした活動内容にする。
- ◆ 自分たちで作れる輪つなぎなどで会場を装飾し、お祝いや感謝の気持ちを表せるようにする。年長児の姿や表情などが見えるように座席を向かい合わせにする。

子供の姿

お別れ会に、クラスみんなでどんなことができるか、どんなことをしたいか話し合う。
「プレゼントを作る」「歌を歌う」「楽器をする」「司会をする」など、前年度のお別れ会や、誕生会や生活発表会で自分たちが発表したことを思い出して、様々に発言する。

異年齢グループでお世話になった年長児にプレゼントを作る。「喜んでくれるかな」「学校で使ってくれるかな」「お別れ会が楽しみだね」と、年長児のことや当日のことを考えながらプレゼントを作る。

お別れ会当日は、3～4人の子供で司会を担当する。「ドキドキするね」と一緒に司会をする友達と話をしたり、手をつないで言葉を言ったりする。
異年齢グループでお世話になった年長児にプレゼントをあげたり、みんなでお祝いの歌を歌ったりする。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★今までの行事での経験を思い出し、活動に生かそうとする。

★●保育者や友達に自分の考えたことを伝えようとする。



★●クラスの友達と同じ目的に向かって活動し、友達とのつながりを感じる。

★●みんなのできた満足感を味わい、自信をもつ。

●年長児の修了を祝い、感謝の気持ちをもつとともに、自分たちが年長児になる喜びを感じる。

援助のポイント

- ◆ 年長児になる喜びを感じられるようにする
進級に向かう時期には、自分たちでできた満足感を味わわせ、年長児になる喜びや自信をもたせていくことが大切である。会を計画する際には、あらかじめ子供たちでできる内容を保育者がいくつか予想しておく。その上でクラス全体での話し合いという形式を取りながら、保育者が子供の考えをテンポよくまとめて実現できるように方向付ける援助をし、子供が「自分たちで考えた」「自分たちでできた」という実感や自信をもてるようにしていく。
- ◆ みんなの中で自分の考えを出したり、力を合わせたりする経験を通して、クラスの一員としての気持ちを高める
話し合いや活動を通して、みんなの中で発言や行動ができたことや一人一人のよさを保育者が積極的に認めることで、自分がクラスで受け入れられていることを感じたり、友達の考えやよさに気付いたりできるようにする。

5 歳児 I 期（4 月～5 月）		
ねらい		・新しい環境に自分からかわり、いろいろな遊びに取り組む。 ・自分のやりたい遊びをしたり、友達や保育者とのかわりを楽しんだりしながらクラスのつながりを感じる。 ・年長児としての自覚をもち、生活の仕方が分かり、すすんで行う。
学びの芽生え	思考	・動植物や自然現象に関心や親しみをもち、考える、試す、自然を取り入れて遊ぶなどする。 ・戸外の自然に接し、その美しさや季節の変化に興味をもつ。 ・イメージに合う材料や用具を選び、場の構成の仕方を工夫して遊びを楽しむ。 ・砂や泥や水などの感触を楽しんだり、特性に気付いて試したりする。 ・様々な行事などを通して、国旗に親しむ。
	言葉	・保育者や友達に対して、自分の思いや考えを自分なりの言葉で伝えようとする。 ・保育者や友達などに自分から挨拶をする。 ・身近な出来事について、感じたことや不思議に思ったことを言葉で表現する。 ・美しいものや心を動かされる出来事に会い、感じたことやイメージしたことを表現することを楽しむ。
	創造	・体で感じたリズムや自分たちで考えた動きを伸び伸びと表現する。 ・新しい素材や教材を使い、考えたことを自分なりに作ったり描いたりして表現することを楽しむ。 ・友達と一緒に、遊びに必要なものを自分なりに工夫して作ることを楽しむ。
人とのかわり	協同	・年長になったことを喜び合い、友達と一緒に遊ぶ楽しさや友達とのつながりを感じる。 ・友達の考えを聞いたり、自分の考えや発見などを話したりして、伝えるうれしさを感じる。 ・うまくいかないことを通して、友達の考えや提案に気づき、受け止めようとする。 ・友達と一緒に最後まで活動する喜びを味わう。
	信頼	・自分の気持ちを伝えたり、相手の話を聞いたりする。 ・年下の子供に対して親しみの気持ちをもって接したり、世話をしたりする中で、年長児としての自覚をもつ。 ・友達の動きや言葉を感じ取りながら行動する。
	規範	・新しい生活の中でのきまりの必要性を感じ、保育者や友達と一緒につくる。 ・友達とのかわりの中でルールを理解し、守って遊ぶ楽しさを味わう。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・衣服の着脱など、自分で気付いて調整する。 ・手洗いやうがいなど、必要に応じて自分から行う。 ・新しい場での生活の仕方や片付け方を知ったり、1日の園生活の流れが分かって行動したりする。
	運動	・すすんで戸外に出て、友達と体を動かして遊ぶ心地よさやルールのある遊びの楽しさを感じる。 ・新しい遊具にかかわりながら使い方を理解し、安全に使うようにする。

<指導例>

- ◇ 年長さんになったよ
進級の喜びを味わう。

みんなで作ったこいのぼり

一人一人が作ったものを合わせ、クラスで一つの大きなこいのぼりを作る。園庭に飾ることで進級の喜びや年長になった自覚をもてるようにする。

<援助のポイント>

- ・年長になり、張り切っている気持ちや、役に立ちたい気持ちを認めることにより、進級した喜びを十分に味わわせ、自信をもって行動できるようにする。

<家庭との連携>

- ・進級による喜びや不安に対して、保護者の思いに共感したり励ましたりして、一緒に子供を支えていくようにする。
- ・1年間の指導の概要や小学校との交流などの予定を伝え、年長の1年間に見通しをもって過ごせるようにする。

環境の構成

- ◆ 生活の場を自分たちで整えていけるような機会の設定や物の準備をする。
 - ・ 幼稚園内でのルール（遊具や用具の扱い方など）の確認、積木や製作コーナーの置き場所を決めること、自分たちでできると考えたこと（飼育動物の世話、昼食時の挨拶、昼食後の保育室の掃除など）に取り組む時間を設ける。
 - ・ 必要な用具などを見えやすい所に置いておく。
- ◆ 年下の子供の気持ちを考えたり自分たちの経験を振り返ったりして、自分ができると考え、実際に接する機会を設ける。（朝の支度や遊びの片付けの手伝い、園内巡りなど）

子供の姿

「もう、年長だもん」

保育者が「うさぎの世話をしようかな」とつぶやくと近くにいた子供が「手伝ってあげようか」「私もやりたい」と言ってくる。「できるかな」と保育者が問い掛けると「（前年度の）年長さんに頼まれたからね。もう年長だもん」と張り切って取り組む。「私もやらせて」とその様子を見て取り組む子供が増えていく。また、「こうやるんだよね」と友達同士で確認したり教え合ったりする様子が見られる。

「年少さん大丈夫かな」

登園後不安で泣き続けている子供の様子をしばらく見ていた年長児がそばに近寄り、「大丈夫だよ」「幼稚園、楽しいからね」と頭をなでたり、「これで遊んでいいよ」と砂場の道具を持ってきて、その子供の前に置いたりする。相手の気持ちを考えて自分なりに言葉を掛けたり行動したりする姿が見られる。

「生活のルールをつくっていく」

年長児になって使えるようになった大型積木。大きくて一人で運ぶと危ないことに気付く、「二人なら運べるね」「これなら大丈夫」と二人で運ぶ。クラスでも取り上げて話したところ「二人で運ぶこと」が約束になる。遊びの中や片付けの際には「一緒に運ぼう」と友達に声を掛けて運んだり片付けたりする。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★飼育動物の動きや状態などに気付いたり親しみを感じたりする。

★文字や数字、記号などに興味をもつ。

▲遊具を安全に扱おうとする。



●友達に声を掛けて一緒に取り組む楽しさを味わったり、力を合わせて取り組んだりしようとする。

●年下の子供に優しさや親しみの気持ちをもつ。

●▲自分たちで約束をつくり出す。

援助のポイント

- ◆ やってみたい気持ちが実現していくように環境を構成したり、約束を確認したりする
年長になった喜びから自分たちでやってみたいという気持ちが大きくなっているため、自分たちの生活を円滑に自信をもって進めていけるようにする。問題になったことはクラス内で取り上げ、必要感をもって話し合ったり共通理解したりしていく。自分たちで生活を進めていけるように当番活動として取り入れ、当番表を掲示したり、生活環境を整えていけるように表示したりする。
- ◆ 年下の子供のためにできることを見付け、行動に移していくきっかけをつくる
年下の子供が困っている様子などについて、気付いたことを知らせ合う場面を設ける。自分たちがこれまで年長児からしてもらったことを振り返り、自分たちにできることを具体的に考えていく。また、かかわったことで相手が泣きやむなど安心した姿を認めて、自信につながるようにしていく。
- ◆ 文字や数字、記号などへの関心を高めていく
物の片付け場所や当番表などの表示に文字や数字、記号などを用いることで、生活の中で身近に感じ、関心をもったり遊びに取り入れたりするきっかけにしていく。

5 歳児 II 期（6 月～9 月上旬）

ねらい		・身近な環境に触れ、自分なりの目的をもち、試したり、考えたりしながら遊ぶ。 ・友達とのつながりを深め、思いを伝えながら遊びを進める。 ・自分なりにめあてをもって、いろいろな遊びに繰り返し取り組む。
学びの芽生え	思考	・夏野菜や草花の栽培を通して、生長の様子に関心をもち、よく見たり考えたりする。 ・身近な出来事に興味をもち、疑問に思ったことを保育者に聞いたり、調べたりする。 ・身近にあるいろいろな素材や材料の使い方が分かり、遊びに生かそうとする。 ・自分なりに楽しみながら砂や水、いろいろな素材の特性が分かり、利用して遊ぶ。
	言葉	・自分の伝えたいことを言葉で伝える。 ・経験したこと、感じたこと、考えたことなどをみんなに分かるように言葉で伝えようとする。 ・物語や昔話などいろいろな絵本に親しむ。
	創造	・素材の組み合わせを楽しみ、工夫して使う。 ・いろいろな楽器の使い方が分かり、友達と一緒に音を合わせる楽しさを感じる。 ・クラス全体での歌、手遊び、ダンスなどを通して、声や動きが合うことの心地よさを感じ、表現を楽しむ。
人とのかかわり	協同	・友達と十分にかかわり、いろいろな遊びを進める。 ・友達と遊びを進めていく中で、イメージが共通になっていく楽しさを感じる。 ・相手に話を聞いてもらい、思いが受け止められたうれしさを感じる。
	信頼	・自分とは違う友達の思いや考えを受け入れようとする。 ・分からないことなどを自分から聞いて、解決を図ろうとする。 ・友達に共感したり、自分の気持ちを伝えたりする。 ・小学校との交流を通して小学生と触れ合うことを楽しむ。
	規範	・園生活のきまりやしてはいけないことの意味や大切さが分かり、自分たちで知らせ合ったり確認したりして守ろうとする。 ・友達と簡単な遊びのルールを確認したり、伝え合ったりして、ルールを意識して遊びを進めようとする。 ・危険なことを自分で判断し、遊んだり生活したりしようとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・自分たちの使った遊具や保育室をきれいにしたり、共有の場をみんなで片付けたりする。 ・汗を拭く、衣服の調整、手洗い、うがいなどを、自分で気付いて行う。 ・1 日の園生活に見通しをもち、状況を受け止めて自分なりに動こうとする。 ・栽培している植物の収穫を喜び、友達と一緒に何でも食べてみようとする。
	運動	・いろいろな運動に興味をもち、様々な体の動きを楽しむ。 ・水遊び、プール遊びなど季節ならではの遊びを通して、思い切り活動する充実感を味わう。 ・遊具や用具など安全に気を付けて遊ぶ。

<指導例>

◇ 野菜を育てよう

- ・世話をしながら生長の変化に気付く。
- ・野菜を収穫し、一緒に食べることを喜ぶ。

船を作ろう

水に浮くもの（スチレン皿、カップ類など）を選んだり、船を進ませるための動力（ゴム、息を吹く、風船など）を工夫したりして、動く船作りを楽しむ。

<援助のポイント>

- ・子供たちが自分たちで考え、やってみたいと思えるような場を多く設定し、その中で自分の力を十分発揮できるように見守る。
- ・子供同士の意見のぶつかり合いや葛藤を通して、相手の思いを理解し、子供が自分で乗り越えられるように励ましたり見守ったりして気持ちを支えていく。

<家庭との連携>

- ・自分の力で生活を進められるように、園と家庭が共に励ましの言葉を掛けるなどして、温かく見守っていく。
- ・子供同士の間で起こった出来事については丁寧に伝え、友達とのかかわりの中で経験していることや、そこで育つことについて理解し合い、見守っていく。

- ・世話をしながら生長の変化に気付く
- ・野菜を収穫し、一緒に食べることを喜ぶ

環境の構成

- ◆ 栽培しやすい植物を選び、収穫を楽しめるようにする。(トマト、ナス、ピーマン、キュウリなど)
- ◆ 自分たちの野菜として親しみをもてるように看板を作ったり、触れやすいようにしたりする。
- ◆ すずんで世話ができるようにじょうろなどを複数用意し、自由に使えるようにしておく。
- ◆ 関心が継続するように気付いたことを全体で話したり、図鑑で調べたり絵を描いたりする機会をつくる。
- ◆ 園内で調理活動を行ったり家庭でも食べる機会をつくったりし、収穫の喜びを感じたり食への関心を高めたりしていく。

子供の姿

「何の野菜の苗」

「この苗は何の野菜か分かるかな」と保育者が尋ねると「トマト」「キュウリだよ」と子供たちは口々に言う。苗に顔を近付け「何かトマトみたいな匂いがする」と気付いたことを伝えに来る。「そう、トマトがなるのよ」と伝えると、「知ってる。緑色なのにだんだん赤くなるんだよ」と今までの野菜の栽培について話をする子供もいる。「大きくなるといいね」と友達と話しながら苗植えを行う。

「下は緑だね」

畑に水やりに行った子供が「先生、トマトが赤くなってきた」とうれしそうに伝えに来る。保育者も見に行き「食べられそうかな」と聞くと「まだ。だって下の方がまだ緑色だもん」と答える。保育者ものぞき「ほんとだ。まだ緑だね。でもどうして下だけ緑なのかな」とつぶやく。

水やりを終えて保育室に戻ると置いてあった植物の本を見付け、友達同士で見始める。しばらくすると「先生分かった。太陽で赤くなるんだって」「だからか。上は赤かったもんね。太陽は下に当たらないもんね」と納得した様子で話し合う。

「トマトが食べられた」

たくさんのミニトマトが収穫でき、みんなで食べることになる。一つずつ配り食べ始めると「私、トマト食べられない」とM児がつぶやく。それを聞いた子供が「え、Mちゃんトマト嫌いなの。おいしいよ」と言う。周囲の子供たちも「おいしいから食べてごらんよ」「私も初めは嫌いだったけど食べられるようになったよ」と声を掛ける。M児が思い切って口に入れ「おいしい」と言う。「すごい。食べられたね」「みんなで育てたトマトはおいしいんだよね」と周囲の子供がM児に声を掛け、M児も笑い、うなずく。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかわり ▲生活習慣・運動

★不思議に感じたことを本などで調べて分かる楽しさを味わう。

★栽培した経験を思い出し、変化を想像しながら、生長を楽しむにする。

★葉の形や色、匂いなどの特徴に気付く。



●同じ物を一緒に食べることを楽しむ。

●友達と一緒に世話をすることで共に生長を楽しみにする。

▲食べ物と健康がつながっていることを知り、何でも食べられるようになることを喜ぶ。

援助のポイント

- ◆ 子供の知っている知識や情報を生かし、関心を継続させていく
世話をしながら気付いたことや今までの経験で知っていることを取り上げてクラス内で伝え合い、みんなで生長に喜びを感じたり期待をもったりしていく。
- ◆ 図鑑や本などを用意しておく
子供の気付いたことに保育者も関心を寄せ、一緒に驚いたり不思議さに共感したりする。また、それらのことを誰もが調べられるようにすることで、分かったことの喜びを共有できるようにする。
- ◆ 食に対する関心をもてるようにする
野菜の収穫や調理活動、みんなで食事をする機会などを通して、食への関心や期待を高めていく。また、野菜のもつ栄養や食べ物と体の関連についても話をするなど、自分の体や健康が食事とつながっていることに関心をもてるようにする。

5 歳児 Ⅲ期（9月中旬～10月）

ねらい		・いろいろな活動を通して、すすんで物事に取り組む楽しさや達成感を味わう。 ・みんなでする活動を楽しみながら、友達のよさに気づき、様々な友達への親しみを広げる。 ・自分の目的に向かって力を出すことの心地よさを感じ、十分に体を動かして遊ぶ。
学びの芽生え	思考	・遊びに必要な物の数、人数、適当な大きさ、長さ、バランスを考えて活動する。 ・遊びに使う簡単な標識や文字、数字に興味をもったり読んだりする。 ・遊びの中で数を数える、量を比べる、いろいろな図形に関心をもつなどする。 ・用途に合った素材を選んで使い、遊びに生かす。
	言葉	・自分の経験したことを話したり、友達の話を聞いたりする。 ・経験したこと、感じたこと、考えたことなどをみんなに分かる言葉で伝える。 ・話の内容を理解し、言葉の使い方、楽しさ、心地よさに気付く。 ・物語や話の続きに興味をもち、クラスの友達と楽しんで聞く。
	創造	・動きや体を意識した表現を楽しむ。 ・経験したこと、感じたこと、考えたこと、イメージしたことなどを、様々な方法で自分なりに表現する。
人とのかかわり	協同	・友達と話し合いながら、自分たちで遊びを進めていく。 ・クラスや同年齢の友達、保育者と一緒に、目的に向かって役割を感じながら活動を進め、気持ちを合わせる心地よさややり遂げた満足感を味わう。
	信頼	・自分の考えと相手の考えの違いに気づき、受け入れようとする。 ・自分の力を発揮し、友達のよさに気付いたり認めたりしながら遊ぶ。 ・自分の身近な人（高齢者、年下の子供、地域の人など）とのかかわりを通して、相手を思う気持ちをもつ。
	規範	・ルール必要性や危険なことについて分かり、意識して行動する。 ・自分の行動の結果を、自分なりに考える。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・所持品の整理や片付けをすすんで行う。 ・健康な生活、食事の大切さなどを知り、自分の体への関心をもつ。 ・1日の園生活の流れを予測したり、見通したりして状況に応じて行動する。
	運動	・いろいろな運動遊びにすすんで取り組み、体を十分に動かして遊ぶ心地よさを味わう。 ・遊びのルールを確かめたり工夫したりして、友達と一緒に集団での遊びを楽しむ。 ・ルールのある遊びを通し、チームで競い合うことを繰り返し楽しむ。

＜指導例＞

◇ 絵本って、楽しいね

本の読み聞かせを通して、お話や文字に興味をもつ。

◇ みんなでつくる運動会

運動会を自分たちで考え、進めていく気持ちをもつ。

割りピン人形を作ろう

体を動かして遊ぶことを楽しんでいる姿を生かし、関節部分に割りピンを使って体の動きを再現できるような人形を作る。運動会の場面を再現した壁面構成などを考え、人形の動きが生かされる掲示の仕方を工夫する。

＜援助のポイント＞

- ・いろいろな活動の中で、子供の挑戦しようとする気持ちを受け止め、目的が明確にもてるようにする。それぞれの頑張る姿をクラスの子供に知らせ、よさに気付かせるとともに、みんなで喜び合う気持ちを高めていく。
- ・友達とのかかわりの中で互いの思いを理解できるように、相手の言葉や表情、行動に自分から関心を向けられるようにする。

＜家庭との連携＞

- ・クラスだよりや保護者会などを通して、目的に向かって自分の力を発揮して取り組んでいく過程を伝え、日々の保育や行事などの様子から、子供の成長を理解し喜びを感じてもらえるようにする。
- ・体を動かすことで様々な意欲が引き出されることを伝え、子供の伸びようとする力を園と家庭の両方で生かしていく。

環境の構成

- ◆ 降園時や弁当前などに、子供が落ち着いてお話を聞くことのできる雰囲気をつくり、保育者が絵本や物語を読み聞かせる。
- ◆ 継続したお話のときは、読んだ部分や話のシンボルとなる絵などを壁面に貼っておき、子供が内容や場面を思い出したり、次にどのようなようになるのかを想像したりしてお話の世界を楽しめるようにしておく。

子供の姿

「続きはどうなるのかな」

降園時、保育者がお話の続きを読もうと幼児の前に座ると、「昨日の続き」「どうなるんだろう」「うまく探検が続けられると思うよ」「でも、動物に食べられちゃうかもしれないよ」などと、話を想像して楽しみにしている。保育者が童話を読み始めると、「わぁ、ドキドキする」「あぁ、よかった」など、感じたことを近くにいる友達と話したり、主人公の気持ちに共感しながら聞いたりしている。

「家でも読もう」

絵本を家庭でも親しめるように、週末に絵本を借りて帰る取組を行う。子供が好きな本を借りて帰るために選んでいると「あっ、先生が読んでくれた本だ。これがいい」「僕も借りようと思ったのに」と、読んでもらった本を再び読みたいと借りていく子供が多い。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかわわり ▲生活習慣・運動

★保育者が読んでくれる本のストーリーに興味をもって聞く。

★本のストーリーの続きを想像する。



★●絵本を読んでもらい、感じたことを友達と話し、思ったことを共感する楽しさを感じる。

★読んでもらった絵本を自分でも手に取って見てみようとする。

援助のポイント

- ◆ **子供が絵本や文字に興味をもち、自分から見てみたいという気持ちになるようにする**
教師が読み聞かせをした絵本や言葉遊びの本などを置いておき、本を見て文字の拾い読みをしたり、言葉遊びをしたりして、自分なりのペースで絵本のお話や文字に興味をもって楽しめるようにする。また絵本の貸し出し日には、借りやすいようにそろえておく。
- ◆ **保護者に、絵本を読み聞かせをしているときの様子や本の題名を伝える**
クラスだより、絵本だよりなどの配布物を工夫したり、降園時に伝えたりするなど、絵本を読んでいるときのクラスの様子、個々の子供の姿を伝え、絵本の読み聞かせの大切さについて保護者への理解を高める。また、絵本の題名を知らせることで、家庭でも絵本を子供に読み聞かせるなど、親子が一緒に楽しみ、絵本に親しむきっかけをつくる。

環境の構成

- ◆ 「今年は自分たちの運動会」という気持ちで取り組めるように、昨年の運動会のビデオや写真などから今年も経験させたいと思っている場面を取り上げてみんなで見る機会をつくり、係活動や競技などに興味をもたせる。また、運動会までの見通しをもてるように、予定表やカレンダーなどを保育室に掲示する。
- ◆ 自分の動きを意識するとともに、友達と動きをそろえることの心地よさや達成感をもてるような場面を設定する。また、見てもらうことを意識しながら取り組めるようにする。
- ◆ それまでの取組の中で、運動会につながるような競技を遊びの中で取り入れるなどして興味をもたせておく。勝敗が分かりやすい競技を工夫したり、ルールを明確にしたりすることで、子供自身が勝敗やルールを意識できるようにしながら、力を発揮して競うことを楽しめるようにする。

子供の姿

昨年の 5 歳児の姿を見て、係の仕事や、5 歳児の取り組んだ競技のことを思い出して、「リレーはすごかったね」「私もやってみたいな」などとつぶやく子供がいる。子供の声を受け止めた上で今年の運動会でしたいことを出し合う時間をつくる。競技の内容や、係のことなどいろいろな意見を受け止め「自分たちで考えた運動会をする」という気持ちを盛り上げる。

- ◆ 子供の気持ちや考えを取り入れながら保育者が決めること（競技種目や内容）と、子供が自分たちで決められること（係の仕事内容や分担）を整理して伝え、子供が決められる「係の分担」について全体で話し合う。どの係も運動会を進めていくために必要な仕事であることを伝え、希望が偏った時にも話し合いで分担できるように助言する。
- ◆ 決まった係と係の子供の名前を紙に書き、自分の仕事や一緒に取り組む仲間を意識できるように、取組の予定とともに保育室に掲示する。

係の分担が決まり、同じ係の友達が集まってどのように進めていくか相談している。

「はじめの言葉」の係は、自分の頑張りたい競技のことをそれぞれが言うことになる。

「ぼく、リレーのことを言うよ」「私もリレーにしたい」と意見が重なったり、「小さいお友達のことも言う人がいなくちゃ」「最後まで応援してください」も言った方がいいよね」と言葉の内容について気付いたことを言ったりする。言葉の内容や分担が決まると、いろいろな職員に聞いてもらい、自信をもって言えるようになっていく。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とかかわり ▲生活習慣・運動

- ▲いろいろな運動遊びに興味をもつ。
- 昨年の 5 歳児の姿に憧れの気持ちを持ち、自分もやってみたいと感じる。

- ★運動会を進めるために必要な言葉や司会の言葉を考えたり表現したりする。
- 友達のを聞いて、受け止める。
- ★自分のすることが分かって、それに合った考えを相手に分かるように話す。
- 友達と協力して取り組み、やり遂げた満足感を味わう。



- ◆ クラス全体で取り組むリズム表現は、力強い動きや、動きがそろそろ気持ちよさを味わえるような内容の題材を選択する。基本的な動きを覚え、個々が踊ることを楽しめるようになった頃、全体としての動きを意識できるように、クラスを半分に分けて見合う時間をつくったり、全体が踊っているところをビデオで撮影し、自分たちの動きを客観的に見る機会をつくったりする。

友達と見合ったり、ビデオを見たりすることを通して、横の移動や手の動きがそろそろきれいに見えることに気付く。「みんなが右から動けばいいんだ」と気付き、右から動くことにする。保育者は右手用のリストバンドを用意し、右を意識できるように工夫する。動きがそろってきたところで保育者が再度ビデオを撮影し全員で見る。「みんなそろったね」「右から動くといいね」と自分たちの動きを確かめ、動きがそろそろ楽しさを感じる。

★左右を意識して動く。

●友達と動きのそろそろ心地よさを感じ、気持ちを合わせて取り組む。

▲全体の動きを意識し、個々に動きを十分楽しむ。



- ◆ 好きな遊びの中でも取り組んできたリレーは、遊び方やチームで競うことはクラス全体で共通になっている。運動会に向けては、走力がほぼ均一になるように、保育者がクラスの人数を考慮して2、3チームに分けておく。

クラスの全員で数回リレーをする。どうしても勝てない青チームのN児とO児が、「バトンを落としたから負けたんだ」「バトンをしっかり受け取らないのはいけない」とけんかになる。すると黄色チームの子供が「私たちだってバトンを落とした人がいたけど、後のみんなが頑張ったから勝てたよ」と言う。そこで保育者は「一生懸命頑張っているけれど、落としてしまうこともあるね。みんなの力を合わせてできることはないかな」と青チームの子供たちに助言し、見守る。P児が「バトンを渡す練習をしようよ。みんなでやったらできるよ」と言い、相手を意識してバトンの受け渡しをする練習が始まる。徐々にチームの気持ちがまとまっていく。

▲いろいろな運動遊びにすすんで取り組み、思い切り自分の力を出す心地よさを味わう。

▲遊びのルールを確かめたり工夫したりして、友達と一緒に集団での遊びを楽しむ。

●友達と競い合う中で、自分の力を発揮したり、友達のよさを感じたりする。



援助のポイント

- ◆ 係の活動を通して、役割を果たすことで自信をもてるようにする

運動会を進めていくのに必要な係を自分たちが担うことで、自分たちの運動会という気持ちをもたせ、年長として園全体をリードする気持ちを育てていく。子供の発想を生かして取り組めるようにし、取組が認められたことを感じられる機会を設けていく。

- ◆ 友達と動きや気持ちがそろそろことを実感させることで、クラスとしての一体感をもたせていく

一人一人がめあてをもって取り組むこととともに、友達の存在をしっかりと意識できるようにしていく。競う競技では、チームの勝利に向けて自分の力を出すことや、一人一人が頑張った力が集まるから勝てることを意識させていく。表現などの取組では、ビデオなどで客観的に自分の動きを確認し、みんなとそろそろ気持ちよさや、かっこいいところを見てもらいたいという気持ちを高めていく。一人ではできないことに取り組む中で、自分にとって友達の存在が大切であり、友達にとっても自分の存在が大切であると感じられるような関係づくりを心掛けていく。

5 歳児 IV 期（11～12月）

ねらい		- 身近な自然や事象を見たり触れたりしながら、好奇心や探究心を深める。 - 共通の目的に向かって、工夫や協力、分担などをしながら遊びに取り組み、達成感を味わう。 - チームで競い合う楽しさを味わいながら、十分に体を動かして遊ぶ。
学びの芽生え	思考	- 遊びに応じて、必要な表示を考えたり文字や数字を積極的に取り入れたりする。 - 今までに経験した遊び方や遊具、素材などを遊びに取り入れる。 - 友達の意見や考えに刺激を受け、自分なりに考えようとする。 - 季節の変化に関心を持ち、遊びに取り入れたり調べたりする。
	言葉	- 理由を添えたり新しい提案をしたりして、自分の考えを分かってもらえるように話す。 - 友達の話の内容を理解しようと、関心をもって聞く。 - 生活の場に応じた言葉の使い方や表現の仕方が分かる。
	創造	- 自分が表現したいことを材料や方法を選び、工夫して作ることを楽しむ。 - 絵本や物語に親しみをもち、想像を豊かにして表現する楽しさを味わう。
人とのかわり	協同	- グループの友達と共通の目的に向けて遊ぶ中で、一緒に進めていく楽しさや、やり遂げた満足感を味わう。 - 友達と考えを出し合って工夫することで、遊びがより面白くなることを十分に味わう。
	信頼	- 自分の考えと相手の考えの違いに気付き、折り合いを付けて進めようとする。 - 友達の中で、自分の力を発揮していく。 - 友達のよさに気付いたり認めたりしながら、遊びを楽しむ。 - 相手の立場に立って、考えたり行動したりしようとする。
	規範	- よいことや悪いことを自分で考えて行動する。 - 活動に合わせてルールを考えたり変えたりしながら、それを守って進める。 - その時にすべきことが分かり、自分から行動する。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	- 所持品の整理や片付けをすすんで行う。 - 共同のものの片付けの必要性を感じ、自分から片付けようとする。 1日の園生活の流れに見通しをもち、友達と声を掛け合って行動する。 - 健康な生活や病気の予防に関心を持ち、意識して行動する。 - 交通ルールや公共のマナーを知り、気を付けて行動する。
	運動	- いろいろな運動遊びにすすんで取り組み、体を十分に動かして遊ぶ楽しさを味わう。 - 遊具や用具、遊びに使う場所など安全に気を付けて遊ぶ。

＜指導例＞

◇ 投げごまを回そう

めあてをもって、繰り返しあきらめずに取り組む。

小学校に行って1年生と一緒に秋遊びをしよう

小学校の教育活動に参加して「ひと・もの・こと」に慣れ、親しむ。

（就学前教育プログラムP.18、19「1年生と一緒に秋遊びをしよう」参照）

＜援助のポイント＞

- グループでの取組の中で一人一人が十分に自己を発揮し、互いのよさや考えに触れて協同して遊べるような機会を意図的に設定する。
- 少し難しいことに向き合い、友達と一緒に工夫して乗り越えていく機会を意図的に作り、達成感を重ねられるようにする。
- 思いや考えの違いに気付き、グループの友達と折り合いを付けながら遊びを進めていくことができるように援助していく。

＜家庭との連携＞

- グループの友達との活動を通して協同性が育まれ、小学校での生活や学習の基礎になることを伝えるとともに、自分の子供やクラスへの理解が深まるようにする。
- 就学に向けて生活習慣などを園と家庭で見直していく機会をつくり、家庭でも意識をもって生活してもらえるようにする。

めあてをもって、繰り返しあきらめずに取り組む

環境の構成

- ◆ 自分のこまに愛着をもち、自ら取り組む気持ちや、色塗りなどの工夫を自分なりにできるように、こまは一人一人に準備する。
- ◆ 「みんなが回せるようになったらクラスでこま回し大会をする」などの目標を立て、全員で目標に向かって取り組んでいく雰囲気をつくる。
- ◆ 色を塗ると回したときに色が変わることなどに気付くように、マジックやテープなどを用意しておく。こまを回す場の工夫や技への挑戦なども楽しめるように積木などの身近な遊具を取り入れて子供と一緒に設定し、繰り返し取り組めるようにする。

子供の姿

Q児は投げごまを見ると「やってみたい」とひもを巻き始める。ひもはすぐにほどけてしまい、うまく巻くことができない。保育者が巻く手の動きを見せたり手を取って力の加減を調節したりしてコツを知らせていくと、少しずつ巻くことが上手になっていく。

保育者や友達の投げる動きをよく見て取り組むうちに、回すことができる。「やったあ。回せたよ」と歓声を上げる。その後、こまに色を付け、友達と一緒に色や模様の変化を楽しむ。

繰り返し取り組む中で、練習している友達に「もう少し引っ張りながら巻くんだよ」「投げるときは手をまっすぐだよ」と、自分の経験を生かしてやり方を伝えている。友達が回せるようになると「先生、Rちゃんも回せるようになったよ」と自分のことのように喜んで報告に来る。

安定して回せるようになると、友達と一緒に「こま勝負をしよう」と対決したり、フープや机、積木などでこま回しの場を作ったりして、いろいろな場で回したりいろいろな技に挑戦したりすることも楽しむようになる。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★回す場によって回り方の違いを感じたり、自分で回す場をつくったり工夫したりして、その違いを楽しむ。

★色を塗ったりテープを貼ったりすることで色が変わることに気付き、試す。

★技を考えたり挑戦したりすることを楽しむ。

▲手や指の力の加減を調整して、こまのひもを巻く。



▲ねらいを定めて、タイミングよくこまを投げ、回す。

●保育者や友達に教わったりまねたりしながら、繰り返し取り組む。

●友達と回せるようになったうれしさを共感し、一緒に回したり、競ったりすることを楽しむ。

●同じ目的の友達と一緒に、頑張っているように挑戦する。

援助のポイント

◆ ひもを巻くコツを、個々が感じて取り組めるようにする

保育者の手の動きや回せるようになった友達のやり方を見せたり、手を取って一緒に巻いたりしながら、子供自身が力の加減を調整できるように個別にかかわるようにする。

◆ 回せるようになったことを共に喜び合う雰囲気をつくる

「〇〇さん回せたね。おめでとう」などと、クラスの中でできるようになった子供を認めたり、友達同士で繰り返し挑戦したり、教え合ったりできるような環境をつくる。「みんなでできた」ことを喜び合うクラスの雰囲気を高めていく。

◆ こま回しの楽しさを感じられるように、回す場や回ったときの変化を楽しめる設定を工夫する

積木やフープなどを用いて回す場を少しずつ難しくしたり、友達と競ったりするなど、こまを回すことで友達とのかかわりが深まっていくようにする。また、色付けなどを行うことでその変化に気付いたり、楽しんだりできるようにする。

5歳児 V期（1月～3月）		
ねらい		・思いや考えを様々な方法で表現し、いろいろな活動に楽しんで取り組む。 ・友達と共に過ごす喜びを味わい、自分たちで遊びや生活を進め、充実感を味わう。 ・自分の体に関心を持ち、心身の成長を喜び合い、就学への期待をもつ。
学びの芽生え	思考	・動植物や自然現象に関心を持ち、考えたり試したりして自然を取り入れて遊ぶ。 ・身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりして遊びに取り入れる。 ・日常生活に必要な文字や数字、標識などに興味や関心を持ち、遊びの中ですすんで使う。 ・小学校での授業の体験などを通して、入学への期待をもつ。
	言葉	・見る、聞く、感じる、考えるなどの経験を、自分なりの言葉で十分に表現する。 ・誰とでもすすんで挨拶を交わしたり、お礼の気持ちを言葉で伝えたりする。 ・話している人に気持ちを向け、自分の経験と重ね合わせながら、関心をもって話を聞く。
	創造	・生活の中の様々なものに自分からかかわり、いろいろな方法で伸び伸びと表現することを楽しむ。 ・みんなで気持ちを合わせ、歌や踊り、劇や楽器の演奏などをする。 ・友達と一緒に共通の目的を持ち、遊びの場や必要なものを作ったり描いたりする。
人のかかわり	協同	・クラスや学年の友達とみんなでする楽しさが分かり、友達との連帯感を感じながら自分の力を発揮する。 ・自分たちで遊びや生活を進める充実感を味わう。 ・共通の目的や課題に向かって、友達と一緒に力を合わせてやり遂げる喜びを味わう。
	信頼	・自分の感じたことや考えたことを友達に分かるように伝え、友達の話を聞いて受け止める。 ・友達の得意な面やよさに気付き、生かし合って遊ぼうとする。 ・小学校との交流などを通して小学生と触れ合い、小学校を身近に感じる。 ・自分のことを認めてもらう経験を通して、自信をもって行動する。
	規範	・自分たちで考えたルールを守って友達と一緒に遊ぶ。 ・今は何をすべきかを自分なりに判断し、状況に応じた行動をしようとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・身の回りの整理や片付けの必要性が分かり、協力してすすんで行う。 ・時間を意識しながら生活に見通しを持ち、場や状況に応じた行動をとる。 ・交通ルールが分かり、守って行動する。 ・行事や経験を通して、伝統的な日本の食文化に関心をもつ。
	運動	・友達と積極的に体を動かす運動に取り組み、競い合う楽しさや、ルールをつくってみんなで遊ぶ充実感を味わう。 ・運動用具の使い方が分かり、活用したり工夫したりして遊ぶ楽しさを味わう。 ・危険な遊び方や場所に気付き、自分で判断して安全に行動しようとする。

<指導例>

◇ 集まってドッジボールをしよう

様々な友達の中で、自分の力を発揮して遊ぶ充実感を味わう。

◇ 友達と一緒に、劇をつくっていこう

同じ目的に向かって友達と相談したり、力を合わせたりしながら活動に取り組む。

小学生と一緒に作品作りをしよう

小学生と協力して作品作りを行うことを通して一緒に表現することを楽しむ。
(就学前教育プログラム P.22、23「みんなで力を合わせて“なかよしタワー”の飾り付けをしよう」参照)

<援助のポイント>

- ・友達と互いのよさを生かし合いながら、試したり、発見したり、考えたりする楽しさを味わい、自分たちで取り組んだ充実感を十分に味わえるようにする。
- ・生活の中で十分に自己発揮をしている姿を認め自信につながるようにかかわる。
- ・様々な友達とかかわる中で、それぞれが成長したことを認め合い、自信がもてるようにする。
- ・就学に向けて期待が膨らむ思いを十分に受け止め、小学校入学への期待感をもてるようにする。

<家庭との連携>

- ・保護者会などで、小学校の生活や学習について具体的に伝える機会を持ち、入学に向けて不安や疑問を解消できるようにする。
- ・具体的な場面を通して子供の成長を喜び合い、入学への期待につなげていく。

環境の構成

- ◆ ドッジボールは1学期から楽しんできた遊びである。修了が近付き、様々な課題活動がある中で、短時間でも自分たちで遊びを進め、友達と遊ぶ満足感が味わえるように、ドッジボールのコートは常設しておく。
- ◆ 自分たちで見通しをもって活動できるように、全員に1日の予定を絵や文字で掲示しておく。
- ◆ 4歳児と5歳児が自然な形で一緒に過ごし、遊びや生活（当番活動など）を引き継いでいけるように、4歳児の担任と連携を図り、活動の内容や時間、場所などを共通理解しておく。

子供の姿

「人数をそろえて」

クラスでの活動が終わり、「ドッジボールする者、この指止まれ」と1人の子供が言うと、7人が集まる。「人数が合わないよ」「じゃあ、○組の人を呼んでくる」と隣のクラスに誘いに行く。人数が偶数になると、グーパーやジャンケンなどでチームを分ける。

ゲームの途中で入る子供には、近くにいる子供が「誰か呼んできて」と伝え、新しい仲間が入ると「Sちゃん入ったよ」「OK」などと伝え合いながらゲームが進む。

「ナイス」「どんまい」

ゲームの中で、同じチームの友達が相手チームに当てると「Tくん、ナイス」とハイタッチをして喜び合う。また、当てられたチームは「惜しかったよ」「そういうのはドンマイ、っていうんだよ」などと励まし合いながら、ゲームが進む。

途中で入ってきた4歳児には、遊び方やルールを優しい口調で伝えている。遊びながら4歳児のことを気に掛け「当たったらこっちに行くんだよ」と知らせる姿が見られる。4歳児はなかなかボールに触れないが、5歳児と一緒に逃げてうれしそうにする。

「ずるいよ」

ゲームの途中で、ボールが両陣地の線上で取り合いになる。どちらも譲らない。「先にこっちに入った」「ずるいよ。先とかなしだよ」とけんかになる。なかなかゲームが再開しないので、子供たちが集まってくる。「いつまでもけんかをしてたら時間がなくなる」「早くやろうよ」という意見が多くなる。ボールを取り合っていた二人は、納得してジャンケンをし、ゲームが再開する。

時間を気に掛けている子供が「もう長い針が5だから終わりだよ」と声を掛ける。「また明日もできるよ」と言いながら、自分たちでボールを片付けて保育室に戻る。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

★人数を意識し、そろえる方法を考え、実行する。

▲時間や生活の流れを意識し、見通しをもって行動する。

▲力いっぱい活動し、チームで競い合うことを楽しむ。



★●年下の子供に合わせて話をしたり、相手が分かるように教えようとしたりする。

●友達と声を掛け合い、一緒に遊びや生活を進める充実感を味わう。

▲投げる、捕る、走る、かわすなど様々な体を動かす。

援助のポイント

◆ 様々な友達の中で力を発揮し、一緒に遊びを進められるようにする

共通のルールの下で、他のクラスや、異年齢の友達と集って遊ぶ機会や時間を保障する。気の合う友達だけではなく、様々な人の中で力を発揮し共に活動を進めることは、小学校での生活への自信につながっていく。保育者は、一人一人の参加の仕方を把握するとともに、状況に応じて自分たちで進めていく姿を十分に認めていく。また、仲間の一員となり楽しさを共感することも大切である。

◆ 生活に見通しをもって活動できるようにする

一人一人が興味をもって、日や週の見通しが分かって行動できるように、表示を工夫する。友達同士で声を掛け合って行動することを十分に認め、自分たちで生活を進めている充実感を意識付け、成長した喜びや就学への期待につなげていく。

同じ目的に向かって友達と相談したり、力を合わせたりしながら活動に取り組む

環境の構成

- ◆ 共通の目的に向かって互いの思いやイメージを伝え合い、共感することができるように、話し合いを行う時間を十分に保障する。互いの意見が伝わりやすく集中できるような話し合いの場を工夫する。
- ◆ 仲間に認められたりクラスの友達のよさを感じたりしながらみんなで取り組む楽しさを共感できるように、相談して決まったことを発表したり見合ったりする場を設ける。
- ◆ イメージしたことを表現する方法を試したり工夫したりしながら実現できるように、必要な材料や今まで経験した物を用意し、子供自身が選んだり組み合わせたりしながら活動に取り入れていくように準備しておく。

子供の姿

発表会の出し物で劇をすることが決まり、劇遊びの時間にいろいろな役になってみることで、やってみたい役を考えたり、役の面白さを感じ始めたりしている。

ヘビ役の子供たち4人が登場の仕方について話し合う。U児は「並んで長くなる」、V児は「ばらばらの方がいい」、W児は「本当のヘビはこうだよ」と個々にイメージを伝える。しかし、なかなか意見がまとまらないため、保育者がU児に「それはどのように動くの」と聞いてみる。すると「こうやるの」とV児、W児、X児を並べ、自分が先頭になり一列になってやってみる。すると他の子供も「僕のはこうやるんだよ」と動きながら伝え合う。

実際に出されたイメージの動きをみんなでやってみると、「一緒にやると面白かった」と言う感想が多く、「並んで長くなる」というU児の表現に決まる。

- ◆ 保育者はヘビの表現の方法が決まったので他の役の友達に見てもらうことを提案する。他の役の子供たちに「ヘビ役のみんなが相談して、こんなやり方に決まったよ」と伝える。見た子供たちから「いいと思う」「みんなでやっていて面白い」「長くてヘビらしかった」などの感想が出る。それを聞いた役の子供たちは、「いいって言ってくれてうれしかった」と見てもらった反応を受け止め、役の友達と喜び合う。保育者も「みんなでいろいろやってみて決めてよかったね」と声を掛ける。みんなに認められた喜びから、その後も同じメンバーがヘビ役を選び、一緒に演じることを楽しむ。

ヘビ役の子供たちで集まったある日、V児が「みんなでこうやってみるのはどう」と、並んだ列の前から体を順番に動かしてみようことを提案する。やってみるとクネクネした動きに感じたようで、U児は「ヘビもそうや

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

- ★役の動物についてのイメージや自分の知っていることを話す。
- ★役の動きをイメージすることを楽しむ。
- ★そのものらしい動きをしようと、イメージしたことを体を動かして表現する。
- ★●自分の意見を相手に分かる方法で伝えようとする。
- ★●友達と自分の意見を調整しまとめていく。
- ★●共通の目的に向かって同じ思いで取り組む楽しさを感じる。



- ★よりヘビらしい表現になるように工夫し、動いてみる。

って動くよね」、X児は「そうだね」と役の仲間に受け入れられる。それを見ていた他の役の子供が「それ、面白いね」と声を掛けると、「V君が考えたんだよ」とW児が笑顔で返し、へびらしい動きを楽しむ。

他の役の子供たちが役に必要な大道具や小道具を作り始めたことに気づき、「へびは草のあるところにいるから草を作りたい」と保育者に伝えに来る。そこで「何で作る」と尋ねると、W児が「前に段ボールで作ったことがあるから段ボールがいい」と言う。すると他の幼児も「そうだね」「段ボールでいいと思う」とW児の意見に賛成する。

- ★●友達のよさを言葉で認める。
- 友達の考えを受け入れ、一緒に取り組みながら楽しさを共感する。
- 認められたことを喜び、自信をもつ。

- ★へびについて知っていることを伝え合い、取り入れる。
- ★今までの経験から劇遊びに必要なものを考える。

- ◆ 素材の置いてある所で、自分たちのイメージに合う物を探し始める。あれこれ手に取りながら相談していたが、「これにしよう」と大きな段ボールを持って行く。「それに決めたの」と保育者が聞くと「これだったら隠れられるから」と自分たちの前に段ボールを掲げ、隠れて見せる。

段ボールに草の形を描きながら「隠れて出てきたらびっくりするんじゃない」「そうだね」「それから草だから緑に塗ろうよ」「いいね」と思い付いたことを伝え、受け入れ合いながら作業が進んでいく。

- ★お話に合わせてイメージを膨らませていくことを楽しむ。
- ★草らしくするための方法を考える。
- イメージしたことを友達と共感しながら実現することを楽しむ。

援助のポイント

◆ 共通の目的に向かって意見がまとまる楽しさを味わえるようにする

一人一人が思いを出し合って話し合いを進めているかを把握しながら、保育者は見守っていく。意見をまとめていく過程で子供たちが調整している言動を、保育者が具体的に言葉に表して整理しながら、友達のよさや、協力する大切さを伝えていく。また、それぞれの意見が生かされたり、対立しても折り合いを付けたりすることで、よりよくなることを実感できるようにする。そのためには話し合いの場や時間を十分に保障していく。

◆ みんなで取り組んだ喜びや達成感を味わえるようにする

グループ内やクラス内で決まったことを見合う場を設け、同じ目的に向かって取り組んできたことが形となっていくことや、見ている人たちに認められたり楽しんでもらえたりしたことが感じられるようにする。一緒に力を合わせて取り組んできたことや目的が達成されたことの喜びを共感できるようにする。

◆ 友達と一緒に表現する楽しさを味わえるようにする

子供が役になりきってそのものらしく表現する中で、言葉や動きを楽しんだり工夫したりしている点を取り上げ、よさが伝わり合うようにする。また、友達と一緒にだからこそできる楽しさを十分に認め、協力する意欲や充実感を高めていく。

教材や素材、今まで経験した物や方法などを用いて、友達と一緒に劇遊びに必要な物を工夫して作ることで、よりそのものらしく表現できる楽しさも味わえるようにする。そのため、予想される教材を用意したり、イメージに見合った物を提示したりする。

<参考> 0歳児から2歳児の発達過程

保育所保育指針では、発達過程に応じた保育として「三歳未満児については、一人一人の子どもの生育暦、心身の発達、活動の実態等に即して、個別的な計画を作成すること。三歳以上児については、個の成長と、子ども相互の関係や協同的な活動が促されるよう配慮すること。」と示されています。

そのため、ここでは、保育所や認定こども園において、3歳未満児の個別的な計画を作成する際に参考となるよう、0歳児から2歳児の発達過程を例示しました。

0歳児の発達（新生児～56日頃）		
学びの芽生え	思考 言葉 創造	・機嫌のよいときに、周囲に反応したり、体の動きに伴って「アーアー」「ウーウー」など喃語が表れたりする。 ・明るい光や音がする方に反応を示す。
人とのかわり	協同 信頼 規範	・あやされると、機嫌よく笑ったり声を出したりする。 ・大人に抱かれたり、受容されたりする心地よさを感じる。 ・大人にあやされて泣きやむ。 ・快（授乳後、目覚め、入浴後、あやされているときなど）と不快（空腹、眠い、おむつが汚れているときなど）の様々な感情を、泣くなどの行動や表情で表す。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣 運動	・母乳やミルクを飲むとき、排せつ時以外はほとんど眠っている。 ・母乳やミルクをよく飲む。 ・眠りに入るようなまどろんだ状態のときや、浅い眠りの状態のときに、口角が上がってほほえむ。（自発的微笑・生理的微笑） ・手指を口に持っていき、なめる。 ・おむつを替えるときや入浴時に手足を動かす。 ・哺乳びんを支えるような動きを見せる。 ・物を持たされると、固く握りしめる。 ・自然に寝ている姿勢は、顔をいづれか一方に向け、腕は肘で曲げてやや握った状態である。 ・目覚めているときは、両手を身体横に伸ばしたり、手足を盛んに動かしたりする。 ・新生児の視野にものを差し出し、それを動かすと目で追う。 ・保育者の顔など目の前のものをじっと見つめる。 ・大人のまねをして舌を突き出すなどの模倣行為を行う。 ・物音にびくつとしたり目を覚ましたりする。

<援助のポイント>

- ・身体的な欲求が満たされるとともに、温かな働き掛けで満足感や安心感を味わえるようにする。
- ・新生児は心身ともに未熟で抵抗力が弱いので、清潔で安全な環境づくりや、衛生管理に努める。
- ・視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚といった諸感覚や感受性が芽生えるため、様々な感覚に働き掛けるようにする。
- ・新生児の動きや表情を読み取り、その子供のリズムやテンポに合わせて、会話を楽しむようなつもりで働き掛ける。その際、正面からかわるようにする。
- ・乳児突然死症候群(SIDS)のリスクを防ぐため、仰向けの姿勢で子供を眠らせるようにし、一定の間隔で寝ている姿勢を確認する。また、柔らかいまくらや重い毛布等、呼吸を妨げるようなものは使用しないようにする。
- ・皮膚を乾いた状態に保つため、おむつを頻繁に取り替えたり、授乳やよだれによる口の周りの汚れを、こまめに拭き取ったりする。

<家庭との連携>

- ・育児の楽しさや大変さなど、保護者の気持ちに寄り添い、支える。
- ・様々な理由で泣き、温かく対応してもらうことで愛着が育ち、コミュニケーションにつながっていくことを伝える。生理的な欲求を満たすとともに、声を掛けたり、スキンシップをしたりするなどの対応の仕方や大切さを知らせていく。
- ・乳児突然死症候群(SIDS)の予防など、この時期に気を付けることを知らせる。

0歳児の発達（56日頃～3か月頃）

学 び の 芽 生 え	思考 言葉 創造	・鼻から出ていた音声は喉からも出るようになり、母音に喉子音が結び付いた発声も聞かれるようになる。 ・光（明るい光、優しい光など）に反応する。
人 と の か か わ り	協同 信頼 規範	・不快感が芽生え、空腹になったりおむつが汚れたりすると、目覚めて泣く。 ・抱かれて、泣きやんだり安心した表情になったりする。 ・音や話し声のする方に顔を向けようとする。 ・あやしたり話し掛けられたりするとよく笑うようになる。
生 活 習 慣 ・ 運 動	基本的な 生活習慣 運動	・1日の中で眠りと覚醒が何度も繰り返され、昼夜の区別がはっきりしない。 ・よく眠っているように見えても、脳波の半分は眠っていない状態なので、眼球が動いていたり、顔や手指がピクピク動いたりする。 ・舌の前後の運動で、ミルクをよく飲むようになる。 ・手の指を硬く結んでいる状態から、徐々に握りがゆるくなり、手のひらに置かれたものを握るようになる。 ・首がすわり始める頃は、仰向け姿勢で正面を向くようになり、自分で少し首を動かして左右を見回すようになる。 ・うつ伏せの姿勢にすると、頭を少し持ち上げる。 ・引き起こしに頭が少しずつついてくるようになる。 ・仰向け姿勢で手と手、足と足を触れ合わすなど、正中線に向けて内側方向に対称的な動きをするようになる。 ・手と手、手と口の協応ができ始める。 ・周囲の動くものを目で追う。

＜援助のポイント＞

- ・保育者の愛情豊かな受容によって、情緒が安定していく。担当の保育者を決めて、愛着関係を育むとともに、一人一人の生活リズムに合わせて生理的要求を満たし、気持ちよく過ごせるようにする。
- ・温度変化に弱く、体温の失調（発熱、低体温）や新陳代謝の異常を起こしやすいので、細やかな室温、換気、湿度調節をする。音や光などを考慮し、静かな環境で安定して過ごせるようにする。
- ・病気に対する防衛機能が未発達なので衛生面に留意し、体調の小さな変化に気付くようにする。
- ・一人一人の授乳時間や間隔を把握し、おおむね3時間ごとを目安に授乳する。
- ・自分で寝返りをするようになるまでは、仰向けで寝かせ、睡眠中の窒息、突然死などの事故予防をしっかりと行う。
- ・2か月頃から腹ばい姿勢にして過ごす時期が始まる。腹ばいや寝返りの始まる時期は、特に危険なため、目を離さないようにし、下は硬い状態にする。

＜家庭との連携＞

- ・連絡帳のやり取りやお迎えの時間に温かく対応し、保護者との信頼関係をつくっていく。
- ・家庭での様子を聞いたり、保育中の睡眠、授乳、排せつ、機嫌、行動の様子などを伝えたりして、情報を共有していく。
- ・ミルクの量や授乳にかかる時間は個人差が大きいので、個々に合わせて哺乳びんの乳首のサイズなどを、保護者と確認していく。

0歳児の発達（3か月頃～6か月頃）

学 び の 芽 生 え	思 考	
	言 葉	・唇を閉じて音を出せるようになり、音節の繰り返しが始まる。
人 と の か か わ り	創 造	
	協 同 信 頼 規 範	・身近な人の顔が分かり、あやされると声を出してはしゃぐ。 ・初期の人見知りが始まる。 ・自分から相手にほほえみかけるようになる。 ・周囲の親しい大人が分かるようになり、泣いても保育者があやすと安心して笑顔になる。
生 活 習 慣 ・ 運 動	基 本 的 な 生 活 習 慣	・胃の入口がしっかりして、授乳後の溢乳が減ってくる。 ・舌の前後の運動に加えて顎の動きを連動させて、母乳やミルクを飲む。 ・よだれが出始める。 ・果汁やスープなどの準備食を開始する。 （目安は、授乳リズムが3時間半～4時間、体重が7kg前後になり、支え座りをするようになる頃）
	運 動	・味覚が芽生え、味の違いが分かり始める。 ・眠っているときと目覚めているときがはっきりと分かれ、昼夜の区別が付き始めてリズムが定まってくる。 ・体温調節は安定し始めるが、まだ、周りの温度の影響を受けやすい。 ・腹ばいにすると肘で上半身を支えることから、徐々に上体を持ち上げるようになる。 ・目と手の協応が始まり、見たものに手を伸ばすようになる。 ・体の正中線上で両手を絡ませる。 ・親指が外側に出て、物をしっかりと握れるようになる。 ・足で空間を蹴るようにして腰をひねり、寝返ろうとする。 ・引き起こしに頭が遅れないで上がり、両足も対称的に腹部に引き寄せるようになる。

<援助のポイント>

- ・必要に応じてクッションなどを用意して、腹ばいや一人座りを援助していく。
- ・着替えや沐浴、おむつ交換などで身体を健康を保ち、「快」の感覚を育てる。
- ・なめる、かむ、しゃぶるなどで感覚器官が発達する時期なので、玩具などで十分に満足できるようにするとともに、使う物は個別にし、使ったらその都度、清潔にしておく。
- ・個人差に応じて睡眠がとれるように環境を整える。
- ・優しい言葉、声、まなざし、笑顔での働き掛けなどを通して、子供の情緒の安定や人との心地よいかかわり、周囲への関心を育んでいく。

<家庭との連携>

- ・昼は起きて明るい所で生活し、たっぷり遊んでよく飲み、夜は暗くして眠るなど、生活のリズムをつくっていく大切さを、個人差に応じて伝えていく。
- ・成長の変化が目覚ましい時期である。保護者と成長を喜びながら、家庭で気を付けること（子供の手の届くところに危険な物は置かない、子供は大人が予想する以上に動くことを考慮する、起きているときには応答的にかかわる、準備食の内容やタイミングなど）を知らせ、保護者が安心して子供の動きたい欲求に応えたり、離乳食への移行を行ったりできるようにする。

0歳児の発達（6か月頃～9か月頃）

学びの芽生え	思考 言葉 創造	・物を落とすなど、気に入ったことを繰り返して遊ぶ。 ・名前を呼ばれると振り向く。 ・引出しの中の物を引っ張り出して遊ぶ。 ・言われていることをだんだんと理解できるようになってくる。 ・「アバババ」など言葉を繰り返すことで音をつなげて話す。 ・大人の口元を見てまねる。 ・戸外に出ることを喜ぶ。 ・機嫌がよいと一人遊びをする。 ・曲に合わせて体を動かす。 ・周囲の物を触ってみたり口に持っていったりする。
人とのかわり	協同 信頼 規範	・人のまねが上手になってくる。 ・同じことを何回も繰り返すことを喜ぶ。 ・知っている人を見ると抱いてもらいたがる。 ・いやいや、バイバイなどの動作をする。 ・要求があると声を上げる。 ・人見知りをしたり後追いをしたりする。 ・つくり笑いや愛想笑いをする。 ・名前を呼ばれると応じる様子がある。 ・人の動きを目で追う様子がある。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣 運動	・大人が手を添えるとコップを持って飲む。 ・椅子に座って食べる。 ・前歯で食いちぎって食べたり、舌を使ってつぶして食べたりする。 ・午前と午後、大体同じ時間に寝起きをするようになる。 ・背中を反らして手足を上げる。（グライダーポーズ） ・うつ伏せの状態で爪先で床を蹴り、反対の手で体をねじってお腹を中心に左右に回転する。（ピボットターン） ・寝返り、はいはい、お座り、つかまり立ちなど活発に動くようになる。 ・支えて立たせると足を踏ん張る。 ・指先で物をつまんだり、手を打ち合わせたりする。

＜援助のポイント＞

- ・安全で活動しやすい環境の中で、はう、つかまり立ちをする、座るなどを十分にできるようにする。
- ・食事に対する意欲が徐々に見られるようになってくるので、手に持てる物は持たせるようにする。また、保育者が先回りをせず、食べたい物への指差しなど子供からの要求を待ち、子供の意思や意欲が高まるようにしていく。
- ・触ったものを口に運ぶ時期なので、安全と衛生に留意しながら、十分な探索活動ができる環境を整える。
- ・遊びや生活を通して具体的に身の回りの物の名前、動作などを語り掛けていく。
- ・人見知りや後追いをする時期である。子供が不安を表したときは、抱きしめるなど温かく受け止めて子供が安心感をもてるようにする。

＜家庭との連携＞

- ・ピボットターンの際、爪先で蹴るという行動をたくさんすることが、その後のはいはいや歩行に向けて重要になる。また、衛生、安全面に気を付け、子供が十分に動く楽しさを味わうことの大切さを伝える。
- ・離乳食を進めるに当たり、家庭でもアレルギー反応などがないか確認してもらい、連携を取り合う。
- ・母子免疫が消滅する時期であり、発熱など病気感染が頻繁になるため、病気の予防法や知識などの保健指導を行っていく。

0歳児の発達（9か月頃～12か月頃）

学 び の 芽 生 え	思考 言葉 創造	・「いないいないばあ」をして、見えなくなった大人が出てくるのを期待する。 ・自分でやってみたい気持ちが芽生える。 ・「パパ」「ママ」などの発語が見られる。 ・要求したり援助を求めたりするときに、周りの関心を引こうとして発語する。 ・容器に物を入れる、かぶせる、載せる、合わせるなどをするようになる。 ・自他を区別できるようになってくる。 ・物を布などで隠すと中身を確認しようとする。 ・高さ、深さ、奥行き、裏側などを探ろうとする。 ・クレヨンを持って左右の往復運動をし、なぐり描きが出始める。
人 と の か か わ り	協同 信頼 規範	・相手のしていることに興味を示し、自分もしようとする。 ・相手から「ちょうだい」と求められると物を渡そうとする。 ・物を打ち合わせたり積んだりする。 ・他の子供が持っている物に手を出したり、相手に物を渡したりする。 ・いやいやをしたりバイバイをしたりする。 ・褒めてもらおうと喜んだり、叱られたことが分かったりするようになる。 ・大人の言葉のほとんどを理解し、要求された行動をしようとする。
生 活 習 慣 ・ 運 動	基本的な 生活習慣 運動	・手づかみで食べようとする。 ・コップを両手で持って飲む。 ・大人がスプーンを持つ手に、手を添えてくる。 ・起きている時間が長くなり、時間帯が少しずつ1回寝に近づく。 ・つかまり立ちをしたり、伝い歩きをしたりする。 ・手押し車や箱などを押しながら歩く。 ・意図的に物を投げたり置いたりする。 ・両手で物を持ち、手渡す。 ・はいはいや高ばいで階段の上り下りをする。 ・はいはいからお座りが自由にできるようになってくる。 ・臥位、座位、つかまり立ち、伝い歩きの間で自由に姿勢を切り換えることができ始める。

＜援助のポイント＞

- ・手、指、足腰を使って探索活動を十分にできるようにする。
- ・自分の意思をもち始め自分でやりたがる時期なので、子供の主張をある程度かなえてから、大人の意図する方向に気持ちを向けていくようにする。
- ・保育者が子供の発見を言葉にしたり、物を媒介としたやり取りを行ったりする中で、子供のできた喜びと一緒に感じ、表情や言葉で伝える。
- ・散歩に出掛け、自然や生き物に触れて楽しむ機会を多くもち、子供の関心を広げていく。

＜家庭との連携＞

- ・つかまり立ちや伝い歩きをするようになってくるので、しりもちや転倒などに気を付け、危険のないように注意する。
- ・そしゃく能力が獲得できるよう、「かみかみゴックン」と言いながら大人が口を動かして見せるなど、具体的な方法を知らせる。
- ・はいはいが十分ではない子供には歩かせることを急がず、はいはいの経験を重ねる大切さを発達の見通しと合わせて伝える。
- ・動いても腹部が出にくい、ひっかかりにくい、伸縮性があるなど、この時期の体の動きに応じた動きやすい服装を知らせる。

1歳児の発達（1歳頃～1歳3か月頃）		
学びの芽生え	思考 言葉 創造	・2個の積木を積む、小さい物を拾って穴に入れるなど、目と手を協応させた細かい動きができるようになってくる。 ・小さな虫を見付けると触ってみようとする。 ・玉通し、型落としができるようになってくる。 ・物を出したり、入れたりすることを喜ぶ。 ・簡単な言葉と動作が結び付くようになる。 ・音楽に合わせて体を動かす。
人とのかわり	協同 信頼 規範	・物を介しての保育者とのやりとりを、保育者の反応を楽しみながら、何度も繰り返す。 ・いつも一緒にいてくれる保育者に甘えたり、思い通りにならないと泣いて助けを求めたりする。 ・保育者のすることに興味をもったり、まねをしようとしたりする。 ・ほしい物があると、「ちょうだい」としぐさや言葉で伝えようとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣 運動	・昼寝は1日1回となる。 ・完了食になる。 ・スプーンを持って自分で食べようとする。 ・こぼすことも多いがコップを持って飲めるようになる。 ・衣類の着替えのとき、手足を入れようとする。 ・つかまり立ち、伝い歩き、はいはいで階段の上り下りをする。 ・一人で立てるようになり、何度も繰り返す。 ・自分で1歩を踏み出してみたり、両手を上げて2、3歩歩いたりする。 ・箱車を押して歩く。 ・手の指が細かく動くようになり、親指と人差し指でつまめるようになる。 ・おもちゃのラッパを吹いて音を出すなど、吹く力が付いてくる。

<援助のポイント>

- ・空腹を感じて食事をしたり、眠くなって昼寝をしたりするなど、欲求が満たされて満足することの実感を重ねられるように、子供一人一人の状態を把握して対応する。
- ・一人遊びがじっくりと楽しめるような空間や玩具を用意しておく。
- ・言葉や動作を子供が模倣しやすいようにゆっくりと大きく表すようにし、子供の言葉に丁寧に対応していく。
- ・ままごとなど、簡単な言葉や動作のやりとりのできる遊びを、十分に取り入れていく。

<家庭との連携>

- ・伝い歩きや一人歩きを始めるので、転倒に気を付けながら、動く楽しさや探索する楽しさを十分に味わうことの大切さを伝える。
- ・離乳食への移行の際は、卵など初めて食べる食材は家庭で試してもらって状況を伝えてもらうとともに、そしゃくや飲み込みの状態を確認しながら完了食へ移行していく。
- ・空腹を感じて催促するなど欲求を表すことの大切さを伝え、大人が先回りしすぎずに待ち、子供が自分の意思を表す機会を大事にしてもらえるようにする。
- ・睡眠時間や食事の時間、食べた量などを家庭と連絡し合い、安定したリズムで生活できるようにしていく。

1 歳児の発達（1 歳 3 か月頃～1 歳 6 か月頃）

学 び の 芽 生 え	思考 言葉 創造	・障害物をよけて回り込んだり方向転換したりして、行きたい場所に行くことができる。 ・歩行が安定し、行動範囲とともに興味が広がり、探索活動が盛んになる。 ・ティッシュペーパーの箱の中に入っているものを全部出すことを楽しむ。 ・積木を 3 個以上積む。 ・ものの名前を覚え、片言が盛んになる。 ・自分の名前や保育者の名前が分かってくる。 ・たくさんの絵の中から「うさぎ」「リンゴ」など聞かれたものを探し、見付け出す。 ・お気に入りの絵本やお気に入りのページを何度も読んでほしがる。 ・保育者のまねをしながら、よく聞く歌と一緒に歌う。 ・歌に合わせて手をたたいたり、太鼓や鈴など音の出る玩具を鳴らしたりする。
人 と の か か わ り	協同 信頼 規範	・人形をトントンとしながら寝かせる、おんぶをする、食べさせるまねをするなどして遊ぶ。 ・ままごとをして食べるまねをしたり、保育者に食べさせようとしたりする。 ・保育者と一緒に触れ合い遊びをすることを喜ぶ。 ・自分の要求を簡単な言葉や指差し、しぐさなどで伝えようとする。 ・自分の思い通りにならなかったり、自分のほしい玩具を他の子供が使っていたりしたときにかみついたり、ひっかいたりすることがある。 ・いけないことをして注意をされると、泣いたり、しょんぼりしたりする。 ・泣いている子供がいると顔をのぞき込んだり頭をなでたりする。
生 活 習 慣 ・ 運 動	基本的な 生活習慣 運動	・スプーンを持って自分で食べようとする。 ・好きな食べ物、嫌いな食べ物が出てくる。 ・両手でコップを持ち、ほとんどこぼさずに飲む。 ・おむつではあるが、排せつした後で動作や表情で知らせることがある。 ・衣類の着替えのとき、ボタンを外してもらおうと自分で脱ごうとする。 ・歩行が安定し、歩くことが楽しくなる。 ・後ずさりで歩く。 ・ソファなど少し高い所によじ登る。 ・階段を手すりにつかまって足踏み式で上る。 ・滑り台をよじ登ってうつ伏せで滑る。

＜援助のポイント＞

- ・保育者に自分の気持ちを安心して表し、受け止められる心地よさを感じられるようにする。
- ・子供が自由に探索活動を楽しめるようにし、一人一人の欲求が十分に満足できるようにする。また、戸外では、土、砂、石、水、木の葉や虫等の自然物に触れ、諸感覚を十分に働かせる経験を重ねていく。
- ・押す、引っ張る、転がすなどの全身運動や、つまむ、ちぎる、たたく、握るなど手を使う遊びを十分に経験させていく。

＜家庭との連携＞

- ・行動範囲の広がりとともに探索活動が盛んになる時期であることやその意味を伝え、安全には十分に配慮しながら子供の興味や関心を見守り、子供の発見に共感していくことの大切さを伝えていく。
- ・子供と一緒に楽しく食事をする中で、興味をもたせたり食べ方を見せたりすることの大切さを知らせる。その際、家庭や子供の状況に応じて無理なく進められるよう、支えていく。

1歳児の発達（1歳6か月頃～1歳9か月頃）

学 び の 芽 生 え	思考 言葉 創造	・積木を自動車や電車に見立てて遊ぶ。 ・カップに砂を入れたり出したりして遊ぶ。 ・発語が盛んになる。 ・保育者の言葉を聞いてところどころ繰り返したり、言葉の語尾をまねたりする。 ・保育者の簡単な言葉掛けや指示が分かるようになる。 ・フックに物を掛けたり外したりする。 ・自分の手に合った容器のふたの開閉をしようとする。 ・絵本のページを一枚ずつめくる。 ・粘土をちぎったり丸めたりする。 ・左右に大きく手を動かし、線を描いたり紙いっぱいにごろごろと描いたりする。 ・水に触れることを喜ぶ。
人 と の か か わ り	協同 信頼 規範	・保育者を相手に「どうぞ」「ありがとう」などとやり取りをする。 ・名前を呼ばれると「はい」と応える。 ・ほしいものがあると「ちょうだい」と言って保育者にもらいにくる。 ・「待ってね」と言われると、少しの間待つようになる。 ・遊んだ後の玩具を保育者と一緒に決まった場所に片付ける。 ・自分でできないときは、指を差したり助けを求めたりして保育者に伝えようとする。 ・友達が同じような玩具を使っていると取り合いになることもある。 ・自分の物や友達のをよく覚えていて、区別が付くようになってくる。
生 活 習 慣 ・ 運 動	基本的な 生活習慣 運動	・こぼしたりはするが、スプーンを使って自分で食べようとする。 ・排尿したときに、表情やしぐさで知らせたり「チーチー」と言葉で言ったりする。 ・ボールを両手で持って投げたり転がしたりして遊ぶ。 ・歩き方が速くなり、歩行での転倒が少なくなる。 ・後ずさりで歩く。 ・股のぞきができるようになる。 ・くぐったりまたいだりして遊ぶ。 ・滑り台を滑る。 ・水道の蛇口をひねる。

<援助のポイント>

- ・保育者に甘えたり、言葉やもののやり取りをしたがったりする姿を十分に受け止めて温かく応じ、安心感や信頼感をもてるようにする。
- ・周囲の物に関心を持ち、いろいろな物に触れて遊びたがる時期である。安全への対応を十分に行った上で、子供の行動をむやみに禁止せずに動きや探索の体験を見守っていく。また、全身を使って遊ぶ経験ができるようにする。
- ・一人遊びが十分にできるように、興味をもった遊びを楽しめる場や物、時間の保障をする。

<家庭との連携>

- ・規則正しい食事と睡眠は子供の心と体の成長にとっても大切であるため、整った生活リズムで過ごしていけるよう伝えていく。
- ・おむつがぬれていないときはトイレに誘い、便器に座ってみたり排尿したりする経験を少しずつ重ねていけるように伝える。
- ・好奇心旺盛で何でもやってみたい時期なので、目を離さず、身の回りの安全に十分気を配っていくことを伝える。

1歳児の発達（1歳9か月頃～2歳頃）

学 び の 芽 生 え	思考 言葉 創造	・物事への興味が高まり、何でも自分でやってみようとする。 ・身の回りの物に名前が付いていることが分かってくる。 ・物を容器に集める。 ・小さな積木を積む。（8個程度） ・衣服の着脱に興味を持ち始める。（ボタン、スナップ、ファスナー、靴下等） ・大人の言ったことや言葉の調子をそのまままねようとする。 ・語彙が増え、二語文を話すようになる。 ・保育者や友達の名前を言うようになる。 ・ぐるぐると丸を描いたり曲がるが縦線を描こうとしたりする。
人 と の か か わ り	協同 信頼 規範	・大人に追いかけられるのを好み、後ろを振り返りながら喜んで逃げる。 ・子供同士で手をつないだり、つながれたりする。 ・友達のしぐさや行動をまねて同じように楽しもうとする。 ・自我が芽生え、保育者の促しに「いや」「ダメ」と拒否をするようになる。 ・友達の持ち物が分かり、帽子や靴などをその子に手渡そうとする。 ・自分の意思をはっきりと示すようになり、物の取り合いなどが生じるようになる。
生 活 習 慣 ・ 運 動	基本的な 生活習慣 運動	・こぼしながらもスプーンを持って、自分で食べようとする。 ・1回の排せつ量が多くなる。 ・一定時間昼寝をする。 ・歩行が安定し、長い距離を喜んで歩く。 ・その場で跳ぶことができる。 ・手すりや横の壁につかまりながら一段ずつ、時には足を交互に出して階段を上る。 ・斜面や段差の上り下りをする。 ・しゃがんで遊ぶ。 ・ボールを蹴る。

<援助のポイント>

- ・手、足、全身の運動機能の発達を見極め、斜面や段差を上る、でこぼこ道を歩くなど個々に合った運動遊びが経験できるようにする。
- ・自分の思い通りにいかないと泣く、拒否する、かみつくなど感情的に混乱する場面が多い時期である。言葉だけで言い聞かせるよりも子供の気持ちを全面的に受容し、受け止められている安心感をもたせ、情緒の安定を図るようにする。
- ・指差しや身振り、片言で伝えようとしていることを受け止めて言葉にして返し、子供が気持ちを伝える喜びや言葉を使う楽しさを感じられるようにする。

<家庭との連携>

- ・子供の成長の表れとして拒否の言葉が多くなるが、子供自身が選んで決められるように「どうしたいの」「どっちがいいの」など大人の提案を投げ掛け、待つことも方法の一つであるなど、具体的な対応の方法を伝えていく。
- ・片言の話に応答したり会話をしたりすることが言葉の獲得や気持ちのつながりになっていくことの大切さを伝える。

2歳児の発達（2歳頃～2歳6か月頃）

学 び の 芽 生 え	思考 言葉 創造	・積木や簡単なブロックなどを組み合わせたり色々な形を作り出したりして、何かに見立てて遊ぶ。 ・お気に入りの絵本を、自分で読んでいるように一人でしゃべりながら見る。 ・「カッコいい」「きれいな」など感じたことを言葉で表すようになる。 ・「おはよう」「さようなら」など生活に必要な挨拶をするようになる。 ・鉛筆やクレヨンでぐるぐると曲線を描く。 ・好きな歌を覚えて歌う。 ・保育士や友達と簡単なごっこ遊びを楽しむ。 ・保育士がリズムに合わせて踊っていると手をたたき、リズムに合わせて手足を動かすなど一緒に楽しむ。 ・自分のイメージのままごと遊びを楽しんだり、大人のつもりになって人形やぬいぐるみを抱っこしたりする。
人 と の か か わ り	協同 信頼 規範	・追いかけたり追いかけられたりしながら、一緒に遊ぶことを楽しむ。 ・いつも一緒に遊んでいる友達のことを名前で呼ぶ。 ・自分のしたいことやしてほしいこと、伝えたいことを言葉で表現するようになる。 ・自分本位の行動が目立ち、思い通りにならないときはかんしゃくを起こしたり頑固な行動をとったりする。 ・身の回りのことを「自分で」と言ってやりたがる。 ・決められた所へ物を出したり入れたりする。
生 活 習 慣 ・ 運 動	基本的な 生活習慣 運動	・手づかみが少なくなり、スプーンを使って食事ができるようになる。 ・排せつを言葉やしぐさで知らせたり、促されて便器で排せつしたりする。 ・ボールを使い、投げる、蹴る、追うなどの遊びができるようになる。 ・走る、跳ぶなどの運動機能が伸びる。 ・階段を何にもつかまらずに、段ごとに両足をそろえて上り下りする。 ・運動遊具を使って登る、すべる、跳ぶなどを繰り返し楽しむ。 ・三輪車に乗り、両足で地面を蹴って進む。 ・指先を使う遊びに興味をもってやりたがる。（ひも通し、洗濯ばさみで挟む、粘土や紙を丸めるなど） ・リズムに乗って体を動かし、踊ったり体操をしたりする。

<援助のポイント>

- ・全身運動が滑らかになり、動きが大きくなってくる時期である。遊びの広がりや子供の動線を考慮しながら、遊具などを安全に配置し、体を動かすことを十分に楽しめるようにする。
- ・自分でできることが増えてきて自分で何でもやりたがるが、思い通りにできなかつたり、やらせてもらえなかつたりするとかんしゃくを起こすこともある。子供の気持ちを受け止め、そっと援助しながら、自立に向けての意欲を育てていく。できたときには「できたね」とその姿を認め、その子供なりの満足感や達成感が味わえるようにしていく。
- ・なりきって遊べるような玩具の準備や、コーナーの設定を工夫する。

<家庭との連携>

- ・二語文を話すようになり、おしゃべりが盛んになってくる。しかし、この時期は言語面でも個人差が大きく、まだあまりしゃべらない子供もいる。しゃべらなくても言葉をため込んでいる時期であるなど個人差があることを伝えながら、どのように話し掛けたり、かかわったりしたらよいかを具体的に知らせていく。
- ・かんしゃくを起こしたり、何でもいやいやと泣いたりしたときに、保護者も子供とどうにかかわったらよいのかと悩むことが多くなる時期である。子供の気持ちの揺れも成長の過程であることを知らせ、突き放すのではなく、子供自身が気持ちを立て直せるように代弁するなど、やさしく見守って待つことの大切さを知らせていく。

2歳児の発達（2歳6か月頃～3歳頃）

学 び の 芽 生 え	思考 言葉 創造	・赤、青、黄、緑などの色が分かる。 ・大きい小さい、長い短い、同じなどの区別が付き、言葉で表す。 ・形の違いが分かるようになり、簡単な絵合わせやパズルをする。 ・「これは」と何度も聞いたり、同じ絵本を「もう一回」と繰り返し読んでもらったりすることを好む。 ・おしゃべりが盛んになり、自分のことを「Aちゃん、ママと〇〇いったの」などと保育者に話す。 ・名詞の語彙が増える。 ・粘土を手のひらでぺったんと押したり、細くのばしたりする。 ・いろいろな物を袋に入れたり、布で包んだりする。 ・クレヨンで描きながら自分なりに「くるま」「かお」とイメージをもつようになる。
人 と の か か わ り	協同 信頼 規範	・平行遊びだが、友達と一緒に少しの間遊ぶ。 ・だれかがふざけはじめると一緒になってふざける。 ・自己主張が強く、物の取り合いになることが多いが、「いいよ」と貸せることもある。 ・友達の休みや様子などを気に掛ける。 ・よいこと、いけないことが分かってくる。
生 活 習 慣 ・ 運 動	基本的な 生活習慣 運動	・スプーンやフォークを持ち、使い分けて食べるようになる。 ・ほとんどこぼさずに食べられるようになる。 ・遊びに夢中になっているとおもらしをすることもあるが、尿意を知らせてトイレで排せつするようになる。 ・男児は立ち便器での排せつができるようになる。 ・衣服の着脱に関心をもち、脱いだ服をたたもうとしたり、自分でボタンを掛けたり外したりする。 ・三輪車やスクーターを片足で蹴ったり、三輪車をこいだりする。 ・平均台(高さ20cmくらい)を横歩きで渡ったり、30cmくらいの高さから跳び下りたりする。 ・鉄棒にぶら下がったり、ジャングルジムによじ登ったりする。

<援助のポイント>

- ・排せつの自立は個人差があるため、一人一人の排尿間隔を確認し、タイミングをみながらトイレに誘っていく。いつまでも便器に座らせておくことはせず、「おしっこ出るって教えてね」と伝え、無理なく自分でできた喜びにつなげる。
- ・身の回りの様々な物に興味や関心が広がり、やってみたい、使ってみたいという欲求が出てくる時期である。保育者の見守りの中で十分に体験できるようにしていく。

<家庭との連携>

- ・着替えも全部自分でやりたいと興味が出てくる時期である。子供が自分で着替えやすく、できたうれしさを感じられるよう、扱いやすいボタンやスナップの大きさや場所などを具体的に知らせていく。
- ・保護者が子供にやって見せたり、今後、子供の様子に合わせて教えたりするときの参考になるよう、箸やスプーンなどの段階を追った持ち方、使い方やトイレトペーパーの切り方、たたみ方、拭き方など、必要な情報を伝えていく。
- ・基本的な生活習慣を身に付けていけるよう、家庭での方針を聞きながら、その子供に応じた時期や方法を家庭と園で共に考えて、進めていく。

第3章

小学校入門期における 指導の接続

1 小学校入門期の各教科等における指導の接続

(1) 各教科等における指導の接続のポイント

子供の発達や学びの連続性を保障した教育活動を行っていくためには、就学前教育と小学校教育が円滑に接続し、体系的な教育が組織的に行われることが重要です。

本カリキュラムでは、子供に生きる力を育成するために、その基礎となる資質・能力を「確かな学力につながる〔学びの芽生え〕」「豊かな人間性につながる〔人とのかかわり〕」「健康・体力につながる〔生活習慣・運動〕」と捉えました。そして、この三つの資質・能力について、0歳児から5歳児、そして小学校の入門期にかけて、子供に確実に経験させたい内容を明らかにしました。

特に、小学校入門期には、生きる力の基礎となる三つの資質・能力を培うために、子供に確実に経験させたい内容の視点（思考、言葉、創造、協同、信頼、規範、基本的な生活習慣、運動）に基づいて、教師は次のことに留意して指導を行い、就学前教育と小学校教育との円滑な接続を図りながら、各教科等の目標の実現に努めていく必要があります。

○就学前教育で子供が経験してきた内容のうち、小学校入門期における各教科等の学習において生かせることを明らかにして指導に当たる。

○就学前教育で子供が経験してきた内容を踏まえて、小学校入門期における各教科等の目標や内容に基づいて子供に指導する事項を明らかにして指導に当たる。

次の頁の（2）では、就学前教育との接続を考慮した小学校入門期の各教科等の指導例を掲載しました。

<小学校入門期の各教科等の指導例>

算数科	単元名「10までの数」
<小学校入門期における指導の在り方> 就学前に、児童は、ものを数えたり数字を読んだり、順番を意識することなどを、日常生活の中で経験してきた。 算数科の入門期の教材は、絵や写真を中心にして構成されており、数についてのイメージを膨らませるようにしている。就学前教育での経験を基に、絵や写真とおはじきなどの具体物とを1対1に正しく対応させ、個数や順番を数えたり個数を比べたりして、数に対する概念を構築することをねらいとしている。 この学習では、具体物を用い、ものの個数を数えたり比べたりする活動を通して、数の意味について理解できるようにする。	
ねらい：絵とおはじきを1対1対応させ、ものの個数を比べる。	
児童の活動 動物の数を比べよう。 ① 問題の場面を確認する。 - 学校に行くところだね。 - たくさん動物がいるよ。 - 種類もいっぱいだね。 ② 教科書の絵（いろいろな動物）を見て、気付いたことを発表する。 - パンダやカバがいる。 - 一番多いのは、コアラかな。 - イヌも多いよ。 - どの動物が一番多いのかな。 ③ それぞれの動物の上におはじきを置き、個数を数える。 - パンダ 3 カバ 4 - コアラ 7 イヌ 5 - サル 4 キツネ 3 ④ どの動物が多いか、おはじき同士を1対1対応させ、比べる。 - パンダとカバを比べると、カバの方が1多い。 - カバとサルは同じ数だね。 - コアラが一番多かったよ。 ⑤ 学習を振り返る。 - おはじきを置くと、数えやすかったな。 - もともと、たくさん動物を調べてみたいね。	○算数科の指導事項 就学前教育で経験してきたこと 接続を考慮した指導のポイント ○問題場面を理解して見通しをもつ。 目的や課題を自分のこととして受け止め、これまでの経験を生かすなど工夫して取り組む。（思考） 問題場面の構成要素（何が、いくつ）を正しく理解できるようにする。 - どのような場面か、何がいくつあるかなどを問いつけ、児童の発言を取り上げながら、学習への興味・関心や意欲を高めるようにする。 ○気付いたことを発表し、課題を確認する。 絵を見て見付けたことをみんなの前で話す。（言葉） 安心して発表できるような雰囲気大切にしながら、徐々に動物の種類と数について着目させることで、課題を明らかにしていく。 - きちんと手を挙げて、指名されてから発言する姿勢を称賞する。 - 同じ考えの児童がいるかを毎回確認し、認めていくようにする。 - 個の疑問を、全体の課題へと共有化していく。 ○動物の絵とおはじきを対応させ、数を数える。 ○おはじき同士を1対1対応させ、数を比べる。 数に興味をもち、必要感をもって使う。（思考） 調べる活動を十分に確保し、数を比べるには、それぞれのおはじきを1対1対応すればよいことに気付くようにする。 - 席が近くの友達に、調べ方や結果を紹介する。 - 机上の操作を黒板で再現し、どのように比べたのかを説明できるようにする。 数に関心をもち、ゲームや遊びの中で数える。（思考） 学習の中で、便利だった方法、これからも使える方法などに着目できるようにする。 - 児童の言葉で価値付けていく。 - 次時の学習への興味・関心をもてるようにする。

小学校入門期の単元等
を示しています。

就学前教育との接続を
考慮した、小学校入門期
における単元等の指導の
在り方示しています。

就学前教育で経験して
きた内容のうち、小学校
入門期における各教科等
の学習において生かせる
ことを明らかにしていま
す。

就学前教育で子供が経
験してきた内容を踏ま
え、小学校入門期におけ
る各教科等の目標や内容
に基づいて子供に指導す
る事項を明らかにしてい
ます。

就学前教育との接続を
考慮した指導のポイント
を示しています。

(2) 小学校入門期の各教科等の指導例

国語科

単元名「絵を見てお話をつくろう」

＜小学校入門期における指導の在り方＞

就学前に、児童は、絵本や物語などに親しむ活動を通して想像する楽しさを味わったり、自ら表現することで言葉の面白さや美しさを味わったりすることを経験してきている。

国語科の入門期の教材は、文字がほとんどなく、絵を中心に構成したものを扱う。就学前教育での経験を基に、絵から見付けたことや想像したことについて、話し言葉を用いて表現することをねらいとしている。

この学習では、イメージしたことをみんなの前で話したり、友達が話すことに興味をもって聞いたりすることを大切に、「読むこと」の学習の基本となる力を育てていく。

ねらい：絵を見て想像したことを言葉で伝える。

児童の活動	○ 国語科の指導事項 ■ 就学前教育で経験してきたこと ■ 接続を考慮した指導のポイント
教科書の絵を見て、お話をしよう。 1 学習のめあてを確認する。 - 絵を見ながら説明すればいいんだね。 - お話をすることを見付けたよ。 2 教科書の絵（登校している様子）を見て、見付けたものを発表する。 1年生がたくさんいます。 - 黄色い帽子をかぶっているのが1年生です。 - 桜の花が咲いています。 - やさしいお姉さんが手をつないでくれています。 3 黒板に書かれた「見付けたもの」の言葉を声に出して読む。 - いちねんせい - きいろい ぼうし - さくら - おとこのこ - おんなのこ - がっこう - せんせい 4 絵に出てくる人が話していることを想像する。 「おはようございます。」 「きょう、いっしょに あそぼうね。」 「はやく、きょうしつに いこう。」 5 学習を振り返る。 - いろいろなお話ができた。 - 次の絵は、教室の絵にしよう。	○学習内容を理解して見通しをもつ。 目的や課題を自分のこととして受け止め、これまでの経験を生かすなど工夫して取り組む。（思考） 絵を見ながら言葉で説明していくという学習の見通しをもてるようにする。 - 児童の発言を取り上げ、学習への興味・関心を高めるようにする。 ○場面の様子をつかみ、見付けたことを発表する。 絵を見て見付けたことをみんなの前で話す。（言葉） 安心して発表できるような雰囲気を大切にしながら、徐々に「発表の仕方」が身に付くようにする。 - 自分から発言できたことを称賛する。 - 指名されたら返事をするように声を掛ける。 - 敬体で話すことを意識するように声を掛ける。 ○文字で書かれている言葉を声に出して読む。 ○音節を意識して読む。 文字に興味をもち、使うことを楽しむ。（思考） 文字に対する興味・関心を高めながら、音声言語と文字言語を結び付けて、読むことができるようにする。 - 発表した言葉（単語）を黒板に書く。 - 手拍子をしながら読む。（「さくら」なら「さ・くら」と3回、手をたたく。） ○絵を見て想像したことを発表する。 様々な体験を通してイメージを豊かにし、言葉で表現する。（言葉） 友達の発表に対して、互いのよさを認め合いながら、興味をもって聞くことができるようにする。 - 友達の発表に付け足しながら、発表するように声を掛ける。 - 話している友達を見ながら聞いている児童を称賛する。 - 発表したことを基に劇などにして表現する。

＜小学校入門期における指導の在り方＞

就学前に、児童は、ものを数えたり数字を読んだり、順番を意識したりすることなどを、日常生活の中で経験してきている。

算数科の入門期の教材は、絵や写真を中心にして構成されており、数についてのイメージを膨らませるようにしている。就学前教育での経験を基に、絵や写真とおはじきなどの具体物とを1対1に正しく対応させ、個数や順番を数えたり個数を比べたりして、数に対する概念を構築することをねらいとしている。

この学習では、具体物を用い、ものの個数を数えたり比べたりする活動を通して、数の意味について理解できるようにする。

ねらい：絵とおはじきを1対1対応させ、ものの個数を比べる。

児童の活動	○ 算数科の指導事項 □ 就学前教育で経験してきたこと ▢ 接続を考慮した指導のポイント
動物の数を比べよう。	○問題場面を理解して見通しをもつ。 目的や課題を自分のこととして受け止め、これまでの経験を生かすなど工夫して取り組む。(思考)
1 問題の場面を確認する。 ・学校に行くところだね。 ・たくさんの動物がいるよ。 ・種類もいっぱいだね。	問題場面の構成要素(何が、いくつ)を正しく理解できるようにする。 ・どのような場面か、何がいるか、いくつあるかなどと問いかけ、児童の発言を取り上げながら、学習への興味・関心や意欲を高めるようにする。
2 教科書の絵(いろいろな動物)を見て、気付いたことを発表する。 ・パンダやカバがいる。 ・一番多いのは、コアラかな。 ・イヌも多いよ。 ・どの動物が一番多いのかな。	○気付いたことを発表し、課題を確認する。 絵を見て見付けたことをみんなの前で話す。(言葉) 安心して発表できるような雰囲気を大切にしながら、徐々に動物の種類と数について着目させることで、課題を明らかにしていく。 ・きちんと手を挙げて、指名されてから発言する姿勢を称賛する。 ・同じ考えの児童がいるかを毎回確認し、認めていくようにする。 ・個の疑問を、全体の課題へと共有化していく。
3 それぞれの動物の上におはじきを置き、個数を数える。 ・パンダ 3 ・カバ 4 ・コアラ 7 ・イヌ 5 ・サル 4 ・キツネ 3	○動物の絵とおはじきを対応させ、数を数える。 ○おはじき同士を1対1対応させ、数を比べる。 数に興味をもち、必要感をもって使う。(思考)
4 どの動物が多いのか、おはじき同士を1対1対応させ、比べる。 ・パンダとカバを比べると、カバの方が1多い。 ・カバとサルは同じ数だね。 ・コアラが一番多かったよ。	調べる活動を十分に確保し、数を比べるには、それぞれのおはじきを1対1対応すればよいことに気付くようにする。 ・席が近くの友達に、調べ方や結果を紹介する。 ・机上の操作を黒板で再現し、どのように比べたのかを説明できるようにする。
5 学習を振り返る。 ・おはじきを置くと、数えやすかったな。 ・もっと、たくさんの動物を調べてみたいな。	数に関心をもち、ゲームや遊びの中で数える。(思考) 学習の中で、便利だった方法、これからも使える方法などに着目できるようにする。 ・児童の言葉で価値付けていく。 ・次時の学習への興味・関心をもてるようにする。

＜小学校入門期における指導の在り方＞

就学前に、児童は、それぞれの保育所や幼稚園等で年長児として、同年齢や異年齢の友達などに親しみをもちながら一緒に生活することを経験してきている。

生活科の入門期の学習は、就学前教育での経験を生かしながら学校において楽しく安心して遊びや生活ができるようにするために、学校の様子や学校生活を支えている人々、友達のことを分かるようにすることをねらいとしている。

この学習では、学校の様子を知る前に、まずは同じ学級の友達のことを知り、親しみの気持ちをもつようにし、学級の児童同士が好ましい人間関係や信頼関係を築いていくことができるようにする。

ねらい：クラスの友達と仲良くなり、一緒に楽しく学校生活を送れるようにする。

児童の活動	○ 生活科の指導事項 □ 就学前教育で経験してきたこと ▢ 接続を考慮した指導のポイント
学級のみならずと仲良くなろう。 1 学習のめあてを確認する。 - 学級全員と仲良くなって、友達になるんだね。 2 「よろしくね！」カードを作成する。 - 好きなものを大きく描いたら、自分のことをよく分かってもらえるかな。 3 カードを使いながら学級全員とかかわる。 - 笑顔で挨拶するといいかな。 - 少し恥ずかしいけれど、頑張ってみるね。 - たくさんの友達に声を掛けたいな。 - 自分のことを分かってもらえたか心配だな。 4 学習を振り返る。 - ちょっと恥ずかしかったけれど、自分から声を掛けることができたよ。 - たくさん友達の名前を覚えてよかった。 - 新しい友達が増えて、うれしい。 - 明日からみんなに元気に挨拶したい。 - 明日から休み時間に一緒に遊びたい。	○学習内容を理解して見通しをもつ。 目的や課題を自分のこととして受け止め、これまでの経験を生かすなど工夫して取り組む。(思考) 集団の一員としての話の聞き方が身に付くようにする。 - 具体物を提示しながら説明する。 - 話を聞く姿勢として、体の向きを教師に向けるように声を掛ける。 ○相手に自分のことを伝えることを意識してカードに表現する。 様々な素材や用具を生かして自分なりに描いたり作ったりする。(創造) 自分の思いを具体的に絵などに表すようにする。 ○積極的に友達とかかわり、自分の好きなものが相手に分かるように言葉で伝える。 すすんで挨拶をしたり、みんなの前で話したりする。(信頼) 自分の思ったことを相手に分かるように伝えたり、相手の話していることを受け入れたりする。(信頼) 相手に分かるように伝える力を育てるようにする。 - 具体物を使って、順序立てて言葉で説明する。 ○学習を振り返り、友達とのかかわりを考える。 様々な友達とのかかわりを深め、思いやりや親しみをもつ。(信頼) 学級集団としての意識を育てるようにする。 - 友達と一緒に活動することの喜びを感じられるようにする。

＜小学校入門期における指導の在り方＞

就学前に、児童は、日常生活の中で音楽に親しみ、友達と一緒に聴く、歌う、踊る、楽器を鳴らすなど、音色の美しさやリズムの楽しさを味わうことを経験してきている。

音楽科の入門期の学習は、就学前教育での経験を生かしながら、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽を聴いたりする楽しさを味わうことができるようにすることをねらいとしている。

この学習では、音楽の楽しさを感じ取れるような学習活動を展開し、音楽に対する興味・関心をもてるようにしたい。さらに、活動を通して、音楽を形作っている要素として、リズム、速度、旋律などについても感じることができるようになる。

ねらい：友達と一緒に歌ったり踊ったりすることを楽しむ。

児童の活動	○ 音楽科の指導事項 就学前教育で経験してきたこと 接続を考慮した指導のポイント
友達と一緒に歌を歌って、仲良しになろう。	
1 全員で歌を歌う。 ・指導者の範唱を聞き、友達と声を合わせて歌う。 ・この歌、知っているよ。 ・幼稚園で歌ったことがある。	○互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う。 音楽に親しみ、友達と一緒に歌う。(創造) 歌を楽しむことができるような雰囲気をつくる。 ・授業の始めに、多くの児童が知っていると思われる歌を歌うことで安心感をもてるようにする。 ・楽しく歌うことを大切にするとともに、きれいな声で、みんなで声を合わせて歌えたことを称賛する。
2 教科書の絵を見て、知っている歌を歌う。 ・この歌、知っているよ。 ・友達の範唱を聞く。 ・まねをして歌う。	○歌詞の表す場面を想像して歌う。 音楽に親しみ、友達と一緒に聴いたり、歌ったりする。(創造) 教科書の絵を参考に知っている歌を見付けるようにする。 ・教科書の絵を拡大したものを黒板に掲示する。 ・指導者が旋律を弾き、曲の歌詞や旋律を思い出すことができるようにする。
3 歌あそびの歌を歌う。 ・教科書を見ながら教師の範唱を聞く。 ・教科書を見ながら歌う。 ・全員で歌あそびをする。	○友達と一緒に表現する楽しさを味わう。 友達と一緒に遊ぶ喜びや満足感を味わう。(協同) 歌いながら遊ぶ楽しさを味わえるようにする。 ・じゃんけんをする場面では、学級の誰とでもかわれるように声を掛ける。 ・学級全員が歌あそびをすることで、達成感を感じられるようにする。 ・慣れてきたら、速く・ゆっくりなど速度を変えて、音楽をよく聞いて歌ったり歩いたりできるようにする。
4 学習の振り返りをする。 ・いろいろな歌を歌って楽しかった。 ・歌あそびをまたやりたい。 ・他の歌も歌いたい。	○活動を振り返り、感想を話し合う。

＜小学校入門期における指導の在り方＞

就学前に、児童は、様々な素材や用具を利用して、自分なりに描いたり作ったりすることを楽しむとともに、友達と一緒に工夫して作ったり、作ったもので遊んだりするを経験してきている。

図画工作科の入門期の学習では、就学前教育での経験を生かしながら、自分の思いを表現することにすすんで取り組み、作品を作り出す喜びがもてるようにすることをねらいとしている。

この学習では、身近な材料に自分から働き掛け、イメージをもちながら作品を作っていくようにする。また、友達と協力して作る楽しさを十分に感じることができるようになる。

ねらい：身近な自然物を基に、思い付いた山や川などを友達と協力して作る。

児童の活動

○ 図画工作科の指導事項

就学前教育で経験してきたこと

接続を考慮した指導のポイント

友達と一緒に、砂場に「すてきなもの」をつくろう。

1 学習のめあてを確認する。

- ・班ごとに作品を作り、作り終わったら作品を見合いながら感想を発表する。
- ・注意事項を確認する。
(材料、用具の使い方のきまりなど)

○学習内容を理解して見通しをもつ。

目的や課題を自分のこととして受け止め、これまでの経験を生かすなど工夫して取り組む。(思考)

班ごとに作る際に、注意することを確かめるようにする。

- ・話し合いを通して、どのような作品を作るのか、用具を使うときのきまりはどうするのかなどについて一緒に確認していく。
- ・友達のアイディアのよいところは互いに取り入れてもよいことを伝える。

2 班ごとに作品を作る。

- ・大きな三角の山を作ろう。
- ・小さい枝で橋を作るのはどうかな。
- ・そっちから穴を掘ってね。ぼくは、こっちから穴を掘るから合体させよう。
- ・2班さんは、葉っぱを使っていておもしろそうだな。私たちもやろうよ。



○砂、小石、木の葉、小枝などの材料に働き掛けながら作る。

○それぞれの感覚や気持ちを生かしながら楽しく作る。

様々な材料や用具を利用して自分なりに作ることを楽しむ。(創造)

友達と一緒に工夫して作ることを楽しみ、それを遊びに使う。(創造)

共同の用具を大切にし、譲り合って使う。(規範)

材料や用具の利用の仕方など友達のアイディアを伝えて、活動が広がるようにする。

- ・他の班が使っている用具の利用の仕方に気付くようにする。
- ・児童が気付くやすいところに、材料になりそうなものを用意したり、材料となる植物がある場所を伝えたりする。

3 互いの作品を見合って、感想を発表する。

- ・お花をいっぱい付けたのが素敵だな。
- ・協力して作ることができたよ。
- ・一緒に作った友達と仲良くなれてうれしかった。

○自分や友達の作品を楽しく見る。

友達と活動する中で、互いのよさを認め合う。(協同)

自分や友達のよさに気付くことができるようにする。

- ・活動中に、材料や活動の工夫、協力したことなど、児童に気付かせたい観点に沿って助言したり称賛したりする。
- ・児童が友達や教師から称賛されるような場を設定する。

＜小学校入門期における指導の在り方＞

就学前に、児童は、様々な遊具や用具を使って工夫して遊んできた。また、友達と一緒に遊ぶことを通して自分たちで遊び方やきまりを考え、それを守って遊ぶことを経験してきている。

体育科の入門期の学習では、固定施設を使うなどして、様々な動きを身に付けることをねらいとしている。就学前教育での経験を生かしながら、きまりや遊びのルールを友達と話し合いながらつくることも大切にしていくようにする。

この学習では、校庭にある固定施設を使った遊び方を知らせるとともに、鬼遊びを通して、友達と一緒に体を動かすことの楽しさを味わいながら、遊びのルールをつくることができるようにする。

ねらい：校庭の遊具を使って、きまりを守って遊べるようにする。

児童の活動	○ 体育科の指導事項 □ 就学前教育で経験してきたこと ▢ 接続を考慮した指導のポイント
校庭でたくさん遊ぼう。 1 学習のめあてを確認し、準備運動をする。 ・使う部位を中心に体を動かす。 ・集合の練習をする。 2 校庭の遊具(固定施設)を使って遊ぶ。 ・遊具の安全な使い方を知る。 「いろいろ遊ぶものがあるね。」 「すべり台を下から登ったら危ないよ。」 ・気に入った遊具で遊ぶ。 ※ジャングルジム、雲てい、登り棒など、実態に応じて運動する箇所を限定するなどして安全面に配慮して、順番に遊ぶようにする。 3 手つなぎ鬼をする。 ・「はじめのルール」を知る。 ・「はじめのルール」にのっとって、学級全員で手つなぎ鬼をする。 4 整理運動を行い、学習を振り返る。 ・整理運動をする。 ・手つなぎ鬼のルールについて話し合う。 「鬼の数が増えすぎると走りにくい。だから、鬼が増えたら、動きやすい人数に分かれるといいと思う。」 「つかまえるときに、鬼の手が離れたら、つかまった人は、鬼にはならないようにしたらいいと思う。」 ・学習の感想を発表する。	○学習のめあてを理解して見通しをもつ。 目的や課題を自分のこととして受け止めて、すすんで取り組む。(思考) ○登り下り、渡り歩き、逆さ姿勢、懸垂移行といった動きができるようにする。 ○きまりを守り仲良く運動したり、場の安全に気を付けたりする。 様々な遊具を使って工夫して遊ぶ。(運動) 校庭の遊具の安全な使い方について、遊ぶことを通して身に付くようにする。 ・これまでの経験を基に、保育所や幼稚園等で守ってきた遊具のきまりを想起するように声を掛ける。 ・友達と譲り合うことの大切さに気付くようにする。 ○相手(鬼)をかわしたり走り抜けたりする。 いろいろな遊びの中で、十分に体を動かす。(運動) ○楽しく遊ぶための簡単なルールを工夫する。 自分の思ったことを相手に分かるように伝えたり、相手の話していることを受け入れたりする。(信頼) ○自分たちで考えたルールで、手つなぎ鬼をして遊ぶことの楽しさを味わう。 ルールをつくる楽しさが経験できるようにする。 ・「はじめのルール」で遊んだことを基に、うまくできなかったことの改善や、より楽しくするための工夫といった観点からルールを考えるようにする。

＜小学校入門期における指導の在り方＞

就学前に、児童は、保育所や幼稚園等の生活の中で、必要感をもって自分で気付いて様々な仕事に取り組んできた。その中で、みんなのために仕事をしてよかったという思いをもつ経験をしてくている。

特別活動の学級活動では、就学前教育での経験を生かしながら、友達と助け合い、みんなのために働くことで自分たちの学級を楽しくしようとする態度の基盤を身に付けていくことをねらいの一つとしている。

この活動では、学級会での話し合いを通して、自分たちで学級の仕事に気付き、係を決めていくことで、必要感のある係を自分たちで話し合っ決めて決めたという達成感を味わうことができるようにする。

ねらい：学級で必要な仕事を見だし、友達と協力して仕事をしようとする。

児童の活動	○ 特別活動の指導事項 ☐ 就学前教育で経験してきたこと ☒ 接続を考慮した指導のポイント
みんなで話し合っ、係を決めよう。 1 話し合いの議題を確かめる。 - 先生は、いろいろな仕事をしているな。 - ぼくたちでもできる仕事があるよ。 - 幼稚園では、見回り当番の仕事をして、先生に褒められたことがあるよ。 - 保育所では、金魚のえさやりの当番の仕事をして、楽しかったよ。 - 小学校でも仕事をしたいな。 2 どんな仕事が必要か話し合う。 - 給食の前に机を拭く仕事をやるというよ。保育所でやったよ。 - 教室のお花に毎日水をあげないと、枯れてしまうよ。 6年生のお姉さんが黒板の字を消していたよ。私もやりたいな。 3 係の決め方について話し合い、係を決める。 - やりたい係をみんながやればいい。 - やりたい人が多すぎたらどうするのかな。 - 譲ってあげて、次のとき、やらせてもらえばいいよ。 - じゃんけんで決めるのはどうかな。 4 話し合い活動を振り返る。 - 係でどんな仕事をするのか次の時間に詳しく相談したいな。 - みんなと仕事するのが楽しみな。 - 早く仕事をしてみたい。 - 係の名前をつけたいな。 - みんながやりたいから、やる順番を決めた方がいいと思う。	○学級生活を送る上で必要な係を話し合っ決めてことへの見通しをもつ。 目的や課題を自分のこととして受け止める。(思考) 入学してからの学級の状況を振り返らせることで、みんなで役割を分担して取り組むことのよさに気付くようにする。 ○必要だと思う係を考え、自分の意見を発表する。 これまでの経験を生かして考える。(思考) 必要だと思う係を考えられるようにする。 - 保育所や幼稚園等での経験を生かすようにする。 - 担任が日常的に行っている仕事や担任から頼まれて行った仕事（これまでに意図的に経験させておく。）を基にして考えるように助言する。 ○友達の意見を聞いたり、気遣ったりして仲良く話し合う。 友達との考えの違いやうまくいかなかった経験を通して、友達と折り合いをつけながら、問題を乗り越える。(協同) 学級会の進め方を理解できるようにする。 - 教師が司会と記録を行う。(回数を重ねながら、徐々に進行を児童に任せるようにしていく。) ○今後の活動に対する見通しをもつ。 生活に必要なことを友達と一緒に進め、自分の役割を果たすことに喜びを感じる。(規範) 自主的・自発的に活動することの大切さに気付くようにする。 - 仕事をすすんでしてくれた児童の例を紹介し、自分で仕事をする大切さに気付かせる。 - 友達と一緒に考えて活動することの楽しさに期待感がもてるようにする。

2 小学校入門期の日常生活における指導の接続

小学校での新しい生活の中で、児童が見通しをもち自分ですすんで活動できるように、保育所や幼稚園等での子供たちの経験を生かして指導することが大切です。

例えば、次のような子供の経験を生かしていくことが考えられます。

<就学前教育での経験>

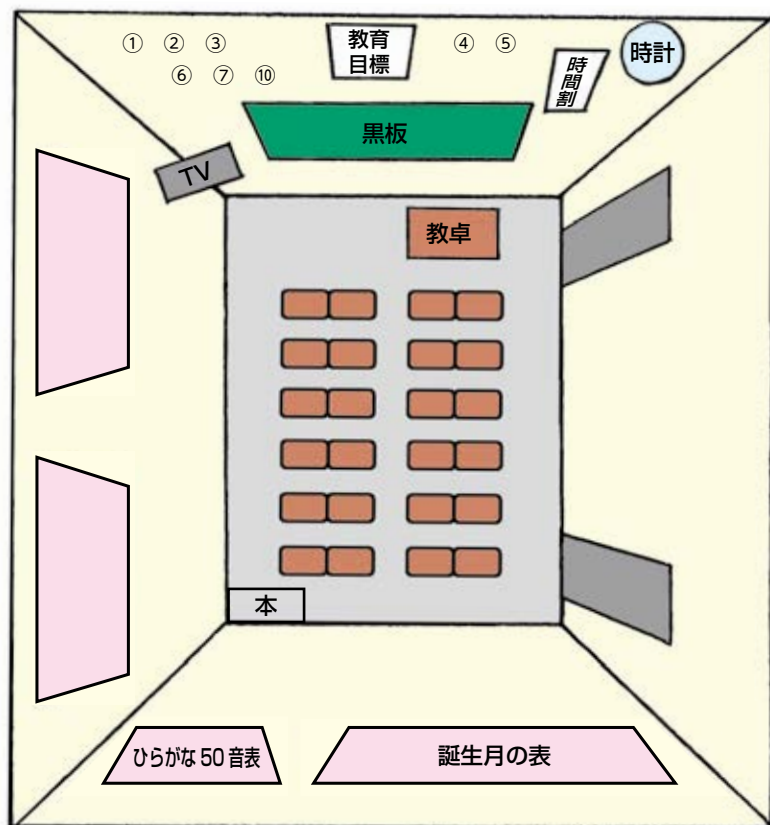
- 表示を手掛かりにしながら、見通しをもって活動する。
- 保育者の指示を受け止めて、友達と一緒に行動する。
- 行事等の意味が分かり、すすんで参加する。 など

◆入学当初の過ごし方

入学式後	具体的な指導例	担任の役割	担任を補助する教員等の役割
1日目	○基本的な生活習慣の指導 ①挨拶、返事の仕方 ②姿勢、話の聞き方 ③ロッカー、トイレ、水飲み場の使い方 ④帰りの支度、下校の仕方 ⑤靴、傘のしまい方 等	○担任は、絵や写真などを使いながら、楽しく、分かりやすく必要事項を伝える。 ○何日かかけて身に付けさせるつもりで進める。	○担任の指示を理解していない児童や、やり方が分からず困っている児童に個別にかかわる。
2日目	○基本的な生活習慣の指導 ①前日の指導の振り返り ②学習の準備、後片付け（含：体育着の着脱） ③授業中の約束ごと ④名前順の並び方 ⑤廊下の歩き方 ⑥チャイムでの生活の区切り ⑦保健室への行き方 等	○担任は、前日の指導を児童に振り返らせたり、やり方を教師自身が動きで伝えたりしながら、知らせていく。 ○児童には、話を聞くだけではなく、実際にやってみる機会を設けることで、やり方が身に付くようにしていく。	○少し時間のかかる児童を支援したり、廊下を歩く際に児童の後ろに付いて指示を出したりする。
3日目	○行事のはじまり ①身体測定 ②1年生を迎える会の歌の練習 ③避難訓練 等 	○保育所や幼稚園等での経験を児童から聞いたり、行事の意図や小学校でのやり方を、絵や写真などを使って分かりやすく伝えたりしながら、児童が理解し見通しをもって動けるようにする。 ○担任を補助する教員等と綿密な打合わせをし、どこで、どのような補助をしてほしいかを明確に伝える。	○行事の意図ややり方が分からないために不安に感じたり、トイレに行きたくなったり、具合が悪くなったりする児童に個別に対応する。 ○担任の意図を把握して適宜児童の支援をする。

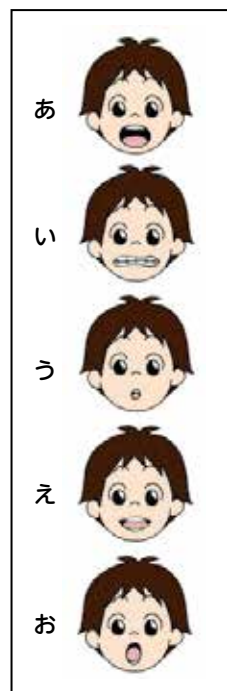
◆教室環境

児童が楽しく、安心して小学校生活へ移行できるように教室環境を工夫することが大切です。ここでは、児童が学習規律を身に付けることをねらいとした教室環境について例示します。必要以上に情報が入って児童の集中力を妨げることをないように、見やすくすっきりとした掲示を心がけることも必要です。



<発表時の約束①～⑤>

①あいうえおの口の図



はっきりと話すように、口の開き方を絵で示します。

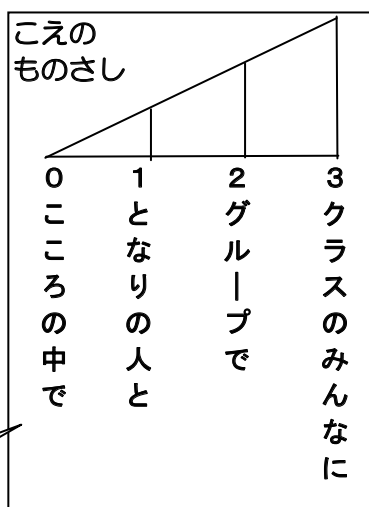
②発表の仕方の約束

はっぴょうのやくそく
「はい。〜です。」
「はい。〜だとおもいます。」
「わけは、〜だからです。」

文として話すことができますようにします。

声の大きさを使い分けて、話せるように図で表します。

③声のものさし



保育所や幼稚園等の年長児でも使えます。

④話し方名人の表

はなしかためいじん

あ いてをみて
い っしょうけんめい
う んと口をあけて
え がおで
お わりまではなす

⑤聞き方名人の表

ききかためいじん

あ いてをみて
い っしょうけんめい
う なずきながら
え がおで
お わりまできく

<学習時の姿勢・鉛筆の持ち方⑥⑦>

⑥正しい姿勢の図

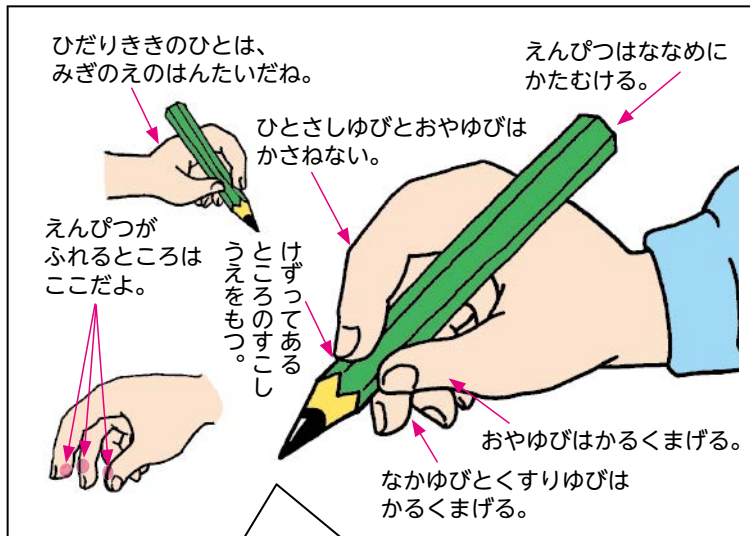
ただしいしせい

1. いすにきちんとすわる。
2. りょうあしをそろえて ゆかにつける。
3. みぎてとひだりてのいちをたしかめる。



書くときの正しい姿勢が、
分かりやすいように図で表します。

⑦鉛筆の正しい持ち方の図



よく見えるように教室の前に掲示します。

<整理・整頓⑧～⑩>

⑧体育着袋・靴袋掛け



自分の場所がはっきりと分かるように名前が書いてあるシールを貼る。
きちんと掛けることにも気付かせるようにします。

靴をそろえて入れることに気付かせるように、靴箱の上に掲示しておきます。

⑨靴の入れ方

くつのいれかた

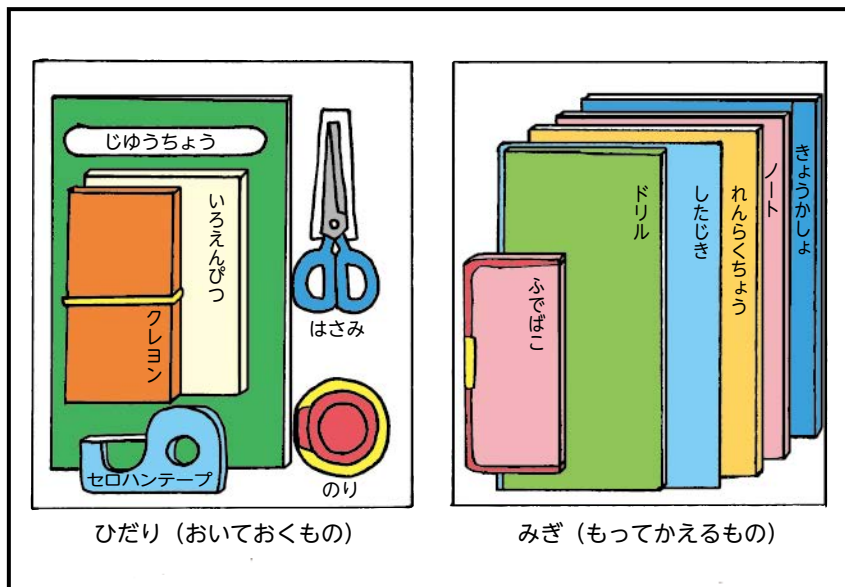


⑩引き出しの中に入れる物の図



持って帰る物、置いておく物が分かりやすいように具体的に絵や写真で表して掲示します。

また、きれいにそろえて入れると、使いやすいことにも気付かせるようにします。



◆学習規律

児童が新しい環境の中で、安心して学習に取り組めるようにするためには、一人一人が確実に、学習に臨む態度やきまり（学習規律）を身に付けていくことが大切です。

保育所や幼稚園等から継続して指導するものに加えて、小学校で新たに指導が必要なものもあります。教室での学習規律について以下に示しました。



保育所や幼稚園等から継続して指導する事項

- ・話の聞き方や話し方
- ・返事や挨拶の仕方
- ・椅子の座り方 等

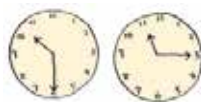
継続

小学校で指導する学習規律

- ・教科書やノートなど文具類の使い方
- ・机の使い方（道具箱の整理等）
- ・決められた時間内での学習 等

児童に学習規律を身に付けさせるために、活動内容の具体的な流れを絵や図などで掲示したり、学習時計で時刻を示したりするなど、児童が見通しをもち、すすんで学習に取り組めるように工夫します。

学習時計



つくえのうえのもののおきかた



次に、体育科の授業など、教室外での学習規律について以下に示しました。



保育所や幼稚園等から継続して指導する事項

- ・整列の仕方
- ・教師の指示や合図を聞くこと
- ・着替え 等

継続

小学校で指導する学習規律

- ・校庭の遊具や体育館の使い方
- ・決まった時間内での学習 等

児童が自分からすすんで活動するために、学習規律を具体的に分かりやすく伝えることが大切です。また、友達同士の間関係をつくる活動や声掛けを意識的に取り入れましょう。教師の肯定的な声掛けで、児童は自信をもって活動できるようになります。



脱いだ物をきちんとたたんでおくと、気持ちがいいですね。



体育の着替えのときは、ただ児童から、教室の前（または後ろ）に並び、「みんなで素早く着替えて並び」という意識をもたせましょう。

また、着替えが終わった教室を全員で見回して、衣類がきちんとたたまれていて、教室全体が整理整頓されていると美しいことを確認するようにします。

◆お弁当から給食へ

保育所、認定こども園から就学した児童は、比較的給食に慣れています。しかし、幼稚園から就学した児童は、就学前はお弁当を食べることが多く、給食になると配膳の仕方が違ったり、食べ慣れないものがあつたりするなどして、戸惑うこともあります。

また、昼食時間については、保育所や幼稚園等は小学校に比べて、ゆったりと設定しています。これらの違いを互いに理解し、指導の仕方を工夫し合うことで、児童は楽しく給食を食べることができるようになります。

お弁当



給食



ポイント



保育所や幼稚園等でも、食事の準備を幼児が行います。テーブルを拭く、お茶を配る、「いただきます」の挨拶をするなど様々です。

○テーブルを拭くだけではなく、布巾を洗う、絞るといったことも行うようにします。給食の準備だけではなく、掃除のときにも活用できます。

○幼稚園等でお茶を注ぐなどの当番活動がある場合は、少しやり方を変えるとよいです。例えば、お盆にグループの友達のコップを集め、お茶を注ぎ、そのお茶をテーブルまで運び配るなど、配膳の体験をさせます。

○お弁当の準備や食べ終わった後の時間は、同じグループの友達と「しりとり」や「なぞなぞ」をするなど、みんなで「いただきます」「ごちそうさま」をする習慣、待つ習慣が身に付くように指導します。



ポイント



小学校での配膳の仕方が分かるように、紙芝居やパネルシアター等を使って、仕事の手順を丁寧に教えたり、給食当番を一週間で交代したりして、仕事を順番に覚えられるようにします。

○小学校では、白衣に着替えます。絵などで示して、着方が分かるようにします。

- ・白衣のボタンをきちんと掛けます。
- ・白衣の袋はなくならないようにポケットに入れます。
- ・白衣を着る前に、石けんでつめや手首まで丁寧に洗います。など



○配膳は、危険のないように、おしゃべりをしないで、落ち着いてできるよう指導します。お盆が重くなるので、牛乳は机に配るなど工夫します。

○当番以外の方はトイレと手洗いうがいなどを済ませたら、静かに座って待つなど、食事のきまりについて理解させ、守るように指導します。



◆清 掃

小学校では、毎日清掃の時間が決まっています。自分の教室や廊下を、当番が週ごとに交代で清掃をします。清掃用具の基本的な使い方（ほうき、ちりとりの扱い方や雑巾の絞り方等）をまずはしっかりと身に付けさせることが大切です。

4月当初、6年生が1年生の教室や廊下の清掃を担当する小学校もありますが、ただ、清掃をしてもらうだけではなく、6年生から清掃用具の基本的な使い方や清掃の仕方などを教えてもらうなど、1年生の児童が、1日も早く自分たちで清掃できるように工夫することが大切です。

保育所や幼稚園等では…



よく使う用具は、子供に見えるような片付け方を工夫します。そして、子供にも簡単に整理できるようなします。
そして、いつでも整理整頓されている保育室の環境を心掛けましょう。

保育室の床に、ビニールテープで印を付けて、ほうきでゴミを集める場所を示したり、雑巾の絞り方を提示したりして、子供が清掃をしやすいように工夫しましょう。

<雑巾の絞り方の写真>



①ひだりてをうえ、みぎてをしたにして、そうきんをかるくにぎります。



②りょうほうのてくびを、おやゆびのほうにうごかして、そうきんをしぼります。



③さいごにもういちど、ぎゅっとしぼります。



小学校でも、保育所や幼稚園等の取組の工夫を取り入れて、継続的に清掃指導をすることが大切です。



小学校では…

小学校の教室は、保育所や幼稚園等の保育室より広く、机や椅子など、清掃をするために動かさなければならぬものも多くあります。いくつかのルールを決めて、児童が清掃の仕方を円滑に身に付けることができるようにすることが大切です。

<清掃のきまり（例）>

- ・児童机は、二人一組で運びます。
- ・列ごとに運ぶペアを決めます。
- ・ほうきで掃く児童、雑巾で拭く児童と役割分担を明確にします。
- ・ほうきで掃く時間、雑巾で拭く時間を決めて、児童に見通しをもたせます。

◆登降園から登下校へ

保育所や幼稚園等では、保護者が送り迎えをします。しかし、小学校では自分一人で登下校します。学校への道順や学校からの帰り道が分からなくなならないように、保護者に協力してもらい、入学前に学校の行き帰りの道順を確認してもらいましょう。



「学校へ行こう！」

（目的）冬休みの間に、保護者と一緒に小学校まで歩いて行くきっかけづくりをする。

（内容）2学期末の保護者会などで、就学に向けての話の中で、以下のような地図とカードを配布し、親子でチャレンジしてもらおう。

〇〇しょうがっこうまでのちず



- ① いえのひとといっしょに、しょうがっこうまでのちずをかいてみましょう。
- ② めじるしには、ほしのシールをはりましょう。
- ③ ちゅういしてとおったほうがいいみちは、きいろでぬりましょう。

※ このような活動は、小学校の生活科の学習にもつながります。

がっこうへいこう！！

ふゆやすみにおやこであるいてみましょう。



<かんそう>

歩いたら、□にシールを貼ります。

がっこうへいこう！！

もうすぐ1ねんせい！がっこうまであるいてみましょう。（はるやすみよう）



<かんそう>

下校については、児童が慣れるまで（児童の実態を踏まえて）、児童の帰る方向別に班をつくり、担任教諭や専科教諭、主事等の教職員が協力して児童を引率し、通学路の危険箇所や交通ルールを守った道路の歩き方などを指導することが大切です。

ここは、車がよく通る交差点だから、気を付けて渡って帰って下さいね。



はい。先生、分かりました。さようなら。

このようなことの積み重ねで、安全に登下校できるようになります。



東京都教育委員会が発行している就学前教育に関する資料

及びホームページアドレス

◆ 就学前教育に関する資料（東京都教育庁指導部）

<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/buka/shidou/shuugaku.htm>

※ 東京都教育委員会ホームページから、下記の指導資料を全て閲覧及びダウンロードできます。

- 「就学前教育プログラム」 平成22年3月 東京都教育委員会
- 平成21・22・23年度就学前教育プログラム及び就学前教育カリキュラム実証研究事業
 - ※1年次報告 平成22年3月 東京都教育委員会
 - ※2年次報告 平成23年3月 東京都教育委員会
 - ※3年次報告 平成24年3月 東京都教育委員会
- 「就学前教育カリキュラム家庭用リーフレット」 平成25年1月 東京都教育委員会
- 「就学前教育カリキュラム活用ハンドブック」 平成25年3月 東京都教育委員会
- 「家庭用リーフレット
 - 『きまりをまもる 心をそだてる』 平成26年1月 東京都教育委員会
- 「幼児期の「規範意識の芽生え」の醸成 指導資料
 - 『きまりをまもる 心をそだてる』 平成26年3月 東京都教育委員会
- 「就学前教育カリキュラム 改訂版」 平成28年3月 東京都教育委員会

◆ 乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクト

（東京都教育庁地域教育支援部）

<http://www.nyuyoji-kyoiku-tokyo.jp/>



第4章

幼保連携型認定こども園 教育・保育要領を踏まえた 就学前教育の充実

(1) 全体的な計画の作成

幼保連携型認定こども園教育・保育要領 第1章総則では、幼保連携型認定こども園の「全体的な計画」の作成について示されています。全体的な計画は、保育所保育指針における保育課程、幼稚園教育要領における教育課程に当たります。

また、全体的な計画の作成に当たっては、園児一人一人にとって園生活がよりよいものとなるよう、園や地域等の人的・物的な環境の条件等を踏まえるとともに、それらを十分に生かして創意工夫をすることが求められています。

なお、第2章においては、0～2歳児の保育・教育課程について、保育所の生活（およそ午前7時から午後7時頃までの保育時間）を想定して作成しています。3～5歳児の保育・教育課程については、幼稚園の生活（およそ午前9時から午後2時頃までの保育時間）を想定して作成しています。

本章においては、平成23年3月に公表した就学前教育カリキュラムで示していなかった幼稚園及び幼保連携型認定こども園に在籍する3～5歳児の教育活動後（およそ午後2時以降）の保育について、指導計画例を作成しました。

(2) 一日の生活の連続性及びリズムの多様性に配慮した教育及び保育の工夫

幼保連携型認定こども園教育・保育要領 第1章総則では、幼保連携型認定こども園として特に配慮する事項として、「一日の生活の連続性及びリズムの多様性に配慮するとともに、保護者の生活形態を反映した園児の在園時間の長短、入園時期や登園日数の違いを踏まえ、園児一人一人の状況に応じ、教育及び保育の内容やその展開について工夫をすること。特に、入園及び年度当初においては、家庭との連携の下、園児一人一人の生活の仕方やリズムに十分に配慮して一日の自然な生活の流れをつくり出していくようにすること。」が示されています。

本章では、教育活動後に保育を受ける子供について、「毎日、教育活動後も保育を受ける『長時間保育』の子供」と、「時々、教育活動後も保育を受ける『預かり保育』の子供」を想定しています。

また、3歳児4月当初の様々な集団生活経験の違いには、特別な配慮が必要であると考えました。

(3) 構成

(1) 及び (2) を踏まえて、次の構成で指導計画例を作成しました。

構 成	
○ 教育活動後の年間指導計画例（期ごと）	119 ページ～
※ 「長時間保育」と「預かり保育」について作成した。	
・ 3歳児Ⅰ期～Ⅴ期 （Ⅰ期のみ、4月当初の指導計画例を四つの異なる集団生活経験ごとに作成した。）	120～129 ページ
・ 4歳児Ⅰ期～Ⅴ期	130～139 ページ
・ 5歳児Ⅰ期～Ⅴ期	140～149 ページ
○ 教育活動後の指導計画例（日ごと）	150 ページ～
・ 4月～5月	152・153 ページ
・ 6月～12月（7月～8月を除く）	154・155 ページ
・ 1月～3月	156・157 ページ
・ 長期休業期間中（7月～8月）	158～161 ページ
・ 運動会前の時期	162・163 ページ

現在、幼稚園においても、幼保連携型認定こども園においても、長時間保育や預かり保育、延長保育等のニーズが高まっています。本章で示した指導計画例は、幼保連携型認定こども園に限らず、全ての就学前教育施設において、指導計画等を立てる際の参考にできるように作成しました。

ただし、実際に各園で指導計画等を作成する際は、園児の心身の発達の実態、園の実態、家庭及び地域の実態等に即応した適切な指導計画を作成するために、全職員が協力し、創意工夫をすることが必要です。

【用語の説明】

本章では、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び同解説で使用されている用語を、次のように言い換えています。

- 「教育課程に係る教育時間の教育活動」
→ **教育活動**
- 「地域の実態や保護者の要請により教育を行う標準的な時間の終了後等に希望する者を対象に一時預かり事業などとして行う活動」
→ **預かり保育**
- 「保育を必要とする子どもに該当する園児の保育」
→ **長時間保育**

【設定の説明】

本章における指導計画例は、以下のような園の状況を想定し、作成しました。

- 教育活動後の年間指導計画例（期ごと）⇒ 119 ページ～149 ページ
 - ・ 0歳児から5歳児までが在籍する幼保連携型認定こども園
 - ・ 教育課程に係る保育については、3年保育
 - ・ 教育活動終了後の保育の状況 … 午前9時～午後2時までの教育活動の後、「預かり保育」と「長時間保育」を別プログラムにて実施
 - ・ 異年齢（3～5歳児）混合保育
- 教育活動後の指導計画例（日ごと）⇒ 150 ページ～163 ページ
 - ・ 0歳児から5歳児までが在籍する幼保連携型認定こども園
 - ・ 教育課程に係る保育については、3年保育
 - ・ 教育活動終了後の保育の状況 … 午前9時～午後2時までの教育活動の後、「預かり保育」と「長時間保育」を同プログラムにて実施
 - ・ 異年齢（3～5歳児）混合保育

(4) 教育活動後の年間指導計画例（期ごと）

＜資料の見方＞

・「預かり保育」の列です。縦に見ます。
※「預かり保育」は、日によって利用する子供が変わるという設定です。

・「長時間保育」の列です。縦に見ます。
※「長時間保育」は、毎日利用する子供が固定されているという設定です。

・教育時間後の「ねらい」を記載しています。

・「保育者の援助」について記載しています。

※「預かり保育」と「長時間保育」の共通事項は、枠を一つにして、記号を黒色で塗りつぶして記載しています。

「環境構成」、「保育者間の連携」、「保護者との連携」も同様です。

幼児 I 期（4月～5月）	
ねらい	内容・活動等
預かり保育	長時間保育
● 生活の流れや仕方が分かり、安心して過ごす。 ● 自分の好きな遊びや興味・関心をもった事柄を見付けてかかわり、楽しむ。 ● 保育者や友達と仲たがひし、かかわりを楽しむ。	● 年長になった喜びや自信を味わいながら、園生活を楽しむ。 ● 積極的に戸外に出て、金具を使って遊び、春の自然に触れる。 ● 友達と意見を伝え合いながら一緒に遊ぶ。生活の流れや仕方が分かり、安心して過ごす。
● 自分の居場所を見付け、安心して過ごせる場所であることを知り、安心して過ごす。 ● 生活や遊びの中にきまりがあることを知り、守ろうとする。 ● 遊具や場の使い方を知り、安心して遊ぶことを楽しむ。 ● 預かり保育室で、気に入った遊具や遊びを見付けて、やりたい遊びを十分に楽しむ。 ● どんな遊びができるかが分かり、楽しみにする。 ● 友達や保育者に分かるように、自分の思いや気持ちを伝えようとする。 ● 友達の思いを聞いて、友達がやっていることに気が付いたりする。 ● 預かり保育担当の保育者に頼みをもち、一緒に遊んだり、困っていることを相談したりする。	● 生活の流れや仕方が分かり積極的に行動する。 ● 友達と一緒に金具を使って様々な遊びを楽しむ。 ● 友達と一緒に好きな遊びをする。 ● 積極的に戸外へ出て、春の自然や季節の変化に興味をもつ。 ● 保育者や友達の話を聞いて、理解しようとする。 ● 自分がやりたいことを知っていることを、保育者や友達に言葉で伝える。 ● 異年齢児の世話をしたり、一緒に遊んだりして楽しむ。 ● 午睡の時間の過ごし方を考え、十分に体を休めることの大切さを知る。
◆ 教育活動の様子など幼児の無理のない活動内容を考える ◆ 物の置き場所が分かり、安所に目印を付けたり、遊具や写真を利用した表示をする ◆ 天候や幼児の興味・関心に応じて、戸外、室内の遊びが並行して行えるように環境設定をする。 ◇ 保育室を明るく、家庭的な新しい生活環境に安心感を与える。 ◇ ござやいすを利用して、リラックスできた雰囲気を作る空間を作っていく、整備する。 ◇ ゆったりと安心して過ごしている遊具、用具を、隣同士で遊ぶ仕方が分かるように、一人一人の生活リズムを把握し、休む時間を確保したりする。	◇ 生活の流れや仕方が分かるように、所持品の置き場の場所に表示を付けたりするなど、環境を工夫する。（絵や写真など） ◇ 戸外、室内の遊びが並行して行えるように環境設定をする。 ◇ ゆったりと過ごせるコーナーや友達と一緒に遊ぶコーナーを設定する。 ◇ 幼児と共に生活の場を作っていくことを大切に、その過程を通して 5 歳児になった充実感をもてるようにする。 ◇ 生活の流れを幼児と確認しながら、変わったところは丁寧に指導していく。生活の流れや時間については自分で気が付く行動できるように、決まった時間ややり方を知らせる。 ◇ 伸び伸びと安定した気持ちで生活できるように、一人一人の気持ちを受け止め、ゆとりをもてる時間を設定する。 ◇ 午睡の場所を決め、安心して休息できるようにする。
▲ 申し送りの方法や連絡ノート（記入の方法、回収の方法など）について、年度当初に保育者間で共通理解する。 ▲ それぞれの時間帯の一人一人の様子について情報交換する時間をもち、幼児の実態、よさ、課題などについて共通理解する。 ▲ 新年度には、保護者への伝達事項が多くなることを予想される。保育者は、保育にかかわる役割と、保護者対応をする役割に分かれ、連携して対応する。 ▲ 進級後、初めて預かり保育を利用する幼児も多いので、移行時には、当日の預かり保育担当者に密に申し送りをする。	▲ 進級後、初めて預かり保育を利用する幼児（幼児の身支度の仕方、保育者の動きなど）を、保育者間で共通してしておく。 ▲ 個々の幼児の様子を把握し、時間設定（午睡のちやや移行時間など）について保育者間で話し合う。
■ 保護者に、教育活動の様子を知らせる板があることを知らせ、その掲示板を忘れずに見ることが促す。 □ 保護者が園に対して安心感をもてるように、送迎時を利用して、教育活動の様子や預かり保育で楽しく過ごしている様子を伝える。	■ 保護者が園に対して安心感をもてるように、送迎時を利用して、教育活動の様子や預かり保育で楽しく過ごしている様子を伝える。 ■ 保護者が園に対して安心感をもてるように、送迎時を利用して、教育活動の様子や預かり保育で楽しく過ごしている様子を伝える。

・子供が経験する内容、活動等について記載しています。

・環境構成について記載しています。

・「保護者との連携」について示しています。園生活と家庭生活が連続していることを踏まえ、情報の共有等の重要事項について記載しています。

・「保育者間の連携」について示しています。教育活動の担当者から、教育時間後の担当者への引継の留意点等について記載しています。

3歳児 I期（4月～5月上旬）

① 生まれて初めて 集団生活を経験する幼児

② 満3歳から入園し、入園から 数か月集団生活を経験した幼児

ねらい

- ◎ 喜んで登園する。
- ◎ 自分の学級担任が分かり、親しみをもつ。
- ◎ 所持品の始末や自分でできそうなことを、保育者と一緒にやってみようとする。

- ◎ 新たな学級担任に親しみをもつ。
- ◎ 新入園児に親しみをもつ。
- ◎ 所持品の始末や自分でできそうなことを、保育者と一緒に、または一人でやってみようとする。

内容・活動等

- 自分の学級担任、保育室の場所、トイレの場所や、身支度の仕方などを知る。
- 保育者を抱り所としながら、一緒に遊んだり、一緒に所持品の始末をしったりする。
- 保育者に、やりたいことや困ったことなどを伝える。

- 自分の学級担任や友達が分かり、親しみをもって接する。
- 所持品の始末の仕方やトイレの使い方などを知り、保育者と、または一人で行う。

◇ 環境構成

- ◆ 緊張からくる疲れが予想されるので、午後は静かな遊びができる環境を整える。
- ◇ 遊具の場所や、所持品の始末の流れなどを視覚的に分かりやすく表示する。
- ◇ トイレを落ち着いた気持ちで安心して利用できるよう、イラストを貼ったり、明るい配色の壁面装飾を施したりする。
- ◇ 遊び始めやすいように、家庭にあるような遊具を用意する。
- ◇ 同じ物を数多く用意し、「自分も使いたい」という気持ちに応えられるようにする。

- ◆ 緊張からくる疲れが予想されるので、午後は静かな遊びができる環境を整える。
- ◇ 幼児クラス的环境に慣れるよう、生活の中で、トイレ、ホールなど様々な場に、少しずつ赴く機会を設ける。

☆ 保育者の援助

- ★ 保育者から積極的に話し掛けたり、スキンシップを図ったりして、親しみをもてるようにする。
- ☆ 不安や緊張から保護者と離れるのが難しいときには、幼児の気持ちを受け止めながら、幼児がゆっくり気持ちを切り替えられるようにする。
- ☆ 話し掛けたり手をつないだりして触れ合い、温かい態度で接しながら、徐々に生活に慣れるようにする。
- ☆ 個人差が大きいことに配慮し、一人一人の気持ちや動きに応じた援助をする。

- ★ 保育者から積極的に話し掛けたり、スキンシップを図ったりして、親しみをもてるようにする。
- ☆ 所持品の始末やトイレに一人で取り組もうとする気持ちがもてるよう、自分でやろうとしたことを認め、励ましながら、意欲を引き出す。

▲ 保育者間の連携 （共通）

- ▲ 一人一人の不安や緊張に応じられるよう、保育者間で連携を密にして丁寧に対応する。
- ▲ 教育活動での幼児の姿や食事、排せつの状況、保護者からの申し送り事項などを、長時間保育担当者（または預かり保育担当者）にしっかり引き継いでいく。
- ▲ 教育時間のみ利用の幼児の降園時に、迎えの様子が長時間保育の幼児に見えないよう、両方の保育者が、降園の場所、保育の場所に配慮する。

※ 3歳児 Ⅰ期（4月～5月上旬）については、「教育活動」「預かり保育」「長時間保育」を包括して記述する。

③ 満3歳未満から入園し、集団生活が長期にわたっている幼児

- ◎ 新たな学級担任や、長時間保育の保育者等に親しみをもつ。
- ◎ 新入園児に親しみをもつ。
- ◎ 好きな遊びを見つけて遊ぶ。

- 自分の学級担任や長時間保育の保育者、友達に親しみをもち、一緒に遊んだり過ごしたりすることを喜ぶ。
- 自分の好きな場所、遊具等で遊ぶ。

④ 集団生活を経験しているが他の保育所等から入園した幼児

- ◎ 前所属園との生活習慣等の違いに慣れる。
- ◎ 新たな学級担任に親しみをもつ。

- 自分の学級担任が分かり、親しみをもって接する。
- 保育室の場所、トイレの場所、身支度の仕方、一日の生活の流れなどを知る。

- ◆ 環境の変化や新入園児がいる生活からくる疲れが予想されるので、午後は静的な遊びができる環境を整える。
- ◇ 前年度の実態等から、幼児の興味・関心の傾向を踏まえ、遊具等を用意する。

- ◆ 緊張からくる疲れが予想されるので、午後は静的な遊びができる環境を整える。
- ◇ 初めて使う遊具の扱い方や片付け方について、分かりやすい表示を掲示し、安全に扱えるよう配慮する。

- ★ 保育者から積極的に話し掛けたり、スキンシップを図ったりして、親しみをもてるようにする。
- ☆ 進級に当たり不安な様子が見られる幼児には、甘えたい気持ちを受け止めながら、じっくりかかわる。
生活の仕方等、分かっていることを新入園児に伝えさせることで、新たな生活に意欲をもてるようにする。
- ☆ 保育者も一緒に遊び、幼児の気持ちに共感する。

- ★ 保育者から積極的に話し掛けたり、スキンシップを図ったりして、親しみをもてるようにする。
- ☆ 様々な形で自分の気持ちを表してきた際には、しっかり受け止め、共感する。
新しい環境に馴染めず不安な様子が見られる幼児には、じっくりかかわり、幼児が好きな遊びを見付けられるよう援助することで、少しずつ不安を取り除くようにする。

■ 保護者との連携（共通）

- 母子分離が難しい幼児については、園での様子を丁寧に知らせ、家庭での様子を聞き取り、情報共有することで、徐々に安心して登園できるようにする。
- 園生活についての心配事や疑問などを丁寧に聞き取ったり、その日の様子を知らせたりして、信頼関係を築いていく。
- 安定した生活リズムを作れるよう働き掛ける。
- 活動の様子を知らせるホワイトボードや連絡板に目を通してもらうように促す。
- 新しい環境による疲れが予想されるため、家庭でも十分に休息をとってもらうことを話す。
- 家庭でも、自分でできることが少しずつ増えるよう、取り組んでもらうことを話す。

3歳児 Ⅱ期（5月中旬～9月上旬）

預かり保育

長時間保育

ねらい

- ◎ 預かり保育での生活の仕方が分かる。
- ◎ 夏の遊びを楽しむ。
- ◎ 好きな遊びを見つけて遊ぶ中で保育者や友達ともかかわりを楽しむ。

- ◎ 衛生に注意し、衛生習慣を身に付け、気持ちよく元気に過ごす。
- ◎ 夏の遊びを楽しむ。
- ◎ 好きな遊びを見つけて遊ぶ中で保育者や友達ともかかわりを楽しむ。

内容・活動等

- 預かり保育室での所持品の始末の仕方や間食の食べ方などが分かり、自分でできることをやってみる。
- 預かり保育での生活に必要なきまりがあることを知る。
- 預かり保育室で、気に入った遊具や遊びを見つけて、やりたい遊びを楽しむ。
- 水や砂、泥などの感触を楽しむ。
- 虫や小動物に触れ、興味をもつ。
- 保育者に親しみをもち、一緒に遊んだり、困っていることを伝えたりする。
- 遊びを介して友達とのかかわりに必要な言葉を言おうとする。

- 保育者の声掛けをきっかけにして、手洗いやうがいを自分でやろうとする。
- 汗をかいたり汚れたりしたら自分で衣服を着替えようとする。
- 水分をとり、気持ちよく過ごす。
- 適度な休息をとる。
- 尿意を感じたらトイレに行き、排尿する。
- 水や砂、泥などの感触を楽しむ。
- 虫や小動物に触れ、興味をもつ。
- 遊びを介して友達とのかかわりに必要な言葉を言おうとする。

◇ 環境構成

- ◆ 暑い時期は疲れやすいので寝転がることができるござやマットなどを用意しておき、くつろいだり休憩したりできる場を作る。
 - ◆ 食欲が低下しやすい時期なので、間食や夕方の補食は食欲が出るよう、気温を調節して涼しい部屋で食べられるようにする。
 - ◆ 十分な休息がとれるよう、気温や湿度の調節に気を付ける。
 - ◆ 雨の日や暑い日の午後などは戸外で遊べないこともあるので、必要に応じてホールなどの室内で巧技台や体を動かせる遊びができるようにする。
 - ◆ 泥や水の感触が楽しめるように、砂場の道具や水を用意しておく。
 - ◆ 夏は昆虫がたくさん見られる時期なので、図鑑や写真絵本などを用意し、興味をもって見られるようにする。
- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ◇ 初めての預かり保育で安心して過ごせるよう、生活の流れや方法を毎日同じようにする。 ◇ 支度の仕方や自分の場所などが分かりやすいように、絵や写真の表示を用いて視覚的に手順などを示しておく。 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 視覚で分かりやすいように手順などを示して、自分で手を洗ったりうがいをしたりする気持ちをもてるようにする ◇ 脱いだ衣服とこれから着る衣服が混ざらないよう、幼児に分かりやすい手順や動線を考えておく。 |
|--|---|

預かり保育

長時間保育

☆ 保育者の援助

- | | | |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ★ 水分をこまめにとるよう、意識して声を掛ける。 ★ 着替えは個人のペースに差がかなり出るので、十分な時間を設定するとともに、「自分でできたね」などの声掛けをして意欲や自信がもてるようにする。 ★ 遊具の取り合いになったときは互いの気持ちをしっかり聞いてかわりに必要な言葉を添え、関係が築けるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ 預かり保育の場にいることが楽しい時間になるよう、温かい言葉を掛けながら楽しい雰囲気作りに努める。 ☆ 生活の中で難しいところは手伝い、安心して過ごせるようにする。 ☆ 信頼関係ができるまで、保育者にトイレに行きたいことを言えない幼児もいるので優しく声を掛けたり、失敗してしまったときもそっと誘って取り替えたりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ 夏は細菌が繁殖しやすいことを分かりやすく伝えるとともに、手洗いについては洗い方を見届ける。 ☆ 難しいところは手伝いながら、自分でやろうとしている気持ちをしっかり認める。 ☆ 遊びに夢中になり、排せつをぎりぎりまで我慢して失敗してしまうこともあるが、おおらかな気持ちで接する。 |
|--|---|--|

△ 保育者間の連携

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ▲ プール・水遊びの予定や内容など、教育活動時の保育内容について情報を共有し、一日の生活の中で静と動のバランスを考える。 ▲ 梅雨以降、気候の変化で体調を崩す幼児も出てくるので、一人一人の体調に配慮する。 ▲ 夏季休業中は様々な保育者が保育にあたるので、学級担任は日頃の幼児の様子について事前に伝えておく。特に配慮を要する幼児の情報は丁寧に伝えるようにする。 ▲ 夏季休業明けは生活のリズムが変わり、疲れが出やすい時期であるので、一人一人の様子を丁寧に把握し、引継ぎをする。 | <ul style="list-style-type: none"> △ 他のクラスと一緒にプールに入ったり交流したりする際は、内容や時間などを保育者間で十分に話し合い、連携して準備する。 |
|--|---|

□ 保護者との連携

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> □ 長時間の保育では疲れが見られることも予想されるので、必要に応じて横になって休息できるよう、バスタオルなどの準備を依頼する。 | <ul style="list-style-type: none"> □ 汗をかいたりうがいで汚れたりして着替える回数が増えることを伝え、着替えを多めに持ってきてもらうよう伝える。また、自分で始末をした際に間違えていても、自分からやろうとしたことを認めてあげてほしいことなどを伝える。 □ 夏は体が疲れやすいことや夏特有の病気が流行することを伝え、家庭でも十分に睡眠や栄養がとれるよう配慮してもらう。 |
|---|--|

3歳児 Ⅲ期（9月中旬～10月）

預かり保育

長時間保育

ねらい

- ◎ 預かり保育での生活の仕方が分かり、安心して過ごす。
- ◎ 自分のやりたい遊びを見付けて楽しむ。

- ◎ 1日の気温の変化、季節の変化に合わせ衣類を調節して、気持ちよく過ごす。
- ◎ 運動会の取組を楽しみにし、覚えたことを再現して楽しむ。
- ◎ 簡単なルールのある遊びを楽しむ。

内容・活動等

- 預かり保育室での所持品の始末の仕方や間食の食べ方などが分かり、自分でできることをやってみる。
- 預かり保育での生活に必要なきまりがあることを知る。
- 預かり保育室で、気に入った遊具や遊びを見付けて楽しむ。
- 預かり保育担当の保育者に親しみをもち、一緒に遊んだり、困っていることを伝えたりする。

- 汗の始末や汚れた衣類の始末を自分でやろうとする。
- 適度に休息をとる。
- 自分からトイレへ行き、排泄する。
- 自分の身の回りのことを自分でやろうとする。
- 保育者や友達と体を動かす遊びをして楽しむ。
- 4・5歳児にあこがれの気持ちをもち、動きを真似て楽しむ。

環境構成

- ◆ 運動会の遊びが午後にも楽しめるように、道具やラインカーなどを準備しておく。
 - ◆ 体を動かすことが心地よい季節なので、様々な動き（走る、跳ぶ、くぐる、またぐなど）が楽しめるように園庭の環境を整える。
 - ◆ 運動会終了後も余韻を楽しめるように、運動会で使った道具を使いやすく置いておく。
 - ◆ 日没が早くなってくるために、室内の遊具を見直して種類を増やしたり、新しい遊具を出したりして夕方の時間が楽しく過ごせるようにする。
 - ◆ 教育活動で体をよく動かしているのに、夕方は疲れがたまらないよう早めに室内に入り、静かな遊びを楽しめるようにする。
-
- ◇ 幼児が物の置き場所が分かり、安心して自分から動き出すことができるように、所持品の置き場所に目印を付ける、遊具や用具の場所に絵や写真の表示を付けるなど、環境を工夫する。
 - ◇ 落ち着いて楽しく間食をとることができるように、視覚的教材を使って手順を知らせたり、座る位置に配慮したりする。
 - ◇ 降園身支度の仕方が分かるように、手順を視覚的に示す、一人一人のペースに合わせた時間を確保するなどの工夫を行う。
 - ◇ 一人一人が、自分のやりたい遊びを見付けて落ち着いて遊ぶことができるように、遊具の種類や量に配慮する。
 - ◇ 長時間の活動で疲れが出ることもあるので、必要に応じて休息がとれるスペースを作っておく。

預かり保育

長時間保育

☆ 保育者の援助

- ★ 名前を呼んだり、笑顔で話し掛けたり、一緒に遊んだりしながら、一人一人の幼児と信頼関係を築く。
- ★ できるようになったことなどを見てほしがったとき、幼児の気持ちに共感して自信がもてるように認める。
- ★ 4・5歳児の行動を「かっこいいね」と褒め、憧れの気持ちがもてるようにする。
- ★ 体を動かすことに自信がついてきて、以前よりも動きが大きくなってけがをすることもあるので注意して見守る。
- ★ 日没が早くなり暗くなったとき、保護者の迎えが遅いと心配する幼児もいるので、安心できるように話をしたり、一緒に遊んだりして不安な気持ちを和らげる。

☆ 幼児が困ったり不安になったりする姿が見られたときは、その気持ちに寄り添い、そっと手助けをしたり、声を掛けたりして、安心して過ごせるようにする。

☆ 行事への期待をもって生活する中で、自分の身の回りのことも意欲的に取り組もうとするので、その気持ちをしっかり認めていく。幼児が自分の力でできているかを見守り、必要な時は援助したり声を掛けたりする。

△ 保育者間の連携

- ▲ 運動会へ向けた計画について、保育者間で話し合う機会をもち、共通理解を図る。
- ▲ それぞれの時間帯の保育を見合う時間をもつ。運動会の練習を参観し、その日の保育を構成するための参考にする。
- ▲ 運動会の取組を受けて、踊ったり走ったりして楽しむ幼児が増えるため、安全に遊ぶことができるように場を確保したり保育者が連携して見守ったりする。

□ 保護者との連携

- 幼児が運動会への取組を通して初めて大きい行事に参加することへの喜びや緊張などを感じている姿を伝え、家庭でもその気持ちに共感してほしいことを話す。また、いつもと違う取組に参加することで疲れが出ることもあるため、十分に休息をとってもらうよう伝える。
- 長時間の保育では疲れが見られることも予想されるので、必要に応じて横になって休息できるよう、バスタオルなどの準備を依頼する。

3歳児 IV期（11月～12月）

預かり保育

長時間保育

ねらい

- ◎ 預かり保育での生活の中で必要なことや身の回りの簡単なことを自分で行おうとする。
- ◎ 秋の自然や冬の季節の事柄を取り入れ、生活や遊びを楽しむ。
- ◎ 保育者や友達とかかわりながら、自分のやりたい遊びを楽しむ。

- ◎ 長時間保育での生活の中で必要なことが分かり、身の回りの簡単なことを自分で行おうとする。
- ◎ 秋の自然や冬の季節の事柄を取り入れ、生活や遊びを楽しむ。
- ◎ 保育者や友達とかかわりながら、自分のやりたい遊びを楽しむ。

内容・活動等

- 預かり保育室での身支度、間食の準備・片付けなどが分かり、自分でできることをやってみる。
- 防寒具の扱いや戸外から戻った後の手洗いやうがいなど、冬の生活に必要なことを知る。
- 自然物を遊びに取り入れて遊ぶ。
- 戸外で体を動かして遊ぶ。
- 自分の気に入った遊具や遊びを見付けて、やりたい遊びを楽しむ。
- その日に預かり保育を利用している友達に親しみをもち、かかわる。
- 保育者に親しみをもち、一緒に遊んだり、困っていることを伝えたりする。

- 挨拶、身支度、間食の準備・片付けなどに、自分から取り組もうとする。
- 防寒具の扱いや戸外から戻った後の手洗いやうがいなど、冬の生活に必要なことを知る。
- 生活に必要なことを自分でやろうとする。
- 自然物を遊びに取り入れて遊ぶ。
- 戸外で体を動かして遊ぶ。
- 自分の気に入った遊具や遊びを見付けて、やりたい遊びを楽しむ。
- 保育者や友達に親しみをもち、一緒に遊ぶ。

環境構成

- ◆ 身の回りのことに取り組む場面では、自分のことを自分でできる時間やスペースを確保し、幼児が主体的に取り組めるようにする。
- ◆ 必要に応じて暖房や加湿器を使用したり換気したりして、温度や湿度を管理し、健康に過ごせる環境を整える。
- ◆ 防寒具の扱いや手洗い・うがいなどの手順とその必要性を伝えるため、分かりやすいイラストや写真などを掲示する。
- ◆ 秋の自然にかかわるもの（落ち葉やどんぐり）や年末年始の行事に関連するものを幼児が作れるコーナーを準備するとともに、作ったものを飾ることで季節感を感じながら過ごせるようにする。
- ◆ 日没が早くなり、室内で過ごす時間が長くなるので、人形遊び、絵本など一人や少人数でもゆったり過ごせる遊びを提示する。
- ◇ 遊びに必要な物を作る際に、日中の教育活動の経験や今までの預かり保育での経験を踏まえ、材料や素材を用意する。
- ◇ 一人一人がやりたい遊びを見つけ、落ち着いて遊ぶことができるように、道具の種類や量に配慮する。（ボール遊び、ぼっくり、フープ、カードゲーム、パズル、こま）
- ◇ 簡単なルールの鬼遊び等を設定し、体を動かしながら保育者や友達とかかわって遊ぶことを楽しめる場面を作る。
- ◇ 遊びに必要な物を作る際に、日中の教育活動の経験や今までの長時間保育での経験を踏まえ、材料や素材を用意する。
- ◇ 寒くなる時期であるが、日没前に戸外に出て体を動かして遊ぶ時間を設けるとともに、簡単な集団遊びやボール遊びを提示し、友達と一緒に体を動かす楽しさを味わえるようにする。

預かり保育

長時間保育

☆保育者の援助

- ★ 上着の着脱など難しいところは手を貸しながらも、生活に必要なことを自分でやろうとする姿勢を認める。
 - ★ 感染症予防のために、手洗いやうがい大切さを伝え、保育者がモデルとなって示す。
 - ★ 気温の変化や体調に合わせた衣服の調整に配慮する。
 - ★ 冬季休業中の保育は、教育活動がある時と流れが異なるので、そのことを丁寧に知らせ、幼児が安心して過ごせるようにする。
 - ★ 幼児が安定して教育活動後の生活に向かうことができるように、一人一人を丁寧に受け入れる。
- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ☆ 幼児の疲れ具合をよく見ながら緊張感を受け止め、リラックスして過ごせるようにする。 ☆ その日の友達関係の中で、かかわったり一緒に遊んだりする楽しさを感じられるよう、保育者が仲立ちをするなどの援助をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ 気の合う友達とかかわったり一緒に遊んだりする楽しさを感じられるよう、保育者が仲立ちなどの援助をする。 ☆ 時にはみんなで一緒に遊ぶ遊び（転がしドッジボール、鬼遊び等）を投げ掛け、保育者や友達に親しみをもてるようにする。 |
|--|--|

△保育者間の連携

- ▲ それぞれの時間帯で使っている教材や楽しんでいる遊びを紹介するなど、それぞれの保育について情報を交換し、参考になることを保育に取り入れる。
 - ▲ 気候の変化に伴い、体調を崩しやすい時期であるため、一人一人の体調の変化に留意し、保育者間で情報を共有する。
 - ▲ 夕方になると一日の疲れも見られるので、保育者間の連絡を密にし、幼児が安全に遊べるように見守る。
 - ▲ 個人面談の前には、事前にその幼児の成長と課題について、保育者間で情報を共有し、保護者に伝える内容を整理する。
 - ▲ 個人面談終了後は、保護者と話した内容を、保育者間で共有し指導に生かしていく。
- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> △ 冬季休業中の過ごし方（持ち帰る物、大掃除の方法、異年齢交流など）を保育者間で話し合う。 |
|--|---|

□保護者との連携

- 個人面談を設定し、遊びの様子や友達とのかかわりの中で変容した幼児の姿を伝え、成長を喜び合う。
- 手洗いやうがいなど冬の健康に関する生活習慣について、園の取組を伝えるとともに、家庭にも協力を求め、習慣の定着を図る。
- 外遊び用の上着や日常的に使う防寒着は、動きやすく、幼児が自分で扱うことができる物を用意してもらうように依頼する。
- 感染症が流行する時期であるため、体調の変化が見られた時は詳細を伝えて注意を促す。
- 感染症に罹患した場合は、「出席停止の扱い」「登園許可証の提出」などについて伝えて協力を求める。

3歳児 V期（1月～3月）

預かり保育

長時間保育

ねらい

- ◎ 進級に期待をもち、預かり保育での生活に必要なことを自分で行おうとする。
- ◎ 戸外で体を動かして遊んだり、季節の遊びを楽しんだりする。
- ◎ 保育者や友達とのかかわりの中で、自分の思いを出しながら遊ぶことを楽しむ。

- ◎ 進級に期待をもち、身の回りのことや生活に必要なことを自分から進んで行う。
- ◎ 友達と一緒に遊ぶ中で、体を動かして遊んだり、簡単なルールのある遊びを楽しんだりする。
- ◎ 保育者や友達とのかかわりの中で、自分の思いを十分に出して遊ぶことを楽しむ。

内容・活動等

- 預かり保育での基本的な生活の仕方が分かり、自分でできることを自分で行う。
- 手洗いやうがいなど冬の生活に必要な習慣が分かり丁寧に行う。
- 様々なことをできるようになったことを実感し、自身の成長を感じる。
- 季節ならではの遊び(正月遊びなど)や戸外での遊びに興味をもつ。
- 寒くても戸外に出て、保育者や友達と一緒に簡単なルールに沿って体を動かすことを楽しむ。
- 同じ遊びをする友達に親しみをもち、一緒に遊ぶ。
- 自分が思っていることを言葉や動きで表しながら遊ぶ。

- 長時間保育での基本的な生活に自分なりの見通しをもち、自分でできることを自分で行う。
- 手洗いやうがいなど冬の生活に必要な習慣が分かり丁寧にを行う。
- 様々なことをできるようになったことを実感し、自身の成長を感じる。
- 友達と一緒に、季節ならではの遊び(正月遊びなど)に興味をもち、参加する。
- 寒くても戸外に出て、保育者や友達と一緒に簡単なルールに沿って体を動かすことを楽しむ。
- 友達が行っていることに興味をもち、イメージや遊び方をまねて遊ぶ。
- 簡単なルールを理解して遊ぶ。
- 異年齢児や友達が行っていることに興味をもち、一緒に遊ぶ中で親しみをもつ。
- 気の合う友達との遊びの中で、自分が思っていることを言葉や動きで表しながら遊ぶ。

環境構成

- ◆ 進級に向けた活動や行事等により疲れも予想されるので、必要に応じて休息がとれる場を設ける。
- ◆ 教育活動での保育内容や日没時間等を考慮しつつ、戸外で遊ぶ時間を確保する。
- ◆ 日中に取り組んだ遊びを繰り返し楽しめるように、遊具等を用意する。(正月遊び、フープ、ぽっくり、ボールなど)

- ◇ 幼児の様子を見ながら、戸外での遊び(ぼっくり、ボール)や巧技台遊びなど体を使った遊びを個々に楽しめるようなコーナーを設置する。
- ◇ (簡単なけん玉やこまなど) 少人数や一人で遊べる正月遊びなどを用意し、季節の遊びに興味をもてるようにする。
- ◇ 幼児の主體的な遊びが促されるように、預かり保育を利用する幼児が今までに楽しんできた遊びを振り返り、遊具を選び、用意する。

- ◇ 幼児の様子を見ながら、戸外での遊びや巧技台遊びなど体を使った遊びを友達と一緒に楽しめるようなコーナーを設置する。
- ◇ 4・5歳児のこま回しや縄跳びなどの様子を見るなどのかわりがもてるような場を構成する。
- ◇ 異年齢児とかわかることを楽しめるような遊びを取り入れ、共通の場を設けたりルールを工夫したりする。
- ◇ 気の合う友達同士で遊び、自分の思いを出すことができるように、ござやつい立てなどを自由に使えるようにしておく。

預かり保育

長時間保育

☆ 保育者の援助

- | | | |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ★ 幼児が自分から必要なことに気付きやってみようとする姿勢や、できなかったことができるようになった姿を認め、進級する気持ちへつなげていく。 ★ (だるまさんが転んだ、おおかみさん今何時など) 簡単なルールの集団遊びなどを投げ掛けて、友達と一緒に体を動かす遊びが楽しめるようにする。 ★ 異年齢同士で遊ぶ場では、保育者が遊びに加わり、ルールや遊び方を知らせたり、難しいところを手伝ったりしながら楽しく遊べるように援助する。 ★ やりたい遊びに取り組む中で、個々に楽しんでいることに共感し、思いを受け止める。 ★ 友達との遊びの中で、自分の思いや考えを表現できるように励ましたり代弁したりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ 幼児が気持ちを切り替えて預かり保育での生活に向かうことができるように、一人一人と丁寧に挨拶や会話を交わしながら受け入れる。 ☆ 幼児が進級後の生活に期待や見通しをもつことができるように、預かり保育での 4 歳児の様子を話題にする。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ 幼児が安定して長時間保育での生活に向かうことができるように、一人一人とスキップを図りながら丁寧に受け入れる。 ☆ 幼児が進級後の生活に期待や見通しをもつことができるように、4 歳児の生活の様子を話題にしたり、4 歳児の保育室と一緒に見に行ったりする。 |
|---|--|--|

△ 保育者間の連携

- ▲ 生活発表会に向けた活動や、お別れ会の準備など、進級に向けた活動が入ってくるので、疲れや興奮が見られる幼児も予想される。学級担任は教育活動の様子を丁寧に伝える。
- ▲ 感染症が流行する時期であることを踏まえ、幼児の体調については、特に細かく引継ぎを行う。また、各クラスの状況（罹患者数など）の情報を共有する。
- ▲ 一人一人の幼児の成長と課題について、保育者間で話し合う機会をもち、共通理解をした上で次年度に引き継ぐ。

□ 保護者との連携

- | | | |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 生活発表会に向けた取組、お別れ会の準備など進級に向けた取組など、この時期ならではの活動について、口頭や掲示で知らせる。 ■ 感染症の発生状況や手洗い、うがいなどの予防の大切さを知らせるとともに、家庭でも体調の変化に留意してもらうように促す。 | <ul style="list-style-type: none"> □ その日の幼児の姿から、成長を感じたことを具体的に伝え、進級に向けて成長の喜びを共有する。 | <ul style="list-style-type: none"> □ 進級に向けて不安や期待を受け止め、話を聞いたり、4 歳児クラスでの過ごし方を伝えたりして、安心感をもって進級を迎えられるようにする。 □ 進級に向けて、生活の仕方が変わることなどを、分かりやすく掲示したり説明したりする。 □ 一年間の園への理解、協力に対するお礼を伝えたり、進級に向けて生活を見直してもらったりする。 □ 幼児の成長の姿を具体的に知らせ、ともに成長の喜びを共有する。 |
|---|--|--|

4 歳児 I 期（4 月～5 月）

預かり保育

長時間保育

ねらい

- ◎ 預かり保育での生活の仕方が分かり、安心して過ごす。
- ◎ 自分のやりたい遊びを見付けて楽しむ。

- ◎ 長時間保育での生活の仕方が分かり、安心して過ごす。
- ◎ 保育者やクラスの友達に親しみをもったり、一緒に遊ぶことを楽しんだりする。

内容・活動等

- 預かり保育室での所持品の始末の仕方や間食のとり方などが分かる。
- 預かり保育の生活の中で、覚えたことやできそうなことを自分でやってみる。
- 預かり保育での生活に必要なきまりがあることを知る。
- 預かり保育担当の保育者に親しみをもつ。
- 保育者と一緒に遊んだり、困っていることを伝えたりする。
- 預かり保育室で、気に入った遊具や遊びを見付ける。
- 気に入った遊具などを使い、やりたい遊びを楽しむ。

- 長時間保育での午睡の準備や間食のとり方などが分かる。
- 長時間保育の生活の中で、覚えたことやできそうなことを自分でやってみる。
- 長時間保育での生活に必要なきまりがあることが分かる。
- 長時間保育担当の保育者に親しみをもつ。
- 保育者と一緒に遊んだり、困っていることを伝えたりする。
- 気に入った遊具や遊びを見付けて、やりたい遊びを楽しむ。
- クラスの友達と同じ遊びをしたり、一緒に動いたりして、ともに過ごすことを楽しむ。

◇ 環境構成

- ◆ 新しい環境での不安や疲れを考慮し、ござやマットなどを置いたくつろげる場や、一人で遊べる場を確保する。
- ◆ 物の置き場所が分かり、安心して自分から動き出すことができるように、遊具や用具の場所に絵や写真の表示を付けるなど、環境を工夫する。
- ◆ 落ち着いて楽しく間食をとることができるように、視覚的教材を使って手順を知らせたり、座る位置に配慮したりする。
- ◆ 降園身支度の仕方が分かるように、手順を視覚的に示す、一人一人のペースに合わせた時間を確保するなどの工夫をする。
- ◇ 所持品の置き場所が分かるように、個人用のかごを用意したり目印を付けておいたりする。
- ◇ 一人一人が、自分のしたい遊びを見付けて落ち着いて遊ぶことができるように、遊具の種類や量に配慮する。
- ◇ 遊び始めのきっかけにしたり、興味をもってかかわったりできるように、家庭で親しんでいたと思われる遊具や園ならではの遊具を、手に取りやすいように配置する。
- ◇ 安心して自分の身の回りのことに取り組めるように、所持品の置き場所に、個人別マークや名前を付けておく。
- ◇ 目覚めから間食の準備など、幼児が生活を進めやすい物の配置、動線を考慮する。
- ◇ 3 歳児クラスの時に経験した遊びや親しんだ遊びができるように、遊具や材料を用意する。
- ◇ 新入園児と進級児それぞれが、自分たちの遊びを楽しめるように、場を確保したり、遊具の数やコーナーの構成の仕方を考慮したりする。

預かり保育

長時間保育

☆ 保育者の援助	★ 名前を呼んだり、笑顔で話し掛けたり、一緒に遊んだりしながら、一人一人の幼児と信頼関係を築く。 ★ 幼児が困ったり不安になったりする姿が見られたときは、その気持ちに寄り添い、そっと手助けをしたり、声を掛けたりして、安心して過ごせるようにする。	
	☆ 進級児が自分からやりたいことを見付けて遊び出す姿が見られた際は、幼児が楽しさを感じられるような言葉を掛ける。 ☆ 遊びが見付からない幼児に対しては、周りの様子を一緒に見たり、親しみのある遊具と一緒に遊んだりし、幼児が遊びの楽しさを感じられるようにする。	☆ 幼児の思いに寄り添いながら、保育者も一緒に遊び、遊びのモデルを示したり、経験に応じて遊具や用具、素材の扱い方を知らせたりする。 ☆ 保育が長時間に渡る幼児については、特にその様子を丁寧に捉え、疲れや甘えたい気持ちを受け止め、安心してゆったりと過ごせるようにする。

△ 保育者間の連携	▲ 申し送りの方法や連絡ノートの扱い方（記入の方法、回覧の方法など）について、年度当初に保育者間で共通理解する。 ▲ それぞれの時間帯の一人一人の様子について情報交換する時間を持ち、幼児の実態、よさ、課題などについて共通理解する。 ▲ 新年度には、特に送迎時に、保護者への伝達事項が多くなることが予想される。保育者は、保育にかかわる役割と、保護者対応をする役割に分かれ、連携して対応する。	
	△ 入園・進級後、初めて預かり保育を利用する幼児も多いので、移行時には、当日の預かり保育担当者に密に申し送りをする。	△ 進級して環境が変わるので、移行の方法（幼児の身支度の仕方、保育者の動きなど）を、保育者間で共通にしておく。

□ 保護者との連携	■ 保護者に、教育活動の様子を知らせる掲示板があることを知らせ、その掲示板を見ることを促す。	
	□ 保護者が園に対して安心感をもてるように、送迎時を利用して、教育活動での様子や預かり保育で楽しく過ごしている様子を伝える。	□ 保護者が園に対して安心感をもてるように、送迎時を利用して、教育活動での様子や長時間保育で楽しく過ごしている様子を伝える。 □ 環境が変わり、不安を感じる保護者もいるので、話を聞いて不安を受け止めたり、園での様子を具体的に知らせたりする。

4歳児 Ⅱ期（6月～9月上旬）

預かり保育

長時間保育

ねらい

- ◎ 預かり保育での生活に慣れ、喜んで過ごす。
- ◎ 夏の過ごし方を知り、季節感のある遊びを楽しむ。
- ◎ 友達と触れ合いながら遊ぶ楽しさを味わう。

- ◎ 長時間保育での生活に慣れ、喜んで過ごす。
- ◎ 夏の過ごし方を知り、季節感のある遊びを楽しむ。
- ◎ 思ったことや考えたことを表しながら、友達との遊びを楽しむ。

内容・活動等

- 預かり保育を利用する日を楽しみにし、喜んで入室する。
- 所持品の始末や間食の準備・片付けなどで、自分でできることをやろうとする。
- 夏を健康に過ごすために、休息、水分補給、着替えなどが必要であることを知る。
- 水に触れる遊び、シャボン玉遊び、虫取りなど、季節ならではの遊びの楽しさを味わう。
- 気に入った遊具や遊びを通して、友達と触れ合いながら遊ぶ。
- その日に預かり保育を利用している友達に親しみをもつ。
- 同じ場で遊ぶ友達と、同じように動いたりかわったりして遊ぶ。

- 長時間保育で過ごすことを楽しみにし、喜んで生活する。
- 午睡時の着替え、間食の準備・片付けなどで、自分でできることをやろうとする。
- 梅雨や夏を健康に過ごすために、休息、水分補給、着替えなどが必要であることを知る。
- 水に触れる遊び、シャボン玉遊び、虫取り、夏祭りなど、季節ならではの遊びの楽しさを味わう。
- やりたいことややってほしいこと、思ったことなどを、保育者や友達に言葉で伝えようとする。
- 気の合う友達と一緒に遊びを楽しむ。
- 気の合う友達と一緒に遊ぶ中で、互いに思いを出して遊ぶ。

◇ 環境構成

- ◆ 水遊びやプールなどの教育活動に応じて、静と動のバランスに配慮した遊びを提示する。
- ◆ 雨天が続いて体を動かしたい欲求が高まっている様子が見られた場合は、気持ちを発散できる運動的な遊びの場を用意するなどの工夫をする。
- ◆ 暑さで体力を消耗しやすい季節なので、室内の温度を調整するとともに、布団やござをしいたコーナーなどゆったりとくつろげる環境を用意し、幼児が自分で休息がとれるようにする。
- ◆ 水遊びや暑さなどで疲れが出やすいので、室内でゆっくり過ごすことができるようにブロック、パズルなど一人一人がゆったり遊べる遊具を用意するとともに、遊ぶ時間や場を確保する。

- ◇ その日に預かり保育を利用する幼児の人数に対して十分な遊具の数を用意し、安心して友達と遊べるようにする。

- ◇ 疲れが見られたときは、午睡の時間を多めにとる、身支度の時間にゆとりをもたせるなど、生活の流れを工夫する。
- ◇ 虫取り網や虫かご、図鑑などをいつでも使えるように用意する。
- ◇ 七夕や夏祭りの経験に基づく、作りたい、踊りたいなどの気持ちに応えられるよう、道具や遊具を準備する。
- ◇ 夏季休業中の人数が少ない日は、他クラスと一緒にプールに入ったり交流して遊んだりする機会を設ける。

預かり保育

長時間保育

☆ 保育者の援助

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ★ 一人一人と丁寧に挨拶を交わしたりスキンシップを図ったりしながら受け入れ、幼児が教育活動後の生活に気持ちを切り替えていけるようにする。 ★ 幼児が健康に過ごすことができるように、水分補給、休息、着替えなどを、必要に応じて促す。 ★ 友達と同じ動きや同じ物を身に付けたい気持ちを受け止め、楽しさを共感する。 ★ 保育者も一緒に過ごす中で、気持ちを代弁したり具体的な伝え方を知らせたりする。 ★ 夏季休業中は、過ごし方や人数の変化により、不安定になる幼児も予想されるので、個々の気持ちを受け止め、安心して過ごせるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ 預かり保育を利用する頻度により、預かり保育での生活の慣れ方が異なることを踏まえ、必要に応じて個別にかかわったり、自分でできることを見守ったりする。 ☆ 身の回りのできるようになったことや預かり保育の生活の仕方で覚えてきたことに自分から取り組む姿勢を大いに認める。 |
|---|--|

△ 保育者間の連携

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ▲ プール・水遊びの予定や内容など、教育活動での保育内容について情報を共有し、一日の中で静と動のバランスを考える。 ▲ 梅雨以降、気候の変化で体調を崩す幼児も出てくるので、一人一人の体調に配慮する。 ▲ 夏季休業中は様々な保育者が保育にあたるので、学級担任は日頃の幼児の様子について事前に伝えておく。特に配慮を要する幼児の情報は丁寧に伝えるようにする。 ▲ 夏季休業明けは生活のリズムが変わり、疲れが出やすい時期であるので、一人一人の様子を丁寧に把握し、引継ぎをする。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> △ プールに入る際は、体調面の申し送りを保育者間で十分に行う。 | <ul style="list-style-type: none"> △ 他のクラスと一緒にプールに入ったり交流したりする際は、内容や時間などを保育者間で十分に話し合い、連携して準備する。 |

□ 保護者との連携

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 降園時の話やクラス便りを通して、幼児の姿や成長、友達関係の広がりについて知らせる。 ■ 汗をかいたり水遊びをしたりして着替えが多くなるので、自分で着脱できる衣類の準備、記名、衣類の補充などを依頼する。 ■ 水遊びに際して、プールカードなどを活用し、家庭と連絡を取り合い、健康状態に十分に留意する。 ■ 夏は体が疲れやすいことや夏特有の病気が流行することを伝え、家庭でも十分に睡眠や栄養がとれるよう配慮してもらう。 ■ 休み中の様子や経験したことを保護者から聞いたり、園での様子を伝えたりする。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> □ 夏季休業中、夏季休業前後も安心して利用してもらえるよう、一日の流れや持ち物などを丁寧に説明する。 | <ul style="list-style-type: none"> □ 友達への関心が高まる時期であることを踏まえ、トラブルの状況や対応を丁寧に知らせる。 □ 夏季休業明けは、一人一人の実態に応じて生活リズムを取り戻せるように協力を求める。 |

4歳児 Ⅲ期（9月中旬～10月）

預かり保育

長時間保育

ねらい

- ◎ 預かり保育での生活の仕方を思い出し、楽しく過ごす。
- ◎ 伸び伸びと体を動かすことを楽しむ。
- ◎ 保育者や友達とかかわる中で、自分の思いを動きや言葉に表して遊びを楽しむ。

- ◎ 長時間保育での生活のリズムを取り戻し、園生活を楽しむ。
- ◎ 伸び伸びと体を動かすことを楽しむ。
- ◎ 気の合う友達とかかわる中で、思いや考えを表し、遊びを楽しむ。

内容・活動等

- 預かり保育の生活の流れやきまりを思い出す。
- 身支度や間食の準備・片付けなどで、自分でできることは、自分でやろうとする。
- 預かり保育の遊具、用具などの扱いに慣れて、大切に使う。
- 戸外で遊んだり音楽に合わせて踊ったりして、さまざまに体を動かす。
- 遊具や用具を選んで使ったり、組み合わせて場を作ったりして遊ぶ。
- 保育者や友達に親しみをもって、挨拶をしたり、会話をしたりする。
- やりたい遊びに取り組んだり、友達とかかわったりする中で、自分の思いを動きや言葉で表す。

- 長時間保育の生活の流れやきまりを思い出す。
- 入室、午睡、間食などの生活の中で、自分でできることは、自分でやろうとする。
- 戸外で遊んだり音楽に合わせて踊ったりして、さまざまに体を動かす。
- 友達の動きを真似たり、自分なりに試したりしながら、体を動かすことを楽しむ。
- やったこと、見たこと、考えていることなどを、保育者や友達に話す。
- 気の合う友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。
- 気の合う友達との遊びの中で、自分の思いを動きや言葉で表して伝えようとする。

◇ 環境構成

- ◆ 夏の疲れが出たり、運動量が増えたりするので、一人一人の状況に応じて、気持ちを切り替えたり、それぞれのペースで過ごしたりできるような環境を工夫する。（静かに過ごせる場を作る、一人一人のやりたいことができる場を確保する、気分転換となる遊びを提示するなど）
 - ◆ 幼児が自分で休息をとったり水分補給をしたりできるような環境を用意する。
 - ◆ 運動会に向けて教育活動での活動量が増えることを踏まえ、静と動のバランスを考慮した生活の流れや環境を工夫する。
 - ◆ 長時間過ごす幼児が気持ちを切り替えるとともに、さまざまな遊びを経験できるように、涼しくなる夕方の時間帯に戸外での遊びを楽しむ時間を確保する。
- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ◇ 預かり保育を徐々に利用する幼児もいるので、物の置き場所や生活の流れを変えず、安心して過ごせるようにする。 ◇ 遊具や材料を組み合わせたたり、選んで使ったりしながら、遊びを楽しめるように、今までに使ったことのある遊具や材料を用意する。 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 生活リズムが整うように、生活の流れを一定にする。 ◇ 一緒に遊ぶ友達とのつながりを感じることができるよう、落ち着いて遊ぶことができる空間を確保したり、場作りのための用具（ござやつい立てなど）を用意したりする。 |
|---|---|

預かり保育

長時間保育

☆ 保育者の援助	★ 休み明けの一人一人の様子や夏季休業中の話などを丁寧に受け止め、幼児が安心して過ごせるようにする。 ★ 一人一人の生活面での実態を見直し、自分でやろうとする姿勢を認める、自分でできるように援助するなど、一人一人に応じた働き掛けを行う。 ☆ 預かり保育を久々に利用する幼児に対しては、生活の仕方を思い出すことができるような言葉を掛けたり、気が付いて自分で行おうとする姿勢を認めたりする。 ☆ 入室時に丁寧に挨拶を交わしたり、遊びの中で個々の幼児と会話を楽しんだりし、幼児が保育者に対して安心感や親しみをもてるようにする。 ☆ 遊びの中で自分の思いを表すことができるように、状況に応じて問い掛ける、代弁する、他の幼児との橋渡しをするなどの援助をする。 ☆ 保育者も一緒に体を動かし、モデルを示したり、幼児の動きを引き出したりする。 ☆ 自分なりの動きを試す、友達と一緒に踊る、固定遊具を使って遊ぶなど体を使って遊ぶ姿勢を認め、その楽しさを共感する。 ☆ 友達同士で遊ぶ姿を見守りながら、状況に応じて保育者が橋渡しをして、自分の思いが相手に伝わる嬉しさを感じられるようにする。
△ 保育者間の連携	▲ 運動会へ向けたねらいを明確にし、保育者間で話し合う機会をもち、共通理解を図る。 ▲ それぞれの時間帯の保育を見合う時間をもつ。運動会の練習を参観し、その日の保育を構成するための参考にする。 ▲ 運動会の取組を受けて、踊ったり走ったりして楽しむ幼児が増えるため、安全に遊ぶことができるように場を確保したり保育者が連携して見守ったりする。
□ 保護者との連携	■ 運動会のねらいや取組の過程について、クラス便りや掲示などを通して保護者に伝える。 ■ 気候の状況や園での生活の様子などを伝え、衣類の種類や数を考慮して準備してもらうように依頼する。 □ 預かり保育を久々に利用する保護者が安心感をもてるように、掲示板などを利用し、直近の預かり保育での様子を伝える。

4歳児 IV期（11月～12月）

預かり保育

長時間保育

ねらい

- ◎ 預かり保育の生活の中で必要なことが分かり、自分から行おうとする。
- ◎ 季節の変化を感じ、寒さに負けず戸外で遊ぶ。
- ◎ やりたい遊びに取り組む中で、様々な表現を楽しむ。

- ◎ 長時間保育での生活の中で必要なことが分かり、自分から行おうとする。
- ◎ 季節の変化を感じ、寒さに負けず戸外で遊ぶ。
- ◎ 友達との遊びの中で、様々な表現を楽しむ。

内容・活動等

- 挨拶、身支度、間食の準備・片付けなどに、自分から取り組む。
- 防寒具の扱いや戸外から戻った後の手洗い・うがいなど、冬の生活に必要なことを知る。
- 冬の生活に必要な身の回りのことを、自分でやろうとする。
- 寒さに負けず、縄跳び、フープ、鬼遊びなどを楽しむ。
- 自分からやりたい遊びにかかわり、遊びを楽しむ。
- やりたい遊びに合わせて、材料を選ぶ、組み合わせる、見立てるなどして使う。
- 預かり保育を利用している友達に親しみをもち、一緒に遊びたい友達にかかわる。
- 友達に、自分の思いを伝えながら遊ぶ。
- 一緒に遊ぶ中で友達の思いに気付くようになる。

- 挨拶、身支度、間食の準備・片付けなどに、自分から取り組む。
- 防寒具の扱いや戸外から戻った後の手洗い・うがいなど、冬の生活に必要なことを知る。
- 冬の生活に必要な身の回りのことを、自分でやろうとする。
- 寒さに負けず、縄跳び、フープ、鬼遊びなどを楽しむ。
- 自分からやりたい遊びや一緒に遊びたい友達にかかわり、遊びを楽しむ。
- やりたい遊びに合わせて、材料を選ぶ、組み合わせる、見立てるなどして使う。
- 今までにやったことを思い出したり、遊びに取り入れたりする。
- 友達に、自分の思いを伝えながら遊ぶ。
- 一緒に遊ぶ中で友達の思いに気付くようになる。

◇ 環境構成

- ◆ 身の回りのことに取り組む場面では、個人差を考慮し、時間にゆとりをもたせるとともに、個々のスペースを確保し、幼児が主体的に取り組めるような環境を確保する。
- ◆ 必要に応じて暖房や加湿器を使用したり換気をしたりして、温度や湿度を管理し、健康に過ごせる環境を整える。
- ◆ 防寒具の扱いや手洗い・うがいなどの手順とその必要性を伝えるため、分かりやすいイラストや写真などを掲示する。
- ◆ カレンダーや季節の絵本を取り入れながら、一年の終わりや年末・年始の過ごし方に関心をもたせる。
- ◆ 日没が早くなり、室内で過ごす時間が長くなるので、カードゲームやトランプなど、友達とゆったり過ごせる遊びを提示するとともに、どの遊びもゆったりと遊べるように場を確保する。
- ◇ 遊びに必要な物を作る際に、様々な材料を使って作る楽しさを感じられるように、教育活動の経験や今までの預かり保育での経験を踏まえつつ、材料を用意する。
- ◇ 寒い戸外でも、少人数や一人でも遊べるような遊び（簡単な鬼遊びや縄跳び、フープなど）を取り入れる。
- ◇ 遊びに必要な物を作る際に、様々な材料を使って作る楽しさを感じられるように、日中の教育活動の経験や今までの長時間保育での経験を踏まえつつ、材料を用意する。
- ◇ 寒い戸外でも、友達と一緒に楽しめるような簡単な鬼遊びや運動遊びを取り入れる。
- ◇ 気の合う友達同士でイメージを出しながら遊ぶ楽しさが味わえるように、場作りのためのカーペットや段ボールの仕切り、テーブルなどを用意する。

預かり保育

長時間保育

☆ 保育者の援助	★ 日没が早くなることで不安を感じる幼児もいるので、その気持ちに寄り合いながら、様々な遊びに誘ったり、スキンシップを図ったりして、安心して過ごせるようにする。 ★ 生活に必要なことが分かり、自分から取り組む姿勢を大いに認める。 ★ 感染症予防のために、手洗い・うがいの大切さを伝え、保育者がモデルとなって示す。 ★ 寒い時は上着を着る、動いて温かくなってきたら脱ぐなど、気温の変化や体調に合わせて衣類の調整を促す。 ★ 冬季休業中の保育では、いつもと流れが異なるので、そのことを丁寧に知らせ、幼児が安心して過ごせるようにする。	☆ 自分のイメージや思い付いたことを表現しようとする姿勢を認め、その楽しさを共感する。 ☆ 友達と遊ぶ中でトラブルになったときには、互いの思いを受け止め、一緒に解決方法を考える。
☆ 保育者間の連携	▲ それぞれの時間帯で使っている教材や楽しんでいる遊びを紹介するなど、それぞれの保育について情報を交換し、参考になることを保育に取り入れる。 ▲ 気候の変化に伴い、体調を崩しやすい時期であるため、一人一人の体調の変化に留意し、保育者間の情報を共有する。 ▲ 夕方になると一日の疲れも見られるので、保育者間の連絡を密にし、幼児が安全に遊べるように見守る。 ▲ 個人面談の前には、事前にその幼児の成長と課題について、保育者間で情報を共有し、保護者に伝える内容を整理する。 ▲ 個人面談終了後は、保護者と話した内容を、保育者間で共有し、指導に生かしていく。	△ 冬季休業中の過ごし方（持ち帰る物、大掃除の方法、異年齢交流など）を保育者間で話し合う。
□ 保護者との連携	■ 個人面談を設定し、遊びの様子や友達とのかかわりの中で変容した姿を伝え、成長を喜び合う。 ■ 手洗いやうがいなど冬の健康的な生活習慣について、園の取組を知らせるとともに、家庭にも協力を求め、習慣の定着を図る。 ■ 外遊び用の上着や日常的に使う防寒着は、動きやすく、幼児が自分で扱うことができる物を用意してもらうように依頼する。 ■ 感染症が流行する時期であるため、体調の変化が見られた場合は詳細を伝え、注意を促す。 ■ 園やクラスで感染症が発生した場合は、症状などを具体的に知らせ、注意を促す。 ■ 感染症に罹患した場合は、出席停止の扱い、登園許可証の提出などについて伝え、協力を求める。	

4 歳児 V 期（1 月～3 月）

預かり保育

長時間保育

ねらい

- ◎ 進級への喜びや期待をもち、預かり保育での生活を楽しむ。
- ◎ 保育者や友達とかかわりながら、やりたい遊びを楽しむ。

- ◎ 進級への喜びや期待をもち、長時間保育での生活を楽しむ。
- ◎ 友達とかかわることを楽しみながら、自分の力を発揮して、遊びを楽しむ。

内容・活動等

- 預かり保育での基本的な生活の仕方を身に付け、自分でできることを自分で行う。
- 生活のきまりや遊びのルールを守って行動しようとする。
- 自分が様々なことをできるようになったことが分かり、成長を実感する。
- 季節ならではの遊び（正月遊びなど）や戸外での遊びを楽しむ。
- 遊びの面白さを感じながら、やりたい遊びを楽しむ。
- 異年齢児や友達が行っていることに興味をもち、一緒に遊んだり挑戦したりする。
- 同じ遊びをする友達に親しみをもち、思いを出し合って遊ぶ。

- 長時間保育での基本的な生活の仕方を身に付け、自分でできることを自分で行う。
- 生活のきまりや遊びのルールを守って行動しようとする。
- 自分が様々なことをできるようになったことが分かり、成長を実感する。
- 季節ならではの遊び（正月遊びなど）や戸外での遊びを楽しむ。
- 5 歳児や友達が行っていることに興味をもち、真似たり挑戦したりする。
- 異年齢児と一緒に遊び、親しみの気持ちをもつ。
- 気の合う友達と、思いを出し合って遊びを楽しむ。

◇ 環境構成

- ◆ 進級に向けた活動や行事等により疲れも予想されるので、必要に応じて休息がとれる場を設ける。
- ◆ 教育活動での保育内容や日没時間等を考慮しつつ、戸外で遊ぶ時間を確保する。
- ◆ 日中に取り組んだ遊びを繰り返し楽しめるように、遊具等を用意する。（正月遊び、フープ、縄跳びなど）
- ◆ 異年齢児とかかわって遊ぶことを楽しめるような遊びを取り入れ、共通の場を設けたりルールを工夫したりする。

- ◇ 預かり保育における遊びや生活、身の回りの仕事などを体験しながら引継いでいけるように、5 歳児の姿を見たり交流したりできる場を構成する。
- ◇ 幼児の主体的な遊びが促されるように、預かり保育を利用する幼児が今までに楽しんできた遊びを振り返り、遊具を用意する。

- ◇ 長時間保育における遊びや生活、身の回りの仕事などを体験しながら引継いでいけるように、5 歳児の姿を見たり交流したりできる場を構成する。
- ◇ 5 歳児のこま回しや縄跳びなどの様子を見たり、教わったりするなどのかわりかもてる場を構成する。
- ◇ 気の合う友達同士で自分たちの場を確保して遊ぶことができるように、ござやつい立てなどを自由に使えるようにしておく。

預かり保育

長時間保育

☆ 保育者の援助

- ★ 自分で気が付いて身の回りのことをしたり、生活の場を整えたりする姿勢を認め、自信につなげる。
 - ★ 異年齢同士で遊ぶ場では、必要に応じて保育者が遊びに加わり、ルールや遊び方を知らせたり、かかわりを仲介したりするなどの援助をする。
 - ★ 友達との遊びの中で、自分の思いや考えを表現できるように励ましたり代弁したりする。互いの思いがぶつかる場面では、一人一人の気持ちを丁寧に受け止めると同時に、相手の気持ちに気付けるように仲立ちをする。
- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ☆ 幼児が気持ちを切り替えて預かり保育での生活に向かうことができるように、一人一人と丁寧に挨拶や会話を交わしながら受け入れる。 ☆ 幼児が進級後の生活に期待や見通しをもつことができるように、預かり保育での5歳児の様子に関心が向くような働き掛けをする。 ☆ やりたい遊びに取り組む中で、楽しんでいくことに共感したり、自分の思いを表す姿を受け止めたりする。 ☆ 友達同士で遊ぶ中で、一人一人が自分の思いを出したり相手の思いに気付いたりしていけるように、仲介をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ 幼児が安定して長時間保育での生活に向かうことができるように、一人一人とスキップを図り、丁寧に受け入れる。 ☆ 幼児が進級後の生活に期待や見通しをもつことができるように、長時間保育時の5歳児の生活の様子に関心が向くような働き掛けを行ったり、5歳組の保育室を一緒に見に行ったりする。 ☆ 気の合う友達と思いを出し合いながら遊びを楽しむ姿を認める。 |
|---|---|

△ 保育者間の連携

- ▲ 生活発表会に向けての活動や、当番活動の引継ぎ、お別れ会の準備など、様々な活動が入ってくるので、疲れや興奮が見られる幼児も予想される。学級担任は教育活動時の様子を丁寧に伝える。
- ▲ 感染症が流行する時期であることを踏まえ、幼児の体調については、特に細かく引継ぎを行う。また、各クラスの状況（罹患者数など）の情報を共有する。
- ▲ 一人一人の幼児の成長と課題について、保育者同士で話し合う機会をもち、共通理解をした上で次年度に引き継ぐ。

□ 保護者との連携

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ この時期ならではの生活発表会に向けての取組、当番の引継ぎ、お別れ会など進級に向けた取組などについて、口頭や掲示で知らせる。 ■ 感染症の発生状況や手洗い、うがいなどの予防の大切さを知らせるとともに、家庭でも体調の変化に留意してもらうように促す。 | <ul style="list-style-type: none"> □ 進級に向けての不安や期待を受け止め、話を聞いたり、5歳児クラスでの過ごし方を伝えたりして、安心感をもって進級を迎えられるようにする。 □ 進級に向けて、生活の仕方が変わることなどを、分かりやすく掲示したり説明したりする。 □ 一年間の園への理解、協力に対するお礼を伝えたり、進級に向けて生活を見直してもらったりする。 □ 幼児の成長の姿を具体的に知らせ、ともに成長の喜びを共有する。 |
|---|--|

5歳児 I期（4月～5月）

預かり保育

長時間保育

ねらい

- ◎ 生活の流れや仕方が分かり、安心して過ごす。
- ◎ 自分の好きな遊びや興味・関心をもった事柄を見付けてかかわり、楽しむ。
- ◎ 保育者や友達とゆったりとしたかかわりを楽しむ。

- ◎ 年長になった喜びや自信を味わいながら、園生活を楽しむ。
- ◎ 積極的に戸外に出て、全身を使って遊び、春の自然に触れる。
- ◎ 友達と思いを伝え合いながら一緒に遊ぶ。生活の流れや仕方が分かり、安心して過ごす。

内容・活動等

- 自分の居場所を見付け、安心して過ごせる場所であることを知り、安心して過ごす。
- 生活や遊びの中にきまりがあることを知り、守ろうとする。
- 遊具や場の使い方を知り、安心して遊ぶことを楽しむ。
- 預かり保育室で、気に入った遊具や遊びを見付けて、やりたい遊びを十分に楽しむ。
- どんな遊びができるかが分かり、楽しみにする。
- 友達や保育者に分かるように、自分の思いや気持ちを伝えようとする。
- 友達の思いを聞こうとしたり、友達が行っていることに気付いたりする。
- 預かり保育担当の保育者に親しみをもち、一緒に遊んだり、困っていることを伝えたりする。

- 生活の流れや仕方が分かり積極的に行動する。
- 友達と一緒に全身を使って様々な遊びを楽しむ。
- 友達と一緒に好きな遊びをする。
- 積極的に戸外へ出て、春の自然や季節の変化に興味をもつ。
- 保育者や友達の話聞いて、理解しようとする。
- 自分がやりたいことや困っていることを、保育者や友達に言葉で伝える。
- 異年齢児の世話をしたり、一緒に遊んだりして親しみをもつ。
- 午睡の時間の過ごし方を考え、十分に体を休めることの大切さを知る。

◇ 環境構成

- ◆ 教育活動の様子など幼児の一日の過ごし方に配慮しつつ、幼児の気持ちに寄り添いながら無理のない活動内容を考える。
 - ◆ 物の置き場所が分かり、安心して自分から動き出すことができるように、所持品の置き場所に目印を付けたり、遊具や用具の場所に表示を付けたりするなど、環境を工夫する。（絵や写真を利用した表示をするなど）
 - ◆ 天候や幼児の興味・関心に応じて戸外、室内の遊びが並行して行えるように環境設定をする。
- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ◇ 保育室を明るく、家庭的な雰囲気に整え、新しい生活環境に安心感をもてるようにする。 ◇ ござやつい立てを利用したコーナー設定を行い、リラックスできたり、一人で過ごせたりする空間を作っていく。安全に配慮して整備する。 ◇ ゆったりと安心して過ごせるように、慣れ親しんでいる遊具、用具を用意する。 ◇ 降園身支度の仕方が分かるように、手順を視覚的に示したり、一人一人のペースに合わせた時間を確保したりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ ゆったりと過ごせるコーナーや友達と一緒に遊べるコーナーを設定する。 ◇ 幼児と共に生活の場を作っていくことを大切に、その過程を通して5歳児になった充実感をもてるようにする。 ◇ 生活の流れを幼児と確認しながら、変わったところは丁寧に指導していく。生活の流れや時間については自分で気付き行動できるように、決まった時間ややり方を知らせる。 ◇ 伸び伸びと安定した気持ちで生活できるように、一人一人の気持ちを受け止め、ゆとりをもてる時間を設定する。 ◇ 午睡の場所を決め、安心して休息できるようにする。 |
|---|--|

預かり保育

長時間保育

☆ 保育者の援助	★ 5歳児になり張り切って生活する姿を見守るとともに、甘える姿も受け止める。 ★ 活動を通して一人一人との触れ合いを大切に、信頼関係を育てていく。 ★ 幼児が困ったり不安になったりする姿が見られた時は、その気持ちに寄り添い、そっと手助けをしたり、声を掛けたりして、安心して過ごせるようにする。 ★ 生活の流れの切り換えについて、幼児の様子を見ながら声掛けしたり、手助けしたりすることで、自分でできることは自分で行っていけるように援助し、幼児が自分でできた喜びを味わえるようにする。 ☆ 一人一人の幼児の状況や生活リズムに合わせた対応を心掛ける。 ☆ 預かり保育へ安心して移行できるように、一人一人に合った丁寧な援助をする。	☆ 自分の健康や体について関心をもち、生活リズムや休息、水分補給の大切さに幼児自身が気づき理解できるよう、援助する。 ☆ 一人一人の生活を見守り、自分でできるように援助をする。 ☆ 保育者が一緒に遊び、体を動かすことの楽しさを共感する。 ☆ 一人一人の気持ちをしっかり受け止め、信頼関係を築き、情緒の安定を図る。
△ 保育者間の連携	▲ 申し送りの方法や連絡ノートの扱い方（記入の方法、回覧の方法など）について、年度当初に保育者間で共通理解する。 ▲ それぞれの時間帯の一人一人の様子について情報交換する時間をもち、幼児の実態、よさ、課題などについて共通理解する。 ▲ 新年度には、保護者への伝達事項が多くなることが予想される。保育者は、保育にかかわる役割と、保護者対応をする役割に分かれ、連携して対応する。 △ 進級後、初めて預かり保育を利用する幼児も多いので、移行時には、当日の預かり保育担当者に密に申し送りをする。	△ 進級して環境が変わるので、移行の方法（幼児の身支度の仕方、保育者の動きなど）を、保育者間で共通にしておく。 △ 個々の幼児の様子を把握し、時間設定（午睡のもち方や移行時間など）について保育者間で話し合う。
□ 保護者との連携	■ 保護者に、教育活動の様子を知らせる掲示板があることを知らせ、その掲示板を忘れずに見ることを促す。 □ 保護者が園に対して安心感をもてるように、送迎時を利用して、教育活動時の様子や預かり保育で楽しく過ごしている様子を伝える。	□ 保護者が園に対して安心感をもてるように、送迎時を利用して、教育活動での様子や長時間保育で楽しく過ごしている様子を伝える。 □ 環境が変わり、不安を感じる保護者もいるので、話を聞いて不安を受け止めたり、園での様子を具体的に知らせたりする。 □ 就学に向け、午睡をしない生活への移行が円滑にできるように、家庭での生活リズムや状況等を把握し、休日の午睡や生活リズムについて保護者とともに考える。

5歳児 Ⅱ期（6月～9月上旬）

預かり保育

長時間保育

ねらい

- ◎ 自分の居場所や安心して過ごせる場所を見つけ安心して過ごしつつ、自分のことは自分で行う。
- ◎ 室内外で友達と体を動かして遊ぶ。
- ◎ 友達とのつながりを深め、思いを伝え合いながら遊びを進める。

- ◎ 活動と休息のバランスを考え、元気に過ごせるようにする。
- ◎ 自分の力を十分に発揮して、活動や遊びに取り組む。
- ◎ 友達とのつながりを深め、夏ならではの遊びを楽しみ、試したり考えたりして遊ぶ。

内容・活動等

- 預かり保育の保育者との信頼関係ができ、安心して過ごせる場所だということを知り、預かり保育で遊ぶことを楽しむ。
- 生活の流れを覚え、自分でできることを自分でやろうとする。
- 好きな遊びを見つけ、自分なりのペースや楽しみ方で過ごす。
- 戸外や室内で体を動かして遊ぶ。
- やってほしいことややってみたいことを保育者に言葉で伝え遊ぶ。
- 遊びや生活を通して友達とのかかわりを深めていく。
- 友達とのつながりを感じながら遊び、互いに自分の考えや気持ちを表したり相手の話を聞いたりする。

- 水分補給に気を付け、活動と休息のバランスを考え、元気に過ごす。
- 自分で気付き、汗を拭いたり衣服の調節をしたりする。
- 戸外で友達と水に触れたり、シャボン玉や虫取りをしたりするなど、夏ならではの遊びを楽しむ。
- 様々な素材を使って、友達と一緒に作ったり表現したりする。
- 意見の違いがあっても、友達の気持ちや考えを知り、分かろうとする。
- 友達と相談しながら、様々な遊びを考えたり、生活を進めたりする。
- 身近な昆虫や動植物に関心をもち、栽培や飼育を通して命の大切さを知る。
- 午睡の時間が体を休める大切な時間であることに気付き、体を休める。

◇ 環境構成

- ◆ 水遊びやプール活動などの教育活動を考慮し、ゆったり過ごせるような環境や遊びを設定する。
- ◆ 気温や天気、その日の運動量などを考慮し、戸外活動や遊戯室を利用した運動的な遊びとゆったり過ごせる環境を用意する。
- ◆ 遊びの様子や人数に応じて、安心して過ごせるように環境を構成するとともに安全にも配慮する。
- ◆ 個々の興味に合わせてじっくりと取り組んだり、幼児が主体的に遊びに取り組んだりできるよう、環境設定や時間の確保を行う。
- ◆ 環境設定や活動時間を同じにすることで、自分から気付き、自分でできることは自分でしようという気持ちを育んでいく。

◇ 慣れ親しんでいる遊具、用具を用意し、様子を見ながら新しい遊びを取り入れ、楽しめるように工夫する。

- ◇ 一人一人が好きな遊びをじっくり楽しんでいけるように玩具や遊びの内容を考え、用意しておく。家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごせるような環境作りを心掛ける。
- ◇ 午睡は、眠れない幼児への対応（休息の取り方や午睡から起き、静かに過ごすなど）を考慮する、時間を短縮するなど、就学に向けて無理のない計画を立てる。

預かり保育

長時間保育

☆ 保育者の援助	★ 生活に慣れ、思わぬ行動を取ったり、友達間のトラブルが起こったりするので、一人一人の気持ちを受け止め、友達とのかかわりを楽しめるように仲立ちをする。 ★ 一人一人の幼児の状況や生活リズムに合わせた対応を心掛ける。 ★ 幼児が生活の流れを意識できるように声掛けし、それに気付き、自分から行おうとする姿を認める。 ★ 幼児の気持ちを十分に受け止めたり、仲立ちをしたりしながら温かな雰囲気の中で友達とのかかわりをもてるようにする。その中で、友達の気持ちを感じられるように配慮する。 ☆ 自分の健康や体について関心もち、生活リズムや休息、水分補給の大切さに幼児自身が気付き、自分で行えるように援助する。一人一人の幼児の状況を見極め、幼児の姿や生活リズムに合わせた対応を心掛ける。 ☆ 長時間保育へ安心して移行できるように、一人一人に合った丁寧な援助をする。 ☆ 夏に経験したことを話したい気持ちを受け止め、一人一人の話を丁寧に聞き、楽しさに共感したり友達と話すきっかけをつくらせたりする。また、みんなの前で話をし、聞いてもらった喜びを感じられるような時間を設ける。 ☆ 午睡時に眠れない幼児に対して、眠らなくても体を休めることが大切であることを個別に知らせる。
△ 保育者間の連携	▲ プール・水遊びの予定や内容など、教育活動中の保育内容について情報を共有し、一日の中で静と動のバランスを考える。 ▲ 梅雨以降、気候の変化で体調を崩す幼児も出てくるので、一人一人の体調に配慮する。 ▲ 夏季休業中は様々な保育者が保育にあたるので、学級担任は日頃の幼児の様子について事前に伝えておく。特に配慮を要する幼児の情報は丁寧に伝えるようにする。 ▲ 夏季休業明けは生活のリズムが変わり、疲れが出やすい時期であるので、一人一人の様子を丁寧に把握し、引継ぎをする。 △ 他のクラスと一緒にプールに入ったり交流したりする際は、内容や時間などを保育者間で十分に話し合い、連携して準備する。 △ 個々の幼児の様子を把握し、午睡のもち方や移行時間などについて保育者間で話し合う。
□ 保護者との連携	■ 降園時の話やクラス便りを通して、幼児の姿や成長、友達関係の広がりについて知らせる。 ■ 汗をかいたり水遊びをしたりして着替えが多くなるので、自分で着脱できる衣類の準備、記名、衣類の補充などを依頼する。 ■ プール・水遊びに際して、プールカードなどを活用し、家庭と連絡を取り合い、健康状態に十分に留意する。 ■ 夏は体が疲れやすいことや夏特有の病気が流行することを伝え、家庭でも十分に睡眠や栄養がとれるよう配慮してもらう。 ■ 休み中の様子や経験したことを保護者から聞いたり、園での様子を伝えたりする。保護者に、教育活動の様子を知らせる掲示板があることを知らせ、その掲示板を見ることを促す。 □ 夏季休業中、夏季休業前後も安心して利用してもらえるよう、一日の流れや持ち物などを丁寧に説明する。 □ 友達への関心が高まる時期であることを踏まえ、トラブルの状況や対応を丁寧に知らせる。 □ 休み明けは、一人一人の実態に応じて生活リズムを取り戻せるように各家庭に協力を求める。 □ 午睡や休息状況を個別に知らせる。

5 歳児 Ⅲ期（9月中旬～10月）

預かり保育

長時間保育

ねらい

- ◎ 生活や遊びのきまりを思い出しながら気持ちよく生活し、自分でできることを進んでやってみようとする。
- ◎ 友達とのかかわりを大切にしながら好きな遊びをじっくりと楽しむ。

- ◎ 気温の変化に合わせて環境を整え、健康に過ごせるようにする。
- ◎ 戸外で十分に体を動かし、友達と一緒に遊びや生活を展開する楽しさを味わう。
- ◎ 共通の目的に向かって、友達と工夫したり考えたりして自分たちで活動を進める。

内容・活動等

- 生活の流れやきまりを思い出し、自分でできることを進んで行う。
- 好きな遊びを友達と楽しむ。
- 秋空の下で心地よさを感じながら、体を動かし、友達と遊びを発展させる。
- 遊びや生活の中で自分の思いや考えを言葉で伝え、相手の気持ちにも気付こうとする。
- 自分の気持ちや思っていることを言葉で伝えたり、相手の話を聞こうとしたりする。
- 友達や保育者に自分の思いや気持ちを分かるように伝えながら遊ぶ。

- 季節の変わり目で体調を崩しやすくなるので、気温の変化に合わせて環境を整え、健康に生活できるようにする。
- 活動や遊びのバランス、体の疲れを考えて生活しようとする。
- 進んで戸外に出て遊び、友達と考えた遊びのルールを守って、思いきり体を動かして遊ぶ。
- 目的をもって友達と一緒に作ったり、描いたりする。
- 友達の頑張っている姿を応援したり、できるようになったことを共に喜び合ったりする。
- ルールのある遊びを友達と楽しみ、相談したり力を合わせたりする。
- 異年齢児に遊びを教えたり、頼られる楽しさを実感したりする。
- 午睡の時間が短くなったり、なくなったりすることを知り、自分で休息をとろうとする。

◇ 環境構成

- ◆ 運動的な活動が増える時期なので、教育活動の内容・運動量や一人一人の様子を把握し、落ち着いてゆったりと過ごせる環境を設定する。
 - ◆ 遊びの様子や人数に応じて、安心して過ごせるように環境を構成しながら安全にも配慮する。
- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ◇ つい立てなどを活用し、一人になれるコーナーを作り、自分のペースやゆったりと過ごせる空間を作る。 ◇ 環境の設定や活動時間を同じにすることで、自分から気付き、自分でできることは自分でやろうという気持ちを育てていく。 ◇ 個々の様子を見ながら遊びの計画を立て、幼児自身が選択できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 教育活動の内容や一人一人の健康状態に応じて休息や午睡時間を考える。 ◇ じっくりと物作りに取り組める環境や時間設定を考える。できあがった満足感や達成感を味わえるようにし、遊びが継続できるように製作途中の物の置き場や約束事を幼児と考える。 ◇ 雲の様子や木の葉の色の变化、木の実など幼児の気付きに共感し、気付きを話題にする。季節の移り変わりや不思議さに関心がもてるように、絵本や図鑑などの環境を用意し、保育者も一緒に楽しむ。 ◇ 自分で生活のイメージや見通しをもって生活できるようにする。 ◇ 午睡は、眠らない幼児への対応（午睡から起き、静かに過ごすなど）を考慮する、時間を短縮するなど、個々の様子を詳細に把握し、無理のない計画を立てる。 |
|--|--|

預かり保育

長時間保育

☆ 保育者の援助

- ★ それぞれのペースに合わせて生活のリズムを取り戻し意欲的に生活できるように活動の流れを分かりやすく知らせる。また、生活に必要なことに気付いて自分でやろうとしている姿勢を認めるとともに、友達の姿を知らせ、互いに認め合うことができるよう働き掛ける。
- ★ 生活や遊びの場面で、行ってよいことといけないことや、今何をするときかを自ら考えられるよう、言葉掛けをする。
- ☆ 幼児の気持ちを十分に受け止めたり、仲立ちをしたりしながら、温かな雰囲気の中で友達とのかかわりをもてるようにする。その中で、友達の気持ちを感じることができるよう配慮する。
- ☆ 長時間保育へ安心して移行できるように、一人一人に合った丁寧な援助をする。
- ☆ 友達とのかかわり合いの様子を見守り、それぞれが考えていることや気持ちを保育者が丁寧に受け止める。幼児同士で上手く話がつかなかったときには保育者が一緒に原因を探り確かめながら、互いの考えや思いを出し合えるように援助する。
- ☆ 気温の変化や活動によって衣服を調節する必要性や手洗い、うがいの大切さを知らせ、健康に過ごせるようにする。

△ 保育者間の連携

- ▲ 運動会へ向けたねらいを明確にするとともに、運動会終了後から修了へ向けての成長の道筋について共通理解するため、保育者間で話し合う機会をもつ。
- ▲ それぞれの時間帯の保育を見合う時間をもつ。運動会の練習を参観し、その日の保育を構成するための参考にする。
- ▲ 運動会の取組を受けて、踊ったり走ったりして楽しむ幼児が増えるため、安全に遊ぶことができるように場を確保したり保育者が連携して見守ったりする。

□ 保護者との連携

- 運動会のねらいや取組の過程について、クラス便りや掲示などを通して保護者に伝える。
- 気候の状況や園での生活の様子などを伝え、衣類の種類や数を考慮して準備してもらうよう依頼する。
- 徐々に預かり保育を利用する保護者が安心感をもてるように、掲示板などを利用し、直近の預かり保育での様子を伝える。
- 午睡なしの日を設定するにあたり、園での様子や今後の予定を伝えるとともに、家庭での幼児の体調や状況を聞き取り把握する。

5歳児 IV期（11月～12月）

預かり保育

長時間保育

ねらい

- ◎ 生活や遊びのきまりを守り、気持ちよく生活し、自分でできることを進んで行う。
- ◎ 自分のやりたい遊びや体を動かす遊びを繰り返し友達と楽しむ。

- ◎ 生活に見通しをもち、友達と一緒に遊びや生活を展開する楽しさを味わう。
- ◎ 戸外で体を動かして遊ぶ心地よさを味わう。
- ◎ 友達と一緒に考えやイメージを出し合い、共通の目的に向かって、協力しながら実現していく喜びを味わう。

内容・活動等

- 生活の仕方や約束事を理解し、自分でできることを自分で行う。
- 防寒着の始末や手洗い・うがいを自分から行う。
- 間食の後に鏡を見て口の周りを確認したり、下着が出ていないかを自分で確認したりするなど、身だしなみを整える。
- 自分のやりたい遊びを見付け、十分に楽しむ。
- 戸外で鬼遊びやドッジボールなど思い切り体を動かしながら、友達とルールを確かめあったり、考えたりしながら遊ぶ。
- 自分の思いや考えを伝えるとともに、友達の意見も聞きながら一緒に遊ぶ。
- やってほしいことややってみたいことを保育者に言葉で伝えようとする。

- 一人一人が自己発揮し、安心して生活できるようにする。
- 体調や気温、運動量に合わせて自分で衣服を調節する。
- 作った物で遊ぶことを楽しみ、満足感を味わう。
- 自然に親しむ中で、図形・数量・文字・時間等に関心をもつ。
- ルールや遊び方を考えながら全身を使って思いきり遊ぶ。
- 自分の考えを友達に分かるように言葉で伝えたり、友達の気持ちを受け入れたりする。
- 共通の目的に向かって、友達と話し合い工夫しながら一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
- 異年齢の友達に思いやりをもってかわる。
- 午睡時間が短くなったり、なくなったりすることで自分の体調の変化に気づき、休息をとろうとしたり、保育者に状況を話したりする。

環境構成

- ◆ 外気との温度差を考慮しながら室温調整をしたり、換気や湿度にも配慮したりして健康に過ごせるようにする。
- ◆ 教育活動など幼児の一日の過ごし方に配慮しつつ、運動的な遊びとともに室内でじっくりと遊ぶ遊びを設定し、個々に選択して遊べるようにする。
- ◆ 遊びに必要なものを自分のイメージをもち製作できるように材料の選定や環境設定を行う。
- ◇ 体調不良になりやすい時期でもあるので個々の健康状態を把握し、無理のない活動計画を立てる。
- ◇ つい立てなどを活用し、一人になれるコーナーなど、自分のペースでゆったりと過ごせる空間を作る。
- ◇ 一人一人が自分のペースを大切にしながら、やりたい遊びをじっくりと取り組めるようにするために、コーナーを設けるなど環境設定を工夫する。
- ◇ 戸外で遊ぶ時間に、木の葉の変化や風の冷たさなどから季節の移り変わりを肌で感じられるようにする。また、不思議に思ったり、自分で調べたり、考えたりできるように図鑑や虫眼鏡などを用意する。
- ◇ 感謝の気持ちや心地よさを感じるよう、保育室や身の回りの大掃除をする。
- ◇ 午睡なしの日を少しずつ増やしていく。それに伴い、遊具を見直し、午睡をしない時間をゆっくりと過ごせるように配慮する。また、眠くなったり疲れたりしている幼児が安心して休息できる場を用意する。

預かり保育

長時間保育

☆ 保育者の援助

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ★ 遊びを進める中でトラブルが起きたときは、幼児同士が意見を出し合えるように見守り、自分たちで解決できるように後押しする。 ★ 鬼遊びやドッジボールなどルールのある遊びを話し合いながら楽しむ場面を大切にし、その様子を見守りながら必要に応じた援助や仲介をする。 ★ 感染症が流行しやすい時期であるため、衣服の調整や手洗い・うがいの大切さを伝え、自分から気付くように声掛けをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ 長時間保育へ安心して移行できるように、一人一人に合った丁寧な援助をする。 ☆ 幼児の頑張りやアイデアを認め、幼児全体にも知らせることで友達の良さや大切さに気付けるようにする。 ☆ 遊びや生活の中で、自ら危険なことに気付き、自分で気を付けられるように、その都度声をかけたり、全体で指導したりする。 ☆ 年末・年始の風習について、正月遊びや伝承遊びと一緒に楽しみながら話したり幼児全体に対して分かりやすい言葉を選び伝えたりする。 |
|--|---|

△ 保育者間の連携

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ▲ それぞれの時間帯で使っている教材や楽しんでいる遊びを紹介するなど、それぞれの保育について情報を交換し、参考になることを保育に取り入れる。 ▲ 気候の変化に伴い、体調を崩しやすい時期であるため、一人一人の体調の変化に留意し、保育者間で情報を共有する。 ▲ 夕方になると一日の疲れも見られるので、保育者間の連絡を密にし、幼児が安全に遊べるように見守る。 ▲ 個人面談の前には、事前にその幼児の成長と課題について、保育者間で情報を共有し、保護者に伝える内容を整理する。 ▲ 個人面談終了後は、保護者と話した内容を保育者間で共有し、指導に生かしていく。 | <ul style="list-style-type: none"> △ 冬季休業中の過ごし方（持ち帰る物、大掃除の方法、異年齢交流など）を保育者間で話し合う。 △ 個々の幼児の様子を把握し、時間設定（午睡のもち方や移行時間など）について保育者間で話し合う。 |
|--|---|

□ 保護者との連携

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 個人面談を設定し、遊びの様子や友達とのかかわりの中で変容した姿を伝え、成長を喜び合う。 ■ 手洗いやうがいなど冬の健康な生活習慣について、園の取組を知らせるとともに、家庭にも協力を求め、習慣の定着を図る。 ■ 外遊び用の上着や日常的に使う防寒着は、動きやすく、幼児が自分で扱うことができる物を用意してもらうように依頼する。 ■ 感染症が流行する時期であるため、体調の変化が見られた時は詳細を伝え、注意を促す。 ■ 園やクラスで感染症が発生した場合は、症状などを具体的に知らせ、注意を促す。 ■ 感染症に罹患した場合は、出席停止の扱い、登園許可証の提出などについて伝え、協力を求める。 | <ul style="list-style-type: none"> □ 家庭でも、自分でできることは自分で行うよう、家庭での協力を依頼する。 □ 午睡なしの日の家庭での様子などを聞き取り、保護者とともに、よりよい生活の組み立てについて考える。 |
|--|--|

5歳児 V期（1月～3月）

預かり保育

長時間保育

ねらい

- ◎ 預かり保育でのきまりを守り、生活習慣を身に付けて自分で行動する。
- ◎ 自分がやりたい遊びを意欲的に展開していく。
- ◎ 小学校1年生になる期待と自覚をもち、見通しをもって生活する。

- ◎ 楽しかった経験を生かして繰り返し遊んだり、自分の成長を感じたりしながら、就学への期待をもつ。
- ◎ 冬の自然事象や身の回りの出来事に興味や関心をもち、遊びに取り入れ楽しむ。
- ◎ 自分の力を十分に発揮しながら、友達と協力して遊びや生活を進め、充実感を味わう。

内容・活動等

- きまりを守り、よい生活習慣を身に付けて行動する。
- 保育者や友達に、生活の中で困っていることを自分から伝えたり聞いたりするなど、自分でできることが増え、自信をもって行動する。
- 友達と季節ならではの遊びを楽しんだり、戸外で体を動かしたりして遊ぶ。
- 自分がやりたい遊びを見付け、意欲的に友達と遊びを広げていく。
- 様々な友達とのかかわりを深め、自分の考えを伝えながら様々な遊びを楽しむ。
- 友達とのつながりを感じ、一緒に過ごす喜びを存分に味わう。

- 自らの生活習慣を見直すことを通して、よい生活習慣について考え、行動に移す。
- 1年間を思い出し、自分の成長を感じ、就学への期待をもって生活する。
- こま回し、カルタ、すごろくなどで遊びながら文字や数量・図形に興味をもち、理解を深める。
- 冬の自然に関心をもち、遊びに取り入れ、試したり、工夫したりして遊ぶ。
- 友達と一緒に積極的に運動遊びや集団遊びを楽しむ。
- 友達のよさを認め、役割を分担したり、力を合わせたりして遊びや生活を進め、友達とのつながりを感じ、共に過ごす喜びを存分に味わう。
- 異年齢児に自分からかかわり、遊びを通してつながりを深める。
- 自分たちの成長を保育者と共に喜び合う。
- 午睡なしの生活に慣れ、意欲的に生活する。

◇ 環境構成

- ◆ 生活の見通しをもって行動できるように、時間や活動の流れを事前に知らせたり、生活の流れを幼児と一緒に決めたりする。
- ◆ 戸外で遊ぶ機会を作り、体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるようにする。
- ◆ 好きな遊びを見付けてじっくりと遊べるような環境設定を心掛け、幼児がどんな遊びに興味をもっているかを把握し、教材や玩具を準備する。
- ◆ 異年齢児に思いやりをもってかかわったり、遊びを伝えたりできる場面を設定する。

- ◇ つい立てを活用し一人で遊び込めるコーナーを作り、ゆったりと過ごせるようにする。
- ◇ 好きな遊びをじっくりと楽しめるように、幼児の様子を見たり要求を聞いたりしながら教材準備や環境設定を行う。
- ◇ 預かり保育で楽しんできた遊びを振り返って、遊具や用具を準備し、環境設定を行う。

- ◇ 午睡なしの生活になり体調不良になりやすいので、一人一人の状態を確認し、無理なく過ごせる活動内容や環境設定を考える。
- ◇ こまやカルタ、すごろく等を準備し、いつでも友達と楽しめるように設定する。文字への興味も出てくるので自分で読めるような簡単な絵本やひらがな表などを用意する。
- ◇ 冬の自然に触れ、自分で調べたり、イメージをもって遊んだりできるように図鑑や絵本などを準備する。
- ◇ 園生活の思い出を振り返りながら自分たちで過ごした保育室の掃除や整理整頓を行う場を設定する。
- ◇ 午睡がなくなり、好きな遊びを十分に楽しめるように、新しい遊びを提供するなど環境設定を工夫する。

預かり保育

長時間保育

☆ 保育者の援助

- ★ 幼児が生活の流れを意識し、先を見通して行動できるよう、個々の状況に応じた援助をする。
 - ★ 幼児同士が話し合ったり、ルールを決めたりしている姿を見守り、自信や意欲につなげる働き掛けをする。
 - ★ 友達とのかかわりの中でトラブルが生じた際は、その姿を見守り、幼児が援助を求めたときには双方の気持ちを聞き仲介し、一緒に解決方法を探るようにする。
 - ★ 自分たちで遊びを進め、楽しんでいる姿を十分に認め、自信や仲間意識を高められるような働き掛けをする。
 - ★ 異年齢児へのかかわりを見守り、必要に応じて仲介する。
- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ☆ 保護者の就労等により長時間保育へ移行する際は、安心して長時間保育での生活になるよう、一人一人に合った丁寧な援助をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆ 生活習慣がどの程度身に付いているのか、一人一人確認しながら、必要に応じて適切なアドバイスを与えるとともに、できることを認め、自信につなげられるように援助する。 ☆ 時間を意識して時計を見ながら生活できるように声掛けを工夫する。 ☆ 園生活を振り返ったり、思い出を話したりしながら個々のよさを認め、成長を喜び、自信をもって就学できるようにする。 |
|---|---|

△ 保育者間の連携

- ▲ 生活発表会に向けての活動や、当番活動の引継ぎ、お別れ会の準備など、様々な活動が入ってくるので、疲れや興奮が見られる幼児も予想される。学級担任は教育活動での様子を丁寧に伝える。
- ▲ 感染症が流行する時期であることを踏まえ、幼児の体調については特に細かく引継ぎを行う。また、各クラスの状況（罹患者数など）の情報を共有する。
- ▲ 一人一人の幼児の成長と課題について、保育者間で話し合う機会をもち、共通理解をした上で次年度に引き継ぐ。

□ 保護者との連携

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ この時期ならではの生活発表会に向けた取組、当番の引継ぎ、お別れ会など修了へ向けた取組などについて、口頭や掲示で知らせる。 ■ 保護者が、修了関係の書類提出や各種手続き等について遺漏なく行えるよう、重要事項を保護者に確実に伝達できる園体制を整えておく。 ■ 感染症の発生状況や手洗い、うがいなどの予防の大切さを知らせるとともに、家庭でも体調の変化に留意してもらうように促す。 ■ 小学校での保護者との連携は、就学前とは異なることを理解できるよう、機会を捉えて話す。 | <ul style="list-style-type: none"> □ 子供の成長の姿を具体的に知らせ、成長の喜びを共有する。 □ 1年間の園への理解、協力に対するお礼を伝えるとともに、就学に向けて生活を見直すよう促す。 □ 就学に向けて不安のないように保護者とのコミュニケーションをより密にとっていく。 |
|--|--|

(5) 教育活動後の指導計画例（日ごと）

<資料の見方>

見開きで左右のページを合わせて1つの表として見ます。

- 教育活動後の「幼児の生活の流れ」をおおまかに記載しています。

- 各年齢の教育活動後のねらいを記載しています。

教育活動後の指導計画（4月～5月）	
時間	環境構成（◇）・保育者の援助（☆）
	3歳児
	【ねらい】 - 保育者や様々な年齢の友達と親しみをもって関わり、園生活の流れを理解する。 - 新しい環境に慣れ、好きな遊びを見付け、安心して生活する。
	教育活動に係る教育時間の教育活動
13:45	◇ 午睡室に寝具の準備をする。→ ☆ 不安な様子を見せる幼児には個別に寄り添う。
14:00	☆ 手洗い、うがい、排せつを促す。→ ◇ 間食の準備をする。→ ◇ 静と動の遊びに分けたり、遊びによって場所（コーナー）を決めて落ち着いて遊べる環境を作る。→
14:45	☆ 寝ている幼児がまだいるので静かに保育室に入るように伝える。
15:00	☆ 間食を喉に詰まらせることがないように様子を見る。 ☆ 室内遊びでは、遊具の貸し借りができるように声掛けをする。 ◇ 新入園児に配慮し、遊具は十分な数、量を用意する。 ままごと・絵本・描画 等 ☆ 戸外遊びでは、一人で遊べる遊びも保障しつつ、集団遊びにもかかわれるようにする。 三輪車・砂場遊び 等 ☆ 4・5歳児の遊びの工夫に気付けるように声掛けをする。 ☆ 疲れが出やすい時間帯なので、幼児がけがをしないよう、高所での遊びや幼児同士のトラブルに注意する。
15:45	◇ 使った遊具等をある程度整頓しておき、自分で進んで片付けができる環境を整える。 ☆ 自分が使った遊具を片付けるように促す。 ☆ 衣服が汚れていれば、帰る前に着替えを促す。
16:30	☆ 迎えを待ちわびて不安になっている幼児には安心できるように寄り添う。
17:30	☆ 0～2歳児とかかわれるよう、保育者も一緒に遊ぶことで自然な触れ合いを生み出す。
18:30	
20:30	

- ・ 「預かり保育を利用する幼児に対する配慮点（△）」と「長時間保育を利用する幼児に対する配慮点（▲）」を記載しています。
- ・ 預かり保育を利用する幼児に対しては、初めて利用したり久々に利用したりすることを想定した配慮事項を、長時間保育を利用する幼児に対しては、長い保育時間を想定した配慮事項について記載しています。

- ・ 環境構成（◇）、保育者の援助（☆）を記載しています。
- ※ 複数の年齢の幼児に共通する事項は矢印（→）で表しています。

「預かり保育」と「長時間保育」が同プログラムかつ3～5歳児が		
環境構成（◇）・保育者の援助（☆）		
4歳児	5歳児	
・ 生活の仕方が分かり、身の回りで自分で行おうとする。 ・ 好きな遊びを見付け、気の合う友達と遊びながら安心して生活する。	【ねらい】 ・ 自分でできることは自分でやろうとする。 ・ 好きな遊びを見付け、新しい学級の友達と積極的にかかわりながら安心して生活する。 ・ 新入園児を温かく迎える。	預かり保育 幼児に 配慮点（△） 長時間保育 幼児に 配慮点（▲）
教育課程に係る教育時間の教育活動		
☆ 荷物を自分で整理整頓できるように促す。	☆ 新入園児の手伝いをお願いする。	→ ▲ 教育活動中に起きたけがやトラブルについて学級担任から連絡を受けた場合は引き続き様子を見守り、保護者に伝えられるようにする。
→ ☆ 5歳児を手本に自分で考えて行動できるよう5歳児の姿を伝える。 ☆ 荷物の整理整頓の仕方が分からない幼児には手助けをする。 ☆ 間食の時間を楽しめるように会話の橋渡しをする。 ☆ 友達とイメージを共有できるように援助する。 積み木・空き箱製作 等 ☆ 戸外遊びでは、集団遊びになかなか入れない幼児にルールを説明しながら一緒に遊べるようにする。 砂場遊び・固定遊具 等 ☆ 自分で遊具を進んで片付けるように促す。 ☆ 3歳児の幼児と遊ぶ中で、優しい気持ちをもって一緒に、保育者がモデルとなって一緒にかかわる。	☆ 午睡をしたくない幼児にも少し横になって過ごすことを伝え、午睡に抵抗感をもたないようにする。 ☆ 20分程度経っても眠れない幼児は別室に移動し、静かに遊ぶ。 ☆ 間食の準備を手伝うように声を掛ける。 ☆ 食べ終わったら自分で片付けをするように促す。 ☆ 室内での動きが大きくなり過ぎないように声掛けをする。 体操・踊り・○○ごっこ 等 ☆ 3・4歳児に温かく接することができるよう保育者がモデルになる。 ☆ 3・4歳児に優しく接する気持ちをもてるように、世話をする機会を設けたり、保育者がモデルになって一緒に遊びに加わったりする。 ☆ 3・4歳児とかかわる楽しさを味わえるように、世話をしてくれる幼児を認める声掛けをする。	→ ▲ 午睡は入眠後から1時間～1時間半を目安にし、夜の睡眠に影響が出ないようにする。 △ 初めて預かり保育を利用する幼児には、流れを分かりやすく伝え、安心できるようにする。 △ 不安の大きい幼児には教育活動の学級担任が一緒にかかわる。 ▲ 午睡から起きた幼児から間食を食べられるようにする。 △▲ アレルギーには十分に留意する。 △▲ 異年齢でも一緒に遊べるように、5歳児が中心となってルールを考えられるようにする。 △ 納得して遊びを終えることができるように、帰る時間を早めに伝える。
☆ 帰る前に自分が清潔かどうか確認できるように声を掛け、必要であれば着替え等の手伝いを行う。	☆ 自分が使っていないものも片付けるように、手伝いをお願いする。 ☆ 戸外での遊びを終えて帰る時間までに、身だしなみを整えるように伝える。	△▲ 降園時間を把握し、降園時間が近付いたら準備するよう声掛けする。 ▲ 保育時間が長い幼児が不安にならないよう、保育者がかかわったり、遊びを楽しめる環境を整えたりする。
☆ 疲れている中でけがをしないように、落ち着いて遊べる配慮をする。	☆ 3・4歳児に優しく接している姿を認める。	▲ 保育を延長する幼児がいる場合は補食を準備する。

教育活動後の指導計画例（４月～５月）

時間	幼児の生活の流れ (活動等)	環境構成 (◇)・保育者の援助 (☆)
		3 歳児
		【ねらい】 ・ 保育者や様々な年齢の友達と親しみをもって関わり、園生活の流れを理解する。 ・ 新しい環境に慣れ、好きな遊びを見付け、安心して生活する。
		教育課程に係る教育時間の教育活動
13:45	○ 長時間保育を利用する幼児は、午睡室へ移動する。	◇ 午睡室に寝具の準備をする。→ ☆ 不安な様子を見せる幼児には個別に寄り添う。
14:00	○ 午睡する。 (5歳児も夏休み明けまでは短い午睡をとる。)	☆ 手洗い、うがい、排せつを促す。→ ◇ 間食の準備をする。→
14:45	○ 預かり保育を利用する幼児は、教育活動の保育室から、預かり及び長時間保育の保育室へ移動する。	◇ 静と動の遊びに分けたり、遊びによって場所(コーナー)を決めて落ち着いて遊べる環境を作る。→ ☆ 寝ている幼児がまだいるので静かに保育室に入るように伝える。
15:00	○ 間食する。 ○ 好きな遊びをする。 (室内遊び・戸外遊び)	☆ 間食を喉に詰まらせることがないように様子を見る。 ☆ 室内遊びでは、遊具の貸し借りができるように声掛けをする。 ◇ 新入園児に配慮し、遊具は十分な数、量を用意する。 ままごと・絵本・描画 等
		☆ 戸外遊びでは、一人で遊べる遊びも保障しつつ、集団遊びにもかかわれるようにする。 三輪車・砂場遊び 等
		☆ 4・5歳児の遊びの工夫に気付けるように声掛けをする。 ☆ 疲れが出やすい時間帯なので、幼児がけがをしないよう、高所での遊びや幼児同士のトラブルに注意する。
15:45	○ 預かり保育を利用する幼児は、順次降園する。	◇ 使った遊具等のある程度整頓しておき、自分で進んで片付けができる環境を整える。 ☆ 自分が使った遊具を片付けるように促す。 ☆ 衣服が汚れていれば、帰る前に着替えを促す。
16:30	○ 長時間保育を利用する幼児は、順次降園する。	☆ 迎えを待ちわびて不安になっている幼児には安心できるように寄り添う。
17:30	○ 他の保育室に移動し、0～2歳児と一緒に過ごす。	☆ 0～2歳児とかかわれるよう、保育者も一緒に遊ぶことで自然な触れ合いを生み出す。
18:30	○ 保育を延長する幼児は、補食をとる。	
20:30	○ 最終降園	

※ 「預かり保育」と「長時間保育」が同プログラムかつ3～5歳児混合保育

環境構成（◇）・保育者の援助（☆）		預かり保育を利用する 幼児に対する配慮点（△） 長時間保育を利用する 幼児に対する配慮点（▲）
4歳児	5歳児	
【ねらい】 - 進級後の生活の仕方が分かり、身の回りのことを自分でやろうとする。 - 好きな遊びを見付け、気の合う友達とかかわりながら安心して生活する。	【ねらい】 - 自分でできることは自分でやろうとする。 - 好きな遊びを見付け、新しい学級の友達と積極的にかかわりながら安心して生活する。 - 新入園児を温かく迎える。	
教育課程に係る教育時間の教育活動		
☆ 荷物を自分で整理整頓できるように促す。	☆ 新入園児の手伝いをお願いする。	▲ 教育活動中に起きだけがやトラブルについて学級担任から連絡を受けた場合は引き続き様子を見守り、保護者に伝えられるようにする。 ▲ 午睡は入眠後から1時間～1時間半を目安にし、夜の睡眠に影響が出ないようにする。 △ 初めて預かり保育を利用する幼児には、流れを分かりやすく伝え、安心できるようにする。 △ 不安の大きい幼児には教育活動の学級担任が一緒にしかかわる。 ▲ 午睡から起きた幼児から間食を食えられるようにする。 △▲ アレルギーには十分に留意する。 △▲ 異年齢でも一緒に遊べるように、5歳児が中心となってルールを考えられるようにする。 △ 納得して遊びを終えることができるように、帰る時間を早めに伝える。 △▲ 降園時間を把握し、降園時間が近付いたら準備するよう声掛けする。 ▲ 保育時間が長い幼児が不安にならないよう、保育者がかかわったり、遊びを楽しめる環境を整えたりする。 ▲ 保育を延長する幼児がいる場合は補食を準備する。
☆ 5歳児を手本に自分で考えて行動できるよう5歳児の姿を伝える。 ☆ 荷物の整理整頓の仕方が分からない幼児には手助けをする。 ☆ 間食の時間を楽しめるように会話の橋渡しをする。 ☆ 友達とイメージを共有できるように援助する。 積み木・空き箱製作 等 ☆ 戸外遊びでは、集団遊びになかなか入れない幼児にルールを説明しながら一緒に遊べるようにする。 砂場遊び・固定遊具 等 ☆ 自分で遊具を進んで片付けるように促す。 ☆ 3歳児の幼児と遊ぶ中で、優しい気持ちをもてるように、保育者がモデルとなって一緒にしかかわる。	☆ 午睡をしたくない幼児にも少し横になって過ごすことを伝え、午睡に抵抗感をもたないようにする。 ☆ 20分程度経っても眠れない幼児は別室に移動し、静かに遊ぶ。 ☆ 間食の準備を手伝うように声を掛ける。 ☆ 食べ終わったら自分で片付けをするように促す。 ☆ 室内での動きが大きくなり過ぎないように声掛けをする。 体操・踊り・〇〇ごっこ 等 ☆ 3・4歳児に温かく接することができるよう保育者がモデルになる。 ☆ 3・4歳児に優しく接する気持ちをもてるように、世話をする機会を設けたり、保育者がモデルになって一緒に遊びに加わったりする。 ☆ 3・4歳児とかかわる楽しさを味わえるように、世話をしてくれる幼児を認める声掛けをする。 ☆ 自分が使っていないものも片付けるように、手伝いをお願いする。 ☆ 戸外での遊びを終えて帰る時間までに、身だしなみを整えるように伝える。 ☆ 3・4歳児に優しく接している姿を認める。	
☆ 疲れている中でけがをしないように、落ち着いて遊べる配慮をする。		

教育活動後の指導計画例（6月～12月） ※ 7月～8月を除く

時間	幼児の生活の流れ (活動等)	環境構成 (◇)・保育者の援助 (☆)
		3歳児
		【ねらい】 ・ 身の回りのことや自分でできることをやろうとする。 ・ 興味や関心をもったことにかかわって遊ぼうとする。
		教育課程に係る教育時間の教育活動
13:45	○ 長時間保育を利用する幼児は、午睡室へ移動する。	☆ 温かく声を掛けて迎え入れ、安心して保育室に入れるようにする。
14:00	○ 午睡する。 (5歳児も夏休み明けまでは短い午睡をとる。)	☆ 寝る時間であることを伝え、静かに部屋に入るよう促す。保育者がモデルとなり、どのように移動したらよいかわかるようにする。
14:45	○ 預かり保育を利用する幼児は、教育活動の保育室から、預かり保育及び長時間保育の保育室へ移動する。	☆ 手洗い、うがい、排せつを促す。→ ◇ 間食の支度ができるよう、机や椅子を並べておく。落ち着いて食べられるように、机や椅子の間隔等を工夫する。
15:00	○ 間食する。	
	○ 好きな遊びをする。 (室内遊び・戸外遊び)	◇ 落ち着いて遊べるように、静と動の遊びの場所を分ける等、コーナーの作り方を工夫する。→ ※室内…ブロック、塗り絵、絵本 等 ※戸外…固定遊具、砂場 等
15:45	○ 預かり保育を利用する幼児は、順次降園する。	◇ 自分で片付けができるように、あらかじめ遊具を集める等の配慮をしておく。 ☆ 降園時に忘れ物がないか幼児と一緒に確認し、できるだけ自分で身支度ができるように声を掛ける。
16:30	○ 長時間保育を利用する幼児は、順次降園する。	☆ 一日を振り返り、友達や保育者と挨拶をし、次の登園を楽しみにできるようにする。→
17:30	○ 他の保育室に移動し、0～2歳児と一緒に過ごす。	☆ 0～2歳児と遊ぶ中で、優しい気持ちをもって接するなど年長者らしい姿が見られた際には認める言葉を掛ける。
18:30	○ 保育を延長する幼児は、補食をとる。	
20:30	○ 最終降園	

環境構成（◇）・保育者の援助（☆）		預かり保育を利用する 幼児に対する配慮点（△） 長時間保育を利用する 幼児に対する配慮点（▲）
4歳児	5歳児	
【ねらい】 - 身の回りの物の始末や片付けなどの仕方が分かり、進んで取り組む。 - 友達とのかかわりを楽しみながら自分の動きや思いを出して遊ぶ。	【ねらい】 - 共同の物の片付けの必要性を感じ、自分から片付けようとする。 - この季節ならではの遊びをゆったりとした雰囲気の中で楽しむ。	
教育課程に係る教育時間の教育活動		
☆ 寝る時間であることを伝え、落ち着いて部屋に入れるようにする。 ◇ 間食の準備を幼児と一緒にできるように配慮する。 ◇ つい立てやサークルを活用し、落ち着いて遊べる場を作る。 ※室内…折り紙、積み木 等 ※戸外…固定遊具、かけっこ、フープ 等 ☆ 5歳児の姿を見て挑戦する気持ちを認める。 ☆ 3歳児や友達に優しく接する気持ちをもてるように、保育者がモデルになり、知らせたりしていく。 ◇ 自分で進んで片付けができるように、片付け場所の表示を明確にしておく。 ☆ 降園時には、幼児が自分で身支度ができるように、様子を見ながら声を掛ける。	☆ 寝る時間・寝る部屋であることを伝え、行動の仕方を考えて移動できるようにする。 ☆ 年下の幼児の午睡のための着替えや布団の準備等に取り組むことで自信をもてるようにする。 ☆ 食事前の準備や、3・4歳児の配膳等を進んでできるように、見守ったり手を添えたりする。 ◇ 落ち着いて遊べるように、静と動の遊びに分けたり、幼児の姿から環境を再構成したりする。 ※室内…季節の装飾作り、コリント、写し絵 等 ※戸外…鬼遊び、リレー 等 ☆ 3・4歳児に優しく接する気持ちをもてるように、接し方について考えられるような言葉を掛ける。 ☆ 3・4歳児とかかわることで、意欲をもって遊ぶ姿に共感し、認める。 ◇ 自分で意識して片付けができるように、幼児の動きを見守る。また、共同の場にも考えが及ぶような言葉を掛ける。 ☆ 降園時には、自分で身支度を整えている姿を認める。	△▲ 日中の教育時間に発生したけがやトラブルについて学級担任から連絡を受けた場合は引き続き様子を見る。また、必ず保護者に伝えるようにする。 △ 家庭での様子を聞く等の連携をとり、休息が必要かどうかを判断する。 △▲ 動線が分かりやすいように環境構成の工夫をする。 ▲ 家庭的な雰囲気の中で、食事ができるように、午睡から起きた幼児から間食できるように準備をしておく。 △▲ アレルギーのある幼児には、座る場に配慮する、メニューを複数で確認する等、十分に配慮して間食を提供する。 △ 一人一人の降園時間を把握し、降園時間が近付いたら準備するよう声掛ける。 ▲ 保育時間が長い幼児には、安心して過ごせるよう、個別に遊べる環境を整える。 ▲ 保育を延長する幼児がいる場合は補食の準備をする。
☆ 日中の気候や活動により、疲れていることも考え、無理なく遊べるように見守る。	☆ 年下の乳幼児とかかわることが負担にならないよう、かかわることを強いないよう心掛ける。	

教育活動後の指導計画例（1月～3月）

時間	幼児の生活の流れ (活動等)	環境構成 (◇)・保育者の援助 (☆)
		3歳児
		【ねらい】 ・ 生活に必要なことが分かり、できることを自分からやろうとする。 ・ 自分のやりたい遊びを保育者や近くにいる友達と楽しむ。
		教育課程に係る教育時間の教育活動
13:45	○ 長時間保育を利用する幼児は、午睡室へ移動する。	☆ 寝る時間であることを理解し、静かに部屋に入ってくる行動を認める。
14:00	○ 午睡する。 (5歳児は体力がついてきているため、必要な幼児のみ午睡をとる。)	
14:45	○ 預かり保育を利用する幼児は、教育活動の保育室から、預かり保育及び長時間保育の保育室へ移動する。	◇ 間食の支度が自分で少しでもできたり、椅子を自分で並べたりできるよう、意図的に椅子置き場に残したままにしておく。
15:00	○ 間食する。	
	○ 好きな遊びをする。 (室内遊び・戸外遊び)	◇ この季節ならではの遊具を用意する。→ ☆ 5歳児の修了が近いことを伝え、かかわって遊べるよう配慮する。 ※室内…カルタ、すごろく 等 ※戸外…長縄跳び、鬼遊び 等
15:45	○ 預かり保育を利用する幼児は、順次降園する。	◇ 片付ける場所や順番を分かりやすく絵や写真で示すなど、関心をもった幼児が自分なりに見通しをもって取り組めるようにする。 ☆ 片付けや着替え、帰りの支度など、幼児が自分で最後までやってみようとする意欲を大いに認め、できた喜びを味わえるようにする。
16:30	○ 長時間保育を利用する幼児は、順次降園する。	
17:30	○ 他の保育室に移動し、0～2歳児と一緒に過ごす。	
18:30	○ 保育を延長する幼児は、補食をとる。	
20:30	○ 最終降園	

※ 「預かり保育」と「長時間保育」が同プログラムかつ3～5歳児混合保育

環境構成（◇）・保育者の援助（☆）		預かり保育を利用する 幼児に対する配慮点（△）
4歳児	5歳児	
【ねらい】 - 基本的な生活習慣を身に付け、生活や遊びのきまりを守り、進級することへの期待や自信をもつ。 - 自分の好きな遊びを十分に楽しむ。	【ねらい】 - 生活に見通しをもち、場や状況に応じた行動をとる。 - 思いや考えを様々な方法で表現し、遊びや生活に楽しんで取り組む。	長時間保育を利用する 幼児に対する配慮点（▲）
教育課程に係る教育時間の教育活動		
☆ 午睡までの行動を見通し、5歳児の真似をしながら主体的に寝る準備を始める動きを認める。 ◇ 5歳児と協力しながら間食の支度に取り組む姿を認め、次年度は最高学年になるという喜びと自覚を感じられるようにする。	☆ 4歳児に声を掛けながら、主体的に午睡の準備を進める姿を認める。昨年あるいは一昨年の同時期の姿を振り返り、自分で成長を感じられるような言葉を掛ける。 ◇ 5歳児が3・4歳児をリードして幼児たちで間食の支度を進められるよう見守る。主体的に取り組む姿を大いに認める。	△ 間食の支度については、長時間保育を利用する幼児が中心となって準備を進めるため、預かり保育を利用する幼児も力を発揮できるよう配慮する。
☆ 5歳児の修了が近いとため、可能な限り、かかわって遊べるよう配慮する。 ※室内…カルタ、すごろく、引きごま 等 ※戸外…長縄跳び、ドッジボール、鬼遊び 等	☆ 可能な限り、3・4歳児とかかわって遊べるよう配慮する。 ※室内…カルタ、すごろく、投げごま 等 ※戸外…長縄跳び、ドッジボール、鬼遊び 等	△ 長時間保育を利用する幼児同士の輪に入りづらそうな様子が見られたら、保育者が橋渡しをする。
◇ 最高学年になる期待感を高めるため、片付けや帰りの支度をする時間を利用して、5歳児から生活する上で気を付けていることや頑張っていることを直接聞く場を設ける。	◇ 園生活を自分たちで進めている充実感を味わい、修了への期待感を高められるよう、片付けや帰りの支度をする時間を利用して、伝えたいことや自分たちが頑張っていることを、実際に4歳児に伝える場を設ける。	△ 預かり保育を利用する5歳児にも、自分が頑張っていることを4歳児に伝える場を設け、修了への期待感を高めるとともに、自らの成長を実感できるようにする。

長期休業期間中の指導計画例（7月～8月）

時間	幼児の生活の流れ (活動等)	環境構成 (◇)・保育者の援助 (☆)
		3 歳児
		【ねらい】 ・ 自分の身の回りのことを、自分でやろうという気持ちをもつ。 ・ 保育者や友達とかかわりながら、自分の好きな遊びを見付けて遊ぶ。
7:30	○ 長時間保育児は順次登園する。 ○ 身支度を整える。	☆ 登園時には、一人一人の体調を把握し、感染症の早期発見や予防に努める。→ ☆ 身支度を自分なりにやろうとする意欲を認める。
	○ 好きな遊びをする。(室内)	◇ 少人数でもリラックスしてそれぞれにやりたい遊びに取り組めるように、ござや段ボール、つい立てなどの仕切りでコーナーを作る等の配慮をする。→ ◇ 遅い時間帯に登園した幼児は、片付けまでの時間を考慮し、短い時間でも楽しめる遊びを一緒に考えたり提示したりする。→ ◇ 個々にゆったりと遊べる遊び(パズル、粘土、ブロック、絵本、製作等)を用意する。→
8:40	○ 片付ける。 ○ トイレに行く。	☆ 少し前に片付けを予告しておくことで、気持ちの切り替えがスムーズにできるようにする。
9:00	○ 集合し、今日の予定を知る。 ○ 魚、カブトムシの餌やり (3 歳児) ○ ウサギ、モルモット小屋の掃除 (4 歳児・5 歳児) ○ 夏野菜・草花に水をやる。	☆ 今日の予定を聞くことで、一日に期待感を持ち、生活できるようにする。 ☆ 幼児と一緒に魚の餌やりなどをしながら、驚きや発見に共感する。
	○ 休憩、水分補給をする。 ○ 水着に着替える。 ○ 体操する。	☆ 幼児と一緒に夏野菜の世話をしながら、形、色、匂い、感触の変化に気付いたり、収穫への期待をもったりできるようにする。
10:45	○ プールで水遊びをする。 (3 歳用のプールと、4・5 歳用のプール)	◇ 着替えの手順は図で示し、自分でできる時間を十分に確保する。 ☆ さりげなく援助することで、自分でできたと思えるようにする。 ◇ 水鉄砲や輪投げなど道具を使うなど、楽しい雰囲気の中で、水に慣れるようにする。 ◇ 顔に水がかかると嫌がったり、水を怖がったりする幼児もいるので、実態に応じて場を分け、安心して水遊びが楽しめるようにする。 ◇ 状況に応じて4歳児、5歳児と同じ遊具を使ったり、一緒のプールで水遊びをしたりしながら、みんなで一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようにする。

環境構成（◇）・保育者の援助（☆）		預かり保育を利用する 幼児に対する配慮点（△） 長時間保育を利用する 幼児に対する配慮点（▲）
4歳児	5歳児	
【ねらい】 ・ 異年齢の友達との生活を楽しみながら、自分のことは自分からやろうとする。 ・ 水の中での遊びを十分に楽しむ。	【ねらい】 ・ 見通しをもち、自分たちで生活を進めていこうとする。 ・ 自分なりのめあてをもって、プール遊びに取り組む楽しさを感じる。	
☆ 身支度を自分からやろうとする姿を見守り、認めていく。 ◇ 5歳児に名札を付けてもらうことで、かかわるきっかけをもてるようにする。	☆ 5歳児の動きが他の学年の手本になることを伝え、意識をもって行動できるようにする。 ☆ 身支度を終える時間や片付けの時間の目安を伝え、生活に自分なりの見通しをもてるようにする。	△ 預かり保育の利用の経験差に配慮しながら、援助の程度を考える。
☆ 5歳児の声を聞いて、片付けを自分たちで進めようとする意欲を認める。 ☆ 話の聞き方や姿勢について、5歳児を見るように促し、自分で気付くことができるようにする。 ◇ 5歳児に世話の方法を教えてもらい、親しみの気持ちをもてるようにする。 ☆ 分からないことは5歳児に聞くよう助言する。 ☆ 幼児が疑問に思ったり発見したりしたことに共感しながら、その気付きを周囲の幼児にも知らせる。 ☆ 幼児が自分のことを自分でやろうとする姿を認める。 ☆ 水分補給の大切さを話し、必要感をもって自分から進んで水分補給を行うように促す。 ☆ 水遊びでは約束を守ることの大切さを知らせ、事故やけがにつながらない安全な遊び方を伝える。また、危険な場合は機会を捉えて指導する。 ◇ 5歳児と一緒にプールに入ったり、同じ道具を使ったりすることで、憧れたり真似たりして遊べるようにする。 ◇ 5歳児の姿を見せることによって、顔をつける、潜るなど、挑戦しようとする意欲につなげる。	☆ 片付けの時間をあらかじめ5歳児に知らせておくことで、自分たちで片付けの時間に気付き、周りの幼児に教えられるようにする。 ◇ 自分で予定を確認できるように、週予定を掲示する。 ☆ 話を聞く態度、挨拶、返事等が、3・4歳児の手本となっていることを意識できるように、よい姿を具体的に認める。 ☆ 5歳児がリードをとりながら、当番活動を進めようとする姿を見守る。4歳児が困っていたら、そのことに気付けるように言葉を掛ける。 ☆ 植物の世話や収穫を通して、その生長や色や形、匂い、数量などに関心をもてるように言葉を掛ける。 ☆ 着替えが早く済んだ幼児には、3歳児の着替えを手伝ったり、4歳児の様子を見守ったりするように言葉を掛け、年長者としての有能感をもてるようにする。 ☆ 自分ができるようになったことを繰り返したり友達の刺激を受けて新しいことに挑戦したりする姿を認める。 ☆ めあてに向かって頑張っている様子や、できるようになったことなどを認め、達成感を味わえるようにする。	△ 一日の予定を確認することで、見通しをもち、安心して過ごせるようにする。 △ 学級担任から一人一人への援助の仕方を引き継ぎ、教育時間と一貫した指導ができるようにする。 ▲ 学年ごとの経験内容を教員間で共通理解し、各年齢に合った経験を積み重ねていけるように配慮する。 △ 水遊びの指導内容や体操の内容は、学級担任と事前に話し合っておく。 △ 水遊びは、年齢別ではなく、水慣れの程度でグループを分けるなど、一人一人の経験の違いに配慮し、個別指導ができるようにする。また、無理なく水に親しめるように、水位の調節や遊び方を工夫する。

		◇ 水着の着脱や後始末などを自分でやろうとする意欲を認める。 ◇ 水遊び後は落ち着ける場を作り、体を休められるようにする。—————→
12:30	○ 給食を準備する。 ○ 給食をとる。	☆ 全員が揃うまでの間は、早く集まった幼児と手遊びをするなどして、楽しく落ち着いて待てるようにする。 ☆ 4・5 歳児が箸を使って食べることやこぼさないで食べる様子などを見て、憧れの気持ちや真似してみようという気持ちをもてるようにする。
13:30	○ 午睡する。	◇ 4・5 歳児が着替える様子を見たり、午睡の準備を手伝ってもらったりしながら、自分でやってみようとする気持ちを育てる。
15:00	○ 起床する。	◇ 起こしたり着替えたりする順番を先にするなどの配慮を行い、自分で身支度が進められる時間を確保する。—————→
15:30	○ 間食する。	☆ 5 歳児がやってくれていることを話題にしながら、4・5 歳児の動きに興味をもてるようにする。
16:00	○ 好きな遊びをする。(室内)	◇ 前日や午前中にしていた遊びの続きが楽しめるように環境の構成をする。—————→ ◇ 暑さによって、夕方には疲れも見られるので、一人一人がじっくりと遊びに取り組めるような場を設定する。 (絵本、パズル、ブロック、描画 等) ◇ 4・5 歳児がしている遊びを真似ながら遊びの経験を広げていけるように、互いの姿が見える場を工夫する。 ◇ 一人一人の遊びや生活のペースを大切にしてお過ごせるように、状況に応じて遊びの場を区切るなどの配慮をする。
18:30	○ 預かり保育を利用する幼児は、降園する。	☆ 降園時間の目安を知らせ、幼児なりに気持ちに区切りを付け、満足して遊びを終えられるよう配慮する。 ☆ 降園時間が近付いたら場を整理し、すぐに片付けられるもので遊ぶように声を掛ける。 ☆ 翌日の登園を楽しみにできるように、今日一日の楽しかった出来事を振り返ったり、明日の予定を伝えたりする。—————→
	○ 補食をとる。	
	○ 好きな遊びをする。(室内)	☆ 補食は個々の降園時間やその日の食欲などに応じて、量を加減する。また、人数が少ないので、一か所で保育者も一緒に座り、楽しく食事ができるようにする。
20:30	○ 最終降園	

☆ 5歳児が献立を紹介する中で、食材やメニューに関心をもてるように必要に応じて言葉を添える。 ◇ 箸を使って食べる、好き嫌いせず食べるなど、5歳児のよい点を話題にして、やってみようという気持ちをもてるようにする。 ◇ 疲れが顕著に見られる場合には、午睡の時間を個に応じて調整するなど、必要に応じた休息がとれるように配慮する。	◇ 台拭きや献立の紹介など、自分たちでできることを行い、生活を進めていけるようにする。 ☆ 食事のマナーに気を付けながら食事を進められるように声を掛ける。 ☆ 服のたたみ方や着替えの仕方など、丁寧に取り組んでいる様子を具体的に認める。 ☆ 3・4歳児を起こしたり簡易ベッド（コット）運びを手伝ったりするなど、自分でできることを考えて動く姿を認める。	△ 長時間保育を利用する幼児に遠慮して、力を発揮できない5歳児には、保育者が後押しして、自信をもって自分にできることに取り組めるよう働き掛ける。
☆ 間食の準備を進めてくれる5歳児に感謝の気持ちをもてるように、5歳児がしてくれていることを話題にする。	◇ 台拭きをする、お茶を注ぐなど、自分にできることを自分たちで考えて、生活を進めていけるようにする。	
☆ ごっこ遊びでは、5歳児と一緒に遊びながら簡単なやりとりを楽しめるように、イメージがふくらむ言葉を掛ける。 ☆ ボードゲーム等は5歳児の友達に遊び方やルールを教わり、友達に親しみの気持ちを持ち、遊びの経験を広げていけるようにする。 ☆ 一人一人が楽しんでいる姿を話題にし、周りの友達と楽しさを共有できるようにする。	◇ 友達と一緒に遊びの場を作ったり、必要なものを作ったりするなど、遊びの準備を自分たちで進められるように環境を整える。 ☆ 友達に刺激を受け工夫して遊んでいる姿を認め、みんなの前で紹介する機会を設けることで、楽しさが幼児全体に伝わるようにする。 ☆ 降園時の身支度では、5歳児の動きが、他の学年の手本になることを知らせる。	
	◇ 5歳児が台拭き、配膳、お茶を注ぐことを担えるようにする。	▲ スキンシップをとりながら、保護者への思いや寂しさを受け止める。 ▲ 仕切り等で空間を狭め、環境を再構成したり、ソファやカーペットを置いたりするなど、少人数でもゆったりくつろいで過ごせるように配慮する。 ▲ より家庭的な雰囲気でもリラックスできるように配慮する。 ▲ 一人で遊べるような遊具を用意し、人数が少なくなっても落ち着いて遊べるようにする。

運動会前の時期の指導計画例

時間	幼児の生活の流れ (活動等)	環境構成 (◇)・保育者の援助 (☆)
		3 歳児
		【ねらい】 ・ 一日の流れが分かり、安心して生活する。 ・ 体を動かした後に、水分補給したり、休息したりすることの大切さを知る。 ・ 運動遊びを積極的に楽しみ、運動会に期待をもつ。
		教育課程に係る教育時間の教育活動
13:45	○ 長時間保育を利用する幼児は、午睡室へ移動する。	☆ 教育活動において運動会の取組みをしていることから、手洗い、うがいを念入りにするよう声掛けをする。→
14:00	○ 午睡する。	☆ 教育活動における運動会の取組で体力を消耗していることが予想されるため、普段以上に、健康観察を念入りに行う。→
14:45	○ 預かり保育を利用する幼児は、教育活動の保育室から、預かり保育及び長時間保育の保育室へ移動する。	
15:00	○ 間食する。	☆ 水分補給は、普段よりも多めに行う。→
	○ 好きな遊びをする。 (室内遊び・戸外遊び)	◇ 3歳児は、体力面を考慮し、室内で遊べるよう環境を構成する。 ブロック、ままごと、絵本、描画 等
15:45	○ 預かり保育を利用する幼児は、順次降園する。	☆ 時間の経過とともに疲れも増し、調子が落ちることが予想される。片付けは、保育者が一緒に取り組み、幼児が負担を感じないよう配慮する。
16:30	○ 長時間保育を利用する幼児は、順次降園する。	☆運動会前は着替えの頻度が高いため、降園前には、着替えた物を持ち帰ることを忘れていないか確認する。→
17:30	○ 他の保育室へ移動し、0～2歳児と一緒に過ごす。	
18:30	○ 保育を延長する幼児は、補食をとる。	
20:30	○ 最終降園	

※ 「預かり保育」と「長時間保育」が同プログラムかつ3～5歳児混合保育

環境構成（◇）・保育者の援助（☆）		預かり保育を利用する 幼児に対する配慮点（△） 長時間保育を利用する 幼児に対する配慮点（▲）
4歳児	5歳児	
【ねらい】 - 汗を拭く、衣服を着替えるなど、自身を清潔に保つ大切さを知る。 5歳児と一緒に遊ぶ中で、刺激を受けて遊びを広げる。 - 昨年の運動会を思い出し、運動会に期待をもつ。	【ねらい】 - 汗を拭く、衣服を着替えるなど、自身を清潔に保つよう心掛けるようになる。 - 異年齢児と一緒に遊ぶ中で、年少者に対していたわりの気持ちをもつようになる。 5歳児としての自覚をもち、運動会に期待をもつ。	
教育課程に係る教育時間の教育活動		
	☆ 午睡をしない幼児は静かに過ごすように伝える。	△ 預かり保育利用児は午睡がないことから、特に、健康観察を念入りに行う。
☆ 午睡や間食の様子から、一人一人の幼児の疲れ具合を把握する。実態により、静的な遊びと動的な遊びの選択に保育者が関与する。	☆ 3・4歳児に温かく接することができるよう保育者がモデルになる。	▲△ 教育時間中の影響から疲れが見える幼児には、落ち着いた静かな遊びができるように配慮する。個に応じて対応する。
※室内…ブロック、折り紙、絵本、描画、積み木、空き箱製作 等 ※戸外…かけっこ、リレー、玉入れ、鬼遊び 等		
◇ 体力的に余裕のある4歳児が、5歳児と一緒に運動会に関連した遊びを楽しめるような環境を構成する。 ◇ 園庭に運動会のかけっこのラインを描いておく。 ◇ 皆で踊れる場所と音源を準備する。 ☆ 5歳児とのかかわりの中で刺激を受け、新たなことに挑戦しようとする意欲を認める。 ☆ 5歳児の遊びに加わり、ルールの理解ができていない場合は、橋渡しをする。	☆ 4歳児とかけっこをする際は、勝負にこだわるのではなく、自己の課題と向き合えるような言葉を掛けたり、純粹に走る楽しさを味わう姿に共感したりする。 ☆ 鬼遊び、玉入れ等、運動会では自分が取り組まない遊びも楽しめるようにする。	▲ 長時間保育を利用する幼児は、体力的に配慮を要する期間が続くため、降園時に保護者と、体調についての情報共有を密にする。

特別支援教育に関する事項について、保育所保育指針においては「障害のある子どもの保育」として、幼稚園教育要領においては「障害のある幼児の指導」「障害のある幼児との活動を共にする機会」として、記述があります。また、幼保連携型認定こども園教育・保育要領においては、特別支援教育に関する事項についての記述がさらに充実しています。

ここでは、乳幼児健診の指針となる国の「標準的な乳幼児期の健康診査と保健指導に関する手引き～『健やか親子21（第2次）』の達成に向けて～」（平成27年3月 乳幼児健康診査の実施と評価ならびに他職種連携による母子保健指導のあり方に関する研究班）及び、「平成26年度就学前教育研究開発委員会指導資料」（平成27年2月 東京都教育委員会 ※研究主題「就学前教育施設における特別支援教育の推進－『幼稚園教育の機能』を生かした指導の工夫－」）から抜粋した資料を掲載しています。

就学前教育施設において、特別支援教育を推進していく際の参考資料として御活用ください。

構 成

（１） 実態を捉えるための視点（０・１・２歳児 - 参考 -）

ア 乳幼児健診でスクリーニングすべき疾病 165～168 ページ

イ 保護者に対する「推奨問診項目」（一部抜粋） 169 ページ

※ 出典：標準的な乳幼児期の健康診査と保健指導に関する手引き～「健やか親子21（第2次）」の達成に向けて～
（平成27年3月 乳幼児健康診査の実施と評価ならびに他職種連携による母子保健指導のあり方に関する研究班）

（２） 「幼稚園教育の機能」を生かした指導の工夫（３・４・５歳児 - 参考 -）

ア 「幼稚園教育の機能」とは 170 ページ

イ 対象児に対する指導の流れ 171 ページ

ウ 対象児が在籍するクラスにおける保育者の援助 . . 171～177 ページ

※ 出典：平成26年度就学前教育研究開発委員会指導資料（平成27年2月 東京都教育委員会）
研究主題「就学前教育施設における特別支援教育の推進－『幼稚園教育の機能』を生かした指導の工夫－」

（１）実態を捉えるための視点（０・１・２歳児－参考－）

障害のある子供に対して、早期からその発達等に応じた必要な支援を行うことは、その後の自立や社会参加に大きな効果があると考えられます。

しかし、子供の年齢が低いほど、障害について診断することは困難です。そこで、保育に当たる際や、また、子供を理解するための記録を取る際に、実態を捉えるための視点として参考となるよう、「ア 乳幼児健診でスクリーニングすべき疾病」と「イ 保護者に対する『推奨問診項目』（一部抜粋）」を掲載します。

※ スクリーニング・・・集団の中から健康上疑いがあり、精密検査を要する者ないし発病者を選び出す医学的ふるい分け。

ア 乳幼児健診でスクリーニングすべき疾病

次ページの表は、乳幼児健診の際に、医師が診察時に念頭に置くべき疾患とその判定基準を示したものです。保育者が【問診】の欄に示された視点をもつことは、子供の実態を捉える上で大変参考になります。

なお、子供の実態が、疾病によるものなのか、発育発達の遅れによるものなのか等の診断は医師が行います。保育者の役割として、保護者と密に連携しながら、関係機関への接続を支援することが重要です。

【0か月齢～7か月齢】

発見したら早期に介入が必要な重要な所見。

月齢	0か月	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月
頭部	大泉門開大・頭囲拡大（想定される疾患 水頭症・脳腫瘍） 【診察】大泉門のサイズと膨隆の有無を確認。頭囲測定値の確認。 【判定基準】要紹介：大泉門最大径 $\geq 30\text{mm}$ （基準： $20\text{mm}\pm 10\text{mm}$ ）。 大泉門の明らかな膨隆を認める。進行する頭囲拡大。 異常なし：頭囲が+2.0SDを超えていても、進行なく経過して いて、嘔吐・活気不良などが無い。							
	頭蓋骨早期癒合症 【診察】大泉門の閉鎖の有無を確認。頭部の形状を触診。縫合部の隆起の有無を確認。 【判定基準】要紹介：7か月未満で大泉門が閉鎖。頭蓋骨の変形を認める。骨が重なり縫合部が隆起している。							
	顔貌異常 【診察】顔貌は特異的か。特異顔貌であれば、他の外表奇形の有無、発達の確認。 【判定基準】要紹介：明らかに疾患に結びつく顔貌：Down 症候群など。 特異顔貌であるものの明らかな疾患が想起しにくい。しかし発育発達の遅延や外 表奇形を伴う。 要観察：顔貌は気になるものの外表奇形はなく、発育発達が順調。							
眼	斜視 【問診】「目つきや目の動きがおかしいのではないかと気になりますか」 【診察】斜視の有無。眼球運動の異常の有無。 【判定基準】要紹介：問診が「はい」+診察所見で斜視や目の動きの異常あり。							
						網膜芽細胞腫 【問診】「瞳が白く見えたり、 黄緑色に光って見えたり することがありますか」 【診察】白色瞳孔の有無 【判定基準】要紹介：問診が 「はい」。白色瞳孔あり。		
耳	聴覚異常 【問診】1～2か月「大きな音にびっくりし ますか」 【診察】音への反応を確認 【判定基準】要紹介：音への反応が乏しい					【問診】3～4か月「見えない方向から声をかけると、見ようとしませんか」 6～7か月「テレビやラジオの音がし始めると、すぐ見えますか」 【診察】音への反応を確認 【判定基準】要紹介：音への反応が乏しい。音へは反応するが、呼びかけ に対する反応が乏しい。		
頸部	斜頸 【診察】頭部が左右両方向に回旋するか。（他動的でも可。） 胸鎖乳突筋に腫瘍があるか。 【判定基準】要紹介：他動的にも片側への回旋が不可。 胸鎖乳突筋に腫瘍あり→筋性斜頸の可能性。 胸鎖乳突筋に腫瘍なし→基礎疾患のある斜頸の可能性。							
胸部	心音異常 【診察】リズム不整の有無。雑音の有無。 【判定基準】要紹介：リズム不整あり。雑音あり。							
腹部	腹部腫瘍 【診察】腹部触診で腹瘤の有無を確認。 【判定基準】要紹介：腫瘍あり。							
	臍ヘルニア 【診察】臍ヘルニアの有無を確認。あれば還納可能であることを確認。 【判定基準】要紹介：臍ヘルニアあり+還納できない、あるいはしにくい。臍ヘルニアあり+保護者の希望あり。							
	臍肉芽 【診察】臍の観察。肉芽の有無、浸出液・ 出血の有無を確認。 【判定基準】要紹介：生後2週間以降の肉芽、 浸出液、出血。							
陰部	外性器異常 【診察】外性器異常があるか。 【判定基準】要紹介：外性器異常あり							
	陰嚢水腫 【診察】陰嚢の腫大があるか。ある→透光試験。 【判定基準】要紹介：透光性なし（陰嚢内に充実性腫瘍あり：陰嚢内の腫瘍）。 要観察：透光性あり。（1歳までは経過観察）							
	停留精巣 【診察】陰嚢内に精巣が触知されるか。 【判定基準】要紹介：両側を触知せず 要観察：片側を触知せず （3か月未満）					【診察】陰嚢内に精巣が触知されるか。 【判定基準】要紹介：両側を触知せず。片側を触知せず。 （3か月以上）		
	単径ヘルニア 【診察】単径部に腫瘍を触知するか。ヘルニア門が確認できるか。還納できるか。 【判定基準】要紹介：単径ヘルニアあり							

月 齢	0 か月	1 か月	2 か月	3 か月	4 か月	5 か月	6 か月	7 か月
腰部・ 臀部	潜在性二分脊椎							
	【問診（所見があれば）】「おむつが濡れていない時間がありますか」「足はよく動きますか」 【診察】腰部・臀部に腫瘍はあるか。腰部・臀部に凹み（dimple）はあるか。ある場合、盲端が確認できるか。 【判定基準】 要紹介 ：腰部・臀部に腫瘍あり。凹みあり＋盲端確認＋問診で1つ以上「いいえ」。凹みあり＋盲端確認不可。 異常なし ：凹みあり＋盲端確認＋問診で2つとも「はい」。							
四肢	股関節脱臼							
	【判定基準】乳児股関節脱臼のスクリーニングの項参照							
		四肢の形態異常 【診察】四肢に形態異常があるか。 【判定基準】 要紹介 ：形態異常あり。						
皮膚	黄疸							
	【問診】「母乳やミルクをよく飲みますか」 【診察】あきらかな皮膚および眼球結膜の黄染があるか。 【判定基準】 要紹介 ：強い黄染を認める。 横染あり＋哺乳不良							
	胆道閉鎖症							
	【問診】「うんちの色は何色ですか」チェックカードを用いる。 【診察】あきらかな皮膚および眼球結膜の黄染があるか。 【判定基準】 要紹介 ：便チェックカード1～3。4～7が1～3に近づいてきた。							
	おむつ皮膚炎							
	【診察】臀部に発赤があるか。びらんがあるか。丘疹を伴う発赤疹をみとめるか。 【判定基準】 要紹介 ：びらんや丘疹を伴う発赤疹あり。指導後も改善みられず。 要指導 ：発赤のみ。							
	湿疹							
	【診察】紅斑は著明か。浸出液の有無。びらんの有無。湿疹部が拡大しているか。 【判定基準】 要紹介 ：著明な紅斑・浸出液・びらん・拡大した湿疹のいずれかを認める。指導後の改善が乏しい。 要指導 （泡洗浄）：湿疹はあるが、著明な紅斑・浸出液・びらん・拡大を認めない。 要指導 （保湿）：乾燥所見を認める。							
	母斑							
	【診察】母斑の有無			【判定基準】 要紹介 ：母斑あり。				
	血管腫							
	【診察】血管腫は広範囲か。視野に影響が出る場所か。保護者の不安は強いのか。 【判定基準】 要紹介 ：血管腫が広範囲。視野にかかる場所に存在。保護者の不安が強い。 異常なし ：上記要紹介基準に該当しない。							
神経				West 症候群				
				【問診】「おかしい動きだと思いませんか」 「はい」→動きを詳細に聴取。 ＊追加質問項目「機嫌はいいですか」「できていたことが出来なくなったりしていますか」 【診察】視線は合うか。不機嫌ではないか。発達は月齢相当か。 【判定基準】 要紹介 ：Tonic spams を疑うエピソードあり。 発作は不明瞭だが追加の問診で、不機嫌や発達の停止・退行を認める。 異常なし ：発作とは異なるエピソード＋機嫌良好＋発達良好。				
重要確認 事項	Vit.K 欠乏症（K2 シロップ内服確認）							
	先天代謝異常（検査の有無と結果を確認）							
	被虐待児跡：熱傷や挫傷、擦過傷、裂傷、凍傷などの外傷やその瘢痕、紫斑、出血斑、色素沈着などの皮膚所見。 外傷の部位が不自然、親の説明が不自然、皮膚や着衣の清潔が極端に損なわれている。							

※ 出典：標準的な乳幼児期の健康診査と保健指導に関する手引き～「健やか親子21（第2次）」の達成に向けて～（平成27年3月 乳幼児健康診査の実施と評価ならびに他職種連携による母子保健指導のあり方に関する研究班）

【8か月齢～3歳齢】

発見したら早期に介入が必要な重要な所見

月齢	8か月	9か月	10か月	11か月	1歳	1歳6か月	2歳	3歳
顔	顔貌異常							
	【診察】顔貌は特異的か。特異顔貌であれば、他の外表奇形の有無、発達の確認。 【判定基準】 要紹介：明らかに疾患に結びつく顔貌：Down 症候群など。特異顔貌であるものの明らかな疾患が想起しにくいが発育発達の遅延や外表奇形を伴う。 要観察：顔貌は気になるものの外表奇形はなく、発育発達が順調							
眼	斜視						視覚異常	
	【問診】「目つきや目の動きがおかしいのではないかと気になりますか」 【診察】斜視の有無。眼球運動の異常の有無。 【判定基準】 要紹介：問診が「はい」＋診断所見で斜視や目の動きの異常あり						【判定基準】 要紹介：3歳児視覚検査などの基準	
	網膜芽細胞腫							
	【問診】「瞳が白く見えたり、黄緑色に光って見えたりすることがありますか」 【診察】白色瞳孔の有無 【判定基準】 要紹介：問診が「はい」。白色瞳孔あり							
耳	聴覚異常						【判定基準】 要紹介：3歳児聴力検査などの基準	
	【問診】9～10か月「そっと近づいてささやき声で呼びかけると振り向きますか」「聞こえていないのではないかと、感じることはありませんか」 【診察】音への反応を確認 【判定基準】 要紹介：音への反応が乏しい 音には反応するが、呼びかけに対する反応が乏しい							
胸部	心音異常							
	【診察】リズム不整の有無。雑音の有無。 【判定基準】 要紹介：リズム不整あり、雑音あり							
腹部	腹部腫瘤							
	【診察】腹部触診で腫瘤の有無を確認。 【判定基準】 要紹介：腫瘤あり							
	臍ヘルニア							
【診察】臍ヘルニアの有無を確認。あれば還納可能であることを確認。 【判定基準】 要紹介：臍ヘルニアあり＋還納できない or しにくい 臍ヘルニアあり＋保護者の強い希望あり								
陰部	陰嚢水腫							
	【診察】陰嚢の腫大があるか。ある→透光試験。 【判定基準】 要紹介：透光試験で透光しない（陰嚢内に充実性腫瘤あり：陰嚢内の腫瘤） 要紹介：透光試験で透光する（陰嚢内が体液充満性：陰嚢水腫）、1歳以上 要観察：透光試験で透光する（陰嚢内が体液充満性：陰嚢水腫）、1歳未満							
	単径ヘルニア							
	【診察】単径部に腫瘤を触知するか。ヘルニア門が確認できるか。還納できるか。 【判定基準】 要紹介：単径ヘルニアあり							
腰部・臀部	潜在性二分脊椎						腎疾患	
	【問診（所見があれば）】「おむつが濡れていない時間がありますか」「足はよく動きますか」 【診察】腰部・臀部に腫瘤はあるか。腰部・臀部に凹み（dimple）はあるか。ある場合、盲端が確認できるか。 【判定基準】 要紹介：腰部・臀部に腫瘤あり 凹みあり＋盲端確認＋問診で1つ以上「いいえ」 凹みあり＋盲端確認不可。 異常なし：凹みあり＋盲端確認＋問診で2つとも「はい」							
四肢	四肢の形態異常						○脚・X脚	
	【診察】四肢に形態異常があるか。 【判定基準】 要紹介：形態異常あり						【診察】○脚・X脚があるか。 【判定基準】 要紹介：顕著な所見または保護者の不安あり	
皮膚	おむつ皮膚炎							
	【診察】臀部に発赤やびらんがあるか。丘疹を伴う発赤疹をみとめるか。 【判定基準】 要紹介：びらんや丘疹を伴う発赤疹あり、指導後も改善みられず 要指導：発赤のみ							
	湿疹							
	【診察】紅斑は著明か。浸出液の有無。びらんの有無。湿疹部が拡大しているか。 【判定基準】 要紹介：著明な紅斑・浸出液・びらん・拡大した湿疹のいずれかを認める。指導後の改善が乏しい 要指導（泡洗浄）：湿疹はあるが、著明な紅斑・浸出液・びらん・拡大を認めない 要指導（保湿）：乾燥所見を認める							
神経	West 症候群							
	*判定基準は乳児期の疾病を参照。							
重要確認事項	被虐待児跡：熱傷や挫傷、擦過傷、裂傷、凍傷などの外傷やその瘢痕、紫斑、出血斑、色素沈着などの皮膚所見。 外傷の部位が不自然、親の説明が不自然、皮膚や着衣の清潔が損なわれている。							

※ 出典：標準的な乳幼児期の健康診査と保健指導に関する手引き～「健やか親子21（第2次）」の達成に向けて～
（平成27年3月 乳幼児健康診査の実施と評価ならびに他職種連携による母子保健指導のあり方に関する研究班）

イ 保護者に対する「推奨問診項目」（一部抜粋）

「保護者に対する『推奨問診項目』」は、医師が「乳幼児健診」の際に保護者に対して行う問診の内容を掲載したものです。

なお、「推奨問診項目」のほかに、「必須問診項目」もありますが、「保護者が、毎日、仕上げ磨きをしていますか」、「この地域で、今後も子育てをしていきたいですか」など、保護者の子育て環境等に関する問いであるため、ここでは掲載しません。

下の表は、「推奨問診項目」のうち、子供の実態を捉えることに関連した問いについて抜粋し、まとめたものです。

「医師は保護者に対して、このような問診を行っている」ということを知ること
で、子供の実態を捉える際の参考にしてください。

【3～4か月児健康診査の推奨問診項目】（一部抜粋）

	区分	設問	選択肢
1	従来型発達項目	あやすとよく笑いますか。	1. はい 2. いいえ
2		見えない方向から声をかけてみると、そちらの方を見ようとしますか。	1. はい 2. いいえ
3		視線が合いますか。	1. はい 2. いいえ
4		ガラガラなど、おもちゃを握りますか。	1. はい 2. いいえ
5		両手を合わせて遊びますか。	1. はい 2. いいえ
6	新規発達項目	お子さんを抱きにくいと感じたことはありますか。	1. はい 2. いいえ

【1歳6か月児健康診査の推奨問診項目】（一部抜粋）

	区分	設問	選択肢
1	従来型発達項目	ママ、ブーブーなど意味のあることばをいくつか話しますか。	1. はい 2. いいえ
2		まわりの人の身振りや手振りをまねしますか。	1. はい 2. いいえ
3	新規発達項目	何かに興味を持った時に、指さして伝えようとしますか。	1. はい 2. いいえ
4	社会性項目／ 親子関係項目	うしろから名前を呼んだとき、振り向きますか。	1. はい 2. いいえ

【3歳児健康診査の推奨問診項目】（一部抜粋）

	区分	設問	選択肢
1	従来型発達項目	衣服の着脱をひとりでしたがりですか。	1. はい 2. いいえ
2	社会性項目	ままごと、ヒーローごっこなど、ごっこ遊びができますか。	1. はい 2. いいえ

※ 出典：標準的な乳幼児期の健康診査と保健指導に関する手引き～「健やか親子21（第2次）」の達成に向けて～
（平成27年3月 乳幼児健康診査の実施と評価ならびに他職種連携による母子保健指導のあり方に関する研究班）

(2)「幼稚園教育の機能」を生かした指導の工夫（3・4・5歳児－参考－）

東京都教育委員会が設置する「就学前教育開発委員会」では、平成26年度に「就学前教育施設における特別支援教育の推進－「幼稚園教育の機能」を生かした指導の工夫－」の主題を設定し、1年間の研究を行いました。

本研究は、就学前教育施設における特別支援教育の推進に資することを目的とし、特別な支援が必要な幼児が在籍するクラスにおける保育者の援助の一覧及び指導例等を開発し、指導資料としてまとめました。

ここでは、その骨子となる部分を抜粋して掲載します。一部で「幼稚園教育の機能」という表現を用いていますが、幼保連携型認定こども園、保育所等、全ての就学前教育施設において、特別支援教育を推進する上での参考にしてください。

＜本研究で使用する用語について＞

- ・就学前教育施設…保育所、幼稚園、こども園等、小学校就学前の保育・教育施設
- ・対象児…障害の診断の有無にかかわらず、特別な支援を必要とする幼児及び児童
- ・保育者…就学前教育施設における、保育士及び幼稚園教諭（保育教諭を含む）
- ・支援者…対象児に対する個別の支援のための教職員等
- ・クラス…学級、クラスのこと　・支援…主に対象児に対する特性等に応じた援助

ア 「幼稚園教育の機能」とは

本研究では、幼稚園教育要領解説における記述を基に、「幼稚園教育の機能」及び「特別支援教育における援助」を考える視点を次のように捉えました。

◆ 適切な環境の下での集団生活を通して、 幼児一人一人に応じた指導を行う機能

＜援助のポイント例＞

- ・好きなこと、得意なことを生かす
- ・様々な遊び（活動）を用意して経験を広げる
- ・できなかったことができるようになる喜びを味わわせる

◆ 友達をはじめ様々な人々との出会いを通して、 家庭では味わうことのできない多様な体験をさせる機能

＜援助のポイント例＞

- ・心地よい人との関わりや様々な感情を経験させる
- ・それぞれの特性を認め合えるようにする
- ・様々な場面（小集団、大集団、個別支援、一斉活動等）を生かす
- ・一人一人をかけがえのない存在として、クラス経営を行う

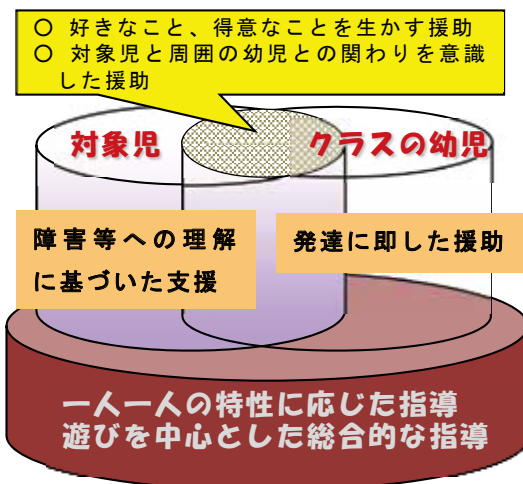
援助を考える視点

- ◎ 対象児の好きなこと、得意なことを生かす
- ◎ 対象児と周囲の幼児との関わりを意識する

* 上記の内容は、幼稚園以外の就学前教育施設においても共通である。

幼児期の教育と特別支援教育とは、一人一人の特性に応じた指導という点で共通です。加えて、幼児期の教育の特長である遊びを中心とした総合的な指導が、日々の教育活動の基盤となります。

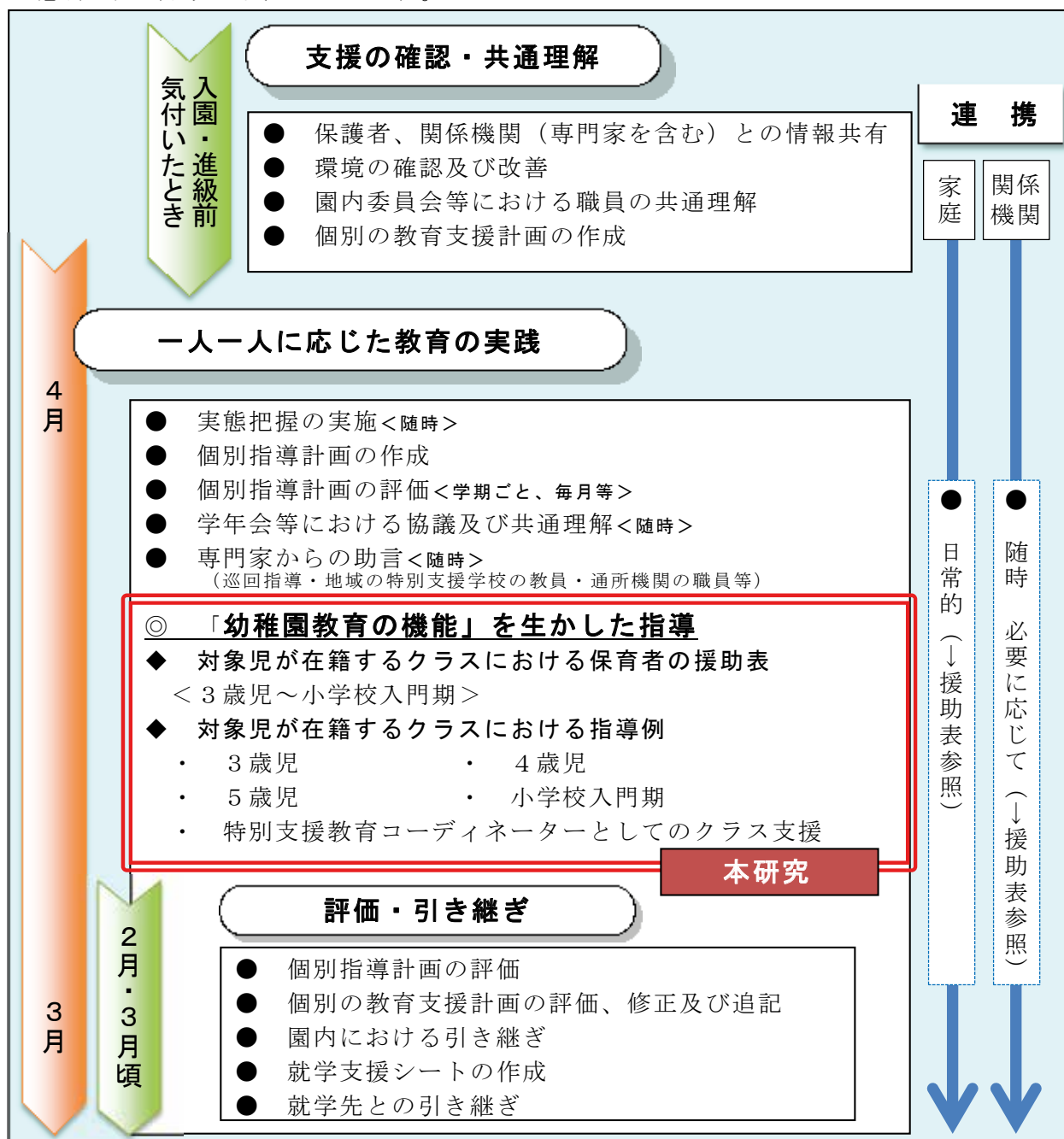
就学前教育施設においては対象児の障害等への理解に基づいた支援を行うと同時に、一緒に生活するクラスの幼児と共に育つことに対する援助が必要です。そのためには、一人一人の良さを生かすとともに、周囲の幼児の発達を踏まえた集団への援助など、対象児と周囲の幼児との関わりを意識した援助を意図的に行うことが重要です。



＜「幼稚園教育の機能」を生かした指導＞

イ 対象児に対する指導の流れ

特別支援教育は、園全体で組織的に推進していく必要があります。併せて、担任を中心とした対象児に関わる保育者は、対象児に対する障害等への理解に基づいた計画的な支援、家庭及び専門家や関係機関との連携、特別支援教育コーディネーターをはじめ園内の教職員との積極的な連携などを、年間にわたり意識的に行う必要があります。



ウ 対象児が在籍するクラスにおける保育者の援助

日常の教育活動において特別支援教育を推進するために、本研究で捉えた内容を視点として、保育者の援助を一覧にまとめました。

なお、「対象児への支援（例）」の欄は、一人の対象児を想定して具体的な支援を掲載しています。

【対象児が在籍するクラスにおける保育者の援助表】

視点	3歳児Ⅰ期（４月～５月） 保育者に親しみをもち、徐々に安心して過ごせるようになっていく時期	3歳児Ⅱ期（６月～９月上旬） まわりに友達がいる中で、興味をもったことをしてみる時期
幼児との関わりに関する	・保育者との触れ合いを通して、安心して生活や遊びを楽しむ。 ・保育者や友達と一緒に過ごす。 ・誕生会や季節の行事などの集会があることを知り、保育者と一緒に参加する。 ・皆で過ごすために必要な約束を知る。	・友達の動きをまねたり、同じように遊んだりすることを喜ぶ。 ・生活や遊びの中で、自分の思いを動きや言葉で保育者や友達に伝えようとする。 ・友達と関わって遊ぶ中で、保育者の仲介の下、相手に自分とは違う思いがあることを感じる。 ・砂や水などで遊び、開放感を味わう。 ・生活や友達との関わりの中で、良いことと悪いことに気付く。 ・皆で過ごすために必要な約束や、簡単な遊びのルールを知る。
対象児が在籍する集団への援助	・一人一人の幼児に愛情をもって接し、スキンシップや一緒に遊ぶことを通して、保育者の存在を身近に感じ、信頼感が生まれるようにする。 ・ありのままの姿やその思いを丁寧に温かく受け入れ、安心して過ごせる雰囲気をつくる。 ・安心して過ごせるように、園生活の流れがあまり変わらないようにする。 ・所持品の始末や登降園時の身支度など、手順が多いことは分かりやすく示す。（絵や写真を見せる、手順を簡単な言葉に表すなど） ・気に入った場所や遊具に関わり、安心して過ごせるよう、コーナー作りをしたり家庭で親しんでいる遊具を多めに用意しておいたりする。 ・興味や関心に合わせて、遊びに使う物が自由に使えるよう、分かりやすい表示の工夫や遊具、用具の種類や数量に配慮する。	・幼児の興味を捉え、楽しめるような遊具や材料を用意し、一人一人がしたいことに取り組みる時間や場、遊具の数を確保する。 ・対象児が刺激を与えたり受けたりしやすい幼児も出てくるので、互いに気にならないようについ立てなどを使って仕切る、保育者の位置を考慮するなど工夫する。 ・友達と同じ物を扱えるよう、遊具の数を確保する。 ・遊びの中で思いが通らないなどの場面では、気持ちを受け止めて代弁したり、気分転換を図ったりする。その中で、関わりに必要な簡単な言葉や、生活の決まりなどを知らせる。 ・砂や水などと関わり、開放感を味わって遊ぶことで、自分の思いを出しやすくする。 ・水遊びなど初めて経験することは、手順や約束を絵や写真を使って分かりやすく示す。
◎対象児への支援（例） ○担任・支援者との連携 ☆支援者 ●通年	◎登園時は玄関で迎え入れ、保育室まで一緒に移動し身支度を行うことを繰り返す中で、自分の保育室やロッカーの場所が分かったり、自分を支えてくれる保育者や支援者の顔や名前を覚えたりできるようにする。 ◎家庭で親しんでいる遊具や、対象児が気に入っている様子の遊具を用意しておき、安心して過ごせるようにする。 ◎●初めて取り組む活動や集会など、新しいことには不安を示すことも予想される。部分的に参加する、安心できる場所から参加するなど、対象児が無理のない範囲で参加できる方法を考える。 ＜支援者との連携＞ ○担任は学級全体が安定することを大切にする。対象児の安定のために、支援者や園内の職員に対象児に関わってもらい、連絡を密にして園生活での適切な実態把握と支援方法を共有する。 ◎●専門機関との連携で得た情報や支援方法を必要に応じて伝え、共通に支援できるようにする。 ◎個別指導計画に基づき、支援方法を共通にする。	◎飼育物、絵本コーナーなど、対象児が気に入っている物や場に関わりながら、安心して過ごせるようにする。 ◎砂、泥、水などの遊びに喜んで取り組む様子が見られる場合は、一緒に遊びながら気持ちの開放や安定を図る。対象児の状況（感覚過敏があるなど）により取り組もうとしない場合は無理強ひせず、別の遊びに誘う、他児の様子と一緒に見るなどとする。 ◎降園前は集まって過ごす、食事のときは座るなど、園生活の流れや簡単な決まりが徐々に分かるように、一緒に取り組み、できたことを喜ぶ。 ＜支援者との連携＞ ◎担任が対象児との関係を深めるため、遊びの場面では支援者と役割を交代するなど工夫する。 ◎●対象児の状況（好きなこと、苦手なこと、小さな出来事など）を様々な教職員が捉え、共通理解する。それをもとに、対象児の関心を広げたり、自分の保育室で過ごせる時間を増やしたりできるように、支援方法を調整する。
●専門機関との連携 通年	●保育観察を依頼し、集団生活での対象児の特性に応じた支援方法を具体的に検討する。 ●個別的教育支援計画、個別指導計画作成にあたり、３年間の見通しや支援方法への助言を受ける。 ●通所機関で、入園前の対象児の様子や集団生活への期待などを聞き、指導計画に生かす。	●集団生活での変容や困難さを共有し、その時期の対象児に応じた支援方法を確認する。 ●通所機関がある場合は、見学や園での保育観察を通して情報交換し、支援に生かす。 ●発達や行動面で配慮が必要と思われる幼児について、実態把握の仕方や支援方法、保護者との連携等について相談する。
対象児の保護者との連携	＜入園、進級前＞ ・面談や体験入園等を通し、園や職員に親しみをもてるようにする。成育歴や家庭での対応、園への願いや要望等を聞き、基礎資料を作成する。 ・実際に環境を見てもらい、改善や工夫の必要な点、家庭での過ごし方などについて共通理解し、準備する。 ＜入園、進級後＞ ・園生活の様子を具体的に知らせ、安心感につなげる。家庭での様子を聞き、環境の変化による家庭での変容等を保護者と確かめ、支援に反映させる。 ・基礎資料と園での様子を基に、個別的教育支援計画及び個別指導計画を作成する。	・連絡ノートなど、日々の連絡方法を確認する。 ・対象児の園での様子を肯定的に伝え、安心感につなげるとともに、家庭での様子を聞き、保護者の気持ちを受け止めたり、園での対応に生かしたりする。

3歳児Ⅲ期（9月中旬～10月） 自分のしたい遊びの中で、安心して思いや動きを出していく時期	3歳児Ⅳ期（11月～12月） したい遊びに取り組む中で、友達と関わる楽しさを知っていく時期	3歳児Ⅴ期（1月～3月） 自分でできることに取り組みながら、大きくなった喜びを感じていく時期
・同じ場にいる友達や保育者に関わって遊ぶ楽しさや、一緒にいる心地よさを感じる。 ・自分の思いを自分なりの方法で相手に伝えようとしたり、相手の思いを感じたりする。 ・友達や異年齢児の遊びに関心をもち、仲間に入ったり一緒に動いたりして楽しむ。 ・園の様々な行事に参加して楽しさを感じる。 ・簡単なルールが分かり、皆と一緒に遊ぶことを楽しむ。	・保育者や友達と同じ遊びや生活を楽しむ。 ・友達と同じことがしたいという気持ちが高まり、一緒に遊ぼうとする。 ・自分の気持ちや困っていること、してほしいことなどを、保育者に自分なりの言葉や方法で伝えようとする。 ・行事を通して異年齢の幼児と触れ合い、楽しさを感じたり、4歳児、5歳児に対する憧れを感じたりする。 ・保育者や友達と簡単なルールのある遊びを楽しむ。	・保育者や友達のしている遊びに興味をもち、自分も関わりながら遊ぶ。 ・一緒に遊びたい友達と同じ場で遊ぶ中で、自分なりの動きを出す。 ・自分の思っていることやしたいことなどを言葉や動きで表しながら遊ぶ。 ・保育者に励まされながら様々なことに取り組み、できたことを喜び、大きくなったことを感じる。 ・生活や安全に必要な簡単な決まりが分かる。
・幼児の思いや見立てを受け止めたり、様々な遊び方を知らせたりして、遊びを楽しめるようにする。 ・一緒にいたい友達が出てくる時期なので、やりとりを仲介し、自分と相手が違う思いをもっていることを知る機会にする。思いをうまく表現できない姿も予想される。言葉だけではなく、表情や動きなど全身で表現している幼児の思いを丁寧を受け止め、一人一人に応じた援助をする。 ・運動会のリズム表現や親子種目などは、対象児も興味をもって取り組みそうな内容や、無理なく参加ができそうな内容を取り入れる。 ・運動会に向けた取組等を通して、一人一人の動きや表現を、クラスの中で十分に認めていく。 ・皆で行う活動を楽しみながら取り組む中で、皆で動くときの約束や方法（一列で並ぶ、順番を待つなど）が身に付くように働き掛ける。	・一緒にいたい友達と関わるように、コーナーや遊びの場の配置を工夫する。 ・お面、マントなど、同じ物を身に付けて遊べるようにし、幼児同士が“一緒に遊んでいる”という気持ちをもつことができるようにする。 ・幼児が同じ場で遊んでいる場面では、「〇〇ちゃんと同じ物を持っているのね」などと言葉を掛け、対象児や周囲にいる幼児が“友達と一緒にいることが楽しい”と感じられるようにする。 ・対象児なりに参加できそうな簡単なルールのある鬼遊びなどを取り入れていく。その中で、どの幼児も、保育者や友達と一緒に動いたり関わったりしながら遊ぶ楽しさを感じられるようにする。 ・友達との関わりが増えてくる時期であるため、それぞれの幼児が思いを表せるように仲介する。状況を捉えて、対象児の表現の仕方や思いを伝える。	・幼児が自分から取り組んでみようとする姿やできるようになったことを認めていく。対象児の姿を認めることで、周囲の幼児が対象児を自然に受け止めるようにする。 ・発表会などは、対象児が興味のあることや参加しやすいことを取り入れて構成し、クラス全員が自分らしさを出して取り組めるようにする。 ・基本的な生活習慣の状況を確認し、一人一人の取組を認めて自信につなげるとともに、必要な部分では援助をしながら身に付くようにする。 ・4歳児の保育室に行ったり、学年全体で過ごしたりする機会を設定し、進級への期待を高める。
☆リズム表現やかけっこなどは、事前に支援者と一緒に音楽を聞いたり動いたりして個別に取り組むことにより、皆の中でも安心して取り組めるようにする。 ◎運動会に向けた活動では、皆と一緒に回数を調整し、対象児にとって必要なことが経験できるようにする。 ◎皆と一緒に活動する機会が増えることに伴い、対象児の友達への関心も広がっていくことが予想される。友達との心地よい関わりをもてるように仲介したり、対象児が無理せずできる関わり方を知らせたりする。 <支援者との連携> ◎対象児と周囲の幼児、双方の関わり方や感じ方の実態を把握し、幼児同士の関わりでそれぞれの成長に期待できること、配慮すべきことを明らかにし、共通理解を図る。 ◎運動会等大きな行事に関しては、対象児の成長にとって必要な経験を明確にし、練習や当日の参加の仕方への配慮などを共通にして進める。	◎対象児と同じ遊びに興味をもっている幼児や対象児のことを受け入れる姿が見られる幼児と関わるように、仲介したり一緒に遊んだりする。 ◎コミュニケーションがうまくとれないことでのトラブルが予想されるので、対象児が自分なりのサインや表情、知っている言葉などで表せるように支援する。 ◎集団で行う遊びでは、対象児なりにルールを受け入れて取り組めるように、一緒に動いたり言葉を添えたりする。 <支援者との連携> ☆対象児が、できるだけ幼児同士の関わりを経験できるように、クラスの友達と関わるきっかけをつくる、支援者と対象児の距離に配慮する、などを担任と連携しながら行う。	◎集会、生活発表会、修了式などの行事では、対象児とともに事前に設定された場を見ておく、練習ではその日に取り組む内容を伝えておくなど、安心して取り組めるようにする。 ○発表会では、対象児の好きな遊びや動き、得意なことなどを取り入れる。また、気の合う友達と同じ役にする、待ち時間に飽きない工夫をする等配慮し、対象児が無理なく安心して取り組めるようにする。 ◎進級後を想定して、基本的な生活習慣を再確認し、できていることが定着するようにする。 <支援者との連携> ◎お別れ会の準備など年少組として取り組む活動や、皆で取り組む活動が増えてくる。対象児の全体活動への参加の仕方を把握し、支援者が個別に取り組む方を伝えたり共に動いたりしながら、できる部分に無理なく参加できるようにする。 ◎行事に関して、対象児の様々な状況を想定し、担任と支援者の動き方や対象児の無理のない参加の仕方を確認しながら進める。 ◎4歳児の保育室に行く、学年全体で過ごすなどの際に、対象児が安心できる場所や友達を把握する。
・運動会などの行事に向けて、対象児の様子及び園や保護者の意向を伝え、対象児の特性に応じた支援方法について助言を受ける。 ●育児に不安を感じている保護者が、園内で専門家と話したり助言を受けたりできるよう、相談体制を整えておく。	・対象児の変容や課題を共有し、進級を視野に入れた見通しがもてるように助言を受ける。 ●対象児の保護者が専門家に相談できるように体制を整えておき、状況に応じて機会を設定する。	・表現活動や儀式的な行事への、対象児の特性に応じた支援方法や参加の仕方などに対する助言を受ける。 ・進級時の環境や支援方法など、配慮することや引継ぎ事項などを協議し、明確にする。
・対象児の園での様子を伝えながら、行事に向けての取組や当日の参加の仕方、支援の方法を話し合いながら進める。また、対象児なりの取組を十分に認め、共に喜び合えるようにする。	・クラスの幼児との関わりが増える時期である。園での友達との関わり様子を具体的に伝えるとともに、家庭での様子を聞き、考慮して支援を考える。 ・面談などの機会を通して、成長や支援方法などを確認する。3学期の見通しを伝え、保護者の希望や不安を聞くなど、進級を視野に入れて話し合う。	・保護者の願いを受け止めつつ、経験させたいこと、今大切にしたいことを伝え、共通理解を図り、それを基にして行事等に取り組む。 ・進級後の生活する環境と一緒に見る機会をつくり、保護者の願いや不安、要望などを聞き、改善すべき点を明確にして新年度に備える。

視点	4 歳児Ⅰ期（4 月～5 月） 保育者をよりどころにして新しい場や生活に慣れ、思いを表しながら遊んだり生活したりする時期	4 歳児Ⅱ期（6 月～9 月上旬） クラスの活動で自分なりに動いたり同じ動きをしたりすることを楽しむようになる時期
人との関わりに関する 幼児の姿の把握	・保育者や友達に親しみをもって遊んだり生活したりする。 ・気の合う友達と同じ遊びを楽しむ。 ・思ったことや感じたことを表情、態度、言葉などで自分なりに表現する。 ・クラスの皆と一緒に遊んだり過ごしたりすることを楽しいと感じる。 ・園生活に必要な決まりがあることや、「ありがとう」「ごめんね」など友達との関わりに必要な言葉があることを知る。	・受け入れてくれる友達に自分の思いや感じたことを伝えようとする。 ・思い通りにならないときに保育者に思いを受け止めてもらい、我慢したり気持ちを切り替えたりする。 ・友達と同じものを身に付けたり、一緒に動いたりする楽しさを感じる。 ・皆で取り組む遊びや活動に喜んで参加し、友達に親しみをもつ。 ・ルールを守ると楽しく遊べることが分かる。
対象児が在籍する集団への援助	・幼児のありのままの姿を受け止め、安心して自分を出せる雰囲気をつくる。 ・一人一人の名前を意識的に呼ぶことや、誕生写真の掲示などを通して、友達に関心をもてるようにする。 ・生活の流れや活動の手順が変わることで不安にならないよう、しばらくは生活の基本的な流れを変えないように配慮する。 ・家庭や3歳時にしていた遊びができる環境を用意し、一人一人の遊びの場を確保することで安心して過ごせるようにする。	・保育者や他児のしていることが見えるような場作りなどを行い、友達のしていることを知らせたり遊びながら感じ取れるようにしたりする。また、友達と同じことができるように材料を十分に用意する。 ・好きな遊具や遊び、クラス全体の活動の様子から、保育者が対象児と周囲の幼児との接点を見出し、関わるきっかけをつくる。 ・対象児が好きなことを遊びの中に取り入れ、関心をもった幼児と一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにする。
◎対象児への支援者共通（例） ○担任・支援者との連携 ☆支援者 ●通年	○ロッカーや所持品の置き場所は、分かりやすく大きなマークや図で示す。 ◎トイレ・園庭などの場所や身支度・食事の準備など生活の流れは、3歳からの経験を踏まえて写真カードを作成する。行動する際にカードを見せ、次の行動の手掛かりになるようにする。 ◎対象児の好きなことを一緒に繰り返しながら、保育者への安心感がもてるようにする。 ◎進級で環境が変わるため、家庭や3歳時に使っていた指示や絵カード、遊具などを用意し、安心して過ごせるようにする。 <支援者との連携> ☆人があまり変化しないように、共に行動するのは主に支援者とする。担任はクラス全体の安定に配慮する。 ◎●対象児の状況（好きなこと、苦手なこと、小さな出来事など）を様々な教職員が捉え、共通理解する。互いに感じたことを率直に伝え、支援方法を調整する。 ◎●行事に関して、対象児の様々な状況を想定し、担任と支援者の動き方や対象児の無理のない参加の仕方を確認しながら進める。	◎行動する際に場所の写真カードや活動の絵カードを見せ、次の行動の手掛かりにする。 ◎身支度・昼食準備などの生活の流れは、流れが分かるように写真カードや絵カードを作成し、一つ一つ確認する。 ◎対象児が安定しているときに、好きなことを一緒にしながら、関係づくりをする。 <支援者との連携> ○対象児の興味や技能面などの状況に応じながら、友達や場、遊具への関心を広げられるよう、共通理解を図る。 ◎●専門機関との連携で得た情報や支援方法を必要に応じて伝え、誰もが共通に支援できるようにする。
●専門機関との連携 通年	●保育観察を依頼し、集団生活での対象児の特性に応じた支援方法を具体的に検討する。 ・個別の支援計画、個別指導計画作成にあたり、対象児の実態に基づいた2年間の見通しや、支援方法への助言を受ける。 ・通所機関で、入園前の対象児の様子や集団生活への期待などを聞き、指導計画に生かす。 ●対象児及び育児に不安を感じている保護者が、園内で専門家と話したり助言を受けたりできるよう、相談体制を整えておく。	●集団生活での変容や困難さを共有し、その時期の対象児に応じた支援の方法を確認する。 ●通所機関がある場合は、必要に応じて連絡を取り、見学に行ったり保育を観察してもらったりしながら、情報を交換し、支援に生かしていく。 ●発達や行動面で配慮が必要と思われる幼児について相談し、実態把握の仕方や支援の方法、保護者との連携の回り方について助言を受ける。
対象児の保護者との連携	<入園、進級前> ・面談や体験入園等を通し、園や職員に親しみをもてるようにする。成育歴や家庭での対応、園への願いや要望等を聞き、基礎資料を作成する。 ・実際に保育環境を見てもらい、改善や工夫の必要な点、家庭での過ごし方で準備する点について共通理解し、入園、進級をめどに準備を進める。 <入園、進級後> ・園生活の様子を具体的に知らせ、安心感につなげる。家庭での様子を聞き、環境の変化による変容等を保護者と確かめ、支援に反映させる。 ・基礎資料と園での様子を基に、個別の教育支援計画及び個別指導計画を作成する。 ・日々の連絡方法を確認する。（連絡ノートなど）	・対象児の園での様子を、良さを中心に伝えながら、安心感につなげる。また、状況や必要に応じて、困難に感じている場面や課題を共有する。 ・家庭での様子を聞き、保護者の気持ちを受け止めたり、園での対応に生かしたりする。

4 歳児Ⅲ期（9 月中旬～10 月） 友達との関わりを楽しみながら、自分の動きや思いを出して遊ぶようになる時期	4 歳児Ⅳ期（11 月～12 月） 遊びや生活の中で、クラスの友達とみんなで活動する楽しさを味わう時期	4 歳児Ⅴ期（1 月～3 月） クラスの友達といろいろな活動をする中で、クラスのつながりを感じて遊びや生活を進める時期
・遊びの中で思いや考えを出し合いながら、友達との関わりを楽しむ。 ・友達との遊びの中で、思うようにならないことを経験し、相手にも思いや考えがあることに気付く。 ・皆の中で、伸び伸びと自分を出して遊ぶ。 ・クラスの皆と一緒にルールのある遊びをして遊ぶ楽しさを味わう。 ・年長児と一緒に行事に参加して、親しみや憧れを感じる。	・友達と一緒に遊びの場をつくり、イメージを出し合いながら遊ぶ。 ・友達の動きに関心をもち、その動きに合わせたり応じたりして動く楽しさを感じる。 ・友達との遊びの中で自分の思ったことを言葉や動きに表し、それを相手に受け止めてもらえた喜びを感じる。 ・保育者の言うことを受け止めて、行動しようとする。 ・友達と生活する中で決まりの大切さを感じ、自分なりに守ろうとする。	・友達の前で自分の思ったことを表現し、受け止めてもらえるうれしさを感じる。 ・行事やクラスの活動の中で力を発揮したことを認められ、満足感や自信をもつ。 ・友達と一緒に遊びや仕事を楽しみながら、やり遂げようとする。 ・クラスの皆と一緒に活動する中で、満足感やクラスとしてのつながりを感じる。 ・簡単なルールをつくったり、ルールを守ったりして、友達と一緒に遊びを楽しむ。
・友達と一緒に楽しんでいる姿に共感し、気持ちを保育者が代弁したり関わり方のモデルを示したりする。 ・全体で行うルールのある遊びは、発達や実態を踏まえ全体が理解しやすいものを設定する。また、対象児の実態に応じて参加の仕方に配慮し、部分的でも一緒に取り組めるようにする。 ・クラスの皆と一緒に体を動かす心地よさを感じられるようにする。 ・クラスの幼児の対象児との関わり方や感じ方について実態を把握し、対象児を含め、幼児同士の関わりの中で育てたいこと、クラスとして育てたいことを明確にして援助する。	・遊びや生活の中で起きる対象児への疑問や感情は、ありのままに保育者が受け止める。同時に、対象児の気持ちや行動を細やかに周囲の幼児に伝え、保育者が対象児も周囲の幼児もクラスの一員として大切に思っていることを感じ取れるようにする。 ・保育者が対象児の言動を肯定的に受け止め、意識的に周囲の幼児に知らせる。 ・生活グループなどを編成する際には、対象児との関係性を踏まえ、互いに心地よく過ごせるように配慮する。	・発表会などは、対象児の興味・関心や、参加しやすさを考慮して構成し、クラスの誰もがその子らしさを出して取り組めるようにする。 ・対象児が参加できない場面があるときには、対象児なりの取り組みの経過や頑張っていることを周囲の幼児に伝え、気持ちがつながるように配慮する。 ・対象児の好きなことに周囲の幼児が参加する機会をつくり、簡単な役割をもって一緒に楽しむことを通して、対象児への理解を広げられるようにする。 ・遊びや生活の中で、対象児がルールに沿って動けなかったり、参加できなかったりするときには参加できる方法を周囲の幼児と一緒に考えていく機会を設ける。
◎好きな遊びの中で歩いたり走ったりする機会を多くもち、体を動かす楽しさを感じられるようにする。 ◎園やクラス全体で取り組む活動が多くなってくるので、気分転換できる時間や場所を用意する。 ○運動会で使用する曲は、あらかじめ保育室で流したり、好きな遊びでも開けるようにしたりして、対象児が慣れるようにする。 <支援者との連携> ◎運動会などの行事では、対象児にとって必要な経験を明確にし、練習や当日の参加の仕方への配慮などを共通にして進める。 ○3 歳時よりも、「できた」と感じられるように競技内容や参加方法を配慮していく。 ○園やクラスで取り組む活動では、皆と一緒に行う回数の調整や待ち時間を工夫し、対象児にとって必要な経験ができるようにする。	◎友達のしている遊び（楽器遊び、踊りなど）に視線を向けているときに、「楽しいね」「〇ちゃんが踊っているね」など言葉を添えていく。音楽に合わせて保育者も同じように行動しながら、表情や言葉で楽しさを伝えていく。 <支援者との連携> ◎できるだけ幼児同士の関わりを経験できるように、対象児との距離や支援の仕方に配慮する。 ◎クラスの活動や集会では、事前に対象児と一緒に場を見たり、内容を伝えたりして安心できるようにする。また、幼児同士の関わりにより不安定になったときは、落ち着いて過ごせる場所や時間を確保し、気持ちの切り替えができるようにする。	◎写真カードを使って、自分の行きたい場所を指差したり、ハンドサインを用いて意思を示したりする機会を大切に作る。 ◎独特の言い回しや表現が見られた場合は、分かりやすい表現で代弁し、言葉を獲得するきっかけにするとともに、他児に思いや状況が伝わるようにする。 ◎取り組み始めた遊びを基盤にしながら、遊びの中で、様々な道具や道具に触れたり、いろいろなイメージの世界を楽しんだりして、経験を広げていけるようにする。 <支援者との連携> ○表現活動では、特性を生かせるように参加の仕方を工夫する。また、安心できる幼児と手をつないだり一緒に声を出したりして、一緒に参加して楽しめたことを十分に認めていく。 ◎課題活動が増えてくるため、全体活動への参加の実態を把握し、個別にやり方を伝えたり共に動いたりしながら、無理なく参加できることから進める。
・運動会など行事への参加の仕方について、対象児の様子及び園や保護者の意向を伝え、特性に応じた支援方法について助言を受ける。 ・集団の中で周囲の幼児が感じていることを受け止め、対象児の特性や良さを活かした指導方法について助言を受ける。	・対象児の変容や課題を共有し、進級を視野に入れた見通しがもてるように助言を受ける。 ・全体的に気の合う友達との仲が深まる時期である。保育観察を通じて、対象児のペースを優先するのか、友達や集団へのつながりを重視するのかなど、支援に向けた具体的な助言を受ける。	・表現活動や儀式的な行事への、対象児の特性に応じた支援方法や、参加の仕方などに対する助言を受ける。 ・進級時の環境や支援方法など、配慮することや引継ぎ事項などを協議し、明確にする。 ・対象児や周囲の幼児への1 年間の支援や変容を振り返り、就学までに予想されることや必要なことを協議し、見通しをもって次年度を迎えられるようにする。
・対象児の園での様子を伝えながら、行事に向けての取り組みや当日の参加の仕方や援助の方法を話し合いながら進めていく。対象児なりの取り組みを十分に認め、共に喜べるようにする。	・クラスの幼児が対象児に関心をもちながら関わる姿が多くなるため、他児からの関わりをどのように感じているか、家庭での様子を聞きながら、園での支援を考えていく。 ・面談などの機会を通して、成長や支援方法、課題などを確認する。3 学期の見通しを伝え、保護者の希望や不安を聞くなど、進級を視野に入れた話し合いをする。	・クラス全体での活動や課題活動が多くなる。保護者の願いを受け止めるとともに、対象児に経験させたいこと、今大切にしたい姿を伝え、共通理解のもとに行事などに取り組んでいく。 ・進級後の生活する環境と一緒に見る機会をつくり、保護者の願いや不安、要望などを聞き、改善の必要なことや今後の手だてについて話し合う。

視点	5歳児Ⅰ期（4月～5月） 新しい環境の中で、自分たちなりに遊びや生活を進めていこうとする時期	5歳児Ⅱ期（6月～9月上旬） 友達とのつながりを深め、思いを伝えながら遊びを進める時期	5歳児Ⅲ期（9月中旬～10月） 皆で行う活動を楽しむ中で、友達のよさに気づき、様々な友達への親しみを広げる時期
人との関わり の姿の把握	・年長になったことを喜び合い、友達と一緒に遊ぶ楽しさや友達とのつながりを感じる。 ・友達の考えを聞いたり、自分の考えや発見などを話したりして、伝えるうれしさを感じる。 ・うまくいかないことを通して、友達の考えや提案に気づき、受け止めようとする。 ・友達と一緒に最後まで活動する喜びを味わう。 ・新しい生活の中での決まりの必要性を感じ、保育者や友達と一緒につくる。	・友達と遊びを進める中で、イメージが共通になっていく楽しさを感じる。 ・相手に話を聞いてもらい、思いが受け止められたうれしさを感じる。 ・友達に共感したり、自分の気持ちを伝えたりする。 ・自分とは違う友達の思いや考えを受け入れようとする。 ・園生活の決まりやしてはいけないことの意味や大切さが分かり、自分たちで知らせ合ったり確認したりして守ろうとする。	・友達と話し合いながら、自分たちで遊びを進めていく。 ・自分の力を発揮し、友達のよさに気付いたり認めたりしながら遊ぶ。 ・自分の行動の結果を、自分なりに考える。 ・クラスや同年齢の友達、保育者と一緒に、目的に向かって役割を感じながら活動を進め、気持ちを合わせる心地よさややり遂げた満足感を味わう。 ・自分の考えと相手の考えの違いに気づき、受け入れようとする。 ・身近な人（高齢者、年下の子供、地域の人など）との関わりを通して、相手を思う気持ちをもつ。
対象児が在籍する 集団への援助	・進級に伴い、担任の交代や環境の変化等により対象児が不安定になりやすい。対象児・クラスの幼児共に、安定して生活できるようにする。 ・対象児に関心を持ち、そばにいたり関わったりする幼児の言動を共感的に受け止め、周囲の幼児に伝えることで、対象児への関心を広げる。 ・4月からの新入児や、今まで対象児との関わりが多くなかった幼児に対して、対象児の好きなこと、苦手なこと、頑張っていることなどを、きっかけを見つけてさりげなく伝える。 ・周囲の幼児が対象児に対して、自分の思いを伝えたり必要なときには注意したりできるようにする。また、互いの行動や気持ちの仲介をする。	・当番活動など、グループの友達と一緒に取り組む活動の中で、対象児が同じ場にいたり部分的に参加したりできるように方向付ける。少しでもできたことを保育者も喜び、周囲の幼児も一緒にできたことをうれしく思えるようにする。 ・対象児とのトラブルの場面では、必要に応じて保育者が間に入り、周囲の幼児にとって負担になり過ぎないようにする。また、保育者が対象児の思いをきちんと受け止めて対応するモデルになり、周囲の幼児が対象児を誤解したまま終わらないようにする。	・対象児が得意なことや好きなことを活動内容に取り入れ、対象児の意欲が高まるようにする。また、周囲の幼児が対象児の様子に気付けるように保育者が言葉掛ける。 ・対象児の苦手なことは、頑張っていることとしてさりげなく伝え、どの幼児にとっても結果だけではなく、取り組み過程を大事にすることを価値付けていく。また、誰もが困ったときには助けてもらえることの大切さを、意識付ける。 ・運動的な遊びなど、結果が見えやすい活動が多くなることでの葛藤が予想される。幼児が本音で話し合える雰囲気や機会をつくる。話し合いの過程で、対象児なりの取組を認められるよう方向付け、うまくいく方法を皆で考えて実行するなど、一緒に乗り越えていく体験にする。
◎対象児への支援者共通例 ○・支援者との連携 ☆支援者 ●通年	○毎朝玄関で迎えて一緒に保育室へ行き、身支度などが安定して行えるようにする。 ◎写真や絵を用いて、1日の流れや活動を早めに知らせ、見通しをもてるようにする。 ◎対象児のしたいことを一緒にいながら、新しい環境で安心できる遊びや場を把握し、安心して生活できるようにする。 ◎一斉活動での経験（遊び、素材など）を、好きな遊びの中に取り入れることで、対象児の関わることを探るとともに、周囲の幼児と関わるきっかけにする。 ＜支援者との連携＞ ◎対象児の生活が安定するために、支援者や園内の職員にも対象児に関わってもらい、連絡を密にして進級後の実態を共有する。 ◎前年度の指導の経過を、資料などをもとに確認し、進級時の支援方法を共有する。 ◎●専門機関との連携で得た情報や支援方法を必要に応じて伝え、共通に支援できるようにする。 ◎●感じたことや気付いたことを率直に伝え合い、支援方法を調整しながら進める。	◎場所の写真カードや活動の絵カードをより活用し、対象児が自分の意思を表し、周囲に伝わる機会を増やしていく。 ◎対象児が選択したり自分なりに工夫したりして表現できるよう、様々な遊びや素材などに触れられるようにする。また、対象児の考えが周囲の幼児に伝わったり、遊びの刺激になったりするように働き掛ける。 ◎全体活動への参加が難しい場合は、クールダウンの場所を決めておく。その中から行きたい場所を自分で選択する機会を大切に、対象児が意思を表すきっかけをつくる。 ◎友達との関わりの中で、受け応えの仕方を具体的な言葉にして知らせる。 ＜支援者との連携＞ ◎小グループでの課題活動が多くなってくる。話し合いの場面、活動場面それぞれでの対象児の参加の状況を細かく観察し、今経験させること、少しずつ慣れるようにすることなどを明確にする。また、活動に参加しやすくする方法を工夫する。	◎学年の取組の中で対象児が参加できることは、できるだけ周囲の幼児との関わりで行動できるようにする。周囲の幼児に声掛けや手をつなぐタイミングなどを知らせ、繰り返し取り組み、できた喜びと一緒に感じられるようにする。 ☆行事に向かう中で、対象児の参加しやすい状況では、できるだけ見守る役割をとり、全体への指示や行動に対する対象児の実態を把握する。 ◎係活動は、対象児の特性を生かした内容にし、対象児の行動や気持ちを支え、意欲をもって取り組めるようにする。また、同じ係の幼児が対象児の取組に気付いて認められるように、周囲の幼児との関わりを促していく。 ＜支援者との連携＞ ◎難しい活動は内容を細分化し、そばについて少しずつできるように支援し、できた喜びに共感する。
●専門機関との連携 ●通年	●保育観察を依頼し、対象児の特性に応じた5歳児の集団での支援方法を検討する。 ●個別指導計画作成にあたり、対象児の実態に基づき、就学を視野に入れた1年間の見通しや、支援方法への助言を受ける。 ・通所機関から就学への見解などを聞き、指導計画に生かす。 ●対象児の保護者及び育児に不安を感じている保護者が、園内で専門家と相談できるよう、体制を整えておく。	●通所機関がある場合は、必要に応じて連絡を取り、見学に行ったり保育を観察してもらったりしながら、情報を交換し、支援に生かす。 ・就学を視野に入れて、発達のバランスや集団生活の中で特に気を付けて把握しておくこと及び支援方法などについて助言を受ける。 ・配慮が必要と思われる幼児について、現在の状態や年長の1年間で特に配慮することや、具体的な支援方法、保護者との連携の図り方などについて助言を受ける。	・運動会などの行事への参加の仕方について、園や保護者の意向を伝え、対象児の特性に応じた支援方法について助言を受ける。 ・対象児の就学に向けて、就学までの手続きや相談機関などに関する情報提供を依頼する。就学に向けた保護者との連携のポイントについて助言を受ける。
対象児の保護者との連携	＜進級前＞ ・前年度に作成した個別的教育支援計画、個別指導計画を基に、対象児の成長や課題、願いなどについて共通理解を図り、手直し及び今年度の支援の見通しを共有する。 ・進級後の環境を見てもらい、改善や工夫の必要な点について進級をめどに準備する。 ＜進級後＞ ・連絡を密にして担任の変更など保護者の不安を受け止め、関係づくりをする。環境の変化による変容等、家庭での様子を聞くとともに、この1年の期待や願いを共有し、具体的な支援や個別指導計画等に反映する。	・対象児の園での様子を、小さな変容を共に喜ぶ姿勢で伝える。5歳児として課題活動が増えていく中で予想される困難と、それに応じた支援方法について伝え、保護者が見通しや安心感をもてるようにする。 ・家庭での様子や保護者の願いなどを聞き、具体的な支援方法について、保護者の考えも生かしながら検討する。	・5歳児にとっての行事のもつ意味や取り組み方を知らせ、その中で対象児にとって何を大切にしていけるかを話し合い、共通理解を図る。前年度までの経験を生かし、当日の参加の仕方についても共に考えていく。 ・練習の様子などを参観してもらい、具体的な場面を題材に話し合い、理解を図る。対象児なりの方法で頑張っており、理解を十分に認め、共に喜べるようにする。 ・就学に向けての保護者の考えや願いを聞き、具体的な就学先の決定や手続きなどについて話し合い、共有する。

5歳児Ⅳ期（11月～12月） 共通の目的に向かって、工夫や協力、分担などをしながら取り組み、達成感を味わう時期	5歳児Ⅴ期（1月～3月） 自分たちで遊びや生活を進める中で、互いの良さを生かし合い、充実感を味わう時期	小学校入門期（第1学年4月～7月） 小学校生活に期待をもち、新しい環境の中で安心して楽しく生活する時期
・友達と考えを出し合って工夫することで、遊びがより面白くなることを十分に味わう。 ・グループの友達と共通の目的に向けて遊ぶ中で、一緒に進めていく楽しさや、やり遂げた満足感を味わう。 ・自分の考えと相手の考えの違いに気づき、折り合いを付けて進めようとする。 ・友達の良さに気付いたり認めたりしながら、遊びを楽しむ。 ・相手の立場に立って、考えたり行動したりしようとする。	・クラスや学年の友達と皆でする楽しさが分かり、友達との連帯感を感じながら、自分の力を発揮する。 ・自分たちで遊びや生活を進める充実感を味わう。 ・自分の感じたことや考えたことを友達に分かるように伝え、友達の話聞いて受け止める。 ・友達の得意な面や良さに気づき、生かし合って遊ぼうとする。 ・自分のことを認めてもらい経験を通して、自信をもって行動する。	・新しい環境に慣れ、安心して生活や遊びを楽しむ。 ・新しいクラスの友達に関心をもち、友達ができることの喜びを感じる。 ・気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。 ・世話をしてくれる上の学年の児童に対して、親しみの気持ちをもって接する中で、一年生としての自覚をもつ。 ・一年生になったことの喜びを感じ、皆で過ごすために必要な約束（チャイム、自分の席につく など）を知る。 ・約束や決まりを守り、皆で使う物や場所、施設を大切に使う。
・関わりながら対象児を理解し気持ちを寄せていけるように、どの幼児にも対象児と関わる機会をつくる。 ・対象児に関わる一人一人の行動を具体的に認めて周囲に知らせ、どんなときにどのように接していくとよいかが分かるようにする。 ・様々な場面で、対象児を含めて手助けしたり教えたりし合う機会を大切に。そのことで相手が喜んだり、できたりしたことを共に喜ぶ気持ちを大切に。困ったときには、誰もが助けてもらうことができる関係を価値付ける。 ・対象児のペースでできることもあるので、友達にとって本当に必要な手助けかどうかを共に考えるなど、双方にとっての視点を幼児なりにもてるようにする。	・互いの良さを感じて言葉にしたり、助け合おうとしたりする姿や、対象児を理解し関わっている幼児の姿を十分に認めて、価値付ける。全体にも知らせ、周囲の幼児が自分も同じようにしてみようと思えるようにする。 ・発表会や修了式など、締めくくりに課題活動がある。これまで経験してきたことや対象児の得意なことや生かして、一人一人の持ち味や力を十分に発揮できるようにする。 ・対象児の参加の仕方については、本人の思いと周囲の幼児の考えを生かしながら、皆で取り組んだ達成感をもてるようにする。	・入学に伴い環境の変化が大きく、対象児が不安定になりやすい。対象児・クラスの児童共に、安定して生活できるようにし、対象児の気持ちをクラス全体で受け止める機会をもつ。 ・トラブルの場面では、教師が早めに間に入り、対象児の思いをきちんと受け止めるモデルになる。また、周囲の児童に対して、対象児の思いを伝えることで、対象児が誤解されたまま終わらないようにする。 ・縦割り活動などで関わる他学年の児童に対して、対象児の特性に応じた接し方を伝える。他学年の児童の接し方を1年生がモデルにできるように働き掛ける。
◎協同的な活動では、対象児が好みそうな内容のグループに所属できるようにし、対象児の様子や気持ちを周囲に伝える。 ◎グループの幼児と作ったものに興味をもてるようにし、遊びの経験を広げる。また、係の幼児からの関わり（声掛け、ハンドサインなど）で、その場に応じた行動を取る経験にする。 ◎幼児同士の会話や行動の中で、対象児にとって分かりにくいことを把握し、個別に知らせたり、皆が分かりやすくなるよう視覚化したりする。 ◎周囲の幼児が対象児の特性を生かせる役割に気付くように方向付け、対象児を仲間として受け止める言動を十分に認める。 <支援者との連携> ◎グループ活動の中で、周囲の幼児の対象児との関わり方や受け止め方を把握し、仲介や支援の方法を考える。	◎クラスでの活動の際に、対象児が担任に注目できるように個別に促したり、指示を端的に示したりする。対象児が担任からの指示や周囲の行動を感じ取ることをきっかけにして、行動できるようにする。 ◎あらかじめ対象児の得意なことを生かせるよう見通しをもった上で、周囲の幼児の発想を取り入れ、一緒に考えてグループ活動を実現していく。 ◎話し合い活動では、対象児の考えを周囲に伝え（対象児が自分で言えるような支援、保育者が代弁する支援など）、仲間の一員としての意識を相互にもてるようにする。 <支援者との連携> ◎大きな行事で対象児のもつ良さや力が発揮されるように、参加の仕方に配慮する。活動の経過の中で、対象児の様子に応じて支援方法や参加の仕方などを調整していく。	◎できるだけ多くのコミュニケーションをとり、対象児との信頼関係を築く。 ◎対象児の特性と友達との関係性に応じた座席に配慮する。 ◎教室で迎え、朝の身支度がスムーズに行えるようにする。 ◎1日の活動の流れをあらかじめ伝え、安心して生活できるようにする。 ◎スムーズに学習に取り組むことができるように、1時間の学習内容を最初に知らせておく。 <支援者との連携> ◎5歳時の生活や指導の経過についての資料などをともに、支援方法を共有する。 ◎対象児の実態を把握し、校内委員会を通じて支援者や職員と支援方法を共通にするとともに、密に連絡を取り合い、より適切な支援方法を見出していく。
・通所機関と就学に関する情報や見通しを伝え合い、共有する。 ・特別な支援の有無にかかわらず、希望する保護者と専門家とのグループ相談を設定し、就学に際しての保護者の不安や、専門家の立場からの就学前に大切にすることなどを話し合えるようにする。 ・対象児の就学先と話し合う機会をもつ。	・表現活動や儀式的な行事の際に、対象児の特性に応じた支援方法や、参加の仕方などに対する助言を受ける。 ・就学支援シート（就学先との連携のための書類）に関して協議し、作成する。	・就学前教育施設や療育施設から、対象児についての情報を得て、指導計画に生かす。 ・巡回指導では、担当の職員から対象児の様子について話を聞き、指導に生かしていく。 ・特別支援学校の教員やカウンセラーとの連携を密に図り、実態を共有するとともに、特性に応じた支援方法を具体的に協議する。
・対象児が成長するとともに、保護者の願いや要望が急に強くなってくることがある。思いは十分に受け止めながら、園での姿や見通しを伝え、対象児にとって大切なことを話し合い、共通理解を図る。	・対象児の成長を共に喜び、これまでの保護者の努力や苦労に対し、敬意やねぎらいを伝えていく。保育者や周囲の幼児が対象児と共に学んだこと、うれしかったことなどを具体的に伝え、対象児の存在の大切さを共感する。 ・就学支援シートを、話し合いながら作成する。 ・就学先の特別支援教育コーディネーターなど、相談できる人を具体的に知らせ、安心感をもてるようにする。	<春季休業中> ・入学前に保護者と面談を行い、入学式の座席や動きの確認を対象児と共にやる。 <入学後> ・できるだけ早い段階で連絡を取り、保護者の不安を受け止める。家庭での様子や聞き、児童の実態について保護者と共有し、具体的な支援を個別指導計画に反映させる。

3 保護者に対する子育ての支援

「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」第2条第7項において、「『幼保連携型認定こども園』は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとしての満3歳以上の子どもに対する教育並びに保育を必要とする子どもに対する保育を一体的に行い、これらの子どもの健やかな成長が図られるよう適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育ての支援を行うことを目的として、この法律の定めるところにより設置される施設をいう。」と示されています。このように、保護者に対する子育ての支援は幼保連携型認定こども園の重要な役割の一つです。また、保護者に対する子育ての支援は、保護者と子供の安定した関係や保護者の養育力の向上に寄与するために行われるものであり、子供の成長に大きく影響を与えることから、幼保連携型認定こども園のみならず、全ての就学前教育施設において、重要な役割と言えます。

ここでは、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に従い、「（１）幼保連携型認定こども園の園児の保護者に対する子育ての支援」の8項目、「（２）地域における子育て家庭の保護者等に対する支援」の2項目について、支援例を示します。いずれも、幼保連携型認定こども園のみならず、全ての就学前教育施設において考え得る支援例です。資料の見方については、179 ページのとおりです。

- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に従った、合計10の項目名です。

- ・ この支援例の発端となるエピソードを、簡潔に記載しています。

(2) 地域における子育て家庭の保護者等に対する支援例

① 子育て支援事業

未就園親子対象の「子育てひろば」において、保護者を支援する。

Eこども園では、未就園親子対象の「子育てひろば」を、月に2回開催している。この日は、ホームページやポスターで情報を得た10組ほどの親子が参加していた。参加した親子は、設定された環境で思い思いに遊んでいた。保護者同士で、子育てに関する情報交換をする姿も見られた。

そのような中、一人の保護者から「うちの子供は1歳6か月です。食事の時、あまり噛まずに飲み込んでしまうのですが、食べさせ方で何か工夫できることはありますか」という相談を受けた。



保育者の働き掛け

- 1歳児クラスに案内し、実際に、食べている様子を見てもらった。
- 事前に予約をすれば、給食体験ができることを知らせた。

その後・・・

保護者は、実際に同年齢の子供の姿や、保育者の見守り方、援助の仕方を見ることができ、ヒントを得られたようだった。「とても参考になりました。給食体験を楽しみにしています」と言い、ほっとした表情で帰っていった。

後日、給食体験の日となった。子供が食べている様子を見ると、少し大きい具材や固い物は口から出してしまう姿が見られた。保護者に聞いてみたところ、家庭では比較的柔らかいものを食べさせていたと話した。

園所属の栄養士から、「発達に合った大きさや固さの食材にすること」「保護者が食べる姿を見せることで、子供も真似をして口を動かすようになること」「食べさせるときは舌の奥の方に食べ物を置くのではなく、前の方に置いてあげること」など具体的にアドバイスをすると、保護者は「家でも試してみます」と言い、安心した様子だった。

ここがポイント！

地域における子育て支援は、園がもつ地域性、園自体の特徴、園の職員の専門性などを十分考慮して、当該地域において必要と認められるものを適切に実施することが重要である。

また、園の職員が子育て支援の重要性を認識し、様々な思いに対し、親しみをもって応じ、きめ細かな心配りを行うことが求められる。

さらには、園が、気軽に訪れ、相談することができる心強い身近な施設になることは、子育てを行う上での保護者の安心感にもつながる。育児不安を和らげ、虐待を防止する等の役割が園にあることを自覚し、地域の子育て家庭の保護者を受け入れていくことが必要である。

- ・ 保育者が、具体的にどのような働き掛けを行ったのかを記載しています。

- ・ 働き掛けを行った後の様子を記載しています。

- ・ この支援例のポイントに記載しています。

(1) 幼保連携型認定こども園の園児の保護者に対する子育ての支援例

① 様々な機会の活用

子供の成長や生活の様子の伝え方を工夫する。

4歳児2月の保護者会にて、保育者は保護者に「5歳児クラスになったら、連絡事項の伝達方法を連絡ノートから掲示板に変更する」と伝えた。

5歳児クラスになり2か月経った頃、ある保護者から「連絡ノートがなくなって、我が子がどういう生活をしているか分からなくなった」という訴えがあった。



保育者の働き掛け（その1）

○ 伝達方法を変更した「理由」を明確に伝えた。

- ・ 体力がつき、体調面の変化等の細かな連絡の必要性が低くなってきたため。
- ・ 就学に向けて、子供自身が保護者へ連絡事項を口頭で伝える力を伸ばしていくため。

その後・・・

保育者は、登降園時に保護者に対して、園での子供の様子を具体的に伝えていった。しかし、保護者はなかなか受け入れることができないようで、「連絡ノートを復活してほしい」と訴え続けた。

一方、子供たちには、毎日、保護者への伝達事項を1点に絞って知らせ、自分で伝えるよう働き掛けていった。子供たちは、少しずつ、保護者に伝えることが上手になっていった。



保育者の働き掛け（その2）

○ 毎日、その日の園での様子を、写真を交えて分かりやすく掲示し、子供の姿を発信し続けた。

その後・・・

毎日、掲示板に一日の活動内容を写真付きで掲示して紹介したり、子供ができるようになったことや頑張っていることを定期発行のクラス便りで発信したりしていった。保護者にも、子供の園での生活が見えるようになり、連絡ノートについての訴えはなくなった。

保護者には、徐々に掲示を見る習慣が付いていった。また、登降園時に子供の様子を一言でも伝える小さな積み重ねが、保護者との信頼関係を築くことにつながっていった。

連絡ノートを使用していた時よりも保育者と保護者が話すことが増え、不安なことがある時は保護者から相談してくるようになった。

ここがポイント！

子供の様子や教育及び保育の内容などを保護者に知らせることは、保護者への子育て支援と深くつながっている。その方法については、園児の登降園時、連絡帳、園内の掲示、通信（手紙）など、様々な機会を活用するという視点を持ち、工夫することが重要である。

なお、保育者の意図することが確実に保護者に伝わっているかを確認することも重要である。

② 保護者との相互理解

保護者のニーズを把握した上で、保育方針を伝え、相互理解につなげる。

2歳児5月、進級当初は自分のことで精一杯だった保護者も、少し余裕が出てきて周りが見えるようになってきた。それに伴い、我が子を他児と比較し、どこか不安な様子を見せる保護者も見られるようになった。

このタイミングで、年間予定にあった保護者会を迎えることとなった。



保育者の働き掛け（その1）

- 保護者会で話題にしたいことについて、事前にアンケートをとり、保護者のニーズを把握した。

その後・・・

アンケートの結果、ほとんどの保護者が、トイレトレーニングについて不安に感じていることが分かった。



保育者の働き掛け（その2）

- 保護者会において、保護者同士の懇談の場を設け、トイレトレーニングをテーマに情報交換ができるようにした。

その後・・・

保護者会の懇談では、トイレトレーニングについての情報交換が活発に行われた。多くの保護者は、「他の家庭も同じことで悩んでいる」と実感し、安心した様子だった。

また、この懇談は、日頃、送迎の時間帯が合わず、なかなか話をする機会がない保護者同士が、横のつながりを築くきっかけとなった。保護者会后、保護者同士で連絡を取り合う様子が見られるようになった。



保育者の働き掛け（その3）

- 懇談の内容を踏まえ、子供の発達の道筋や1年間の保育方針などについて、写真や動画を交えて分かりやすく説明した。

その後・・・

保育者からの説明が保護者同士の懇談を踏まえた内容だったこともあり、今後の保育方針などについて十分な理解が得られたようだった。保護者は、安心した表情で保護者会を後にした。

ここがポイント！

子供の生活は、家庭から園へ、園から家庭へと連続しており、保護者と保育者の相互理解は、教育及び保育による子供の発達にとって欠かせないものである。

子供に関する情報交換をきめ細かく行うこと、子供への愛情や成長を喜ぶ気持ちを伝え合うこと、保護者の置かれている状況やその思いを受け止め理解を示すことなどが重要である。

③ 教育及び保育の活動に対する保護者の積極的な参加

保育参加（保育者体験）により子供理解を図り、保護者が子育てに自信をもてるようにする。

3歳児5月、乳児クラスから幼児クラスとなってから1か月が経った頃、複数の保護者から「うちの子、友達と仲良くやっていますか」「ちゃんと遊んでいますか」など、我が子の園での様子を心配する声が聞かれるようになった。



保育者の働き掛け（その1）

- 保護者に「保育者」として保育に参加してもらう機会を設けた。
 - ・ 保育者の子供とのかかわり方や、子供への言葉掛けを子育ての参考にもらった。
 - ・ 我が子だけでなく、「クラス全体のお手伝い」として参加してもらい、多くの子供とかかわることで、子供への理解の幅を広げる機会とした。

その後・・・

「子供とのかかわりに自信がない」「言葉掛けのタイミングが分からない」「泣かれるとうしろがいいか分からない」と話していた保護者は、「子供とかかわる前に一呼吸置くことで、上手にやりとりができることが分かった」と嬉しそうに話した。

また、その他の保護者からも、「保育参加を経験し、考えるより先に遊んだ方が、子供のことが分かったと実感できた」「保育者の援助を、家庭でのかかわり方の参考にしたい」といった感想が寄せられた。



保育者の働き掛け（その2）

- 子供が午睡している間に個人面談を行った。保育参加を踏まえて、子供の成長を共に喜び合ったり、子育てについて考えたりする機会とした。

その後・・・

個人面談のときに、保護者から、「家では見られない姿を見ることができた」「多くの子供とかかわることが、客観的に我が子を見るきっかけになった」とのコメントがあった。

これ以降、保育参加当日の子供の姿をもとに、保護者と保育者の間で子供の成長を喜び合う場面が増えた。保護者が子育てに対して、自信を深めている様子が伺えた。

ここがポイント！

教育及び保育の活動に保護者が参加することは、子供の遊びの世界や言動の意味や、友達と関わる過程にはいざこざや気持ちの折り合いがあること、保育者が子供の心の揺れに応じてきめ細やかにかかわっていることなどについて保護者が理解することにつながる。

さらには、保護者が自らの子育てを実践する力の向上に結び付けるとともに、地域社会において子育ての経験を継承していくことが大切である。

④ 保護者の仕事と子育ての両立等の支援

保護者の状況に配慮し、発熱時の対応を行う。

朝、風邪気味で受け入れた子供が、午前中の検温でやや高めの体温になっていた。食後に再度検温すると、本園で保護者に連絡する目安としている37℃となっていた。

園は、この保護者が、翌日から職場で夏季休暇を取る予定であることを把握していた。



保育者の働き掛け（その1）

- 園長の判断により、食後の検温後、保護者に第1報を入れた。子供の体温が37℃であることを伝え、即、迎えに来るか、しばらく様子を見るか、保護者に判断を委ねた。

その後・・・

保護者は、「明日から夏季休暇を取る都合上、本日はできる限り遅くまで仕事をしたい。急激に熱が高くなる子供ではないので、このまま、もうしばらく様子を見てもらいたい」と申し出た。保育者は対応について園長に相談した。

園長は保育者に対し、「①子供がどのような状態になったら迎えに来るか、保護者に確認すること、②子供の体温が38℃まで上がったら、保護者に迎えに来るよう伝えること、③子供の容態が急変した場合に、どのような対応を望むか（どの病院に搬送するか）保護者に確認すること」を指示した。



保育者の働き掛け（その2）

- 保護者に連絡し、園長に指示された3点について確認した。

その後・・・

保護者は、「子供の体温が38℃になったら迎えに行くので、連絡してほしい」「容態が急変した場合は、かかりつけのA医院にお願いしたい」と回答した。



保育者の働き掛け（その3）

- 子供の体温が38℃に達したため、保護者に連絡した。
 - ・ 容態は落ち着いているので、慌てず迎えに来るよう伝えた。
 - ・ 保護者が安心するよう、食欲はあったことや、水分補給をこまめに行っていることを伝えた。

その後・・・

保護者は、発熱に対しての心配はあるものの、園での様子を詳しく聞いたことで安心し、落ち着いた様子で迎えに来た。

ここがポイント！

保護者の仕事と子育ての両立等を支援するため、保護者の状況を配慮するとともに、常に子供の福祉の尊重を念頭に置き、園児の生活への配慮がなされるよう、家庭と密に連携・協力していく必要がある。

⑤ 地域の実態や保護者の要請により教育を行う標準的な時間の終了後等に希望する者を対象に一時預かり事業などとして行う活動

保護者に一時預かり保育の制度を知らせ、子育てを支援する。

4歳児から入園したA児。0歳の弟（家庭保育）がいるが、A児が園生活に慣れてきたため、母親は在宅の仕事を始めた。しだいに、迎えの時間に遅れる日が出始め、母親は疲れた表情で迎えに来ることが増えた。



保育者の働き掛け（その1）

- 保護者が困っていると感じたため、子育て等について、相談できるよう、臨時の個人面談の機会を設けた。

その後・・・

面談において、母親は「在宅での仕事なので、子供がいるとなかなか仕事がかどらず、園でA児をもう少し長く預かってもらえると、助かる」と話した。



保育者の働き掛け（その2）

- 一時預かり保育の制度を紹介し、その利用について提案した。

その後・・・

保護者は、週に2日間、一時預かり保育を利用することになった。迎えの時間は、保護者と保育者で話し合い、仕事時間の確保と子供の生活リズムなどを勘案し、16時となった。

しばらくして、毎日の送迎時に、保護者が保育者に、子供の家庭での様子や成長について話すようになった。また、保護者は、時間を有効に活用することで精神的にもゆとりができ、表情に余裕が見えるようになった。

ここがポイント！

一時預かり事業として行う活動については、地域の実態や保護者の事情とともに、園児の心身の負担に配慮した生活のリズムを踏まえつつ、弾力的な運用に配慮することが重要である。（実施日数や時間などについて。）

そのためには、子供の家庭での過ごし方や園での子供の状態などについて、保護者と保育者で情報交換するなど、家庭と緊密な連携を図ることで子育てにおける不安や悩みをくみとるとともに、解決の方法を提案し、保護者が自ら選択できるようにしていくことが重要である。

⑥ 障害や発達上の課題のある子供の保護者支援

保護者の理解を得て、関係諸機関と連携し、子育てを支援する。

乳児クラスの頃からこだわりの強さが目立ち、各種活動への参加や、友達とのかかわり方などにおいて困難な場面があったB児。これまでも保護者との連携を密にし、家庭と園での姿の情報共有に努め、ともに成長を喜びながら、B児がよりよい園生活を送れるよう、一緒に考えてきた。

3歳になり、幼児クラスに上がると、活動への参加や友達とのかかわりにおけるB児の課題が顕著になってきた。



保育者の働き掛け

- 地域の特別支援学校に所属する特別支援教育コーディネーター(巡回相談員)に相談し、園や家庭での支援等について助言を得ることを、保護者に提案した。

その後・・・

保護者は提案を了解し、特別支援教育コーディネーター(巡回相談員)から助言を得ることとなった。

特別支援教育コーディネーター(巡回相談員)からは、「個別の教育支援計画及び個別指導計画を作成すること」「スモールステップで少しずつ課題と向き合っていくこと」の2点について助言を得た。

この助言を保育者と保護者と共有し、最近のB児へのかかわりについての振り返りを行った。すると、両者から「幼児クラスに上がったことで、周りの幼児とB児とを比較することが増え、焦りが出ていた」ということが共通の認識として出された。

その反省をもとに、園内委員会を設置し、保護者の願いを反映させながら、B児の個別の教育支援計画を策定するとともに、支援内容を明確にして、指導目標や指導内容、指導方法を具体的に記した個別指導計画を作成した。

ここがポイント！

子供に障害や発達上の課題が見られる場合には、園内委員会を設置するなど、園の職員が組織的に対応していくことが必要である。

その上で、区市町村や関係機関と連携及び協力を図りつつ、保護者に対する十分な配慮の下で、個別の支援を行っていくことが重要である。

⑦ 保護者に対する個別の支援

初めての子育てを経験している保護者を支える。

園生活では、抵抗なく歩いているC児（2歳2ヶ月）。
C児の保護者から、「送迎時には入園以来の習慣が抜けず、歩こうとしないのだが、どうしたらよいか」と相談があった。



保育者の働き掛け（その1）

- 保育中の散歩等で、C児のペースに合わせて歩いたり、手をつないで会話をしながら歩いたりするなど、歩くことを楽しめるよう心掛けた。

その後・・・

ある日の降園時、引き渡し後の玄関で、「靴を履かない」「歩かない」と言い張って泣いているC児を見かけた。その際、「C児ちゃん、歩くの上手なんだよね」と言葉を掛けると、C児は歩き始めた。保護者は、安堵した表情を見せ、C児と手をつないで帰っていった。

翌日、保護者は保育者に、「先生、昨日はありがとうございました。あのよう、褒めてやる気にさせる方法もあるんですね。参考になりました」と言い、穏やかな表情を見せた。



保育者の働き掛け（その2）

- 他の保護者も、それぞれ悩みを抱えていることを伝えた。
- 具体的な方法を知らせた。
 - ・ 送迎時には、抱っこひもを持たない。
 - ・ C児と手をつないで歩くことが、保護者は嬉しいことを伝える。
 - ・ C児が成長しているから抱っこはできないこと、そして、それは喜ばしいことだということをC児に伝える。

その後・・・

ほどなくして、保護者から保育者に、「抱っこひもがあることが分かっている休日にも、歩くことが増えてきている」という話があった。また、保護者の表情は明るくなり、何か気になることがあると、保育者に気軽に相談するようになった。

ここがポイント！

保護者に育児不安等が見られる場合には、個々の保護者の思いや意向、要望、悩み、不安などに対して、個別の支援を行うように努めることが重要である。

⑧ 保護者に不適切な養育等が疑われる場合の支援

区市町村や関係機関と連携し、適切な対応を図る。

- ※ 保護者の不適切な養育とは、保護者の養育に、子供への不適切な関わり方が見られ、それによって子供が苦痛を感じたり、子供の心身に危険が生じることが予測されたり、現に心身に問題が生じているような状態をいう。虐待よりも広い概念で用いられ、具体的には、子供への暴言、不当な扱い、放任などが挙げられる。(参考：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説)
- ※ 児童虐待を受けたと思われる児童を発見した者は、速やかに、これを市町村、都道府県の設置する福祉事務所若しくは児童相談所又は児童委員を介して市町村、都道府県の設置する福祉事務所若しくは児童相談所に通告しなければならない。
(児童虐待の防止等に関する法律 第六条)

保育者は、D児の登園時間が段々と遅くなっていることや、登園してもD児が眠そうにしている遊びに集中できない様子、さらには、保育者が肩に触れてスキンシップを図ろうとすると、驚いて素早く自らの身を守ろうとする姿を見せることが気になっていた。
家庭での生活に、何か要因があるのでないかと感じていた。



保育者の働き掛け（その1）

- 降園時に、保護者に対して、「何か最近困っていることはないか」「何でも相談してほしい」と伝えた。

その後・・・

保護者は、「特に困っていることはない」「最近、寝るのが遅くなっていて、早く起きられない」と話して、その日は降園した。

その後もしばらく、D児が遅く登園し、眠そうにしている状況は続いた。

ある日、保育者は、D児の顔にあざができていないか気付いた。「ちょっと、ごめんなさいね」と断り、子供のシャツを上げると、背中にも数か所あざが認められた。保育者が「どうしたの」と聞いても、D児は答えなかった。保育者がこのことを園長に報告すると、園長は「降園時に保護者に心当たりがないか聞いてみましょう。その結果いかんでは、児童相談所に通告します」と話した。その日の降園時、保護者に心当たりがないか尋ねると、保護者は「分かりません」と答えるだけだった。保護者は思いつめたような表情をしていた。

園長は、児童相談所への通告が必要であると判断した。



保育者の働き掛け（その2）

- 園長は、虐待を受けたと思われる子供がいることを、園を所管する自治体の福祉担当部署及び教育委員会に通告した。

その後・・・

翌日、D児は、児童相談所に保護された。

ここがポイント！

保護者に不適切な養育が疑われる場合には、区市町村や関係機関と連携し、要保護児童対策地域協議会で検討するなど適切な対応を図ることが重要である。

また、児童虐待については、「虐待と思われる」時点での通告義務が、園や保育者に課せられており、速やかな対応が求められている。

(2) 地域における子育て家庭の保護者等に対する支援例

① 子育て支援事業

未就園親子対象の「子育てひろば」において、保護者を支援する。

Eこども園では、未就園親子対象の「子育てひろば」を、月に2回開催している。この日は、ホームページやポスターで情報を得た10組ほどの親子が参加していた。参加した親子は、設定された環境で思い思いに遊んでいた。保護者同士で、子育てに関する情報交換をする姿も見られた。

そのような中、一人の保護者から「うちの子供は1歳6か月です。食事の時、あまり噛まずに飲み込んでしまうのですが、食べさせ方で何か工夫できることはありますか」という相談を受けた。



保育者の働き掛け

- 1歳児クラスに案内し、実際に、食べている様子を見てもらった。
- 事前に予約をすれば、給食体験ができることを知らせた。

その後・・・

保護者は、実際に同年齢の子供の姿や、保育者の見守り方、援助の仕方を見ることができ、ヒントを得られたようだった。「とても参考になりました。給食体験を楽しみにしています」と言い、ほっとした表情で帰っていった。

後日、給食体験の日となった。子供が食べている様子を見ると、少し大きい具材や固い物は口から出してしまう姿が見られた。保護者に聞いてみたところ、家庭では比較的柔らかいものを食べさせていたと話した。

園所属の栄養士から、「発達に合った大きさや固さの食材にすること」「保護者が食べる姿を見せることで、子供も真似をして口を動かすようになること」「食べさせるときは舌の奥の方に食べ物を置くのではなく、前の方に置いてあげること」など具体的にアドバイスをすると、保護者は「家でも試してみます」と言い、安心した様子だった。

ここがポイント！

地域における子育て支援は、園がもつ地域性、園自体の特徴、園の職員の専門性などを十分考慮して、当該地域において必要と認められるものを適切に実施することが重要である。

また、園の職員が子育て支援の重要性を認識し、様々な思いに対し、親しみをもって応じ、きめ細かな心配りを行うことが求められる。

さらには、園が、気軽に訪れ、相談することができる心強い身近な施設になることは、子育てを行う上での保護者の安心感にもつながる。育児不安を和らげ、虐待を防止する等の役割が園にあることを自覚し、地域の子育て家庭の保護者を受け入れていくことが必要である。

② 地域における関係機関等との連携

中学生の職場体験をととして、地域の子供の健全育成に貢献する。

Fこども園では、地域の中学校の職場体験で、3名の生徒を受け入れることとなった。昨年度より充実したものとするため、中学校の担当教員と事前の打合せを綿密に行った。その中で、次の情報が得られた。

- 3名のうち、2名（生徒G、生徒H）は将来、保育関係の仕事に就くことを希望している。今回の職場体験では、保育関係の仕事の素晴らしさを感じるとともに、厳しさや責任についても認識することを「ねらい」とした。
- 1名（生徒J）は、保育関係の仕事に就くことを希望しているわけではないが、弟や妹がいることもあり、「子供が好きだから」という理由で職場体験先を選択した。また、この生徒Jは、学業、部活動のほか、学校生活全般において意欲的な姿がほとんど見られず、個人面談では「自分に自信がもてない」「自分は何をやってもだめだ」という発言をしている。今回の職場体験では、この生徒Jが充実感を得るとともに、自尊感情を高めることを「ねらい」とした。



保育者の働き掛け

- 生徒G、生徒Hに対しては、毎日の振り返りの場で、「うまくいったこと」「うまくいかなかったこと」を挙げさせるとともに、その要因を深く考えさせた。
- 生徒Jに対しては、子供と積極的にかかわれるよう援助し、「子供が生徒Jとのかかわりを喜んでいること」を実感できるようにした。

その後・・・

生徒G、生徒Hは、毎日の振り返りの場で、うまくいったことも、うまくいかなかったことも、その要因が分からず、苦心していた。保育者は、意図的・計画的に保育をすることが重要であり、そのことにより、評価もできることを説いた。2歳児クラスに入った生徒G、生徒Hは、保育の奥深さを実感していた。

生徒Jは、最初こそ恥ずかしがっていたが、保育者のサポートを得て、少しずつ子供とかわるようになっていった。生徒J自身にも笑顔が出てきて、最終日の感想では、「子供たちが『一緒に遊んでくれてありがとう。楽しかった』と言ってくれたことが嬉しかった」と話した。保育者が、生徒Jの一生懸命さが子供たちに伝わったからこそその姿であることを話すと、生徒Jは嬉しそうにしていた。

後日、保育者が中学校の担当教員と振り返りを行ったところ、生徒G、生徒Hはさらに保育者になる気持ちを高め、生徒Jについては、自分から「先生、5歳の子供たちが『ありがとう。楽しかった』って言ってくれたんだよ。自分も嬉しかったよ」と興奮気味に話してきたとのことであった。生徒Jのそのような姿は、学校で初めて見たとのことであった。

ここがポイント！

子育ての支援は、地域の子供の健全育成のためにも有効である。また、次世代育成支援の観点から、中学校や高等学校が実施する乳幼児との触れ合いや交流に協力するなど、就学前教育施設が将来に向けて地域の子育て力の向上につながるような支援をしていくことも重要である。

就学前教育カリキュラム開発委員会（平成22年度）

委員長	宮 本 桂 子	台東区石浜橋場こども園長
学 識	篠 原 孝 子	聖徳大学児童学部児童学科教授
学 識	塩 谷 香	東京成徳大学子ども学部子ども学科准教授
委 員	永 田 陽 子	日本女子大学附属豊明幼稚園長
	柳 井 洋 子	港区立本村幼稚園教諭
	藤 井 美 恵	文京区立根津幼稚園教諭
	山 本 淳 子	品川区立平塚幼稚園教諭
	石 川 星 子	日野市立第五幼稚園教諭
	千 葉 江 美	千代田区立いずみこども園教諭
	大 川 理 香	新宿区立四谷子ども園保育士
	分 部 薫	文京区立大塚保育園保育士
	小 林 正 子	北区立王子保育園保育士
	中 島 孝 子	荒川区立西日暮里保育園保育士
	今 中 恵美香	大田区教育委員会幼児教育センター主任主事

なお、東京都教育委員会においては、次の者が本書の編集に当たった。

伊 東 哲	指導部義務教育特別支援教育指導課長
相 原 雄 三	指導部主任指導主事（幼児教育・教育評価・道德教育担当）
伊 藤 秀 一	指導部義務教育特別支援教育指導課統括指導主事
石 川 悦 子	指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事
河 合 優 子	指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事
藤 村 真 理	指導部義務教育特別支援教育指導課課務担当係長
中 島 亮 子	指導部管理課 課務担当係長
島 崎 智 恵	教職員研修センター研修部授業力向上課指導主事

※ 所属及び職名は、平成22年度のものである。

就学前教育カリキュラム改訂版 作成委員会（平成27年度）

委員長	渡 邊 郁 美	新宿区立あいじつ子ども園長
学 識	柴 崎 正 行	大妻女子大学家政学部児童学科教授
委 員	町 山 太 郎	学校法人町山学園まどか幼稚園長
	大 川 美紀子	千代田区立麴町幼稚園主任教諭
	榊 有 加	品川区立二葉幼稚園教諭
	五百川 智 子	目黒区立げっこうはらこども園教諭
	阿 部 亜紀代	千代田区立ふじみこども園保育士
	山 野 紀 子	台東区立東上野保育園保育士
	鈴 木 千 鶴	渋谷区立恵比寿保育園保育士
	山 本 久 子	杉並区立西荻北子供園保育士

なお、東京都教育委員会においては、次の者が本書の編集に当たった。

川 越 豊 彦	指導部義務教育指導課長
市 川 茂	指導部主任指導主事（幼児教育・環境教育担当）
貞 方 功太郎	指導部義務教育指導課統括指導主事
秋 田 博 昭	指導部義務教育指導課指導主事
島 村 雄次郎	指導部義務教育指導課課長代理（課務担当）

就学前教育カリキュラム 改訂版

東京都教育委員会印刷物登録

平成27年度 第205号

平成28年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部義務教育指導課

印刷会社名 株式会社膳栄社

